

科目名	セルフメディケーション演習	科目名 (英文)	Tutorial on Self-medication
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	首藤 誠, 石丸 侑希, 小森 浩二, 長谷部 茂, 三田村 しのぶ, 吉田 侑矢
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA3444a2		

授業概要・目的	セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当すること」と定義されている。近年、我が国では、高齢化の進展、生活習慣病の増加、地域包括ケアシステムの構築等によって、予防医学やセルフメディケーションの重要性が指摘されている。管理栄養士は国民の健康維持・増進、疾病の予防において、食生活、栄養指導の中心的役割を担っている。本科目は、薬局・ドラッグストアにおけるセルフメディケーションのあり方、クライアントや薬剤師などのコミュニケーションについて修得し、管理栄養士の地域医療における役割を学修する。
到達目標	①OCT薬について理解できる。 ②病状や症状からその原因を突き止め、薬、栄養、食事面で対処できる対応力を修得する。 ③顧客に対するコミュニケーション力を修得する。 ④地域医療における多職種連携によるチーム医療について修得する。 ⑤地域医療における管理栄養士の役割を修得する。 ⑥保健・医療・福祉に関する情報を収集し、資料作成およびプレゼンテーション能力を修得する。
授業方法と留意点	授業方法は下記の授業計画に従い、本科目はグループワークを通して、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を育成する。必要に応じてテキストの使用や資料を配布する。実践形式を重要視した授業とし、レポートおよび課題の提出を求める。
科目学習の効果 (資格)	登録販売者試験対策および登録販売者資格後における薬局現場での実践活用

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1回 OTC医薬品に関する知識および活用	症状別の薬の選択、薬の成分、商品、健康管理などの知識と活用	テキスト・配布資料などを事前に学習し、課題に対して事前に準備しておく。
2	2回 症例に症例に応じた顧客対応	OTC医薬品、サプリメント、食事療法などに関する知識の活用と病状および症状に応じた顧客対応の実践	テキスト・配布資料などを事前に学習し、課題に対して事前に準備しておく。
3	3回 保健・医療・福祉に関する情報収集および資料作成	健康情報資料の作成とプレゼンテーションの実践	テキスト・配布資料などを事前に学習し、課題に対して事前に準備しておく。
4	4回-6回 症例解析 ＜内容＞一連の顧客対応事例から患者の病因・病態ならびに対応の適切性について、小グループで討議し、成果物を作成する。 ＜到達目標＞課題資料から、患者状態を把握し、その対応の適切性について評価できる。	Teamsを用いたリアルタイム授業方式で実施します(小グループ討議および症例サマリーの作成)。	ルーブリック等によるパフォーマンス評価(小グループ討議、成果物評価(総括的評価))
5	7回-10回 顧客接遇 ＜内容＞顧客の主訴から患者の病因・病態に関する様々な可能性の列挙ならびに適切な対応(OTC医薬品の選択、受診勧奨等)について小グループで討議する。個々にロールプレイ形式で顧客接遇を行ない、知識の共有化およびコミュニケーション能力の向上を図る。 ＜到達目標＞顧客の訴えから適切な患者情報を聴取・評価し、個々の患者に適した対処方法を提案できる。	Teamsを用いたリアルタイム授業方式で実施します(小グループ討議およびロールプレイ)。	ルーブリック等によるパフォーマンス評価(小グループ討議、ロールプレイ)(総括的評価)
6	11回-15回 保健・医療・福祉に関する情報媒体の作成およびプレゼン ＜内容＞保健・医療・福祉に関するテーマについて小グループで討議し、その情報提供媒体を作成する。発表会を行い、知識の共有化およびプレゼン力の向上を図る。 ＜到達目標＞(1)疾患の予防、治療におけるOTC医薬品、サプリメント、保健機能食品、漢方薬等の選択・使用方法について説明できる。(2)在宅医療、介護の仕組みについて説明できる。(3)地域の包括的な支援・サービス提供体制について説明できる。	Teamsを用いたリアルタイム授業方式で実施します(発表用資料作成およびプレゼンテーション)。	ルーブリック等によるパフォーマンス評価(発表、成果物評価(発表用資料等))(総括的評価)
7			
8			
9			

	10																			
	11																			
	12																			
	13																			
	14																			
	15																			
関連科目	臨床栄養学、薬理学、栄養薬理学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬の選び方を学び 実践する OTC 薬入門</td> <td>上村直樹</td> <td>薬ゼミファーマブック</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>らくらく完全攻略！登録販売者試験合格テキスト&問題集第4版</td> <td>團野浩</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	薬の選び方を学び 実践する OTC 薬入門	上村直樹	薬ゼミファーマブック	2	らくらく完全攻略！登録販売者試験合格テキスト&問題集第4版	團野浩	ナツメ社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	薬の選び方を学び 実践する OTC 薬入門	上村直樹	薬ゼミファーマブック																	
2	らくらく完全攻略！登録販売者試験合格テキスト&問題集第4版	團野浩	ナツメ社																	
3																				
評価方法 (基準)	原則、演習には全て出席し、課題（発表資料等）を全て提出していることを単位認定の必須要件とします。なお、本科目で評価対象とする観点については、講義の初めに示します。その上で、発表用資料等の成果物の評価（30点）とグループワーク、発表、質疑応答、ロールプレイ等のルーブリック等によるパフォーマンス評価（70点）を合わせて100点とし、60点以上を合格とします。																			
学生への メッセージ	ドラッグストアの就職希望者は受講してください。また、登録販売者試験対策にも役立ちます。																			
担当者の 研究室等																				
備考	【共同担当者】吉田、小森、首藤、三田村、石丸、栗尾、畦西（農学部食品栄養学科 臨床栄養学第2研究室）、百木（農学部食品栄養学科 臨床栄養学第1研究室）、ゲストアドバイザー																			

科目名	臨床医療実践演習	科目名 (英文)	Clinical Medical Practice
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	山本 十三代, 小川 宣子
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA3443a2		

授業概要・目的	<p>チーム医療を推進するために、多職種および地域医療機関などにおける協働や連携に関して、現状を把握し、今後のあり方を考察する。本科目では、看護師、管理栄養士および薬剤師との連携、役割と機能への理解を深めるため、チーム医療の行われる実践の場での活動例や体験などを基に、実践的に修得する。</p> <p>ここでは、さまざまな年齢層や生活の背景をもった人が集まるコミュニティ活動に場を広げ、健康づくりにおける支援策を検討する。また、コミュニケーション合意形成のプロセス等、協働したチーム医療活動することについて、より発展的な学習を目指す。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> モデル地区が抱える地域医療の課題を理解し、地域における健康に関する課題に対し介入方法を考察する。 地域で暮らす様々な健康レベルにある人、その家族の生活について理解する。 地域社会を健康の視点から捉える方法を理解する。 地域で暮らす人々の健康を支える資源・システムを理解する。 ヘルスプロモーションの理念および地域の健康を推進する方策を理解する。 パートナーシップを形成する基本的態度を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> 他者と基本的な信頼関係を構築できる態度を獲得する。 自己の専門性および他職種の役割を認識し、地域におけるチーム医療の重要性を理解する。 地域で暮らす人々と対話する能力を獲得する。 地域医療におけるパートナーシップのあり方について自己の意見がもてる。 他者との間で双方向コミュニケーションを実践する。 <ol style="list-style-type: none"> 基本的なコミュニケーション技能を身につける。 情報収集・提供の多様な技能の基本を身につけ、状況に応じて適切に使うことができる。 能動的な学習態度を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> 小グループでの学習を通じて、チームメンバーと協調しながら自己の意見を述べるができる。 課題に対して関心をもち、能動的に学ぶプロセスを体験する。
授業方法と留意点	事前・事後学習をもとにグループ内でのディスカッションを経て提言をまとめていく。6年前から関わりのある松塚地区をモデル地区として、保健医療福祉について考える。学生主体の能動的学習が主な授業方法となる。
科目学習の効果 (資格)	地域の活性化、地域医療、健康寿命の延伸に関わる活動に参加することは、看護職者や管理栄養士の役割の広がりやを体感することとなり、看護や栄養士の機能・役割を再認識することに寄与する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	科目オリエンテーションと概要説明 アクティブエイジングとヘルスプロモーション、健康学習の理論と方法 栄養改善に向けた具体的な取り組み例の紹介	講義形式 左記の概念についてレディネスを想起する	事前:左記の概念についてまとめる(0.5時間) 事後:講義の内容を理解し、事前学習のものに追加する(0.5時間)
2	松塚地区の地域医療とチーム医療の取り組み(公助、共助(互助)、自助) 地域診断について	演習形式 統計資料を基に、松塚地区の健康概況を学ぶ 地域診断の重要性、地域診断を行うための地区踏査の方法について学ぶ	事前:松塚地区の人口動態、衛生統計資料を収集する(0.5時間) 事後:地域診断方法について復習し、地区踏査の視点をまとめておく(0.5時間)
3	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々とディスカッションを行う。	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
4	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々とディスカッションを行う。	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
5	地区踏査の整理	演習形式 地区踏査の内容をマップにする。既存資料やインタビューで得た内容を合体し松塚地区の地域診断を明らかにする	事後:時間内にマップ作りができなかった場合は、グループで作成する(1時間)
6	地区踏査の発表	実践 地域診断の結果について、松塚地区の方々にプレゼンテーションを行う	事前:発表の資料、役割を決めプレゼンできるようにしておく(1時間)
7	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの企画-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの1ページ分を企画・作成する既存の媒体の検討	事前:①健康教育・学習の効果的媒体作成について学習しておく(0.5時間) ②既存の健康だよりの資料を集めておく(0.5時間) ?健康に関するトピックスについて案をもちよる(1時間) 事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
8	地域住民への健康情報提示 -健康だよりの作成-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの1ページ分を企画・作成する既存の媒体の検討	事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
9	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康	演習形式 松塚区民祭りでアクティブエイジ	事前:①昨年の状況について情報を収集しておく。 ②企画案に必要な項目を学習する(0.5時間)

		チェック- 企画(1)	グ健康チェックの企画を立案する P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企画書、指導案を作成していく	事後:グループ課題を行う(0.5時間)																
	10	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(2)	演習形式 松塚区民祭りでのアクティブエイジング健康チェックの企画を立案する P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企画書、指導案を作成していく	事後:グループ課題を行う(1時間)																
	11	地域イベントへの参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(3)	同上 関係機関、関係者、ボランティア学生との打ち合わせに参加する アンケートの作成	事後:企画書、スケジュール、役割、アンケートを指定期日までに作成する(1時間)																
	12	アクティブエイジング健康チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5時間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にしておく(0.5時間)																
	13	アクティブエイジング健康チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5時間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にしておく(0.5時間)																
	14	アクティブエイジング健康チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(0.5時間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にしておく(0.5時間)																
	15	アクティブエイジング健康チェックの評価	演習形式 当日の全体の状況、アンケート集計結果から健康チェックの評価を行う アンケートについては、事前に入力し図表に表しておく 健康認識、健康状況、昨年からの改善などから健康チェックの意義・改善点について提言する	事後:レポートを期日までに作成し提出する(1時間)																
関連科目	各領域別看護学、公衆衛生看護学、公衆衛生学、公衆栄養学、臨床栄養学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Karen Glanz 編 曾根智史訳</td> <td>健康行動と健康教育-理論、研究、実践-</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著</td> <td>健康教育論</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>厚生統計協会(最新号)</td> <td>国民衛生の動向</td> <td>厚生統計協会</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Karen Glanz 編 曾根智史訳	健康行動と健康教育-理論、研究、実践-	医学書院	2	宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著	健康教育論	メヂカルフレンド社	3	厚生統計協会(最新号)	国民衛生の動向	厚生統計協会
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Karen Glanz 編 曾根智史訳	健康行動と健康教育-理論、研究、実践-	医学書院																	
2	宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著	健康教育論	メヂカルフレンド社																	
3	厚生統計協会(最新号)	国民衛生の動向	厚生統計協会																	
評価方法(基準)	企画書、指導案、作品、実践レポートについて60%、地域活動の実践状況について40%の評価を行う。																			
学生へのメッセージ	この科目は、学生の能動的学習が中心です。松塚地区の概況やそこに暮らす人々の健康・生活・思考に興味関心を抱き、健康増進へ向けての課題を多職種や住民の方々や検討していきたいと考えています。実習で身につけてきた知識・技術・態度を十分に発揮して、チーム医療の本来の在り方や地域包括ケアの在り方について実践を踏まえて考えていきましょう。地域での健康増進活動に関心のある方はぜひ受講ください。住民の方々の思いを聴きこれからの実践に活かせるよう共に考えていきたいと思ひます。																			
担当者の研究室等	山本十三代 7号館研究室5 小川宣子 7号館研究室10																			
備考	課題のフィードバックについては、毎回の授業時にグループ単位で行います。																			

科目名	臨床医療演習	科目名 (英文)	Clinical Medical Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松本 葉子・青野 美里・稲垣 範子・長沢 美和子
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA3442a2		

授業概要・目的	<p>[授業概要]</p> <p>これまでの学修した臨床栄養学、応用栄養学の内容を用いて、対象患者のニーズを把握し、栄養ケアを実践する上で必要となる専門的知識や技術を学習する。さらに、医療チームの一員としての倫理観やチームワーク等の実践に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>[目的]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者カルテ (事例) から栄養アセスメントに関する必要な情報を収集することができる。 2. 収集した対象患者の情報から科学的根拠に基づきアセスメントし、栄養管理ができる。 3. 対象患者に対する必要な栄養ケア・マネジメントの知識・技術について習得する。 4. 多職種それぞれの役割を理解し、知識・技術を活かし合えるよう、管理栄養士の役割を説明できる。 5. 模擬患者への管理栄養士実践・患者役の体験・他者との意見交換を通して、実践上の課題に気づき、自己研鑽できる。 6. グループワークからチーム医療について学習し、コミュニケーション力を習得する。 			
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者のニーズ把握のために必要な観察、コミュニケーションができる。 2. 対象者のニーズについて、収集した情報から科学的根拠に基づきアセスメントし、栄養ケア計画を考えることができる。 3. 対象者のニーズに合わせた栄養管理を習得する。 4. 多職種それぞれの役割を理解し、知識・技術を活かし、管理栄養士の役割を説明できる。 5. エンド・オブ・ライフにおける意志決定の意義と意思決定の支援の在り方について理解できる。 6. ターミナル期にある対象者とその家族に求められる援助を理解し、食事面からの支援を考えることができる。 7. 医療職としてのお互いの立場を尊重し、協同しながら意見交換や演習を行うことができる。 8. 模擬患者への実践、他者との意見交換を通して、実践上の課題に気づき、自己研鑽できる。 		
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って進める。授業方法は学内演習を中心とする。			
科目学習の効果 (資格)	医療現場における実習や他職種との連携に際し、活用できる能力を習得できる。管理栄養士国家試験の内容にも関連する。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	エンド・オブ・ライフと意思決定	エンド・オブ・ライフ・ケアと意思決定支援について学習する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	2	エンド・オブ・ライフの意思決定支援	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける意思決定支援の実践について学習する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	3	模擬人生会議①	人生の終末を想定し、グループメンバーで模擬人生会議を実施する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	4	模擬人生会議②	人生の終末を想定し、グループメンバーで模擬人生会議を実施する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	5	意思決定支援に関する事例演習①	人生の終末における食に関する意思決定支援について事例をもとに検討する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	6	意思決定支援に関する事例演習②	人生の終末における食に関する意思決定支援について事例をもとに検討する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	7	エンド・オブ・ライフの意思決定	模擬人生会議と事例演習の成果について、発表およびディスカッションを行い、エンド・オブ・ライフの意思決定について考察する。	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	8	摂食嚥下障害、栄養管理の基本的な考え方	摂食嚥下障害、栄養管理の基本的な考え方について学習する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	9	摂食嚥下障害患者に対するケアについて	事例患者に生じている摂食嚥下障害、栄養障害を理解し、必要なケアについて学習する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	10	摂食嚥下障害患者のアセスメントと問題の明確化	収集した情報から根拠に基づきアセスメントし、事例患者のニーズを把握し、優先すべき問題を明確にする	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	11	退院後に向けた目標設定	退院後の生活に向けた患者のニーズ、退院に向けた医療チームの関わりについて学習する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	12	計画作成	事例患者のニーズを満たすために必要な計画をグループで検討し、計画を立案する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	13	計画作成、発表	作成した計画をグループごとに発表し、質疑応答を踏まえて計画を修正する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	14	ケアの実施	模擬患者とコミュニケーションを図りながら、ケアを実施する 実践及び患者体験により、実践上の課題を明らかにし、改善策を検討する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
	15	ケアの振り返り	各グループの実践内容、振り返り、改善策について、グループごとに発表し、共有する	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる 事後課題：課題提出
関連科目	臨床栄養学科目全般、応用栄養学科目全般			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	原則として2/3以上の出席を成績評価の対象とする。演習課題(レポート等)の達成状況 80%、演習態度(取り組み姿勢等) 20%により総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本演習は、これまでに学んできた内容を基に、看護学部と合同で実施します。既履修科目の復習をしっかりと行って臨んでください。スケジュールは初回に具体的に説明します。レポートや課題等は、必要に応じて、授業中もしくは授業後にフィードバックを行います。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2440a2		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よって、この授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。</p> <p>授業では、数的分野の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて、授業で扱った数的分野の問題が概ね解けるようになる。一つの目安として、各種採用試験 (総合適性検査 SPI・公務員試験等) の数的分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>①「まずは問題を自力で解く (取り組む)」→②「講師による解説」→③「類題を解く」という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。</p> <p>授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	・実力テストの復習 (1時間)
2	計算問題①	割合と比	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
3	計算問題②	割合の応用問題	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
4	計算問題③	損益算	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
5	計算問題④	速度算①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
6	計算問題⑤	速度算②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
7	総復習①	計数問題復習	・第6回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)
8	中間テスト	中間テスト	・第7回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)
9	論理問題①	集合	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
10	論理問題②	場合の数	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
11	論理問題③	確率	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
12	論理問題④	表の読み取り	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
13	論理問題⑤	推論①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
14	論理問題⑥	推論②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
15	総復習②	論理問題復習	・これまでの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)

関連科目: キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2				
3				

評価方法 (基準): 「小テスト 40%」+ 「中間テスト・最終テスト 50%」+ 「Smart SPI 10%」

学生へのメッセージ: 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等: ラーニングセンター (2号館 2階)

備考: 『厳選! 数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。「Smart SPI」も利用します。講義内で実施する「小テスト・中間テスト」のフィードバック (解答・解説) は Moodle に提示、あるいは次回講義内で実施する予定です。

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Design II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2439a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活 1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前: 1時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後: 0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている人にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後: 2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後: 0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前: 0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前: 1時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後: 1時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後: 0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前: 1時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める④	・講義⑧⑨⑩の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前: 1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べること(事前: 0.5時間)
15	講義のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 来るべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	8号館1階（非常勤講師室）
備考	

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名(英文)	Career Design I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	横山 孝文
ディプロマポリシー(DP)	DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OCA1438a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 よくなることが期待される。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か?何故必要なのか? ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前:0.5時間)
2	さあ始めよう!大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前:0.5時間)
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・大学生活における目標を考える	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後:0.5時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5時間)
4	自己効力感を高めよう	・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後:2時間)
5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	・SDGsに対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGsとは何かについて予習をしておくこと(事前:0/5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後:0.5時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後:0.5時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後:0.5時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前:0.5時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後:0.5時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後:0.5時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前:1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前:0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後:0.5時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後:0.5時間)
15	講義のおさらい	・講義4で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) ・期末レポートを作成すること(1.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (30%)、グループ課題(20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	横山准教授室 (3号館3階)			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。			

科目名	地学実験	科目名 (英文)	Experiments in Earth Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門 正博
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1437a2		

授業概要・目的	地学実験では、地球物理学・天文学・地質鉱物学における基本的事項について修得する。地質鉱物学分野では、直接生の岩石や堆積物、化石などに触れることによって地球の歴史や各自の生活の基盤になっている大地の生い立ちを考察できるようになることを目的とする。また、天文学分野では、天文に関する知識を実地の観測結果と結びつけて考察できるようにし、観測者である自分の空間位置を太陽系と恒星の世界の中で把握できるようにすることを目的とする。
到達目標	観測・実験を通して、我々の住むこの地球と宇宙についての理解がどのように進められたのかが認識できる。 観測・実験に必要な機器の操作ができるようになる。
授業方法と留意点	地質鉱物学分野では、実物の標本を手にして観測したり、実際に歩いてみるなど体験的に地質学の方法論や考え方を学ぶ内容となっている。天文学分野では、実際に天体望遠鏡を用いて天体の観測を行い、基本的な操作や記録の方法について知るとともに得られたデータのコンピュータ解析も行なう。気象分野では、大気の特徴を観測・実験などを通して調べ、大規模な気象との関連について天気図上で考察できるようにする。教科書は使わず、資料プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	地球ならびに惑星科学についての幅広い教養を身につけることが出来るほか、環境科学の分野にも寄与する内容である。さらに、本授業科目は教員免許状取得のための科目ともなっている。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球の大きさを測る	歩測を使い学内の特定ルートを歩き、GPSを用いて緯度確認を行い、計算によって地球の大きさを測る。	地球についてその大きさや特徴を事前に理解しておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
2	地形図の読み方と水系図の作成	1/25000地形図を使い、水系図と地形断面図を作成する。 地形図から私たちの身近な大地の特徴を理解する。特に地形断面をつくり、その断面の特徴から地形形成の歴史を推察する。また、水系図を描き、その大地の特徴ならびに流れる水の特徴について考える。	典型的な地形(断層、カルデラ、扇状地、段丘、構造盆地、...)についてその特徴などを理解しておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
3	岩石の肉眼鑑定	主要な岩石(火成岩と堆積岩)の肉眼での鑑定を行う。高等学校教科書等で一般に扱われる14種類の岩石を取り上げて、それらがどのようにつくられたのかを理解する。	火成岩と堆積岩について事前にどのようなものであるかを理解しておく。また実際に観察を通して身近な岩石の特徴を理解して、一つでも多くの岩石が分かるようにしておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
4	身近な岩石や地層について学ぶ	身近に見られる岩石の観察を通し、私たちが生活する大地の生い立ちについて考察する。	事前に身近な岩石の採取を指示する。どこにある岩石でも良い。それらについて様々な観点から観察し、その岩石を採取した大地の生い立ちについて考えておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
5	鉱物薄片の作製	前回の実験授業で学習した岩石について、顕微鏡で観察するための鉱物薄片を作製する。	岩石の生成過程について事前に学習するとともに、鉱物薄片を作製する方法について調べる(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
6	岩石薄片の観察	偏光顕微鏡を用いて、自作した岩石薄片を観察し、顕微鏡スケッチを実施する。観察方法ならびに偏光顕微鏡についてその基本を学ぶ。観察を通して構成鉱物の違いならびに組織の特徴について理解する。	偏光板の特徴や偏光顕微鏡の仕組みについて調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
7	微化石(珪藻化石)の観察	身近な堆積物の中から珪藻化石(遺骸)を探し出し、採取地点における古環境復元を行う。生物顕微鏡を用いた実験ならびに観察である。	大型化石や微化石についてどのようなものがあるかを事前に調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
8	天体観測の基礎	天体情報は、光をはじめとする電磁波によって得られる。天体からの微弱な光を集め観測する天体望遠鏡の仕組みと観測機器の基本を理解し、基本操作を学ぶ。	「光」の特徴や「レンズ」の特徴・種類について調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
9	月と惑星(観測の実際)	太陽や月、金星などの明るい惑星を対象にして、望遠鏡で観測をおこなう。実際に、天体を視野内に導入してみる。	望遠鏡の操作マニュアルを確認しておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
10	太陽	太陽黒点を主にして太陽表面の状態を観測データから明らかにする。恒星の代表としての太陽を知る。	太陽の基本的な諸量、特徴についてあらかじめ調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
11	天体データ解析ソフト「マカリ」	距離のわかっている銀河のスペクトルデータからハッブルの法則を確認し、宇宙の膨張速度であるハッブル定数を決定する。	スペクトル、ドップラー効果について調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
12	プラネタリウムと解説	大阪市立科学館のプラネタリウムを訪問し、天文現象の解説の実際を経験する。また、様々な展示に触れ、星座盤などの作成を実習する。	当日のプラネタリウムプログラム内容について調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
13	気象要素と天気図	温度、湿度、気圧、風などの測定結果から、天気図を作成する。	天気記号や気象用語について調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
14	天気図とひまわり画像	作成した天気図から実際の雲などの配置を予想する。また、大気の大循環について理解する。	天気図とひまわり画像をもとに天気の変化をまとめる(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
15	まとめ	地学実験を通して、グループでの総合的	発表用の資料(パワーポイント)を作成する(150)

		発表の時間とする.	分).
関連科目	地理学ならびに地球惑星に関する科目.		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	<p>すべての回の実験に出席することを前提に、以下の割合で評価をおこなう。</p> <p>各回の実験レポート・・・60%</p> <p>事前・事後の課題・・・30%</p> <p>最終回の発表・・・10%</p>		
学生への メッセージ	日頃より理科や科学に関する内容に興味・関心をもち、新聞、ニュース、科学雑誌等に取り上げられる事柄に目をくばるように心がけることが大切である。		
担当者の 研究室等			
備考			

科目名	地学	科目名 (英文)	Earth and Space Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1436a2		

授業概要・目的	地学の大きな柱である固体地球、岩石鉱物、地質・地史、大気・海洋、天文の諸分野に関して、実際のデータや写真など、具体的な資料を用いて、我々の住む地球や我々を取り巻く宇宙に関する知見を深め、我々が経験する自然現象がいろいろな法則や原理によって説明できることを学ぶ。扱う範囲は広いが、単に広く浅い知識を習得するのではなく、自らの手で資料を検討することによって少し深い知見も得られるよう進める。また今まに行われている研究についても紹介する。
到達目標	本授業を通して、様々な観点から我々の住む地球や宇宙に関する知見を深め、我々を取り巻く環境の変化が、いろいろな法則や原理によって説明できることを理解することができる。
授業方法と留意点	講義形式で、教科書を中心に進めます。事前事後学習は毎回1時間以上行い、しっかり予習して授業に臨むとともに、特に毎回授業の最初に行う小テストに備えて復習を行うこと。小テストは、採点して次の回に返却し、答え合わせをします。
科目学習の効果 (資格)	高等学校で地学を履修していない人が、地学の基礎学力を持つようになることによって、教員免許状を取得する一助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地球の概観・内部構造	地球の大きさや形、重力、地磁気、地球の内部構造について講義する。	授業後に小テストを行う。以後毎回小テストを行うので、毎週1時間以上程度、予習・復習を行うこと。
2	プレートテクトニクス	大陸移動説、海洋底拡大説、プレートテクトニクス、ブルームテクトニクスについて講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
3	地震・地殻変動	地震の発生、地震の分布、地震・火山活動に伴う地殻変動、長期的な変化について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
4	火山と火成活動	火山活動、火山噴出物、火成岩の成り方とその種類、造岩鉱物の性質、マグマの発生と分化について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
5	地表の変化と地層	風化・侵食、地形・地層の形成、堆積物と堆積層、地質調査と地質図、変成作用と変成岩について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
6	地球の歴史	示準化石・放射性元素の崩壊、地球史、造山運動について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
7	日本列島の歴史	プレートテクトニクスと日本列島、日本列島形成の歴史について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
8	大気圏の構造	大気・大気圏の構造、オゾン層、気象観測、天気図、大気中の水分、地球の熱収支について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
9	大気の運動	大気に働く力、地衡風・傾度風、大気の大循環、世界の気候帯、台風、偏西風波動、温帯低気圧について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
10	日本でみられる季節の気象	日本における各季節の気候の特徴、日本付近の気団について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
11	海水の性質とその運動	海洋の構造、波、環流と西岸強化、潮汐、エルニーニョについて講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
12	太陽系の天体	太陽系の形成、太陽系の構造、惑星、彗星・流星・隕石、太陽の構造、太陽活動とその影響について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
13	恒星・惑星の運動	天球の座標、地球の自転、地球の公転、均時差、惑星の視運動と位置関係、ケプラーの法則について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
14	恒星の性質と進化	恒星の明るさ、恒星までの距離、恒星の表面温度、HR 図と恒星の進化、食連星について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
15	恒星・銀河系・宇宙	星団と星間雲、銀河、宇宙の構造、ビッグバンについて講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。

関連科目	地学実験
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地学	磯崎行雄	啓林館
2	新地学図表	浜島書店編集部	浜島書店	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回小テストまたはレポート課題を課し、それらと期末試験の成績によって評価する。小テストまたはレポート課題 (30%)、期末試験 (70%) の割合である。
-----------	---

	なお原則として提出率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 提出は、小テストの場合は授業中に、レポートの場合は WebFolder で行ってください。
学生への メッセージ	高校で地学を履修していなかった受講生にも理解できるように授業を進めたいと考えています。事前事後学習は毎回 1 時間以上行い、しっかり予習・復習を行ってください。
担当者の 研究室等	
備考	オンライン授業を行う場合は、Zoom のミーティング ID: パスコードをお知らせします。

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 優
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1435a2		

授業概要・目的	我々人類を含む生物と環境を取り巻く状況は、悪化の一途をたどっている。経済優先の人間活動による温室効果ガスの排出は地球温暖化を引き起こし、それに伴い環境破壊や水不足、食糧危機等の様々な社会問題が世界各地で顕在化している。そんな中、2030年を期限とした世界共通の目標—いわゆるSDGs—が2015年に国連（国際連合）で採択され、現在世界の約190の国と地域で、この目標達成に向けた活動が加速している。本講義では、このSDGsにある「17の目標」の学習を通じて、ヒトを含む生物と環境の関わりについて理解を深めることを目的とする。
到達目標	・生物（ヒトも含む）と環境とのかかわりを理解し、自ら説明することができる。 ・人間活動に起因する世界の環境問題を理解し、自ら説明することができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義形式。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	SDGs とは何か 目標1. 貧困をなくそう (No Poverty)	内容: SDGs とは何か 内容: SDGs 目標1について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
2	目標2. 飢餓をゼロに (Zero Hunger)	内容: SDGs 目標2について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
3	目標3. 人々に保健と福祉を (Good Health and Well-Being)	内容: SDGs 目標3について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
4	目標4. 質の高い教育をみんなに (Quality Education)	内容: SDGs 目標4について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
5	目標5. ジェンダー平等を実現しよう (Gender Equality)	内容: SDGs 目標5について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
6	目標6. 安全な水とトイレを世界中に (Clean Water and Sanitation)	内容: SDGs 目標6について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
7	目標7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに (Affordable and Clean Energy)	内容: SDGs 目標7について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
8	目標8. 働きがいも経済成長も (Decent Work and Economic Growth)	内容: SDGs 目標8について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
9	目標9. 産業と技術革新の基礎をつくらう (Industry, Innovation and Infrastructure)	内容: SDGs 目標9について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
10	目標10. 人や国の不平等をなくそう (Reduced Inequalities)	内容: SDGs 目標10について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
11	目標11. 住み続けられるまちづくりを (Sustainable Cities and Communities)	内容: SDGs 目標11について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
12	目標12. つくる責任 つかう責任 (Responsible Consumption and Production)	内容: SDGs 目標12について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
13	目標13. 気候変動に具体的な対策を (Climate Action)	内容: SDGs 目標13について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
14	目標14. 海の豊かさを守ろう (Life Below Water) 目標15. 陸の豊かさを守ろう (Life on Land)	内容: SDGs 目標14及び目標15について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
15	目標16. 平和と公正をすべての人に (Peace, Justice and Strong Institutions)	内容: SDGs 目標16について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一番わかりやすい!SDGsのざっくり知識	国際時事アナリスト編	河出書房新社

	2	SDGs 時代の社会貢献活動	前林 清和・中村 浩也（編集）	昭和堂
	3	データでわかる 2030 年地球のすがた	夫馬賢治	日経 BP 日本経済新聞出版本部
評価方法 (基準)	第 1-14 回終了後の小レポート (4 点×14 回=56 点)と第 15 回終了後の期末レポート (44 点) の合計点が 60 点以上 (100 点満点) で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 1 号館 2 階 伊藤講師室 (薬学部)			
備考				

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	椎名 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ONA1434a2		

授業概要・目的
 農学の学びにおいて「総合科学」の基礎となる幅広い知識の獲得に加え、倫理観をもった豊かな人間性を涵養する教育が必要であり、農学分野における生命科学の倫理的配慮が社会的、科学的、技術的側面などから求められている。中でも、農学分野において、ゲノム解析、各種細胞の研究利用、遺伝子組み換えによる品種改良など生命に係る技術利用が行われ、人類に有益な結果をもたらす一方で、予期せぬ有害な影響なども予測される。したがって、本授業では、生命科学分野で配慮されるべき生命倫理観及びその行動を学ぶ。「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」などの根源的な問いに向き合いながら、農学における生命科学の最新技術がヒトや地球環境に及ぼす影響を考察し、倫理的行動のあり方について学修することを目的としている。

- 到達目標**
- ① 生命倫理に関する諸問題について、農学部の学生として必要な知識や考察力を身につける。
 - ② バイオテクノロジーと環境の問題について、倫理的理解を深める。
 - ③ ヒトの生命の誕生および死について学修し、それらに対する知識と倫理観を身につける。
 - ④ 食に関わる倫理的課題を理解し、説明出来る。
 - ⑤ ヒトの生活を支えている様々な生命を理解し、それらに対する倫理観を身につける。

授業方法と留意点
 授業は、教員による講義とグループワークなどを取り混ぜて行う。また、グループワークの都合上、学生はそれぞれ決められた席に着席する。講義はパワーポイントと板書、テキスト、配付資料などを用いて行うが、授業の理解度を高めるために事前・事後の学習課題を課す。事前学習の小テストは、テキストなどの指定された部分を読んでから Moodle 上で解答する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ヒトゲノム	これから始まる授業の中で、あなたの命、あなたと関係の深い人の命、あなたの命を支える沢山の多様な命、そして農業生産と命、それらの関係をどのように位置づけていくのかを学ぶ。また、毎回の授業を受ける際に必要な準備などについても説明する。 ・ゲノム情報について知る。 ・ヒトのゲノム情報に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (1, 3章) 授業中に小テストを行う。 事後学習：事後レポート
2	環境倫理	・環境倫理の様々な論点を知る。 ・様々な環境課題における「世代間倫理」について考える。	事前学習：テキストの予習 (30章) と小テスト 事後学習：事後レポート
3	バイオテクノロジー (1)	・新しいバイオテクノロジーの社会的受容に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (2章) と小テスト、事前講義の視聴 事後学習：事後レポート
4	バイオテクノロジー (2)	・ゲノム編集技術に関する具体的課題について考える。	事前学習：事前配布資料について的小テスト 事後学習：事後レポート
5	ヒトの死について	・医療資源の配分、脳死と臓器移植に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (9, 11章) と小テスト 事後学習：事後レポート
6	患者の権利と個人の尊厳について	・インフォームド・コンセントに関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (16章) と小テスト 事後学習：事後レポート
7	患者の意思決定と QOL (quality of life)	・医療倫理の四原則に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (18章) と小テスト 事後学習：事後レポート
8	安楽死・尊厳死、終末期医療	・安楽死・尊厳死、終末期医療に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (14, 15章) と小テスト 事後学習：事後レポート
9	食のプロセスについて	・食のプロセスについて知る。 ・食のプロセスについて関わる具体的な課題について考える。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
10	食の安全性について	・食料の安全保障について知る。 ・食の安全性保障に関する具体的な倫理的問題について考える。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
11	食と健康について	・食べ物のリスクと安全性をどのように理解し評価するかについて、その問題点を知る。 ・食べ物と健康についての様々な倫理的な観点から理解を深める。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
12	ヒト以外の生命 1: 伴侶動物とペット産業	・動物の生命と愛護について考える。 ・伴侶動物の生と死、ペット産業などについて学び、理解を深める。	前学習：テキストの予習 (21章) と小テスト 事後学習：事後レポート
13	ヒト以外の生命 2: 野生動物と産業動物	・野生動物と産業動物の生命を考える。 ・野生動物の生と死、産業動物と食肉産業などについて学び、理解を深める。	事前学習：配布資料の予習 事後学習：事後レポート
14	ヒト以外の生命 3: 社会文化と生命	・文化と生命観の関係を考える。 ・ヒトの生活や産業と生命の関係について理解を深める。	事前学習：テキストの予習 (23, 24章) と小テスト 事後学習：事後レポート
15	ヒト以外の生命 4: 私たちの生活と生命の関係を考える	・ヒトの生活と生命の様々な関係について、事前課題を通じて考えた意見を交換し、理解を深める。	事前学習：事前課題に取り組む 事後学習：事後レポート

関連科目 生物学、生物学演習、

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	テーマで読み解く生命倫理	小泉博明ら編著
2	2			

	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	別途、指示する	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業全体について、事前学習課題の総得点を40点に換算し、授業内の成果物や事後レポートなどを60点とし、合計100点満点で教科の成績を評価する。60点以上で合格とする。		
学生への メッセージ	農学は「いのち」を扱う学問であり、農業は「いのち」を利用させていただく産業です。この授業では、「いのち」を、自然科学、人文・社会科学、医療・看護、食、農業生産、などの様々な視点から、考えていきます。中には、心にとって重い課題も、そうでない課題もあり、また、結論のない、出せない課題も沢山あります。この授業では、このような課題を通じて、「いのち」とは何か、私たちは「いのち」にどう向き合うべきなのかを、皆さんとともに、考えていきたいと思ひます。		
担当者の 研究室等	椎名 隆 応用生物科学科 8号館3階:303号室 岩崎 綾乃 薬学部薬学科 1号館4階:岩崎講師室 喜多 大三 食品栄養学科 8号館2階:225号室 小保方潤一 応用生物科学科 8号館3階:301号室		
備考			

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田畑 謙二
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分の押さえどころ	辻川享・大塚浩史・出原浩史・伊藤翼・矢崎成俊	学術図書出版社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題演習で40% 期末試験60%の合計によって判断する。 なお、期末試験については、COVID-19による感染状況次第では、レポート等の代替手段への変更も有り得る。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	Moodle に毎回の講義資料・確認テスト問題をアップする。講義までに資料に目を通しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得すること。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	事後レポート課題
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	10	不定積分	・基礎的な公式	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 40%、期末試験 60%で判定し評価する (試験については COVID19 感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得る)。
-----------	---

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	寝屋川学舎 5号館 1階
----------	--------------

備考	・事前課題、事後課題には1コマあたり1.5時間ほどかかることを前提に設定していますので、計画的に取り組んで下さい。
----	---

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01432a2		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	必要に応じてレジュメや資料を配布します。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートなどにまとめるよう努力しましょう。授業では、学習した内容の復習と知識の定着のために小テスト (小レポート) などの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果 (資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	「憲法」とは 日本における「憲法」の成立と歩み	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造 (統治の基礎と人権の基礎) を確認する。第1条から、日本国憲法における「天皇」制と民主主義について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	統治の基礎 (1) 国会	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	統治の基礎 (2) 裁判所	講義 裁判・裁判所の基礎を学ぶ 裁判所の組織、司法権の独立、裁判員制度	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	人権総論 憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	自由権① 信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	自由権② 表現の自由 (その他の自由権)	講義 「表現活動」やその他の自由権をめぐる判例や近年の動向を検討する	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	自由権③ 刑事手続上の権利、他	講義 適正手続の保障、公判手続における権利などについて学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	社会権 生存権・労働者の権利	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	法の下での平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	法の下での平等②	講義 14条・24条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題 (夫婦別姓、同性婚の問題など) を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)

	13	新しい人権 自己決定権	講義 新しい人権、特に「自己決定権」について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	14	平和主義	講義 戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	15	憲法改正の諸問題 まとめと復習	講義 憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所を読んでおく。（1時間） 事後：これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（3時間）
関連科目	法学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スタディ憲法・第2版（最新版）	曾我部真裕 他	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法（最新版）	芦部信喜	岩波書店
	2	憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）	長谷部恭男、他	有斐閣
	3			
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）30%と、定期試験（筆記試験）70%によって、総合的に評価します。 授業内課題等の詳細は、授業開始の際に、説明します。			
学生への メッセージ	「憲法」をめぐる議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）			
備考	授業内で実施する課題については、次の授業で解説します。 その他の参考文献は、授業の中で、随時紹介します。 授業時間外での質問等の連絡先・注意事項は授業内でお知らせします。			

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀 利江
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01431a2		

授業概要・目的	観光は、「平和へのパスポート」と言われ、国際的、文化的な交流を促進するとともに、人々の健康で豊かな生活に貢献しています。また訪日外国人旅行の増大は、地域経済活性化の切り札ともなっています。授業を通して、観光の歴史、人々の観光行動、観光産業や観光庁の政策など、観光学の基礎を学び、獲得した知識を社会に役立てることを目的とします。近年の旅行市場の動向や地域観光の現状と課題を踏まえ、アフターコロナ時代における持続可能な観光について考えます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 観光に関する文献や資料を理解する力を身につける。 観光の役割と現代観光の特徴について説明することができる。 観光資源について調査し、課題の解決に向けて自ら意見を述べるることができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義を中心に授業を進めます。 グループワークも取り入れます。積極的に参加してください。 教科書は使いません。毎回、プリントを配布します。 授業時に事前・事後学習の内容を提示します。確認し取組んでください。
科目学習の効果 (資格)	観光に関わる基礎知識を修得します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 観光と観光学	授業の進め方や課題の調査レポートについて確認し、観光の基礎用語を学ぶ。観光とは何か、観光の役割とは何かについて考える。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
2	観光の歴史	観光の視点で歴史を読み直す。主に日本の江戸時代の旅について学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
3	戦後の観光と観光政策	国の観光政策の流れを確認しながら、観光が大衆化する背景について学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
4	日本の旅行市場	『観光白書』等を用いて、国内外の旅行者数の推移や旅行消費額等、旅行市場の全体像を掴む。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
5	観光産業と観光統計	観光産業の定義や観光統計の概要を学ぶ。また旅行業の現状と課題を理解する。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
6	交通と観光	交通サービスの特性を踏まえ、主として、利用者が増加しているLCCと鉄道会社の観光への取り組みについて学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
7	宿泊施設と民泊	宿泊業の特性や施設の種類等を確認し、空き家・空き室を活用した民泊サービスの拡大等、近年の動きを学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
8	温泉と温泉地	温泉の定義、効能等、温泉の基本を学び、戦後、観光地として発展した温泉地の現状と課題を理解する	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
9	事例研究 I 星野リゾートのマネジメント	破綻したリゾートの再生で注目された「星野リゾート」の特徴的な組織体制や運営手法を学ぶ。	事前学習 (2時間)・事後学習 (2時間)
10	事例研究 II TDR と USJ の成功要因	遊園地・テーマパークの現状を学び、TDR (東京ディズニーリゾート) と USJ (ユニバーサル・スタジオ・ジャパン) の事業戦略を学ぶ。	事前学習 (2時間)・事後学習 (2時間)
11	文化遺産と観光	ユネスコの「世界遺産」や文化庁認定の「日本遺産」を学び、文化財のデジタル化や観光活用について理解を深める。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
12	地域発ツーリズム	観光庁の主な観光地域づくり政策と地域資源を活かした新しい観光の動きを学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間) 課題レポートの作成 (5時間)
13	MICE と IR	ビジネスイベントの総称である MICE (マイス) と、MICE 誘致に関わる IR (統合型リゾート) 推進の現状について理解を深める。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
14	観光資源調査研究	個人で作成したレポートをもとに少数人数でのグループワークを行う。グループ内で様々な観光資源の現状と課題を報告し、ワークシートに整理する。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
15	持続可能な観光に向けて	グループワークと授業内容を振り返り、持続可能な観光はどのようにあるべきかを考える。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名												
	番号	書籍名	著者名	出版社名													

	1	入門 観光学	竹内正人・竹内利江・山田浩之	ミネルヴェテ書房
	2	観光学ガイドブック	大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・ 神田孝治	ナカニシヤ出版
	3	1からの観光事業論	高橋一夫・柏木千春	碩学舎
評価方法 (基準)	小テスト 40%	学修した知識の理解度を評価する。		
	レポート 40%	内容の妥当性と論理的構成について評価する。 グループワークで作成するワークシートも含む。		
	課題 20%	内容の妥当性を評価する。		
学生への メッセージ	観光にとって「食」と「農」は欠かせない存在です。フードツーリズムやグリーンツーリズムなど、食事や農業体験を楽しむ観光が積極的に行われるようになってきました。日頃から様々な観光地の情報を収集し、その魅力について考えてみてください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (相談可能時間: 月曜日 12時30分~13時00分)			
備考				

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小沢 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01430a2		

授業概要・目的	<p>経営学の基本について、全体を網羅して講義を行います。講義で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。</p> <p>この講義では、現代の企業や会社組織における運営のあり方について真剣に議論していく中で、経営学の基本的なことを学びます。</p> <p>身の回りのものを眺めるだけで、本講義で説明する理論と深く関係する事例が見つかるはず。経営学を深く学ぶということは、様々な学問分野の基礎を学ぶ事にもつながります。それは、これからの皆さんの人生をより豊かなものとする第一歩になるでしょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 現代企業に関する個々の理論にみえる考え方の全体像を把握した上で、現実には生じる物事を考える姿勢を身に付ける 実際に組織構造やビジネス・システムを構築する際の基本となる「概念的な」道具立てを知る 複数の考え方を駆使して、自分たちの置かれた状況を多面的に読み解く 専門用語に目を奪われることなく、「ものの見方」を習得する
授業方法と留意点	この講義は、基本的に教科書と、私の用意する教材を基に講義を進めていきます。また座学だけでなく、実在する企業のケースを元に、組織の仕組みに関する巧拙や組織マネジメントのあり方などについて、議論を行います。よって学習課題への返答を求めるなど、参加を重視します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	はじめに	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく	事後：講義内容を復習する
2	企業経営の全体像	企業経営を中心に講義します	事前：教科書の第1章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
3	経営学の全体像	経営学の特徴や、経済学との違いについて講義します	事前：教科書の第2章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
4	企業と社会	株式会社制度などについて講義します 場合によっては、企業の社会的責任にテーマを変える時もあります (その折は、事前にお知らせします)	事前：教科書の第3章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
5	企業とインプット	金融資本や労働に関する市場について、学びます	事前：教科書の第4章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
6	企業とアウトプット	製品やサービスの市場について、考えます	事前：教科書の第5章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
7	競争戦略のマネジメント 1	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の第6章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
8	競争戦略のマネジメント 2	違いを作る3つの基本戦略と、仕組みの競争について、講義します	事前：教科書の第7章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
9	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：事前の配布資料を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
10	多角化戦略のマネジメント	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の第8章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
11	国際化のマネジメント	企業が国境を越える理由について、講義します	事前：教科書の第9章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
12	マクロ組織のマネジメント	企業が活動できる仕組みを学びます	事前：教科書の第10章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
13	ミクロ組織のマネジメント	インセンティブ・システムやリーダーシップについて学びます	事前：教科書の第11章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
14	キャリアデザイン	キャリアについて考えます	事前：教科書の第12章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
15	病院組織のマネジメント	経営学の広がりについて講義します	事前：教科書の第14章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経営学 (第3版)	加護野 忠男・吉村 典久 (編著)	碩学舎
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房
2	新 経営戦略論 (第3版)	寺本 義也・大森 信 (編著)	学文社	
3	新 経営戦略論	寺本 義也・岩崎 尚人 (編集)	学文社	

評価方法 (基準)	<p>この講義では、レポートを2回、課します。レポートは、指定する期日 (講義の中でお知らせします) までに提出してください。期日を遅れて提出した場合は、減点の対象となります。</p> <p>2回のレポートと、出席および教材へのアクセス状況を加味して、総合的に評価します。レポートの評価項目は、次の通りです。</p> <p>「重要な要因や問題の識別」 「論理一貫性」、「客観性」</p>
-----------	---

	「分析内容の完結性」 「適切な概念やモデルの適用」
学生への メッセージ	受講される皆さんは、組織論や戦略論、マーケティング論などを問わず、さまざまな分野の本を余力のあるうちに読んでおいてください。たとえば社会学や心理学、経済学、歴史学、哲学などです。自分の関心のある分野で結構です。無理なく読んでいただき、その本の考え方を吸収してください。
担当者の 研究室等	担当者は、非常勤講師です。
備考	

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01429a2		

授業概要・目的	本授業は、皆さんの「日常生活」で、法がどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、講義と関連する事件・ニュースの新聞記事を授業開始前までに Moodle に提出する。 授業後に質問コメントを Moodle に提出する。
科目学習の効果 (資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、社会人として、そして日常生活に必ず役立ちます！

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	法ってなんだろう？	講義の目的、進め方、成績評価／私たちの生活と法	評価の時期・方法・基準の項も参照
	2	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権 (1)	基本的人権、自己決定権、プライバシー、宗教の自由	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
	3	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権 (2)	平等権、表現の自由、生存権、参政権	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
	4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理、難民	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
	5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
	6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
	7	家族と法 (1) －結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、養子縁組	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
	8	家族と法 (2) －親子関係	生殖補助医療、親権、後見制度、扶養、相続	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
	9	日常生活のアクシデント－交通事故	交通事故、自動車、自転車	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
	10	日常生活のアクシデント－医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
	11	日常生活のアクシデント－製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
	12	罪と罰－犯罪 (1)	大阪地方検察庁の検察官による講義 (予定)	
	13	罪と罰－犯罪 (2)	脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死と刑法	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
	14	労働・社会保障と法	労働契約、解雇・失業、育て・介護	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
	15	総括	テスト	

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学概論－身近な暮らしと法	國友順市、畑雅弘 (編著)	嵯峨野書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	1. テスト (総括的評価) 50% 2. 毎回新聞記事、質問コメントを記入し Moodle に期限までに提出する。 50% 状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。
-----------	--

学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。社会人として知らないではすまされない基礎知識があります。
-----------	--

	本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
担当者の 研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp
備考	<p>原則対面授業だが、状況を鑑みて、遠隔授業（教材・課題提供型授業）にて実施する場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義前の予習（教科書を読む。1時間×15回） 2. 復習（講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回） 3. 自己学習（講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する）

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01428a2		

授業概要・目的	政治の主要な領域としては、①予算の決定・執行という配分に関わる領域と、②法の制定・施行という立法に関わる領域の二つがあります。これら二つの領域は、紀元前の政治学者アリストテレスの正義の区分に由来するものです。アリストテレスは、配分的正義・矯正的正義という二つの正義を実現するために政治活動は行われなければならないと考えました。 現代の日本の政治でも、配分的正義を実現するために予算の決定・執行を行い、矯正的正義を実現するために法の制定・執行を行っていることに変わりはありません。主権者である私たちは、デモクラシーに参加すべき市民の一人として、また法の下での平等のもとに一票を与えられた有権者の一人として、こうした正義を実現してより良い日本を創造するために政治に関与し続けねばなりません。 しかし主権者である私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、日本の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、政治学原論、日本の政治体制論、日本政治史にあたる内容を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介、解説することもあります。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、日本の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションー政治とは何か?	イントロダクションとして、本講義の内容と政治ー国家の必要性について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
2	政治と権力①政治の条件とは何か?	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
3	政治と権力②正当な権力とは何か?	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
4	日本の政治システム①民主主義 (デモクラシー)	日本の政治が現在採用している民主主義 (デモクラシー) について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
5	日本の政治システム②選挙制度と国会	日本の選挙制度や国会について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
6	日本の政治システム③内閣	日本の内閣と今世紀の行政改革について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
7	戦前の日本の政治システム	戦前の日本の政治システムについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第七回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
8	戦後の日本政治①GHQ占領下の日本政治	戦後のGHQ占領下である1940年代後半の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
9	戦後の日本政治②サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約、55年体制の成立	日本独立期である1950年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第九回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
10	戦後の日本政治③日米安保闘争、高度経済成長、沖縄返還	安保闘争から高度経済成長へと入っていく1960年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
11	戦後の日本政治④自民党の	自民党の中で田中派支配が行われてい	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十

		派閥の興隆	た 1970 年代、80 年代の日本政治について授業します。	一回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	12	戦後の日本政治⑤政治改革と 55 年体制の終焉	日本で政治改革が吹き荒れた 1980 年代末から 1990 年代前半にかけての日本政治について授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	13	戦後の日本政治⑥自民党を中心とした連立政権の展開	自民党が連立政権を組むようになった 1990 年代の日本政治について授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	14	戦後の日本政治⑦小泉劇場	新自由主義の傾向が強くなった 2000 年代前半の日本政治について授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習: 来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す (時間の許す限り)。																
関連科目	中学・高校の公民、日本史など。大学の政治学原論、日本政治史など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治学</td> <td>久米郁男・川出良枝ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>18 歳から考える日本の政治</td> <td>五十嵐仁</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	18 歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	18 歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 (約 70%) と小テスト (約 30%) で評価します。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																			
備考																				

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 昌宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01427a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 経済学は、近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問分野です。社会の豊かさの追求やその過程で直面する各種の課題（経済発展、貧困や格差の解消問題、社会保障の給付と負担の問題、環境問題など）の解決を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策は重要な役割を果たします。本講義では、身近なトピックスから経済学的視点に基づく問題意識を持ってもらった上で、教科書に則してミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学習して理解してもらい、獲得した知識をどのように現実問題の解決に活用するかスキルを育て、最後に我々が直面する各種課題、特に外国為替相場が大きく変動するもとの農業分野での課題にどのように応用できるかを考えてもらいます。</p> <p>【講義の目標】 一般教養としての経済学の基礎知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて身の回りの社会経済の仕組みや時事問題を理解して、問題の原因や解決策を自らで考えられることができる知識とスキルを獲得することを目標とします。また、経済学の農業分野への応用としての農産物価格の決まり方、農産物の輸出や輸入に関わる規制の問題などを扱う、専門科目である食料・農業経済学への橋渡しをすることも目標の一つとします。</p>			
	到達目標	<p>経済学は、消費者および生産者のよりミクロな（小さな）個別の行動に着目して分析するミクロ経済学と財市場や貨幣市場や労働市場やGDPなどのよりマクロな（大きな）観点から分析するマクロ経済学に大別されます。本講義では、これらのミクロとマクロの両面の視点で経済学的に経済主体の行動原理や社会の仕組みを理論に基づいて解説しますので、受講生は、環境問題、経済格差問題、不況問題など、身の回りの諸問題の原因と解決策を考えるにあたって必要な経済学の基本知識を習得し、経済学の農業分野への応用としての農産物価格の決まり方、環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(略称: CPTPP)における農産物の輸出や輸入に関わる規制の緩和・撤廃が国内農業に及ぼす影響の問題なども考察できる能力を涵養します。</p>		
授業方法と留意点	<p>教科書に基づき、またpdfファイルで配布する資料などを用いて、パワーポイントのスライドや板書を活用して講義を行います。各回の講義の事前学習として、各回の学習方法・自己学習課題の欄に示した教科書の指定箇所を一通り読んでください。（予習として30分）この際、理解できない箇所をノートに箇条書きにしておくなり、付箋（ポストイット）に書き込んで該当箇所貼り付けておくとういでしょう。講義の補助として、Moodleを利用して、各種資料、教材、講義のポイントをまとめたノートなどを提供します。</p>			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに：講義の概要と講義の進め方	15回の講義で何を学ぶかを概説します。また、経済学的な考え方を例を用いて説明します。	
	2	経済学の課題と日本経済の現状の理解	教科書の第1部（pp. 2-56）を解説します。	事前に教科書の第1部を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の第1部を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	3	所得制約のもとで効用最大化を図る消費者行動の理論の理解	教科書の第2部第4章（pp. 58-74）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	4	技術制約のもとで費用最小化を図る生産者行動の理論の理解	教科書の第2部第5章（pp. 75-92）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	5	市場（しじょう）の分類と完全競争のもとでの市場均衡と調整過程の理論および不完全競争市場では価格と数量はどのように決定されるかの理論の理解	教科書の第2部第6章（pp. 93-110）と第2部第7章（pp. 111-134）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	6	マーケットメカニズム（市場機構）の優れた点とその限界としての市場の失敗の理解	教科書の第2部第8章（pp. 135-149）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	7	比較優位の原理に基づく国際貿易と国際資本移動の理論の理解	教科書の第2部第9章（pp. 150-171）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	8	不確実性や不完全情報のもとでの消費者行動や所得分配の不平等に関する理論の理解	教科書の第2部第10章（pp. 172-193）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	9	GDPをはじめとする国民所得の諸概念と均衡所得の決定理論の理解	教科書の第3部第11章（pp. 196-209）と第3部第12章（pp. 210-221）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	10	財市場と貨幣市場の理論であるIS-LM分析の理解	教科書の第3部第13章（pp. 222-237）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	11	貨幣賃金上昇率と失業率との関係を示すフィリップ曲線、合理的期待仮説、為替レート決定理論の大まかな理解	教科書の第3部第14章（pp. 238-256）、第15章（pp. 257-277）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	12	景気循環ならびに経済成長	教科書の第3部第16章（pp. 278-292）、	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に

		の理論の理解とマクロ経済学の諸理論の背後にある個々人の合理的行動を分析するマクロ経済学のミクロ的基礎の大まかな理解	第17章 (pp. 293-314) を解説します。	臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	13	経済学の新しい課題と直面している諸問題の解決に向けての取組の理解 (その1)	教科書の第4部 (pp. 316-374) を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	14	経済学の新しい課題と直面している諸問題の解決に向けての取組の理解 (その2)	教科書の第4部 (pp. 316-374) を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	15	まとめ:何を学んできたかの振り返り	教科書全体を対象に、これまでの14回の講義で説明してきたことの要点を説明します。	教科書全体を通じて、理解が難しかった概念や理論を書き出してから講義に臨んでください。
関連科目	食料・農業経済学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済学・入門	塩澤修平	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	第1回から第14回までの毎回の講義で課す課題に対するレポートが56%、定期試験が44%。			
学生へのメッセージ	経済学は、消費者および生産者のよりミクロな (小さな) 個別の行動に着目して分析するミクロ経済学と財市場や貨幣市場や労働市場やGDPなどのよりマクロな (大きな) 観点から分析するマクロ経済学に大別されます。これらのミクロとマクロからの視点で経済学的に経済主体の行動原理や社会の仕組みを理論に基づいて理解していると、環境問題、経済格差問題、不況問題など、身の回りの諸問題の原因と解決策を考えるのに役立つだけでなく、経済学の農業分野への応用としての農産物価格の決まり方や環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的			
担当者の研究室等	農学部非常勤講師室			
備考	教科書に基づき、また pdf ファイルで配布する資料などを用いて、パワーポイントのスライドや板書を活用して講義を行います。各回の講義の事前学習として、各回の学習方法・自己学習課題の欄に示した教科書の指定箇所を一通り読んでください。(予習として30分) この際、理解できない箇所をノートに箇条書きしておくなり、付箋 (ポストイット) に書き込んで該当箇所に貼り付けておくといでしょう。講義の補助として、Moodle を利用して、各種資料、教材、講義のポイントをまとめたノートなどを提供します。講			

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01426a2		

授業概要・目的	<p>みなさんはボランティア活動についてどのようなイメージをもっておられるでしょうか。学校で授業の一環として地域の清掃を行ったり募金活動をしったりするのはボランティア活動と言えるでしょうか。チャリティー番組にタレントが報酬を得て出演するのもボランティア活動でしょうか。</p> <p>商業的なイベントで多額の報酬を受け取る人がいる一方で、専門的な知識や経験、資格や免許を有する人たちには〈やりがい〉〈思い出づくり〉〈社会貢献〉といった名のもとに無償のボランティアが求められることに批判の声があります。これとは逆に、NPO (非営利団体) の職員が報酬を受け取っていることや NPO に寄付したものがそのまま困っている人たちへの支援にまわされず経費として使用されることについて批判する人たちもいます。こうした問題について、みなさんはいまどのような理解をしているのでしょうか。</p> <p>ひとことでボランティア活動と言っても、地域の清掃や通学路の見守りといった身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動の基本を学修します。</p>
---------	---

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業は進められます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、たんに授業に出席するだけでなく教員からの問いかけに積極的に応答することが求められます。</p> <p>成績評価の対象となる授業内課題 (リフレクション課題) は原則として毎週提出し、次の授業の冒頭で提出された内容をスクリーンに映しながら口頭でフィードバックが行われます。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	<p>事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する</p>
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
3	なぜボランティアが必要なのか？	ボランティアの必要性について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
4	支え合いによって成り立つ社会—市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
5	NPO、NGO	NPO、NGO とは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はど	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞

			のようなものなのか学修します。	にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
6	社会制度とボランティア活動	社会制度が NPO、NGO の活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
7	グループワーク（1）——国内外の NGO 団体について調査	5人前後のグループに分かれ、国内外の NGO 団体について調査します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
8	グループワーク（2）——国内外の NGO 団体について発表の準備	前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
9	グループワーク（3）——国内外の NGO 団体について発表	グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体がどのような活動を行っているのか紹介します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
10	災害とボランティア	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
12	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)

			事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ボローニャ紀行</td> <td>井上ひさし</td> <td>文春文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ボローニャ紀行	井上ひさし	文春文庫	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	ボローニャ紀行	井上ひさし	文春文庫														
2																	
3																	
評価方法(基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)15%、グループワーク20%、期末レポート65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。																
学生へのメッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。																
担当者の研究室等	メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)																
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。																

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Studies
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1425a2		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐる、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと思えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習 (1時間)
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴し次回に備える (1時間)。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴する (1時間)
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐる、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習 (1時間)・事例を探すレポート (1時間) 次回テーマについての予習 (1時間)
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性 (男性) か、について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
15	今日的課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習 (2時間)

関連科目	社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。			
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起きているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1424a2		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類がこの地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかの理解。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れの理解。
授業方法と留意点	講義形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とはどのような学問か?	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
2	人類学の誕生 (1): 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
3	人類学の誕生 (2): 進化主義人類学	前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
4	機能主義人類学 (1): マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーとA・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
5	機能主義人類学 (2): 有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
6	アメリカ文化人類学の誕生 (1):	フランツ・ボアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、ボアズ学派を中心とするアメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
10	構造主義 (1): モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースの『贈与論』とC・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
11	構造主義 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
12	構造主義 (3)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
13	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
14	解釈人類学 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。

関連科目	学芸員課程
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	<p>100%定期試験によって評価する（オンライン授業に変更された場合は定期試験に相当する「レポート課題」をもって代替する。レポート課題の内容は授業内で説明する）。</p> <p>評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。ネットや参考書などで、授業とは無関係に調べた知識は（特に授業内容と合致しない場合）必ずしも評価につながらない。</p>		
学生への メッセージ	<p>情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。ノートは板書をただ受動的に書き写すのではなく、疑問点や興味を持ったポイントなどについてもメモを取り、あとで見返した時にわかるようなノートをつくる習慣をつけてください。わからないことがあれば積極的に質問に来てください。</p> <p>各回の講義終了後あまり時間をおかずに、それまでの講義の流れを理解したうえで、各回の講義の要約をノート半ページから1ページ程度で作ってみることを推奨します。</p>		
担当者の 研究室等	非常勤講師室		
備考	<p>事前事後の総学習時間の目安は60時間。 事前学習よりも、事後学習に力を注いでください。</p>		

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1423a2		

授業概要・目的	日本の古典文学の中には、異国、異界、異類、異形、異能など、「異」と表象される存在が描かれる。「異」とは、自らと違うことを示す語である。それでは、それらの存在は、どのような点で、「異」とされているのだろうか。本講義では、この「異」というキーワードをもとに、日本の古典文学（鎌倉時代の説話文学を中心に取り上げる）を支える価値観や思想を知ったうえで、自らと他者を考えるための視点を持つことを目的とする。
到達目標	本講義の到達目標である、以下の3点の理解度に応じて、成績を評価する。 1、日本の古典文学を通して、物語を支える同時代の価値観、思想を理解できる。 2、物語の比較を通して、共通点や相違点など、文学作品を解釈できる視点を持つ。 3、同時代の資料などを用いて、物語を多角的に考察する視点を持つ。
授業方法と留意点	毎回の授業の最後にコメントペーパーに、講義内での自らの気づきを書いてもらう。大学の出席回数の規定に従い、成績評価を行う。欠席が多い場合は、単位を不可とする。講義に際し、資料プリントを配布する。参考文献は、講義内で紹介する。
科目学習の効果 (資格)	物語世界を通して、物事を多角的に考える視点を持つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入・講義の目的 日本文学史の基礎知識	日本文学史の知識をおさえる	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める
	2	物語に見える異国1	異国に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	3	物語に見える異国2	異国に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	4	物語に見える異国3	異国に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	5	物語に見える異界1	異界に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	6	物語に見える異界2	異界に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	7	物語に見える異類1	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	8	物語に見える異類2	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	9	物語に見える異類3	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	10	物語に見える異類4	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	11	物語に見える異形1	異形に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	12	物語に見える異形2	異形に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	13	物語に見える異能1	異能に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	14	物語に見える異能2	異能に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
		15	まとめ	講義を通したまとめ

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末レポート70%。コメントペーパー30%。 出席回数が大学の規定に達していない場合は、レポート提出を認めない。
学生へのメッセージ	本講義では、日本の古典文学作品を扱いますが、文法の知識を必要とする「古文」の読解ではなく、「物語」を読むことに重点をおきます。現代語訳なども使い、講義を進めていきます。 中学・高校時代に利用した国語便覧があれば、講義の参考になります。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北西 諒介
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1422a2		

授業概要・目的	この授業では、地理学を「社会で起こる様々な事象に対し、地域という視点から説明を加える学問」として捉え、具体例を交えながら、地域を把握するための様々な方法を紹介します。
到達目標	地図を使った思考方法や地理学的なものの方見方に親しむこと。加えて、地域に対する知的関心を高め、地域を理解するための基本的な実践が可能になること。
授業方法と留意点	授業は講義形式で、PowerPointのスライドを中心に進め、適宜プリントなども配布します。授業では地図をよく使うため、中学や高校の授業で使用した地図帳や、地図が見られる端末（スマートフォン等）を持参してください。また、毎回授業後に各回の内容に合わせた簡単な課題を出します。それとともに授業の感想や質問も集めますので、次回の授業の冒頭でフィードバックを行います。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学の概要	授業の進め方および地理学の基本的視座と手法について概説します。	これまでに学習した「地理」や「地理学」に関する事柄について振り返る (事前学習 1 時間) 授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
2	データと主題図	主題図の作図・読図を通した地域把握の方法について紹介します。	色々な種類の地図を見て、その表現や内容の特徴について考える (事前学習 1 時間) 授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
3	都市構造と都市システム	都市に対する地理学の基本的視座を紹介しします。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
4	集落形態と村落空間	農村に対する地理学の基本的視座を紹介しします。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
5	郊外化と地域社会	郊外や地域コミュニティに対する地理学の基本的視座を紹介しします。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
6	農産物の生産と消費	農産物の産地の形成要因と近年の動向について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
7	工業立地と空間的分業	工場集積の要因と企業の立地戦略について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
8	流通と商業集積	商店の立地要因やそれを支える流通網について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
9	都市計画と法規制	行政によるまちづくりや規制が地域に及ぼす影響について取り扱います。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
10	生活と公共サービス	公共施設へのアクセスを切り口に、地理学におけるジェンダーや身体の問題を取り扱います。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
11	社会問題と空間スケール	社会問題の偏った分布とスケールについて取り扱います。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
12	文化と景観	世界観や心象が景観とどう関わるのかについて取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
13	観光地の形成	観光地に関する表象や観光行動について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
14	景観の歴史	現在の景観に残る歴史の痕跡とその読み取り方について紹介します。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
15	地誌と地域性	授業のまとめとして、1つの地域の地誌的記述から地域性を見出すを試みます。	これまでの授業の内容を振り返る (事前学習 1 時間) 授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)

関連科目	地誌学、自然地理学
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地理学基礎シリーズ 1 地理学概論 [第 2 版]	上野和彦・椿真智子・中村康子編	朝倉書店

	2	人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴェア書房
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業で出す小課題：60%、期末レポート課題：40%			
学生への メッセージ	高校までの「地理」の科目の知識は必ずしも必要としません。地図を読むのが苦手な学生の受講も歓迎します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	授業に関する問い合わせはメールで対応します。(メールアドレスは初回授業時にお知らせします) 参考書の購入は必須ではありません。			

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1421a2		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。			
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。			
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で進める。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	小中高の地理と大学の地誌学	講義ノートを復習しておくこと (事後学習 3時間)
	2	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	冷涼地域の農業	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	3	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	4	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の牧畜	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	5	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	6	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	7	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	8	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	9	熱帯気候と住民生活 (2)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	10	熱帯気候と住民生活 (3)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	11	熱帯気候と住民生活 (4)	発展途上国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	12	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	季節河川と地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	13	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	乾燥地帯で生きる人々 (1)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	14	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々 (2)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 3時間)
関連科目	人文地理学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門：気候・地形・動植物と人間生活	水野一晴	筑摩書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 70%、授業内課題 30% 授業内課題は、各回の授業内容に関する穴埋め問題等である。			
学生へのメッセージ	高校で地理を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。また、簡単な質問等は授業内課題の余白部分に記入してください。翌週の授業内で回答します。			
担当者の研究室等	8号館1階 (非常勤講師室)。			
備考				

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1420a2		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出会うことになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 授業終わりにコメントを提出してもらい（方法は初回授業で指示する）、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分)
2	なぜ「哲学」をするのか？	古代ギリシアの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
3	「知る」とは何か？	プラトンとアリストテレスの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
4	「絶対に疑えないもの」は何か？	デカルトの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
5	物事を「経験」するとはどういうことか？	ロックの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
6	世界は本当に「存在」するの か？	バークリの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
7	実は「私」しか存在してい ないのではないか？	独我論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
8	「理性」はどこまで考えられ るのか？	カントの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
9	「自由」とは何か？	近代哲学における自由概念の変遷を学 ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
10	積極的に「悪」を成すことは できるか？	シェリングの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
11	絶対的な「価値」などないの ではないか？	ニーチェの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
12	どうすれば「人間の生きる世 界」を観察することができる のか？	フッサールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
13	「死」に向き合うとはどのよ うなことか？	ハイデガーの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
14	「他者」とはどういうもの か？	レヴィナスの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考 える	予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>概念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて</td> <td>富田恭彦</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文学部唯野教授・最終講義 誰にもわかるハイデガ ー</td> <td>筒井康隆</td> <td>河出書房新社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	概念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書	2	文学部唯野教授・最終講義 誰にもわかるハイデガ ー	筒井康隆	河出書房新社	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	概念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書													
	2	文学部唯野教授・最終講義 誰にもわかるハイデガ ー	筒井康隆	河出書房新社													
3																	

評価方法 (基準)	学期末のレポート80%、毎回の授業内課題(コメント)20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性(生きている間にできること)が広がります。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室で対応する。

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1419a2		

授業概要・目的

「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためではないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っ
ていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないと
したら、他人にアドバイスしたり批判することは失礼なことだろうか?」
このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある (人によっては常に考えている) ことではない
かと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題 (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、人種差
別、ジェンダー等) に関してどのような倫理学、哲学、宗教上の主張が存在するかを学びます。また、それらと対照することで自分自身の常識を
自覚し、再検討することが目的です。

到達目標

授業で扱う現代社会の諸テーマ (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道德の関係、非利己性、寄付の義務等)
について、『現実をみつめる道德哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房) の議論
を参考に、倫理的な視点を身に着ける。

授業方法と留意点

Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します (毎回、ある程度の読書量があります)。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に
関する小問題に答えてもらいます。

科目学習の
効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、道德と はどういうことか (第 1 章) (1)	「道德」の定義、哲学との関係	予習: なし 復習: 読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) を読むこと
2	道德とはどういうことか (第 1 章) (2)	道德は定義できるか、道德の最小概念、 回復の見込みのない乳児の権利	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) を読むこと
3	文化的相対主義 (第 2 章)	異なる文化はいかにして道德規範を持 つのか、文化的相対主義を本気で受け止 めるとどうなるか、文化的相対主義から 何を学ぶことができるか	2 に同じ
4	倫理における主観主義 (第 3 章)	倫理学に証明はあるのか、同性愛の問題	2 に同じ
5	道德は宗教に基づくか (第 4 章)	道德と宗教の関係、道德は神の命令か、 キリスト教と中絶の問題	2 に同じ
6	心理学的利己主義 (第 5 章)	人間は非利己的であることはできるか、 「どんなことも結局自分のためではない 」という主張は本当か	2 に同じ
7	倫理的利己主義 (第 6 章)	飢餓救済に寄付する義務はあるのか、 「何が人のためになるかは難しい」「自 分のためになることだけをやるべきで ある」という主張は本当か	2 に同じ
8	功利主義者のアプローチ (第 7 章)	功利主義、幸福計算、安楽死、動物の権 利の問題、ベンサム、ミル	2 に同じ
9	功利主義をめぐる議論 (第 8 章)	功利主義への批判的な議論の紹介	2 に同じ
10	絶対的道德規則はあるのか (第 9 章)	カントの倫理学、定言命法、仮言命法	2 に同じ
11	カントと人格の尊重 (第 10 章)	カントの倫理学、「目的の国」、刑罰の理 論における応報主義	2 に同じ
12	社会契約の思想 (第 11 章)	ホブズの世界契約説、囚人のジレン マ、市民的不服従についての問題	2 に同じ
13	フェミニズムと気づかひの 倫理 (第 12 章)	コールバーグ、ギリガン、女と男は倫理 についての考えが違うか	2 に同じ
14	徳の倫理 (第 13 章)	アリストテレスの徳倫理、様々な徳	2 に同じ
15	満足のいく道德説とはいか なるものか (第 14 章)	ローティ、マイケル・サンデル、思い 上がりのない道德、道德共同体、正義と公 正	2 に同じ

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版 現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、次 田憲和訳	晃洋書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、古 牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房
2	倫理学入門 アリストテレスから生殖技術、AI まで	品川哲彦	中公新書
3			

評価方法
(基準)

定期的に出す小テスト: 75% (Google Form 等によって提出)
期末試験: 25% (Google Form 等によって提出)

学生への

メッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師控室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	立本 千寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1418a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 生命を有する数多くの生物の中でも、人間は「心」を有する生き物である。心理学の基礎的な理論を理解することは、自らが生きることへの貢献があるだけでなく、対人援助においても有益である。 本授業では、これまでの知見を通して心理学の世界を概観し、理論と実践の融合によって人間に貢献する心理学についての基本的な理解を深めることを目的とする。</p>
到達目標	<p>①心理学の基礎的な知見を理解すること。 ②人間の発達と心理学の関連性について理解すること。 ③対人援助としての臨床心理学の貢献性について理解すること。</p>
授業方法と留意点	COVID-19 感染状況によって、授業方法が対面・オンラインのいずれになるか想定できないため、情報に気をつけて、柔軟に対応し、受講すること。
科目学習の効果 (資格)	本授業の学びを通して、自己理解・他者理解の模索の入り口を知り、多様な人間理解に繋がるのが期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要・目的・到達目標・授業方法と留意点について説明する。	これまでの自分自身の心について、改めて考え直してみてください。
2	感覚と知覚	心理学の基礎的な理論として、感覚と知覚に焦点を当て、概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
3	記憶と学習	心理学の基礎的な理論として、記憶と学習に焦点を当て、概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
4	心の発達 I	胎児期から青年期までの心の発達について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
5	心の発達 II	青年期から老年期までの心の発達について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
6	原動力となる心の動きについて	生活するうえで生きるうえでの原動力である動機付けなどについて概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
7	心と多様性	多様性のある人間と心の関連性について、概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
8	心の健康とは何か	「生理・心理・社会モデル」などを取り上げ、人間の心の健康に心理学がどのように貢献するかについて概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
9	「聴くこと」とは何か	私たちの日常生活や対人援助において、「聴くこと」がどのような意義があるのかについて、心理学的に概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
10	心理療法について	臨床心理学的なアプローチにおける様々な療法について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
11	心理学研究法について	量的研究・質的研究の心理学の研究法の基礎について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
12	心理学の社会への貢献性 I	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、社会的認知の観点などから概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
13	心理学の社会への貢献性 II	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、対人関係などの観点から概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
14	心理学の社会への貢献性 III	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、臨床心理学の観点から概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
15	まとめ	これまで学んだことの要点を振り返り、総合的なまとめを行う。	テキストを精読し、知見を深めてください。

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる心理学	無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳編	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	心理学スタンダード	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明編著	ミネルヴァ書房
2	発達障害の子の気持ちのコントロール	辻井正次・明詠光宜・飯田愛・小倉正義	合同出版
3	母子関係の理論	J・Bowlby (著)・黒田実朗他 (訳)	岩崎学術出版社

評価方法 (基準)	<p>【授業における取り組み・課題】 40% 【レポート課題】 60%</p>
-----------	--

学生へのメッセージ	<p>「心理学」ときいて、皆さんはどのようなイメージを持つでしょうか？ 私は、大学時代、心理学とは異なる専門を専攻していましたが、恩師の授業をきいて、ある方々に会って、臨床心理学に強く惹かれ志しました。 皆さんが、心理学の世界に少しでも興味を持ち、それぞれの専門の中に活かしていただけるような授業を目指し</p>
-----------	--

	たいと思います。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	本授業は、15回の授業中で、対面での実施の回とオンデマンドによる実施の回があります。 具体的には、オリエンテーション時などの説明に加え、オンデマンドでの実施の際には、 事前にアナウンスをしますので、受講時に聞きもしがらないように気をつけてください。

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名 (英文)	Sports Science II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1417a2		

授業概要・目的	<p>本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。</p> <p>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。</p> <p>SDGs- 3, 4, 5</p>																																																																		
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになる。(DP1)</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>実技形式で行う。</p> <p>開講種目は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) <p>※1 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。</p> <p>※2 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。</p> <p>教員免許取得上、必要。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>・ガイダンス</td> <td>・ガイダンス (履修上の注意)</td> <td>事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>・種目の概要 ・基礎知識について</td> <td>・種目の概要、基礎知識の説明</td> <td>事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム</td> <td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る	3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り	4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める																																																																
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る																																																																
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り																																																																
4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括																																																																
関連科目	解剖生理学、臨床医学概論、生化学、基礎栄養学、生物と環境、応用栄養学、公衆衛生学、分子生物学、臨床栄養学、ゲノムと生命、食品栄養学研究																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%</p> <p>※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>授業1回目 (ガイダンス) は、教室 (教室名は事前に連絡します) に集合してください。(更衣不要)</p> <p>実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)</p>																																																																		
担当者の	8号館3階 教員室323																																																																		

研究室等	
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1416a2		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになる。
授業方法及び留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。 教員免許取得上、必要。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・履修上の注意	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
	2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り
	3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り
	4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
	5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
	6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	解剖生理学、臨床医学概論、生化学、基礎栄養学、生物と環境、応用栄養学、公衆衛生学、分子生物学、臨床栄養学、ゲノムと生命、食品栄養学研究
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業1回目 (ガイダンス) は、教室 (教室名は事前に連絡します) に集合してください。(更衣不要) 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
-----------	--

担当者の	8号館3階 教員室323
------	--------------

研究室等	
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー(DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OIL1415a2		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーⅠの復習(50分) 事後：演習課題の完成・提出(40分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは (イントロ) 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習(10分) 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第6回(60分) 視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場 (イントロ) 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(10分) 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第7回(60分) 視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向 (イントロ) 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習(10分) 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第8回(60分) 視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項(1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項(1) (イントロ) アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習(10分) 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第13回(60分) 視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習(60分) 事後：演習課題の完成・提出(30分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習(90分)
8	データ・AI を扱う上での留意事項(2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項(2) (イントロ) 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習(10分) 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第14回(60分) 視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 11 回 (60 分) 視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 売り上げを予測する 顧客層を分析する 顧客満足度を把握する 顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 12 回 (60 分) 視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ (イントロ) 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目

情報リテラシー I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (40%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%)、e-learning(20%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席(課題提出)が単位取得の必要条件となる。		
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。多くの先輩が、受講の後に独学でMOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (8号館1階)		
備考	授業時間外の質疑応答については、Teams のチャット機能で対応いたします。		

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OIL1414a2		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：大学の ICT 環境の確認 (60 分)
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは (イントロ) 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式 (テーマ等) 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 1 回 (60 分) 視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化 (イントロ) 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 2 回 (60 分) 視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ (イントロ) ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 3 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域 (イントロ) 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 4 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り (30 分)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (60 分)

8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備（60分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30分）
9	データ・AI 利活用のための 技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出（20分） E-第5回（60分）視聴・テスト
10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シート上のデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM、AVERAGE、MAX、MIN 関数の利用 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT、LEFT、MID 関数の利用 UPPER、LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60分）
15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第9回（60分）視聴・テスト E-第10回（60分）視聴・テスト

関連科目

情報リテラシーII

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913)	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912)	富士通 FOM	FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。

担当者の 非常勤講師室（8号館1階）

研究室等	
備考	授業時間外における質問は Teams チャット または学内メールで対応します。即日の返信が無理な場合でもできるだけ迅速な対応を心がけます。 必修演習課題の点数はメールにて連絡を行う予定をしています。

科目名	中国語Ⅱ	科目名 (英文)	Chinese II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1412e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふう、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第9課 どこで買ったのですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・様態補語 ・句型「～极了」 ・完了を表す助詞「了」 ・句型「是～的」 ・会話(どこで買ったのですか)	自己学習:p53~p55の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題(p56)を解答すること。
2	第9課 復習 第10課 少し話せます *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第9課練習問題 ・時刻、時点と時間の幅 ・前置詞「從」 ・名詞+「口+尼」 ・助動詞「会」 ・動詞+「一点兒」	自己学習:p57~p59の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題(p60)を解答すること。
3	第10課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話(少し話せます) ・第10課練習問題	自己学習:p57~p59の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文(p57)を暗唱すること。
4	第11課 一足いくらですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「能」 ・助動詞「得」 ・副詞「有点兒」 ・選択疑問文 ・貨幣の言い方 ・会話(一足いくらですか)	自己学習:p61~p63の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題(p64)を解答すること。
5	第11課 復習 第12課 何をしていますか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第11課練習問題 ・進行を表す副詞「在」 ・「有」+名詞+動詞 ・「多」+形容詞 ・「覺得」 ・二重目的語を取る動詞	自己学習:p65~p67の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題(p68)を解答すること。
6	第12課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話(何をしていますか) ・第12課練習問題	自己学習:p65~p67の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文(p65)を暗唱すること。
7	・復習 ・中間テスト *第9-12課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第9~12課の復習 ・練習問題 ・中間テスト	自己学習:第9-12課の復習をすること。中間テストの準備をすること。
8	第13課 ちょっと見せてください *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・方向補語 ・方位詞 ・持続を表す助詞「口+尼」 ・前置詞「給」 ・会話(ちょっと見せてください)	自己学習:p69~p71の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題(p72)を解答すること。
9	第13課 復習 第14課 足はどうされましたか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第13課練習問題 ・結果補語 ・受身を表す「被」 ・副詞「就」 ・使役を表す「讓/叫」	自己学習:p73~p75の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題(p76)を解答すること。
10	第14課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話(足はどうされましたか) ・第14課練習問題	自己学習:p73~p75の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文(p73)を暗唱すること。
11	第15課 どこに行くか決まりましたか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・原因を尋ねる言い方 ・句型「一点兒都/没～」 ・疑問詞+「都」 ・副詞「再」 ・会話(どこに行くか決まりましたか)	自己学習:p77~p79の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題(p80)を解答すること。
12	第15課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話(どこに行くか決まりましたか) ・第15課練習問題	自己学習:p77~p79の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文(p77)を暗唱すること。
13	第16課 一緒に写真を撮る	文法、単語、会話を学ぶ。	自己学習:p81~p83の録音を聞いて、発音を練習を

		ましょう ＊正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	・可能補語 ・「把」構文 ・存現文 ・持続を表す「着」 ・可能性を表す助動詞「会」 ・会話（一緒に写真を撮りましょう）	すること。練習問題（p84、p85）を解答すること。
	14	第16課 復習 ＊単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話（一緒に写真を撮りましょう） ・第16課練習問題	自己学習：p81～p83の録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文（p81）を暗唱すること。
	15	・復習 ＊第13-16課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第13～16課の復習 ・練習問題	自己学習：第13-16課の復習をすること。期末試験の準備をすること。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スリム版 中国語で伝えよう！	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点（授業態度、宿題、発話活動等）50% 中間テスト（25%） 期末試験（25%）			
学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の 研究室等	カーティス講師室（2号館2階）			
備考				

科目名	中国語Ⅱ	科目名 (英文)	Chinese II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	王 坤鉉
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1412e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふう、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。 授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第9課 どこで買ったのですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 状態補語 ・ 句型「～极了」 ・ 完了を表す助詞「了」 ・ 句型「是～的」 ・ 会話 (どこで買ったのですか)	自己学習: p53～p55の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p56) を解答すること。
2	第9課 復習 第10課 少し話せます *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 第9課練習問題 ・ 時刻、時点と時間の幅 ・ 前置詞「從」 ・ 名詞+「口+尼」 ・ 助動詞「会」 ・ 動詞+「一点兒」	自己学習: p57～p59の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p60) を解答すること。
3	第10課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・ 会話 (少し話せます) ・ 第10課練習問題	自己学習: p57～p59の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p57) を暗唱すること。
4	第11課 一足いくらですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 助動詞「能」 ・ 助動詞「得」 ・ 副詞「有点兒」 ・ 選択疑問文 ・ 貨幣の言い方 ・ 会話 (一足いくらですか)	自己学習: p61～p63の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p64) を解答すること。
5	第11課 復習 第12課 何をしていますか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 第11課練習問題 ・ 進行を表す副詞「在」 ・ 「有」+名詞+動詞 ・ 「多」+形容詞 ・ 「覺得」 ・ 二重目的語を取る動詞	自己学習: p65～p67の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p68) を解答すること。
6	第12課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・ 会話 (何をしていますか) ・ 第12課練習問題	自己学習: p65～p67の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p65) を暗唱すること。
7	・ 復習 ・ 中間テスト *第9-12課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・ 第9～12課の復習 ・ 練習問題 ・ 中間テスト	自己学習: 第9-12課の復習をすること。中間テストの準備をすること。
8	第13課 ちょっと見せてください *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 方向補語 ・ 方位詞 ・ 持続を表す助詞「口+尼」 ・ 前置詞「給」 ・ 会話 (ちょっと見せてください)	自己学習: p69～p71の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p72) を解答すること。
9	第13課 復習 第14課 足はどうされましたか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 第13課練習問題 ・ 結果補語 ・ 受身を表す「被」 ・ 副詞「就」 ・ 使役を表す「讓/叫」	自己学習: p73～p75の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p76) を解答すること。
10	第14課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・ 会話 (足はどうされましたか) ・ 第14課練習問題	自己学習: p73～p75の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p73) を暗唱すること。
11	第15課 どこに行くか決まりましたか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 原因を尋ねる言い方 ・ 句型「一点兒都/没～」 ・ 疑問詞+「都」 ・ 副詞「再」 ・ 会話 (どこに行くか決まりましたか)	自己学習: p77～p79の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p80) を解答すること。
12	第15課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・ 会話 (どこに行くか決まりましたか) ・ 第15課練習問題	自己学習: p77～p79の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p77) を暗唱すること。
13	第16課 一緒に写真を撮り	文法、単語、会話を学ぶ。	自己学習: p81～p83の録音を聞いて、発音を練習を

		ましょう *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・可能補語 ・「把」構文 ・存現文 ・持続を表す「着」 ・可能性を表す助動詞「会」 ・会話（一緒に写真を撮りましょう） 	すること。練習問題（p84、p85）を解答すること。
	14	第16課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 <ul style="list-style-type: none"> ・会話（一緒に写真を撮りましょう） ・第16課練習問題 	自己学習：p81～p83の録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文（p81）を暗唱すること。
	15	・期末テスト *第13-16課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・第13～16課の復習 ・練習問題 	自己学習：第13-16課の復習をすること。期末試験の準備をすること。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スリム版 中国語で伝えよう！	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末に毎週の宿題（50%）と中間テスト（25%）と期末試験（25%）で評価する。 100点満点中60点以上で合格。 （新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。）			
学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	*「質問等は Teams Chat にて対応する」 *講義前の予習（テキストを読む。1時間 x13回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 X13回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。） *受講者の学習状況に応じて、コースの進捗を調整します。シラバスは、授業進度の参考とする。			

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	楊 莉
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1411e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふう、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 1 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・声調 ・単母音 ・複母音 ・子音①	自己学習：p6～p11の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p10、p12) を解答すること。
2	発音編 2 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・子音② ・鼻母音 ・発音の規則 ・中国語の音節構造 ・声調の組合せのパターン ・簡単なあいさつ言葉	自己学習：p11～p18の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p12、p14) を解答すること。
3	第1課 はじめまして *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・人称代名詞 ・「是」を用いる動詞述語文 ・疑問文 ・名前の言い方 ・会話 (はじめまして)	自己学習：p21～p23の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p24) を解答すること。
4	第1課 復習 第2課 とてもおいしいです *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第1課練習問題 ・指示代名詞 ・形容詞述語文 ・副詞「也」 ・動詞述語文 ・会話 (とてもおいしいです)	自己学習：p25～p27の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p28) を解答すること。
5	第2課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (とてもおいしいです) ・第2課練習問題	自己学習：p25～p27の録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文 (p25) を暗唱すること。
6	第3課 彼女は今年20歳です *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・動詞+「過」 ・「的」の省略 ・数字、日にち、曜日、年齢の言い方 ・名詞述語文 ・会話 (彼女は今年20歳です)	自己学習：p29～p31の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p32) を解答すること。
7	第3課 復習 第4課 お子さんは何人いらっしゃいますか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第3課練習問題 ・所有・所在を表す「有」 ・量数 (助数詞) ・疑問詞疑問文 ・比較を表す前置詞「比」	自己学習：p33～p35の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p36) を解答すること。
8	第4課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (お子さんは何人いらっしゃいますか) ・第4課練習問題	自己学習：p33～p35録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文 (p33) を暗唱すること。
9	・復習 ・中間テスト *第1-4課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第1～4課の復習 ・練習問題 ・中間テスト	自己学習：第1-4課の復習をすること。
10	第5課 おうちは駅から遠いですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・隔たりを表す前置詞「離」 ・所在を表す動詞「在」 ・推量を表す助詞 ・反復疑問文 ・会話 (おうちは駅から遠いですか)	自己学習：p37～p39の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p40) を解答すること。
11	第6課 お茶をどうぞ *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第5課練習問題 ・動詞+「一下」 ・文末助詞「了」 ・動詞の重ね型 ・動詞の連体修飾 ・会話 (お茶をどうぞ)	自己学習：p41～p43の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p44) を解答すること。
12	第6課 復習	文法、単語、会話を学ぶ。	自己学習：p45～p47の録音を聞いて、発音を練習を

		第7課 そのうちと一緒に食べに行きましょう *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	・第6課練習問題 ・文型「太～了」 ・主述述語文 ・場所を表す前置詞「在」 ・連動文	すること。練習問題 (p48) を解答すること。
	13	第7課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (そのうちと一緒に食べに行きましょう) ・第7課練習問題	自己学習:p45～p47の録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文 (p45) を暗唱すること。
	14	第8課 電車で行きましょう *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「想」 ・意志・勧誘を表す助詞 ・手段を尋ねる表現 ・許可を表す助動詞「可以」 ・会話 (電車で行きましょう)	自己学習:p49～p51の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p52) を解答すること。
	15	・復習 *第5-9課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第8課練習問題 ・復習 (第5～8課) ・練習問題	自己学習:第5-8課の復習をすること。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スリム版 中国語で伝えよう!	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末に中間テスト (50%) と期末試験 (50%) で評価する。100点満点中60点以上で合格。 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)
-----------	--

学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。
-----------	--------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習 (テキストを読む。1時間 x13回)、 復習 (講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 X13回)、 自己学習 (講義プリントに記載されている確認問題を解答する。)
----	--

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	王 坤鈺
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1411e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふう、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。 授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 1 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・声調 ・単母音 ・複母音 ・子音①	自己学習：p6～p11の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p10、p12) を解答すること。
2	発音編 2 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・子音② ・鼻母音 ・発音の規則 ・中国語の音節構造 ・声調の組合せのパターン ・簡単なあいさつ言葉	自己学習：p11～p18の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p12、p14) を解答すること。
3	第1課 はじめまして *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・人称代名詞 ・「是」を用いる動詞述語文 ・疑問文 ・名前の言い方 ・会話 (はじめまして)	自己学習：p21～p23の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p24) を解答すること。
4	第1課 復習 第2課 とてもおいしいです *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第1課練習問題 ・指示代名詞 ・形容詞述語文 ・副詞「也」 ・動詞述語文 ・会話 (とてもおいしいです)	自己学習：p25～p27の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p28) を解答すること。
5	第2課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (とてもおいしいです) ・第2課練習問題	自己学習：p25～p27の録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文 (p25) を暗唱すること。
6	第3課 彼女は今年20歳です *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・動詞+「過」 ・「的」の省略 ・数字、日にち、曜日、年齢の言い方 ・名詞述語文 ・会話 (彼女は今年20歳です)	自己学習：p29～p31の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p32) を解答すること。
7	第3課 復習 第4課 お子さんは何人いらっしゃいますか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第3課練習問題 ・所有・所在を表す「有」 ・量数 (助数詞) ・疑問詞疑問文 ・比較を表す前置詞「比」	自己学習：p33～p35の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p36) を解答すること。
8	第4課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (お子さんは何人いらっしゃいますか) ・第4課練習問題	自己学習：p33～p35録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文 (p33) を暗唱すること。
9	・復習 ・中間テスト *第1-4課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第1～4課の復習 ・練習問題 ・中間テスト	自己学習：第1-4課の復習をすること。
10	第5課 おうちは駅から遠いですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・隔たりを表す前置詞「離」 ・所在を表す動詞「在」 ・推量を表す助詞 ・反復疑問文 ・会話 (おうちは駅から遠いですか)	自己学習：p37～p39の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p40) を解答すること。
11	第6課 お茶をどうぞ *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第5課練習問題 ・動詞+「一下」 ・文末助詞「了」 ・動詞の重ね型 ・動詞の連体修飾 ・会話 (お茶をどうぞ)	自己学習：p41～p43の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p44) を解答すること。
12	第6課 復習	文法、単語、会話を学ぶ。	自己学習：p45～p47の録音を聞いて、発音を練習を

		第7課 そのうちと一緒に食べに行きましょう *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	・第6課練習問題 ・文型「太～了」 ・主述述語文 ・場所を表す前置詞「在」 ・連動文	すること。練習問題 (p48) を解答すること。
	13	第7課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (そのうちと一緒に食べに行きましょう) ・第7課練習問題	自己学習:p45~p47の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p45) を暗唱すること。
	14	第8課 電車で行きましょう *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「想」 ・意志・勧誘を表す助詞 ・手段を尋ねる表現 ・許可を表す助動詞「可以」 ・会話 (電車で行きましょう)	自己学習:p49~p51の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p52) を解答すること。
	15	・期末テスト *第5-9課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第8課練習問題 ・復習 (第5~8課) ・練習問題	自己学習:第5-8課の復習をすること。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スリム版 中国語で伝えよう!	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)
 期末に 毎週の宿題 (50%) と 中間テスト (25%) と 期末試験 (25%) で 評価する。
 100 点満点中 60 点以上で合格。
 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)

学生へのメッセージ
 復習をしてこそはじめて力が付きます。

担当者の研究室等
 非常勤講師室

備考
 *「質問等は Teams Chat にて対応する」
 *講義前の予習 (テキストを読む。1 時間 x13 回)、
 復習 (講義プリントの重要事項をまとめる。1.5 時間 X13 回)、
 自己学習 (講義プリントに記載されている確認問題を解答する。)
 *受講者の学習状況に応じて、コースの進捗を調整します。シラバスは、授業進度の参考とする。

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 峰子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3410c2		

授業概要・目的	基本的な表現や語彙、文法の知識を使って日常的な場面において意思疎通を図る力を育む。
到達目標	文法の基本と基礎的な語彙、表現を身につける。 学んだ表現や語彙、文法の知識を使って、身近なことを話したり聞いたりできるようになる。
授業方法と留意点	[授業方法] テキストに従って、語彙、文法、表現を学び、様々な場面を想定した会話やスピーチの聞き取り練習、個人やグループでの発話練習をします。 [留意点] オンラインプラクティスを行う際にテキスト付属のアクセスコードが必要になります。有効なアクセスコードが付いたテキストを用意してください。 5回を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなします。 遅刻2回で1回欠席、30分以上の遅刻は欠席とみなします。中途退室は遅刻同様に扱います。 テキスト忘れ、スマートフォンなど通信機器の使用 (必要)
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法などの説明	シラバス、テキストの構成を確認する。
2	Unit 7 Remember when ...	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
3	Unit 7 Remember when ... (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
4	Unit 8 Love it or hate it!	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
5	Unit 8 Love it or hate it! (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
6	Unit 9 Life in the city	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
7	Unit 9 Life in the city (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
8	前半学習の確認	Unit 7-Unit 9 の内容について理解を深め、到達度を確認する。	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。
9	Unit 10 What are you up to?	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
10	Unit 10 What are you up to? (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
11	Unit 11 Going for it!	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
12	Unit 11 Going for it! (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
13	Unit 12 Have you ever ... ?	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
14	Unit 12 Have you ever ... ? (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
15	後半学習の確認	Unit 10-Unit 12 の内容について理解を深め、到達度を確認する。	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Headway 5th Edition Elementary Student's Book with Online Practice	Liz Soars, John Soars, Paul Hancock	オックスフォード大学出版局
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	クラスワーク (発表、グループワーク・ペアワークへの参加) : 60% テスト (理解度を確認する復習テスト) : 30% 課題 : 10%
学生への メッセージ	学習する姿勢を評価します。積極的に授業に参加してください。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	授業の準備として、知らない語句や表現は辞書を使って意味・用例を確認しておくこと。 毎回の授業のための準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とします。 テストや課題に関するフィードバックは授業内で行います。 その他の質問等は授業前後に教室で受け付けます。

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萬田 恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3410c2		

授業概要・目的	・英語で話したり聞いたりするための基礎的な知識と技術を身につけることを目的として、発話・聞き取りを中心とする演習授業を行う。 ・主にビジネス場面での英語を題材とする。
到達目標	・基本的なフレーズや基礎的文法知識を確認し、発話・聞き取りの素地を強化する。 ・基本的文法知識や平易な表現を使って話せるようになる。 ・基本的なフレーズを聞き取り、理解できるようになる。
授業方法と留意点	・基本的なフレーズや文法事項を確認しながら、テキストに従って、個人、ペア、グループでの発話・聞き取り練習・ロールプレイを行います。題材によっては全体での発表もを行います。演習型の授業なので、授業内の学習活動に積極的に参加し貢献する姿勢が重要な評価項目となります。 ・授業内で学んだ基本的なフレーズや文法事項について、翌週の小テストによって知識の定着を目指します。 ・授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了させることで良い学習リズムを作っていきましょう。 ・毎回授業の終わりにリアク
科目学習の効果 (資格)	・日常生活における英語を使った発話・聞き取り能力の向上 ・TOEIC の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・教科書を用いて、授業の進め方や評価方法などを説明する。 ・ペア・グループ等で自己表現活動を行う。 ・リアクション・ペーパーを記入する。	テキストの音声ダウンロードしておく。 テキストの構成を確認する。
2	Unit 1 Welcome to the office	・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
3	Unit 2 What time do you close?	・小テスト (前週の基本フレーズ・文法事項から出題。以下同じ) ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
4	Unit 3 I'd like to change an order	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
5	Unit 4 May I take a message?	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
6	Unit 5 Shall I ring that up for you?	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
7	Unit 6 This way, please	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	Unit 1-Unit 6 の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
8	達成度テスト①	・Unit 1-Unit 6 の内容について理解を深め、達成度を確認する。 ・リアクション・ペーパーの記入	Unit1-Unit6 の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
9	Unit 7 I'd like to make a complaint	・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
10	Unit 8 Could you fill out this form?	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
11	Unit 9 Welcome to Japan	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
12	Unit 10 What's your background?	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
13	Unit 11 Here's your schedule	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。

			<ul style="list-style-type: none"> ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入 	
	14	Unit 12 I'll see you tomorrow	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入 	Unit7-Unit12の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
	15	達成度テスト②	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 7-Unit 12 の内容について理解を深め、達成度を確認する。 ・リアクション・ペーパーの記入 	Unit7-Unit12の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Encounters	Michael P. Critchley	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み (ペア・グループ活動への参加姿勢、投げかける質問に対する応答、演習の解答や予習内容の発表など)、授業外学習課題 (予習・復習)、リアクション・ペーパー・・・ 40% ・小テスト・・・ 20% ・達成度テスト① (ペーパーテスト/発表)・・・ 20% ・達成度テスト② (ペーパーテスト/発表)・・・ 20% 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	みなさんそれぞれが「個性」や「文化」を持っておられて、その「個性」や「文化」が集い、同じ空間と同じ時間を共有しながら学ぶことが「授業」の醍醐味のひとつと感じております。さらに、演習型の授業では、自己表現の機会も多くなりますので、コミュニケーションの楽しさだけでなく、緊張や不安などの感情も巻き込んでの学習となります。それが「外国語」ともなると、母語でのコミュニケーション以上に色々な感情との出会いがあるかと思えます。お互いの個性を尊重しながら、「失敗しても大丈夫!」「今日出来なかったことは次こそ!」と次につな			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための学習 (小テストに向けた学習、予習、復習、発表準備など)の総時間は、おおよそ30時間程度とします。 小テストや課題等に関するフィードバックは授業内で行います。 その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 峰子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3409c2		

授業概要・目的	基本的な表現や語彙、文法の知識を使って日常的な場面において意思疎通を図る力を育む。
到達目標	文法の基本と基礎的な語彙、表現を身につける。 学んだ表現や語彙、文法の知識を使って、身近なことを話したり聞いたりできるようになる。
授業方法と留意点	[授業方法] テキストに従って、語彙、文法、表現を学び、様々な場面を想定した会話やスピーチの聞き取り練習、個人やグループでの発話練習をします。 [留意点] オンラインプラクティスを行う際にテキスト付属のアクセスコードが必要になります。有効なアクセスコードが付いたテキストを用意してください。 5回を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなします。 遅刻2回で1回欠席、30分以上の遅刻は欠席とみなします。中途退室は遅刻同様に扱います。 テキスト忘れ、スマートフォンなど通信機器の使用 (必要)
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法などの説明	シラバス、テキストの構成を確認する。
2	Unit 1 Nice to meet you!	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
3	Unit 1 Nice to meet you! (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
4	Unit 2 Work and Family	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
5	Unit 2 Work and Family (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
6	Unit 3 Time off	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
7	Unit 3 Time off (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
8	前半学習の確認	Unit 1-Unit 3 の内容について理解を深め、到達度を確認する。	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。
9	Unit 4 House and Home	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
10	Unit 4 House and Home (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
11	Unit 5 Super U!	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
12	Unit 5 Super U! (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
13	Unit 6 Lessons in life	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
14	Unit 6 Lessons in life (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
15	後半学習の確認	Unit 4-Unit 6 の内容について理解を深め、到達度を確認する。	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Headway 5th Edition Elementary Student's Book with Online Practice	Liz Soars, John Soars, Paul Hancock	オックスフォード大学出版局
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	クラスワーク (発表、グループワーク・ペアワークへの参加) : 60% テスト (理解度を確認する復習テスト) : 30% 課題 : 10%
学生への メッセージ	学習する姿勢を評価します。積極的に授業に参加してください。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	授業の準備として、知らない語句や表現は辞書を使って意味・用例を確認しておくこと。 毎回の授業のための準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とします。 テストや課題に関するフィードバックは授業内で行います。 その他の質問等は授業前後に教室で受け付けます。

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萬田 恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3409c2		

授業概要・目的	・英語で話したり聞いたりするための基礎的な知識と技術を身につけることを目的として、発話・聞き取りを中心とする演習授業を行う。 ・会話の想定場面は、自分に関わること (例、自己紹介や専攻分野の紹介など) や英語をコミュニケーション手段としたキャンパス内での会話を中心とする。
到達目標	・基本的なフレーズや基礎的文法知識を確認し、発話・聞き取りの素地を強化する。 ・基本的文法知識や平易な表現を使って話せるようになる。 ・基本的なフレーズを聞き取り、理解できるようにする。
授業方法と留意点	・基本的なフレーズや文法事項を確認しながら、テキストに従って、個人、ペア、グループでの発話・聞き取り練習・ロールプレイを行います。題材によっては全体での発表もを行います。演習型の授業なので、授業内の学習活動に積極的に参加し貢献する姿勢が重要な評価項目となります。 ・授業内で学んだ基本的なフレーズや文法事項について、翌週の小テストによって知識の定着を目指します。 ・授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了させることで良い学習リズムを作っていきましょう。 ・毎回授業の終わりにリアク
科目学習の効果 (資格)	・日常生活における英語を使った発話・聞き取り能力の向上 ・TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・教科書を用いて、授業の進め方や評価方法などを説明する。 ・ペア・グループ等で自己紹介活動を行う。 ・リアクション・ペーパーを記入する。	テキストの音声ダウンロードしておく。 テキストの構成を確認する。
2	Unit 2 Getting to know your classmates	・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
3	Unit 3 Talking about classes	・小テスト (前週の基本フレーズ・文法事項から出題。以下同じ) ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
4	Unit 4 Talking about your daily life	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
5	Unit 5 Talking about people: personality	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
6	Unit 6 Talking about people: appearance	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
7	Unit 7 Talking about last weekend	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	Unit 2-Unit 6 の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
8	達成度テスト①	Unit 2-Unit 7 の内容について理解を深め、達成度を確認する。 ・リアクション・ペーパーの記入	Unit2-Unit7 の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
9	Unit 9 Talking about going out on the town	・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
10	Unit 10 Talking about foods and recipes	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
11	Unit 11 Talking about travel	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
12	Unit 12 Talking about hometowns	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
13	Unit 13 Talking about your	・小テスト	小テストに向けて学習する。

		opinions	<ul style="list-style-type: none"> 基本フレーズ・文法事項の確認 発話、聞き取り練習 ペア、グループワーク活動 リアクション・ペーパーの記入 	指定範囲の予習と復習をする。
	14	Unit 14 Talking about future plans	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 基本フレーズ・文法事項の確認 発話、聞き取り練習 ペア、グループワーク活動 リアクション・ペーパーの記入 	Unit9-Unit14の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
	15	達成度テスト②	<ul style="list-style-type: none"> Unit 9-Unit 14の内容について理解を深め、達成度を確認する。 リアクション・ペーパーの記入 	Unit9-Unit14の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Time to Communicate	Eric Bray	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み（ペア・グループ活動への参加姿勢、投げかける質問に対する応答、演習の解答や予習内容の発表など）、授業外学習課題（予習・復習）、リアクション・ペーパー・・・ 40% 小テスト・・・ 20% 達成度テスト①（ペーパーテスト/発表）・・・ 20% 達成度テスト②（ペーパーテスト/発表）・・・ 20% 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	みなさんそれぞれが「個性」や「文化」を持っておられて、その「個性」や「文化」が集い、同じ空間と同じ時間を共有しながら学ぶことが「授業」の醍醐味のひとつと感じております。さらに、演習型の授業では、自己表現の機会も多くなりますので、コミュニケーションの楽しさだけでなく、緊張や不安などの感情も巻き込んだ学習となります。それが「外国語」ともなると、母語でのコミュニケーション以上に色々な感情との出会いがあるかと思えます。お互いの個性を尊重しながら、「失敗しても大丈夫!」「今日出来なかったことは次こそ!」と次につな			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための学習（小テストに向けた学習、予習、復習、発表準備など）の総時間は、おおよそ30時間程度とします。 小テストや課題等に関するフィードバックは授業内で行います。 その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。			

科目名	実践英語Ⅱ	科目名(英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	チャン エノク
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	This class is going to help you improve your English. You are going to learn language and skills to help you. Specifically, you're going to be improving all four skills: reading, writing, speaking, and listening.
到達目標	Everyone will be able to participate in a 20-minute conversation with two or three other people.
授業方法と留意点	You'll be working together with your classmates during each lesson, and outside of class you'll have homework to complete each week. There will be a quiz after each unit of the textbook, and two exams during the course.

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Welcome back! Language of Control	explanation of the course review of language for getting hep in English	N/A
	2	Unit 7: Going Away	language for describing travel	homework assigned in class
	3	Unit 7: Going Away	language for describing travel	homework assigned in class
	4	Unit 7: Going Away	language for describing travel	homework assigned in class
	5	Unit 7 Quiz Unit 8: At Home	language to describe things in your home	study for the quiz
	6	Unit 8: At Home	language to describe things in your home	homework assigned in class
	7	Unit 8: At Home	language to describe things in your home	homework assigned in class
	8	Unit 8 Quiz Mid-term Test	speaking test based on a group discussion with classmates	study for the quiz review for test
	9	Unit 11: Appearances	language to describe people's appearances	homework assigned in class
	10	Unit 11: Appearances	language to describe people's appearances	homework assigned in class
	11	Unit 11: Appearances	language to describe people's appearances	homework assigned in class
	12	Unit 11 Quiz Unit 12: Looking Ahead	language to talk about future plans	study for the quiz
	13	Unit 12: Looking Ahead	language to talk about future plans	homework assigned in class
	14	Unit 12: Looking Ahead	language to talk about future plans	homework assigned in class
15	Unit 12 Quiz Final Exam	speaking test based on a group discussion with classmates	study for the quiz review for test	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	On Task 1	Justin Harris / Paul Leeming	Abax
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Participation 10% Homework 20% Quizzes 20% Mid-term Exam 20 % Final Exam 30%
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等備考	非常勤講師室
------------	--------

科目名	実践英語Ⅱ	科目名 (英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅井 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 7 Making Requests	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
3	Unit 7 Making Requests	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
4	Unit 8 Asking Permission	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
5	Unit 8 Asking Permission	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
6	Unit 9 Making Invitations	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
7	Unit 9 Making Invitations	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
8	Unit 10 Making Appointments	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
9	Unit 10 Making Appointments	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
10	Unit 11 Canceling and Rescheduling	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
11	Unit 11 Canceling and Rescheduling	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
12	Unit 12 Describing Locations Preparation for Presentation	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Original Dialogue の作成 (ペア)	Original Dialogue の作成 (ペア) 教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
13	Unit 14 Making a Phone Call Preparation for Presentation	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Original Dialogue の練習	Original Dialogue の練習 (ペア) 教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
14	Presentation	Original Dialogue の発表を行う (ペア) *Memory, Pronunciation, Emotion, Content などが評価基準となる	ダイアログの音読練習をして発表できるようにしておく。
15	復習テスト Reflections	まとめテストを受ける 振り返りを行う	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	この科目では、積極的に英語で話すことを目的としています。そのためには、まず、e-learning 等も積極的に利用して、英語を聞くことと音読する練習を各自行ってください。ペア活動も取り入れていきます。一年間楽しく学んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	チャン エノク
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的

This course will help to improve your English skills. You will be learning the language skills that can help you communicate (speak), read, and write correctly for any situation. You will be improving all four essential English skills such as reading, writing, speaking, and listening.

このコースは英語力の向上に役立ちます。どのような状況でも正しくコミュニケーション（話す）、読み、書くのに役立つ言語スキルを学びます。リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4つの基本的な英語スキルをすべて向上させることができます。

到達目標

The goal is for everyone to be able to participate in a 15 minute conversation with two or three other people. You will be able to effectively communicate your ideas and express them well in spoken discourse.

目標は、全員が2人か3人の他の人と15分間の会話に参加できるようになることです。自分の考えを効果的に伝え、話し言葉でうまく表現できるようになります。

授業方法と留意点

You will be working together with your classmates and friends during each lesson and outside of the class you will have to complete each weekly assignment or homework. You will be expected to take the quiz at the end of each unit in the textbook and the c

科目学習の効果 (資格)

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction to the Course Language of Control	Explanation of the course and expectations. Introduction of simple English that can effectively help a student.	N/A
2	Unit 1: Making Friends	Language for meeting new individuals or people	homework assigned in class
3	Unit 1: Making Friends	Language for meeting new individuals or people	homework assigned in class
4	Unit 1: Making Friends	Language for meeting new individuals or people	homework assigned in class
5	Unit 1 Quiz Unit 2: Interests	Language that helps describe your interests and hobbies	Study and prepare for the quiz
6	Unit 2: Interests	Language that helps describe your interests and hobbies	homework assigned in class
7	Unit 2: Interests	Language that helps describe your interests and hobbies	homework assigned in class
8	Unit 2 Quiz Mid-term Test	Speaking test based upon group activity with classmates	Study for the quiz and review for the mid-term test
9	Unit 4: Celebrations	Learn about language and communication that is used for celebrating special occasions for people and their lives	homework assigned in class
10	Unit 4: Celebrations	Learn about language and communication that is used for celebrating special occasions for people and their lives	homework assigned in class
11	Unit 4: Celebrations	Learn about language and communication that is used for celebrating special occasions for people and their lives	homework assigned in class
12	Unit 4 Quiz Unit 6: Around Town	Language and useful information regarding places in towns, cities, and villages	study for the quiz
13	Unit 6: Around Town	Language and useful information regarding places in towns, cities, and villages	homework assigned in class
14	Unit 6: Around Town	Language and useful information regarding places in towns, cities, and villages	homework assigned in class
15	Unit 6 Quiz Final Exam	Speaking test based upon group communication activity	study for the quiz review for test

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	On Task 1	Justin Harris / Paul Leeming	Abax
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Participation 10% Homework 20% Quizzes 20% Mid-term Exam 20 % Final Exam 30%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅井 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業計画と評価方法の確認	アンケートに答える Writing およびペアとの Speaking など	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
2	Unit 1 Introducing Yourself	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
3	Unit 1 Introducing Yourself	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
4	Unit 2 Introducing Companies	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
5	Unit 2 Introducing Companies	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
6	Unit 3 Explaining Your Role	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
7	Unit 3 Explaining Your Role	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
8	Unit 4 Introducing Products	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
9	Unit 4 Introducing Products	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
10	Unit 5 Checking Information	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
11	Unit 5 Checking Information	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
12	Unit 6 Giving your Opinion	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
13	Unit 6 Giving your Opinion	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
14	Performance	ダイアログを覚えて発表する (ペア) Memory, Pronunciation, Emotion に気を付けて発表をする	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
15	Review & TEST	Unit1~6の復習 まとめテストを受ける	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%		
学生への メッセージ	この科目では、積極的に英語で話すことを目的としています。そのためには、まず、e-learning 等も積極的に利用して、英語を聞くことと音読する練習を各自行ってください。ペア活動も取り入れていきます。一年間楽しく学んでいきましょう。		
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 芳子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 11: More Foreign Visitors-1	Unit 11 の精読	Unit 11 の予習、復習
	2	Unit 11: More Foreign Visitors-2	Unit 11 の内容理解、議論	Unit 11 の復習 課題 (Unit13 の予習)
	3	Unit 13: April Fools' Day in Japan-1	小テスト (Unit 11 の語彙・文法) Unit 13 の精読	Unit 13 の予習、復習
	4	Unit 13: April Fools' Day in Japan-2	Unit 13 の内容理解、議論	Unit 13 の復習 課題 (Unit14 の予習)
	5	Unit 14: Summer-Vacation Assignments -1	小テスト (Unit 13 の語彙・文法) Unit 14 の精読	Unit 14 の予習、復習
	6	Unit 14: Summer-Vacation Assignments -2	Unit 14 の内容理解、議論	Unit 14 の復習 課題 (Unit16 の予習)
	7	Unit 16: Valentine's Day in Japan-1	小テスト (Unit 14 の語彙・文法) Unit 16 の精読	Unit 16 の予習、復習
	8	Unit 16: Valentine's Day in Japan-2	まとめテスト (Unit 11, 13, 14 の読解等) Unit 16 の内容理解、議論	Unit 11, 13, 14 の復習 Unit 16 の復習 課題 (Unit17 の予習)
	9	Unit 17: Smartphone Lock Screens-1	小テスト (Unit 16 の語彙・文法) Unit 17 の精読	Unit 17 の予習、復習
	10	Unit 17: Smartphone Lock Screens-2	Unit 17 の内容理解、議論	Unit 17 の復習 課題 (Unit18 の予習)
	11	Unit 18: YouTube vs. Normal TV-1	小テスト (Unit 17 の語彙・文法) Unit 18 の精読	Unit 18 の予習、復習
	12	Unit 18: YouTube vs. Normal TV-1	Unit 18 の内容理解、議論	Unit 18 の復習 課題 (Unit 20 の予習)
	13	Unit 20: Translation Software-1	小テスト (Unit 18 の語彙・文法) Unit 20 の精読	Unit 20 の予習、復習
	14	Unit 20: Translation Software-2	Unit 20 の内容理解、議論	Unit 20 の復習
	15	Unit 16~Unit 20	小テスト (Unit 20 の語彙・文法) まとめテスト (Unit16, 17, 18, 20 の読解等) 速読 (Unit16, 17, 18, 20)	Unit16, 17, 18, 20 の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Two Sides to Every Discussion 2	Jonathan Lynch / 委文 光太郎	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題: 30% 小テスト、まとめテスト: 50% 授業内活動(会話、聴解等): 10% 授業への取り組み 10%
----------	---

学生へのメッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・授業概要の説明 ・ビジネス分野英語の背景	・授業の進め方、評価方法、小テスト、課題提出の方法などを説明する。 ・ビジネス分野(そしてTOEIC)での食農関連会社と製品について知る。	(事前) テキストを持参しておくこと (事後) ビジネス分野内容を復習しておく
2	・Unit 7 Shopping (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 7 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 7 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
3	・Unit 7 の応用(文法を活かす) (食農分野:調理1)	・Unit 7 の重要文法を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 調理について興味をもち、身の回りの調理方法について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
4	・Unit 8 Entertainment and Sports (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 8 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 2 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
5	・Unit 8 の応用(文法を活かす) (食農分野:調理2)	・Unit 8 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 調理について興味をもち、身の回りの調理方法について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
6	・Unit 9 Environment (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 9 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 3 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
7	・Unit 9 の応用(文法を活かす) (食農分野:調理3)	・Unit 9 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 調理について興味をもち、身の回りの調理方法について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
8	・Unit 10 Email より (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 10 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 4 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
9	・Unit 10 の応用(文法を活かす) (食農分野:発酵)	・Unit 10 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 発酵について興味をもち、身の回りの発酵について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
10	・Unit 11 Email とビジネス文書 (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 11 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 5 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
11	・Unit 11 の応用(文法を活かす) (食農分野:食と健康1)	・Unit 11 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 食と健康について興味をもち、身の回りの健康食品について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
12	・Unit 12 Email とビジネス文書 (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 12 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 6 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく

	13	・Unit 12 の応用(文法を活かす) (食農分野:食と健康2)	・Unit 12 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 食と健康について興味をもち、身の回りの健康食品について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
	14	・TOEIC のテスト内容 (テキスト Unit 13-15 Reading)	・TOEIC Part 7 の内容理解・必要事項を説明する。 ・小テストを行う。	(事前) TOEIC について関心を持つ。そして自分なりに調べてみる。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
	15	・後期の応用 (食農分野より)	・後期で学んで来た事を振り返り、分野を決め、その内容についてリスニングを行う。後にサイト検索、そしてエッセイ英語で書く。 ・課題提出を行う	(事前) 後期で学んだことを復習しておく。 (事後) 特になし

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC TEST READING 550	Hiroko Katanoda 他著	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Exploring Agriscience 5th	Herren R. V.	CENGAGE
	2	Amazing Theme-based ESL Worksheets for beginners	Hunter Baye	Hunter publishing
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 50% 授業課題 50%
--------------	----------------------

学生への メッセージ	(1) 全学共通英語課題は各自の責任の下、完了すること (2) 授業課題の締め切り日を厳守すること (3) テキスト持参必須 (4) 参考図書は購入の必要なし。授業中の資料として出典として利用
---------------	---

担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室
--------------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ベンジャミン スミス
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation and Introduction Unit 0 Self introductions	Explanation of the class, syllabus, rules & grading Introduction of students and Units 0	Active participation
2	Unit 1 Hobbies and Interests	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
3	Unit 2 Clothing	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
4	Unit 3 Healthy and Unhealthy Actions	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
5	Unit 4 Locations and Directions	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
6	Unit 5 Objects and Materials	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
7	Unit 6 Goals and Dreams	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
8	Mid-term speaking test	Mid-term speaking test on topics covered so far this semester (Unit 1-6)	Speaking test
9	Unit 7 Past Activities	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
10	Unit 8 Nature	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
11	Unit 9 Abilities	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
12	Unit 10 Likes and Dislikes	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
13	Unit 11 Rules	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
14	Unit 12 Stories	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
15	Final speaking test	Final speaking test on topics covered during the second half of the semester (Unit 7-12)	Speaking test

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success (5th edition)	Mark Helgeson, John Wiltshier & Steven Brown	Pearson
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80% 80%の内訳(課題:30%、小テスト・まとめテスト:60%、授業への取り組み:10%)		
学生への メッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。		
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要の説明	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 次回の授業内容の予習
2	Chapter 7	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
3	Chapter 7	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
4	Chapter 8	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
5	Chapter 8	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
6	Chapter 9	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
7	Chapter 9	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
8	Chapter 10	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
9	Chapter 10	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
10	Chapter 11	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
11	Chapter 11	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
12	Chapter 12	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
13	Chapter 12	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
14	時事問題	ディスカッション	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
15	総復習	前期の総復習と実力チェック対策	Final (実力チェック) 60分程度 ・ 全授業内容の復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	American English File Level 1 Student Book With Online Practice	Christina Latham-Koenig 他	オックスフォード大学出版局
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80%
学生への メッセージ	後期の授業では、よりアウトプット (書く・話す) を意識した訓練を行っていきます。相手に伝えたい内容が少し複雑だったりすると、「自分の英語力では無理だ」と諦めていませんか。皆さんが持っている英語の知識 (単語・文法など) は、既に膨大な量です。それらをうまく組み合わせることで、複雑な内容でも簡単な表現で伝えることができるようになります。そのための様々な訓練を行っていきます。楽しみながら力をつけてください。
担当者の 研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 芳子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などを説明	Unit 1 の予習
	2	Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -1	Unit 1 の精読	Unit 1 の予習、復習
	3	Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -2	Unit 1 の内容理解、議論	Unit 1 の復習 課題 (Unit 2 の予習)
	4	Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -1	小テスト (Unit 1 の語彙・文法) Unit 2 の精読	Unit 2 の予習、復習
	5	Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -2	Unit 2 の内容理解、議論	Unit 2 の復習 課題 (Unit 4 の予習)
	6	Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -1	小テスト (Unit 2 の語彙・文法) Unit 4 の精読	Unit 4 の予習、復習
	7	Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -2	Unit 4 の内容理解、議論	Unit 4 の復習 課題 (Unit 5 の予習)
	8	Unit 5: 24/7 Convenience Stores -1	小テスト (Unit 4 の語彙・文法) Unit 5 の精読	Unit 5 の予習、復習
	9	Unit 5: 24/7 Convenience Stores -2	Unit 5 の内容理解、議論 まとめテスト (Unit1,2,4 の読解等)	Unit 5 の復習 課題 (Unit 7 の予習)
	10	Unit 7: Point Cards -1	小テスト (Unit 5 の語彙・文法) Unit 7 の精読	Unit 7 の予習、復習
	11	Unit 7: Point Cards -2	Unit 7 の内容理解、議論	Unit 7 の復習 課題 (Unit 8 の予習)
	12	Unit 8 Disaster Volunteers-1	小テスト (Unit 7 の語彙・文法) Unit 8 の精読	Unit 8 の予習、復習
	13	Unit 8 Disaster Volunteers-2	Unit 8 の内容理解、議論	Unit 8 の復習 課題 (Unit 9 の予習)
	14	Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -1	小テスト (Unit 8 の語彙・文法) Unit 9 の精読	Unit 9 の予習、復習
	15	Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -2	Unit 9 の内容理解、議論 まとめテスト (Unit 5,7,8 の読解等)	Unit 9 の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Two Sides to Every Discussion 2	Jonathan Lynch / Kotaro Shitori	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題: 30% 小テスト、まとめテスト: 50% 授業内活動 (会話、聴解等): 10% 授業への取り組み 10%
-----------	--

学生へのメッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は e メールや Moodle を利用して対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・授業概要の説明 ・ビジネス分野英語の背景	・授業の進め方、評価方法、小テスト、課題提出の方法などを説明する。 ・ビジネス分野 (そして TOEIC) での会社や部署について知る。	(事前) テキストを購入しておく (事後) ビジネス分野内容を復習しておく
2	・Unit 1 Modern Technology (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 1 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 1 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
3	・Unit 1 の応用 (文法を活かす) (食農分野:嗜好飲料)	・Unit 1 の重要文法を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 嗜好飲料について興味をもち、身の回りの嗜好飲料について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
4	・Unit 2 Traveling (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 2 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 2 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
5	・Unit 2 の応用 (文法を活かす) (食農分野:食材 1)	・Unit 2 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 食材について興味をもち、身の回りの食材について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
6	・Unit 3 Health (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 3 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 3 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
7	・Unit 3 の応用 (文法を活かす) (食農分野:食材 2)	・Unit 3 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 食材について興味をもち、身の回りの異なった食材について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
8	・Unit 4 Work (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 4 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 4 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
9	・Unit 4 の応用 (文法を活かす) (食農分野:食材 3)	・Unit 4 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 食材について興味をもち、身の回りのさらに異なった食材について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
10	・Unit 5 Food (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 5 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 5 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
11	・Unit 5 の応用 (文法を活かす) (食農分野:土より)	・Unit 5 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 土について興味をもち、身の回りの農作物の土やその養分について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
12	・Unit 6 Headlines (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 6 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 6 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく

	13	・Unit 6 の応用(文法を活かす) (食農分野：野菜より)	・Unit 6 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 野菜について興味をもち、身の回りの野菜について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
	14	・TOEIC のテスト内容	・TOEIC Part 1/2 の内容理解・必要事項を説明する。 ・小テストを行う。	(事前) TOEIC について関心を持つ。そして自分なりに調べてみる。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
	15	・前期の応用 (食農分野より)	・前期で学んで来た事を振り返り、分野を決め、その内容についてリスニングを行う。後にサイト検索、そしてエッセイを英語で書く。 ・課題提出を行う	(事前) 前期で学んだことを復習しておく。 (事後) 特になし
関連科目	TOEIC, その他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC TEST READING 550	Hiroko Katanoda 他著	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Exploring Agriscience 5th	Herren R. V.	CENGAGE
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト 50% 授業課題 50%			
学生への メッセージ	(1) 全学共通英語課題は各自の責任の下、完了すること (2) 授業課題の締め切り日を厳守すること (3) テキスト持参必須 (4) 参考図書は購入の必要なし。授業中の資料として出典として利用			
担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ベンジャミン スミス
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などを説明	Unit 1の予習
	2	Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -1	Unit 1の精読	Unit 1の予習、復習
	3	Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -2	Unit 1の内容理解、議論	Unit 1の復習 課題 (Unit 2の予習)
	4	Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -1	小テスト (Unit 1の語彙・文法) Unit 2の精読	Unit 2の予習、復習
	5	Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -2	Unit 2の内容理解、議論	Unit 2の復習 課題 (Unit 4の予習)
	6	Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -1	小テスト (Unit 2の語彙・文法) Unit 4の精読	Unit 4の予習、復習
	7	Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -2	Unit 4の内容理解、議論	Unit 4の復習 課題 (Unit 5の予習)
	8	Unit 5: 24/7 Convenience Stores -1	小テスト (Unit 4の語彙・文法) Unit 5の精読	Unit 5の予習、復習
	9	Unit 5: 24/7 Convenience Stores -2	Unit 5の内容理解、議論 まとめテスト (Unit 1, 2, 4の読解等)	Unit 5の復習 課題 (Unit 7の予習)
	10	Unit 7: Point Cards -1	小テスト (Unit 5の語彙・文法) Unit 7の精読	Unit 7の予習、復習
	11	Unit 7: Point Cards -2	Unit 7の内容理解、議論	Unit 7の復習 課題 (Unit 8の予習)
	12	Unit 8 Disaster Volunteers-1	小テスト (Unit 7の語彙・文法) Unit 8の精読	Unit 8の予習、復習
	13	Unit 8 Disaster Volunteers-2	Unit 8の内容理解、議論	Unit 8の復習 課題 (Unit 9の予習)
	14	Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -1	小テスト (Unit 8の語彙・文法) Unit 9の精読	Unit 9の予習、復習
	15	Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -2	Unit 9の内容理解、議論 まとめテスト (Unit 5, 7, 8の読解等)	Unit 9の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Two Sides to Every Discussion 2	Jonathan Lynch / Kotaro Shitori	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80% 80%の内訳(課題: 30%、小テスト・まとめテスト: 60%、授業への取り組み: 10%)
----------	--

学生へのメッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はeメールやMoodleを利用して対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要の説明	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 次回の授業内容の予習
2	通じるレベルの発音	日本語母語話者が英語を話すときの特徴を知る	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
3	Chapter 1	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
4	Chapter 1	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
5	Chapter 2	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
6	Chapter 2	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
7	Chapter 3	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
8	Chapter 3	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
9	Chapter 4	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
10	Chapter 4	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
11	Chapter 5	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
12	Chapter 5	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
13	Chapter 6	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
14	Chapter 6	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
15	総復習	前期の総復習と実力チェック対策	Final (実力チェック) 60 分程度 ・ 全授業内容の復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	American English File Level 1 Student Book With Online Practice	Christina Latham-Koenig 他	オックスフォード大学出版局
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<p>全学共通英語課題 (English Central) ...20%</p> <p>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80%</p>
学生への メッセージ	<p>入学おめでとう。これからの4年間、どんなことをやりたいですか。世の中が落ち着いたら、ひとりで外国を旅して来るのはどうでしょう。若い旅行者の集まる安宿が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語... いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュも臆せず使えるようになります。海外での一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分</p>
担当者の 研究室等	<p>1号館 2階非常勤講師室</p>
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三次 亜紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。																																																																		
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入 文章の書き方 1</td> <td>授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文章の書き方 2</td> <td>わかりやすい文章の書き方を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事実と意見</td> <td>事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>【課題 1】 説明文</td> <td>ある事物について、論理的に説明する文章を書く</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>構成</td> <td>レポートなどの文章構成を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>要約</td> <td>要旨の要約の作成方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>フィードバック</td> <td>課題 1 のフィードバック</td> <td>課題 1 を見直す</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文章を引用する</td> <td>文章を引用する方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>図表を引用する</td> <td>図表を引用する方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>引用の復習 意見を述べる</td> <td>考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>【課題 2】 論説文</td> <td>資料を引用して意見を述べる文章を書く</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>レポートの書き方 1・2</td> <td>レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>フィードバック</td> <td>課題 2 のフィードバック</td> <td>課題 2 を見直す</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>【 レポート 】</td> <td>レポートを提出する</td> <td>レポートを作成する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>レポートの講評 小テストの復習</td> <td>レポートについて講評する 小テストの復習テスト</td> <td>これまでの復習 小テストの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習	13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する	15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――																																																																
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習																																																																
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習																																																																
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習																																																																
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習																																																																
7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す																																																																
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習																																																																
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習																																																																
12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習																																																																
13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す																																																																
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する																																																																
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習																																																																
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学教育イノベーションセンター編</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼応状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。																																																																		
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。																																																																		
担当者の研究室等	8号館 1階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。																																																																		

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。文章表現の基本を再確認し、身につけた上で文章作成を行う。 2回の課題を提出し、最後にレポートを提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。 自作の文章について他者からフィードバックをもらうことがある。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
	7	フィードバック	課題1のフィードバック	授業終了後、フィードバックした内容を課題1に反映し見直しをすること(1時間)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
	11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
	12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
	13	フィードバック	課題2のフィードバック	授業終了後、フィードバックした内容を課題2に反映し見直しをすること(1時間)
	14	【レポート】	レポートを提出する	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおく、レポートを作成の準備をしておくこと(1時間)
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	授業終了後、フィードバックした内容をレポートに反映し見直しをすること(1時間)	

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業態度(呼应状態・積極性)・小テスト(30%)により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 (なお課題およびレポートについては、授業内で自身のパソコン持ち込みの上、作成することを求められることがある)
-----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	1階非常勤講師室
----------	----------

備考	事前・事後学習の総時間の目安は、15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三, 加藤 裕介, 戴 容泰思, 藤井 毅, 藤林 真美, 山居 輝美, 北村 敦子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OHU1401a2		

授業概要・目的	本科目の講義目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。授業では教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、及びコミュニケーション能力を身につけることを目指す。 SDGs 1～17
到達目標	① 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 ② ABDによる読書法を身につけている。 ③ チームワーク能力を身につけ、対話を通じて協働学習をすることができる。 ④ SDGs (Sustainable Development Goals) について基本的な知識を身につけている。 ⑤ 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 ⑥ コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得する。教養入門書を用いて、アクティブ・ブック・ダイアログ (ABD) 読書術を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験する。本科目は、これまでの講義とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるため、諸君が積極的に参加することが大切である。本授業は原則として、対面授業として行われるが、新型コロナ感染状況により、遠隔授業となる可能性も
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識が身につく、ABD 読書法等の協働学習により、文章の要約、プレゼンテーション、対話の基本が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月8日 (9:20~10:50)	チームビルディングの研修プログラム (農学部・看護学部・薬学部合同) 枚方キャンパスの学生相互のワークを通して大学の学びについて考える。	
2	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月8日 (11:00~12:30)	チームビルディングの研修プログラム	
3	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月8日 (13:20~15:00)	チームビルディングの研修プログラム	
4	「星の王子さま」① 4月15日 (9:20~10:50)	アイスブレイク、授業のガイダンス 「星の王子さま」の指定箇所について読み、要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前: 「星の王子さま」についての調べ学習 (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べましょう。(2) 不明な語句などを調べましょう。(1)と(2)をノートに記録しましょう。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle) として実施されます。
5	「星の王子さま」① 4月15日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの説明と実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後: 「星の王子さま」① 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読んでみましょう。自分が気になった箇所や、著者の考え方などを自分のノートにメモしましょう。
6	「星の王子さま」② 4月22日 (9:20~10:50)	「星の王子さま」の指定箇所について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前: 「星の王子さま」② (1) 重要な箇所の書き出し。(2) 不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。
7	「星の王子さま」② 4月22日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後: 「星の王子さま」② 授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。
8	「星の王子さま」③ 6月3日 (9:20~10:50)	「星の王子さま」の指定箇所について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前: 「星の王子さま」③ (1) 重要な箇所の書き出し。(2) 不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。
9	「星の王子さま」③ 6月3日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後: 「星の王子さま」③ 授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。
10	「未来の年表」① 6月10日 (9:20~10:50)	「未来の年表」の指定箇所 (人口減少カレンダー2033~2065 年前半) について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。	事前: 「未来の年表」① (1) 重要な箇所の書き出し。(2) 不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しまし

			読む力、まとめる力、表現する力を養う。	よう。																
	11	「未来の年表」① 6月10日 (11:00~12:30)	質問づくり(QFT)ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「未来の年表」① 授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。																
	12	「未来の年表」② 6月17日 (9:20~10:50)	「未来の年表」の指定箇所(人口減少カレンダー2033~2065年後半)について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「未来の年表」② (1)重要な箇所の書き出し。(2)不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。																
	13	「未来の年表」② 6月17日 (11:00~12:30)	質問づくり(QFT)ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「未来の年表」② 授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。																
	14	「SDGs(持続可能な開発目標) SDGsのゲームの実践」 6月24日 (9:20~10:50)	「SDGs(持続可能な開発目標)」 SDGsゲームの実践	事前:「SDGs」 (1)重要な箇所の書き出し。(2)不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。																
	15	SDGsにかかる最新事情 6月24日 (11:00~12:30)	サマリーシート作成、発表する。 また、発表後、グループ内で対話し、ふりかえりシート作成と提出	事後:「SDGs」 授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。																
関連科目	摂南大学で開講されている科目すべて。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)	新潮文庫	2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)	新潮文庫																	
2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法(基準)	サマリーシート(10%)、ふりかえりシート(10%)、理解度確認テスト(前10%:事前学習の評価、後10%:ABD実施による読書内容の理解度評価)、グループワーク取り組み姿勢の評価(20%:グループワークでの討論を踏まえた共同作業・成果を含む)、期末テスト(40%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格する。																			
学生へのメッセージ	この科目は2018年から寝屋川キャンパスで開講されている科目で、全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。大学生としてふさわしい教養の基礎と主体的な学習方法が身につく、さらに学部学科を超えて友人を作ることが出来るでしょう。																			
担当者の研究室等	喜多 大三(農学部8号館2F 225) 山居 輝美(看護学部7号館 研究室3) 大塚 正人(薬学部1号館5F 331) 北村 敦子(看護学部7号館 共同研究室3) 藤林 真美(農学部8号館3F 323) 加藤 裕介(農学部8号館3F 304) 戴 容泰思(農学部8号館2F 215) 藤井 毅(農学部8号館2F 204)																			
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学の主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～第8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る (体験する)、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	百木 和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る (体験する)、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平原 嘉視
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学の主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～第8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る (体験する)、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岸本 良美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果（資格）	① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る（体験する）、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法(基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る (体験する)、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法(基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学の主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～7章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第7～8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前: 大学生活についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前: 臨地実習について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前: 管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前: 就職活動について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る (体験する)、②話し合う、③ま	事前: 配布された資料のわからない語句を調べる。 事後: 授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉井 英文
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学の主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くこととはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る（体験する）、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学の主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る（体験する）、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法(基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～第8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る (体験する)、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～第8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る（体験する）、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～第8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る (体験する)、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学の主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る（体験する）、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	<p>本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。</p> <p>SDGs 4</p>
到達目標	<p>① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～第8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る（体験する）、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安藤 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～第8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る (体験する)、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については 大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前: 「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章: 農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章: 身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第6～7章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前: 「First Year Study Guide」の第7～8章を読んでおく。 事後: 授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前: 大学生活についてホームページから調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前: 臨地実習について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前: 管理栄養士の仕事について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前: 管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前: 就職活動について調べる。 事後: 事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る (体験する)、②話し合う、③ま	事前: 配布された資料のわからない語句を調べる。 事後: 授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAF1087a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 第1章 摂南大学を知ろう	自己紹介、ABD (Active Book Dialog) 読書術などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう 第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。大学での主体的で深い学びの方法、ノートの手書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2・3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
3	第4章大学の学びを深めるために 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。
4	第6章今までの自分を自分で分析しよう 第7章キャリア・プランニング (1)	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第7章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
5	第7章キャリア・プランニング (2) 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC、L&RTEST、資格試験を意識しよう	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第7～第8章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返りを行う。
6	充実した大学生活を送るために	履修・講義・実験実習の取組み、部活、サークル、学祭、その他大学生活等を知る。	事前：大学生活についてホームページから調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
7	臨地実習について	臨地実習について学ぶ。	事前：臨地実習について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
8	管理栄養士の仕事	管理栄養士として働くことはどういうことかを考える。	事前：管理栄養士の仕事について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
9	管理栄養士国家試験について	管理栄養士国家試験制度、受験するにあたっての準備や注意事項について学ぶ。	事前：管理栄養士国家試験制度について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
10	就職活動について	就職活動の進め方について学ぶ。	事前：就職活動について調べる。 事後：事前に調べたこととの相違点、新たに得た情報をまとめる。
11	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る（体験する）、②話し合う、③ま	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。

			とめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。																	
	12	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	13	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	14	大学生活に係るワークショップ	第11回～第14回については大学生活にかかるワークショップを開催する。 ①知る(体験する)、②話し合う、③まとめる、④報告する、⑤発表する、内容を学科全体で実施します。	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：授業のまとめを行う。																
	15	大学生活に係るワークショップのまとめ	これまで学んできたことをもとに、学修目標を明確化する	事前：配布された資料のわからない語句を調べる。 事後：最終レポートを作成する。																
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide 2023</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide 2023		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本年度の基礎ゼミナール授業形態は、対面方式で行います。 各ゼミナールの詳細については、各ゼミナールの担当教員の指示に従ってください。 また、新型コロナ感染状況により、オンライン(リアル方式)に変更する場合があります。 本ゼミ																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	食と農の歴史を学ぶ	科目名 (英文)	Study to Food and Agricultural History
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1086a0		

授業概要・目的
今日のわが国の農業・農村社会や食生活・食料消費の現状と特徴、課題を知るためには、歴史的な視点を持つことが必要である。本講義では、近代（明治）以降のわが国の農業・農村社会と食生活・食料消費の歴史を、いくつかの段階に区分し、それぞれの段階における経済・社会の状況、農業と食生活の状況と特徴、課題について、特に現代（第2次世界大戦後）を中心に講述する。そのことにより、わが国の食料・農業の歴史的な変遷に関する理解を深めることを目的とする。

到達目標
① わが国の経済社会の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。
② わが国の農業・農村社会の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。
③ わが国の食生活・食料消費の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。
④ これらの知識をもとに、今日の農業や食生活・食料消費の姿が形づくられた経緯を理解することができる。
⑤ これらの知識を、これからの農業や食生活・食料消費のあり方を考えるために応用できるようになる。

授業方法と留意点
配付資料、パワーポイント、板書等によって行う。
毎回の授業内容の理解を深めるために、小テストや小レポートを実施する。小テスト・小レポートの解答結果については、次回の授業で解説を行う。なお、授業の一部に反転授業、グループ・ディスカッションを取り入れる。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	わが国の農業と食生活の変遷	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、農業と食生活の画期区分	事前：シラバスの理解 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
2	近世の社会と農業・農村	近世（江戸時代）の社会、近世の農業と農村の特徴を学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
3	地主制の形成と伝統的食生活	1870年代～1900年代の農業・農村の姿と、食料消費・食生活の特徴を学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
4	地主制の同様と勤労者の食生活	1910年代～1940年代前半の農業・農村の姿と食生活・食料消費の特徴を学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
5	第2次大戦直後の社会の変化と食料危機	1945年～1950年代前半の社会の状況と、食生活・食料消費の特徴を学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
6	農地改革と農業生産の増加	1945年～1950年代前半：第2次世界大戦の終了と戦後改革、農地改革と地主制、食糧増産政策と農業生産力の発展	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
7	高度経済成長と食生活・食料消費の洋風化・多様化・高級化	1950年代後半～1960年代の食生活・食料消費の変化と特徴を学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
8	農業基本法と農業・農村の変化	1950年代後半～1960年代の農業・農村の変化、農業生産の動向と特徴を学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
9	食料消費の成熟と外部化・簡便化	1970年代～1990年代の食生活・食料消費の変化と特徴を学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
10	米過剰の発生と農業・農村の変化	1970年代～1980年代前半の農業・農村の変化、農業生産・農産物輸入の動向と特徴を学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
11	国際化時代の到来と農業政策と農業・農村の変化	1980年代後半～1990年代前半の農業・農村の変化と、農業生産・農産物輸入の動向を学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
12	WTO加盟と食料・農業・農村基本法	1990年代後半の農業政策の変化と特徴を学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
13	2000年代の社会と食生活	2000年代の社会・経済の状況、食生活・食料消費の姿と特徴を学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
14	2000年代の農業・農村	2000年代の農業・農村の姿と特徴を学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
15	食と農の変遷と将来	授業のまとめ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本の農業 150年	暉峻衆三	有斐閣
2	消費者の歴史	田村正紀	千倉書房

	3	未来を語る日本農業史	野田公夫	昭和堂
評価方法 (基準)	定期試験(40%)と中間テスト・毎回の授業の小テスト(60%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	この授業はわが国の食と農の歴史を学ぶ授業ですが、その目的は今日の食と農の姿を知り、今後の姿を考えるために必要な知識を身につけることにあります。その際に、①食と農の歴史を捉えるうえでの重要な出来事(画期)とその出来事が生じた背景・原因と結果の関係(因果関係)、②政府の政策などの目的(ねらい)とその内容、その政策などによってもたらされた結果の関係、③各時期における出来事とその出来事の前後における変化、を理解するように努めて下さい。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室			
備考				

科目名	農業の多様性を学ぶ	科目名 (英文)	Study to Agricultural Diversity
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1085a0		

授業概要・目的	さまざまな気候、生態環境、歴史、文化、社会・経済状況などを反映し、世界各地や日本で多様な農業（農耕、牧畜、狩猟採集、林業、漁労などを幅広く含む生業）が営まれている。本講義では、多様性をキーワードに、これらの農業の成り立ちや特徴を理解し、科学・技術的な視点に加え文化的な文脈からの農業観の形成を試みる。また、私たちが直面している地域・地球環境問題（例えば、貧困問題、環境荒廃、過疎化など）の実態やその解決に向けた村落開発や生態系保全のアイデアと取り組みについて考える。
到達目標	① 世界各地や日本におけるさまざまな農業の成り立ちや特徴を理解する。 ② 農業の多様性を環境問題の解決や地域活性化に活かすアイデアや取り組みを知る。 ③ 総合討論を通じて、知識を共有し理解を深める。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義を行う。授業中は、幾つかの疑問を織り込み、基本知識の理解度の確認と共有を図る。理解を深めるために、毎回の講義後にリアクションペーパー（授業内容に関する事後学習とその内容のレポート）を課す。後半の総合討論では、リアクションペーパーなどから関心の高い話題や理解度の足りない事項を抽出し、それらについての補足説明や意見交換を行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「農」とは何か	「農」の概念、風土、農業生態系、多様性の捉え方を理解する。	事前：シラバスの理解 事後：リアクションペーパー
2	世界の農業地理 (1)	アフリカ・中東・ヨーロッパの気候・生態環境と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
3	世界の農業地理 (2)	南アジアの気候・生態環境と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
4	世界の農業地理 (3)	東南アジア・オセアニアの気候・生態環境と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
5	世界の農業地理 (4)	東アジア・中央アジアの気候・生態環境と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
6	世界の農業地理 (5)	北米・中南米の気候・生態環境と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
7	日本の農業地理 (1)	北海道、東北、関東、甲信越の地域性と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
8	日本の農業地理 (2)	近畿、四国、中国の地域性と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
9	日本の農業地理 (3)	九州、沖縄（島嶼地域）の地域性と農業の特徴を知る。	事後：リアクションペーパー
10	地域・地球環境問題と農業	人口流動（総人口の増加、都市集中、地域の過疎化）や気候変動のもとでの地域・地球環境問題とその解決に向けての農業の役割を知る。	事後：リアクションペーパー
11	農業の多様性と生態系保全	アフリカやアジアを事例に、農業の多様化が荒廃環境の修復、生物多様性や生態系の保全に果たす可能性を考える。	事後：リアクションペーパー
12	農業の多様性と貧困削減	アフリカやアジアを事例に、農業の多様化が貧困削減、自然災害や紛争からの復興、暮らしの安全の向上に果たす可能性を考える。	事後：リアクションペーパー
13	農業の多様性と地域活性化	少子高齢化が進む日本の地域社会の活性化に向けたさまざまなアイデアや取り組みを知る。	事後：リアクションペーパー
14	総合討論 (1)	授業の振り返りと意見交換	事後：総合レポートの作成
15	総合討論 (2)	授業の振り返りと意見交換	事後：総合レポートの作成

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農耕起源の人類史	ピーター・ベルウッド (著)、永田俊樹・佐藤洋一郎 (監訳)	京都大学学術出版会
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業ごとのリアクションペーパー (70%) と期末レポート (30%) で評価し、60%以上を合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	(1) 教員の大切な仕事は学生との雑談だと思っています。事前にアボを取ってくれば適宜雑談や意見交換の機会をつくれます。 (2) 国際協力 (特に青年海外協力隊やNPO/NGO) に関心のある方へのアドバイザーもできます。
-----------	---

担当者の研究室等	枚方キャンパス 8号館 (農学部棟)・環境農学研究室 (213号室)
----------	------------------------------------

備考	
----	--

科目名	フードシステムを学ぶ	科目名 (英文)	Study to Food System
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	濱田 英嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1084a0		

授業概要・目的	農漁業から、それら生産物を取り扱う流通業を経由して、川下の食品小売業、外食産業さらに最終需要者である消費者に至る食料品全体の流れをフードシステムとして理解する。生産現場から食卓に至る過程を社会的分業という視点にたつて、フードシステムを構成している生産者、中間流通業者、小売業者それぞれがどのような役割(機能分担)を演じているのかを総合的に学ぶことで食ビジネスに関する理解を深める。
到達目標	① フードシステム(生産者、中間流通業者、小売業者)それぞれの役割分担が理解できる。 ② 一次産業の現状について理解できる。 ③ なぜ、食料品の価格変動が工業製品に比べ激しいのか、需給構造等から説明できる。 ④ 魚屋などの家族経営が減少し、食品スーパーなどに小売業が移行したことが理解できる。 ⑤ 和食文化の核である出汁や醤油、和包丁や箸の起源と特徴を理解できる。
授業方法と留意点	講義内容に沿って必要資料などを組み込み、わかり易い授業を心がける。 講義の理解度を高めるため授業終了時に適宜課題を提示するので、レポートを作成すること(1時間)。また、事前学習内容と準備すべき点を毎回指示するので予習を行うこと(1時間)。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	フードシステムの概要	我が国のフードシステムを構成する業種・業態の概要(社会的分業)を説明する。	事前: シラバスの理解
2	農漁業に関する諸問題	一次産業の衰退とその背景を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
3	食料の安全保障問題	輸入農水産物の流入経緯と一次産業への影響を理解する。また、我が国の食料自給率の低さを理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
4	中間流通の基本的仕組み	卸売市場流通の誕生とその社会的役割を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
5	中間流通の変化	市場外流通の進展と卸売市場の変容を理解し、流通の多元化が進展していることを理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
6	家族経営型専門小売店の衰退	家族経営型専門小売店の衰退をスーパーチェーンの成長の対比から理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
7	スーパーチェーンの成長理由	スーパーチェーン組織の仕組みと運営からスーパーの成長メカニズムを理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
8	スーパーチェーンの功罪	スーパーチェーンは買い物便利でメリットがあるが、規格外品の排除など様々な問題点もあることを理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
9	中食・外食産業の誕生と成長	中食・外食産業の誕生の経緯とその成長メカニズムを理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: レポートの提出
10	食生活の変貌	文化的消費から文明的(記号価値)消費への移行を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
11	社会問題としての食料消費	飽食・豊食と健康被害の関係を理解する。またスローフード運動について理解を深める。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
12	和食文化	肉食文化と米・魚食文化の比較と背景を理解する。また、出汁や和包丁など日本料理のオリジナリティを理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
13	トレーサビリティ	食の安全・安心につながるトレーサビリティについて理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
14	食育基本法	食生活の乱れに対し、国が制定した食育基本法について理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
15	食をめぐる生産・流通・消費の展望	フードシステム問題の総括	事後: 学習課題の学習

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	フードシステムの経済学	時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博	医歯薬出版株式会社
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験 70%、レポート 30%
----------	-------------------

学生へのメッセージ	身近な食を色々な観点から深く、広く学びましょう。
-----------	--------------------------

担当者の	8号館2階 食品産業研究室(217)
------	--------------------

研究室等	
備考	

科目名	食と農の共生を考える	科目名 (英文)	Study to Symbiosis of Food and Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1083a0		

授業概要・目的
近年、さまざまな側面から「食と農の距離の拡大」(食と農の乖離)の問題が指摘されている。私たちが真に豊かな食を実現し、日本の農業を守り発展させていくためには、食と農の距離を少しでも短くすること、すなわち食と農を結び両者が「共生」していく道筋を考えていかなければならない。本講義は、食農共生・循環型農業論系の概論として「食と農の距離」の問題を考えながら、農業と食料問題の特性を理解したうえで、生産者と消費者、農村(むら)と都市(まち)、産地と食卓を結び食農共生の課題や方向性について考える。

到達目標
① 近年の「食と農の距離の拡大」の状況について理解する。
② 食と農の距離を短くする、食と農を結ぶためのさまざまな取り組みの現状を知る。
③ ①②を通じて、農業・農村の発展や食料問題に解決のためには、食と農を結ぶこと(食農共生)の考え方が重要であることを理解し、食と農の共生の方向性について考えることができるようになる。

授業方法と留意点
・授業形式: 講義中心で、補足プリント(講義レジュメ、資料など)を配布して進める。
・実態をリアルに把握できるように、DVDなど映像教材を活用する。可能ならば、ゲストスピーカーによる講義を行う。
・質問等がある場合、授業時間内に質疑の時間をとることは難しいため、授業後やオフィスアワー、電子メールやICTツール等を積極的に利用すること。
・事前の予習と復習(講義後の所感)を重視する。そのために、ほぼ毎回、予習確認小テストと振り返りシートの提出を課す。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農学、食農ビジネス学における食農共生の問題	農学、食農ビジネス学を学ぶ上での食農共生の問題の位置づけ、重要性について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
2	食と農の距離の拡大①(時間的・地理的距離の拡大)	農産物・食料の輸送・輸入距離をはじめとする、時間的・地理的距離の拡大について現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
3	食と農の距離の拡大②(段階的距離の拡大)	農産物・食料の流通・加工過程をはじめとする、段階的距離の拡大について現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
4	食と農の距離の拡大③(心理(意識)的距離の拡大)	農や食に関する消費者の意識をはじめとする、心理(意識)的距離の拡大について現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
5	地産地消・農産物直売所①(理念と背景)	地産地消の理念と歴史的背景、農産物直売所の運営原則などについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
6	地産地消・農産物直売所②(現状と課題)	地産地消、農産物直売所の取組み実態を知り、その役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
7	農商工連携①(理念と背景)	農商工連携の理念と歴史的背景、法制度などについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
8	農商工連携②(現状と課題)	農商工連携の取組み実態を知り、その役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
9	産直・産消提携①(理念と背景)	産直・産消提携の理念と歴史的背景、制度や事業のしくみなどについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
10	産直・産消提携②(現状と課題)	産直・産消提携の取組み実態を知り、その役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
11	農村都市交流・グリーンツーリズム①(理念と背景)	農村都市交流・グリーンツーリズムの理念と社会的・経済的背景、法制度などについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
12	農村都市交流・グリーンツーリズム②(現状と課題)	さまざまな種類の農村都市交流・グリーンツーリズムの取組み実態を知り、それらの役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
13	食農共生の主体形成	食農共生の主体形成(担い手づくり)について、農業者や消費者の組織化、民間事業者や自治体の取組み状況を知り、それぞれの役割を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
14	食農共生の政策	食と農を結ぶための政策の現状を理解し、これからの食農共生政策の課題と方向性について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
15	まとめ	これまでの復習を行うとともに、私たちにとって食農共生を進めていくための課題と方向性について考える。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目 農学概論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食と農を学ぶ人のために	祖田修/杉村和彦編	世界思想社
2	地域産業の発展と主体形成-食と農、資源を活かす-	北川 太一	放送大学教育振興会	
3	農と食の新しい倫理	秋津・佐藤・竹之内編著	昭和堂	

評価方法 (基準)	次の①②の方法により評価し、60%以上で合格とする。 ①各回の予習確認小テストと授業後のリアクションペーパー、期間中に出题するレポート課題、担当教員やゲストへの質問など授業への積極的な姿勢（50%程度） ②定期試験もしくは期末レポート（50%程度） ※②については、今後の新型コロナの感染状況も見ながら判断し、決定次第連絡する。
学生への メッセージ	日々の食卓から農業の生産現場に、枚方キャンパスから自然豊かな農山漁村に思いを馳せることの大切さを実感しましょう！
担当者の 研究室等	農学部3階 318 研究室
備考	

科目名	食と農の経済を学ぶ	科目名 (英文)	Study to Food and Agricultural Economics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1082a0		

授業概要・目的	食料は人間が生きていく上で必要不可欠であるが、個人の消費能力には限界がある。このような食料の必需性と飽和性、さらには自然条件に左右される農業生産の不安定性や乏しい貯蔵性等から、農業や食料関連産業は、一般の商工業とは異なる特徴を有している。本講義では、このような食料・農業の特殊性を踏まえながら、食料消費の動向、農業及び食料関連産業の現状と問題点・課題等について、経済学的な考え方にに基づき、理解し考察する。授業担当者は、中央政府の行政官としての実務経験を有しており、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。
到達目標	① 食料・農業経済学で用いられる基本概念と経済理論を理解する。 ② 食料・農業経済の活動を生産から消費までのフードシステムとしてとらえて理解する。 ③ 経済学に基づく分析には、理論的な定量的な分析とデータを用いた定量的な分析の両方が必要であることを理解する。 ④ 行政機関や企業・団体の農業・食料・食品部門の担当者とのコミュニケーションに必要な食料・農業経済学に関する基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	資料プリントを配布し、スライドと板書を用いて講義形式で行う。教科書や配付資料等により、予習・復習を行うこと。 ふりかえりシート (毎回) のほか、小テストやレポートにより、授業の理解度を把握する。 質問等には、授業後やオフィスアワー、電子メールで対応するので、積極的に利用すること。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	食料・農業・農村の現状	食料・農業・農村の現状について、時系列的な変化を踏まえて、理解する。	事前：シラバスの理解 事後：講義資料に記載した内容を学習する。
	2	農業・食料関連産業の経済計算	農業・食料関連産業の経済活動と食用農水産物の生産から飲食物の最終消費に至る流れについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	3	食料需要の経済理論	ミクロ経済学を用いて、食料需要の決定メカニズムや食料の特性について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	4	食料消費構造の変化と要因	食の外部化、簡便化等の食料消費構造の変化とその要因について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	5	人口・世帯構成と食料消費	人口構成・世帯構成の違いや変化が食料消費に及ぼす影響について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	6	食品製造業の現状と特徴	食品製造業の産業としての特徴について、製造業一般と比較しながら、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	7	生鮮食料品の流通と市場	生鮮食料品の流通における市場の役割と食品流通業の産業として特徴について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	8	外食産業の現状と特徴	外食産業の産業としての特徴について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	9	食の外部化と中食産業	食の外部化に伴う中食産業の成長について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	10	世界食料需給と食料自給率	世界の人口・食料生産・食料消費と各国の食料自給率の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	11	米の生産と流通・消費	米の生産と流通・消費の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	12	野菜・畜産の生産と流通・消費	野菜・畜産の生産と流通・消費の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	13	農林水産物・食品の貿易	農林水産物・食品の輸入及び輸出の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	14	食品の安全性と表示	食品の安全性と表示に関する規制について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	15	食品ロスと環境問題	食品ロスと廃棄物のリサイクルについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フードシステムの経済学 第6版	時子山 ひろみ, 荏開津 典生, 中嶋 康博	医歯薬出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食料・農業・農村白書 (各年度版)	農林水産省編	農林統計協会
	2	その他、必要に応じて紹介する		
	3			

評価方法 (基準)	①定期試験または期末レポート 50%、②小テスト・小レポート・ふりかえりシート 50%で評価し、①と②を合計して 60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	新聞、テレビ、インターネットなど、情報を得る手段は何でもよいので、身近にある食料・農業に関する情報に関心を持つようにしましょう。
担当者の研究室等	食料・農業政策学研究室 (農学部 2階 214)
備考	

科目名	食と農の倫理を学ぶ	科目名 (英文)	Study to Food and Agricultural Ethics
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之・谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1081a0		

授業概要・目的	食と農をめぐる様々な問題が存在するなかで、その解決に向けた行動規範として、食と農の倫理がある。これは、食（消費者）と農（生産者・供給者）の双方の倫理的な行動によって、問題の解決につなげようとするものである。 本講義では、食と農をめぐる諸問題の所在を理解したうえで、食と農の倫理の思想と理念への認識を深めるとともに、その視点から課題の解決・緩和のための取り組みや制度を知ることが目的とする。
到達目標	① 食と農を取り巻く諸問題を理解することができる。 ② 食と農を取り巻く諸問題に対する倫理と思想を理解することができる。 ③ 課題の解決・緩和のための取り組みや制度を知ることができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書等を用いて講義を行う。 講義の開始前に予習用プリント等を配布するので、事前学習を行うこと。 講義の理解を深めるため、毎回の授業内容について小レポート・小テストを実施する。小レポート・小テストは成績評価に反映する。 授業のなかで、アクティブラーニング（反転授業、ディスカッション・ディベートなど）を行う。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	食と農の倫理	食と農の倫理をめぐる諸問題を概観する。(担当：小野雅之・谷口葉子)	事前：シラバスの理解 (15分)
2	SDGs と倫理的消費	SDGs と倫理的消費の考え方を学ぶ。(担当：小野雅之)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小レポート・小テストの作成・解答 (1時間)
3	食料分配の不均衡と食への権利	世界的な食料分配の不均衡について食料安全保障の観点より理解し、食への権利という考え方を学ぶ。(担当：小野雅之)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小レポート・小テストの作成・解答 (1時間)
4	食料アクセス問題	食料への社会的・経済的なアクセス問題とその解消方法について理解する。(担当：小野雅之)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小レポート・小テストの作成・解答 (1時間)
5	食品ロスの削減	食品ロスをめぐる状況と削減に向けた取り組みを理解し、私たちができていることを考える。(担当：小野雅之)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小レポート・小テストの作成・解答 (1時間)
6	企業の倫理とコンプライアンス	企業のCSR活動や、食品表示などの食にまつわる法規制へのコンプライアンス向上に向けた取り組みを理解する。(担当：小野雅之)	事前：配布プリントの予習 (30分) 事後：小レポート・小テストの作成・解答 (1時間)
7	ソーシャルビジネスとCSV	社会的課題の解決を目的とする事業のあり方について理解する。(担当：小野雅之)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小レポート・小テストの作成・解答 (1時間)
8	農福連携と社会的包摂	就労支援の福祉サービスと農業との連携を通して展開される社会的包摂の取り組みについて学ぶ。(担当：小野雅之)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小レポート・小テストの作成・解答 (1時間)
9	寄付文化と応援消費	寄付行動の動向と災害時の応援消費を始めとするエシカル消費について学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小レポート・小テストの作成・解答 (1時間)
10	ローカルフードシステム	食品流通の広域性にまつわる諸問題とローカルフードの取り組みについて学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小テストの復習
11	スローフード	食文化と食の多様性の保全について学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小テストの復習
12	食と持続可能性	近代的な食料生産システムがもたらしてきた環境面への影響やその緩和を目指した取り組みについて学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小レポート・小テストの作成・解答 (1時間)
13	アニマルウェルフェア	肉食の是非をめぐる議論や動物の福祉を守るための取り組みについて学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小レポート・小テストの作成・解答 (1時間)
14	公正と社会正義	農家や労働者の福祉の改善を目指したフェアトレードの取り組みについて学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小レポート・小テストの作成・解答 (1時間)
15	食のオルタナティブ運動	近代的な農業・食料システムに代わる新しい食のあり方について総括する。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 (30分) 事後：小レポート・小テストの作成・解答 (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農と食の新しい倫理	秋津元輝、佐藤洋一郎、竹之内裕文	昭和堂
	2	シビック・アグリカルチャー ～食と農を地域に取	トーマス・ライソン	農林統計出版

		り戻す～		
	3	食の人権	伊藤恭彦編	リベルタス出版
評価方法 (基準)	各回の授業で実施する小レポート・小テスト (70%) と, 期末試験または期末レポート (30%) で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室 (小野)、持続型フードシステム研究室 (谷口)			
備考				

科目名	海洋生物とくらし	科目名 (英文)	Marine Organisms and Human Life
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	増田 太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1080a0		

授業概要・目的	海洋は地球の表面積の約7割を占め、更に深海など人類にとって未踏の領域も含むフロンティアである。このように広大かつ深遠な領域に住む海洋生物は独自の世界を形成し、直接的或いは間接的に我々の暮らしと関わっている。「海洋生物とくらし」では、水圏の成り立ちから海洋生物の分類、生理、生態について概説し、特に我々の暮らしとの関わりが深い「魚介類」に対する理解を深めることを目的とする。
到達目標	海洋生物について、それを取り巻く環境、生態系から我々の食卓を彩る水産物としての側面について幅広く学び、理解すること。 海洋生物を含む、生物の分類の基礎について理解する。 身近な食品である水産物について、その分類上の位置と姿、形、味を結びつける。
授業方法と留意点	授業方法は、主としてパワーポイント、板書を用いる。海洋生物にまつわる興味深い事柄を紹介しつつ、日本人の食卓に欠かせない水産物についてその背景を含めた理解を深める。本講義は海洋、水圏の生物学に関する入門講座であるとの位置づけから、各回の講義内容を暗記することは求めない。ただし、授業の開始時に、受講者数名にその回のテーマについて受講前の印象を発表してもらう。

科目学習の
効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	水圏の成り立ち	水圏の形成とその変遷、現在の分布、我々の生活と水生生物	どんなことでも良いので、自分と水の生き物に関わる思い出、印象を整理する。
2	海洋の元素、化学物質	水圏の化学的背景。どのような元素がどのくらい存在するか。「塩」を考える。	事前：海の元素、塩に対する印象をプレゼン
3	水圏の物質循環	窒素、リン、その他の無機質に着目した海洋での物質循環と一次生産	環境とリン、窒素化合物について
4	海洋生物の基礎	水圏に棲む生物の大要と進化、分類。陸上生物との関係	好きな魚介類について考え、その分類上の位置について調べる。
5	水圏生物の分類	水圏生物の分類、市場の魚の素性を知る。明石魚の棚市場、黒門市場に見る季節の魚、貝、など	季節と魚介類に関する印象、好きな旬の魚介類は？
6	水圏の生態	水圏生物の生態系、物質循環との関わり。	講義内容に関する所感、印象の発表
7	水圏の生物資源	日本と世界の漁業生産、日本と世界のお魚事情について。	講義内容に関する所感、印象の発表
8	水産資源	日本と世界の水産資源、その分布と変動	講義内容に関する所感、印象の発表
9	食品としての水産物	日本と世界の水産物と食卓。水産食品色々。	講義内容に関する所感、印象の発表
10	水産食品の化学的背景	水産物の化学的背景とその利用。水産食品の今昔。	講義内容に関する所感、印象の発表
11	水産食品の味、匂い、色をもたらす成分	五感で感じる水産物。水産物の味、匂い、色について。	講義内容に関する所感、印象の発表
12	水産食品の主な成分	水産食品の成分。タンパク質、脂質、ビタミン、無機質など。	講義内容に関する所感、印象の発表
13	水産食品の加工と保存	水産物の加工・食品の劣化、食中毒	講義内容に関する所感、印象の発表
14	水圏生物由来の化学物質	水圏生物由来の化学物質・生理活性物質。毒と薬と	講義内容に関する所感、印象の発表
15	水圏生物と社会の関わり	まとめ。日本と世界の水産業が抱える諸問題と将来。	講義内容に関する所感、印象の発表

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	水圏生物科学入門	会田勝美	恒星社厚生閣
2				
3				

評価方法 (基準) 試験 (レポート) 60%、出席 (発表) 40% とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等備考

科目名	微生物とくらし	科目名 (英文)	Microorganisms and Human Life
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1079a0		

授業概要・目的	農学部の応用生物科学科以外に所属する学生に対して、有用微生物およびその利用に関して講義を行う。微生物には「バイ菌」という言葉に代表されるように、ネガティブなイメージがあるが、本講義では人類に役立つ微生物バイオテクノロジーについて広く述べる。具体的には、1)各種発酵食品製造における微生物の役割、2)有用物質生産の実例として微生物を用いたアミノ酸、核酸等の発酵生産および、抗生物質の発酵生産について、3)ニューバイオテクノロジーによる微生物機能の有効利用の事例として、遺伝子工学の利用によるタンパク質の生産、代謝工学等について、4)環境修復のためのバイオテクノロジーについて、などである。また、それらを自らが展開していくために必要な考え方、今後の発展の方向などについて講義する。																																																																		
到達目標	① 人間が利用する微生物の種類について、理解して概説できる。 ② 微生物を利用するための代謝に関する知識、微生物の育種の方法について理解し、概説できる。 ③ 各種発酵食品製造における微生物の役割について、理解し、概説できる。 ④ 代謝制御発酵によるアミノ酸、核酸等の発酵生産に関する理論と工業化の実際について、理解し、概説できる。 ⑤ 腸内フローラ、プレバイオティクスについて理解し、概説できる。 ⑥ 我々が微生物をどのように生活の中で利用しているのか、説明する際に修得内容を活用できる。																																																																		
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行うが、内容によっては、理解を助けるためにDVDなどによる動画視聴を行う場合がある。各講義後に、その日に講義した内容に関する小テストを実施する。また、応用微生物学に関わる実務に携わる外部の専門家にゲストスピーカーをお願いする場合がある。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>微生物とくらし</td> <td>イントロダクション、微生物の種類、応用微生物学の歴史</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>細菌とその利用</td> <td>くらしに役立つ細菌類について</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>真菌とその利用</td> <td>くらしに役立つ真菌類 (酵母、カビ) について</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>微生物の利用</td> <td>微生物による物質生産の概説。発酵、酵素などの概念</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>微生物の代謝 I</td> <td>微生物の同化と異化。デンプンからアルコールなど</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>微生物の代謝 II</td> <td>微生物によるアミノ酸、核酸の生合成、物質生産との関連</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>発酵食品 I</td> <td>食品製造に役立つ微生物その1. 酒、味噌、しょう油など</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>発酵食品 II</td> <td>食品製造に役立つ微生物その2. 納豆、食品添加用酵素など</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>微生物の改良 I</td> <td>古典的手法による微生物の品種改良。突然変異誘発法など</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>微生物の改良 II</td> <td>遺伝子組換え法による微生物の品種改良</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>発酵生産 I</td> <td>アミノ酸、核酸の発酵生産。代謝制御発酵など</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発酵生産 II</td> <td>抗生物質、遺伝子組換えタンパク質など</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>健康と微生物</td> <td>プレバイオティクス、プロバイオティクスなど</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>農業と微生物</td> <td>微生物農薬、植物共生菌など</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>低炭素社会と微生物</td> <td>バイオエタノール、バイオプラスチックなど</td> <td>事後:小テストの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	微生物とくらし	イントロダクション、微生物の種類、応用微生物学の歴史	事後:小テストの復習	2	細菌とその利用	くらしに役立つ細菌類について	事後:小テストの復習	3	真菌とその利用	くらしに役立つ真菌類 (酵母、カビ) について	事後:小テストの復習	4	微生物の利用	微生物による物質生産の概説。発酵、酵素などの概念	事後:小テストの復習	5	微生物の代謝 I	微生物の同化と異化。デンプンからアルコールなど	事後:小テストの復習	6	微生物の代謝 II	微生物によるアミノ酸、核酸の生合成、物質生産との関連	事後:小テストの復習	7	発酵食品 I	食品製造に役立つ微生物その1. 酒、味噌、しょう油など	事後:小テストの復習	8	発酵食品 II	食品製造に役立つ微生物その2. 納豆、食品添加用酵素など	事後:小テストの復習	9	微生物の改良 I	古典的手法による微生物の品種改良。突然変異誘発法など	事後:小テストの復習	10	微生物の改良 II	遺伝子組換え法による微生物の品種改良	事後:小テストの復習	11	発酵生産 I	アミノ酸、核酸の発酵生産。代謝制御発酵など	事後:小テストの復習	12	発酵生産 II	抗生物質、遺伝子組換えタンパク質など	事後:小テストの復習	13	健康と微生物	プレバイオティクス、プロバイオティクスなど	事後:小テストの復習	14	農業と微生物	微生物農薬、植物共生菌など	事後:小テストの復習	15	低炭素社会と微生物	バイオエタノール、バイオプラスチックなど	事後:小テストの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	微生物とくらし	イントロダクション、微生物の種類、応用微生物学の歴史	事後:小テストの復習																																																																
2	細菌とその利用	くらしに役立つ細菌類について	事後:小テストの復習																																																																
3	真菌とその利用	くらしに役立つ真菌類 (酵母、カビ) について	事後:小テストの復習																																																																
4	微生物の利用	微生物による物質生産の概説。発酵、酵素などの概念	事後:小テストの復習																																																																
5	微生物の代謝 I	微生物の同化と異化。デンプンからアルコールなど	事後:小テストの復習																																																																
6	微生物の代謝 II	微生物によるアミノ酸、核酸の生合成、物質生産との関連	事後:小テストの復習																																																																
7	発酵食品 I	食品製造に役立つ微生物その1. 酒、味噌、しょう油など	事後:小テストの復習																																																																
8	発酵食品 II	食品製造に役立つ微生物その2. 納豆、食品添加用酵素など	事後:小テストの復習																																																																
9	微生物の改良 I	古典的手法による微生物の品種改良。突然変異誘発法など	事後:小テストの復習																																																																
10	微生物の改良 II	遺伝子組換え法による微生物の品種改良	事後:小テストの復習																																																																
11	発酵生産 I	アミノ酸、核酸の発酵生産。代謝制御発酵など	事後:小テストの復習																																																																
12	発酵生産 II	抗生物質、遺伝子組換えタンパク質など	事後:小テストの復習																																																																
13	健康と微生物	プレバイオティクス、プロバイオティクスなど	事後:小テストの復習																																																																
14	農業と微生物	微生物農薬、植物共生菌など	事後:小テストの復習																																																																
15	低炭素社会と微生物	バイオエタノール、バイオプラスチックなど	事後:小テストの復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎生物学テキストシリーズ4 微生物学</td> <td>青木健次</td> <td>化学同人</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>バイオテクノロジーの教科書上</td> <td>ラインハート・レンネバーグ</td> <td>講談社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>バイオテクノロジーの教科書下</td> <td>ラインハート・レンネバーグ</td> <td>講談社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎生物学テキストシリーズ4 微生物学	青木健次	化学同人	2	バイオテクノロジーの教科書上	ラインハート・レンネバーグ	講談社	3	バイオテクノロジーの教科書下	ラインハート・レンネバーグ	講談社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎生物学テキストシリーズ4 微生物学	青木健次	化学同人																																																																
2	バイオテクノロジーの教科書上	ラインハート・レンネバーグ	講談社																																																																
3	バイオテクノロジーの教科書下	ラインハート・レンネバーグ	講談社																																																																
評価方法 (基準)	授業中の毎回の学修確認小テスト (20%、15回を各講義の最後に実施。Forms などを利用)、授業終了後レポート課題 (20%)、定期試験 (60%) で評価し、合計 60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	応用微生物学は微生物の機能を人に役立たせるための学問です。微生物の利用は古代から行われており、人間の生活と密接に関連しています。高校までの生物では「微生物は病気を引き起こす」「微生物は生態系では分解者」というイメージが強いですが、応用微生物学で微生物に対する新しい見方を修得して欲しいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	応用生物科学科応用微生物学研究室 (8号館3階307教員室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	動物とくらし	科目名 (英文)	Animals and Human Life
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 亮
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1078a0		

授業概要・目的	我々のくらしは様々な動物と関係して成り立っている。例えば、日々の食事は家畜や家禽などの産業動物によって支えられており、犬や猫などのペット（コンパニオン・アニマル）は日々の安寧な暮らしの重要なサポート役となっている。「動物とくらし」では、我々のくらしに、産業動物やコンパニオン・アニマルがどのように関わっているのかを学ぶとともに、それぞれの動物の生態や生理について説明し、くらしで関わる動物に関する基本的な知識を身につける。
到達目標	① 産業動物とコンパニオン・アニマルの違いを概説できる。 ② 産業動物とコンパニオン・アニマルの暮らしとの関わり方を概説できる。 ③ 動物種毎の食性や消化管の違いを理解することができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、獣医師などの外部講師による講義を取り入れ理解を深める。また、各講義後に、その日の講義内容に関する小テストを実施する。

科目学習の効果（資格）

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ヒトのくらしと動物	くらしに関わる動物について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	産業動物について（ウシ）	産業動物であるウシの生態や生理について	事前：事前学習課題の学習
3	産業動物について（ブタ）	産業動物であるブタの生態や生理について	事前：事前学習課題の学習
4	産業動物について（ニワトリ）	産業動物であるニワトリの生態や生理について	事前：事前学習課題の学習
5	家畜伝染病について	日本、世界の家畜伝染病について	事前：事前学習課題の学習
6	コンパニオン・アニマルについて（定義）	コンパニオン・アニマルの定義とコンパニオン・アニマルに含まれる動物について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
7	コンパニオン・アニマルについて（動物種の特徴）	コンパニオン・アニマルに含まれる動物のうち、特にメジャーな動物の生態や生理について	事前：事前学習課題の学習
8	くらしと動物のいま	くらしの中の産業動物、またはコンパニオン・アニマルの現状について（可能な限り外部講師を招聘予定）	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
9	動物の食性	動物の食性の違いについて	事前：事前学習課題の学習
10	食性と消化管の構造	食性の違いと消化管構造の関連性について	事前：事前学習課題の学習
11	食性と栄養吸収	食性の違いと栄養吸収方法の違いについて（腸内細菌について）	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
12	動物における免疫の基本	動物の免疫に関する基礎	事前：事前学習課題の学習
13	動物種の違い免疫	動物種毎に異なる免疫の特徴について	事前：事前学習課題の学習
14	異種移植について	異種動物間（産業動物→ヒト）の移植について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
15	動物福祉について	動物の福祉について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		講義内容に関するプリントを配布	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準） 各授業の事前学習課題（10%）、授業中の講義の学習確認小テスト（20%）、事後課題（10%）、定期試験（60%）で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

備考

科目名	生物の多様性と進化	科目名 (英文)	Biodiversity and Evolution
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小保方 潤一、井上 亮、谷村 文、和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1077a0		

授業概要・目的
地球が誕生したのは今から46億年前だが、40億年前の地層からは早くも生命の痕跡が検出されている。その頃の単純な生命体はやがて原核細胞や真核細胞に進化し、さらに進化や分岐を繰り返して地球上の様々な環境に進出し、多様な体制や増殖の仕組みをもつ様々な生物群が出現した。本講義では、生物の系統進化や分類群を縦糸に、それらの生物群が示す体制や生活史等を横糸にして、地球上に棲息する生物たちの多様な世界を具体的に学ぶ。これらの生物の多様性は、産業、文化、農学、応用生命科学、などの基礎ともなっており、この講義ではそれらの関係についても学ぶ。

- 到達目標**
- ① 細胞内共生進化について概説できる。
 - ② 藻類の主な系統と陸上植物について、それらの生活史と進化を概説できる。
 - ③ 古細菌、原核微生物、真核微生物の違いについて理解し、概説できる。
 - ④ 微生物と人間の関わり、産業利用について概略を理解して説明できる。
 - ⑤ 陸上動物の分類が概説できる。
 - ⑥ 産業動物の品種改良について概説できる。
 - ⑦ 主要な水産生物の分類体系について概説できる。

授業方法と留意点
この講義で扱う生物群は、大きく分けて、植物系、微生物系、動物系、海洋生物系、の4つのグループにまたがっており、この4分野を専門とする4名の教員によるリレー方式で講義を進める。また、各回の講義内容に応じて、事前学習や事後学習の課題を提示し、それらを通じて受講生の理解を深める。

科目学習の効果 (資格)
教員：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球の歴史と生命の誕生	地球の歴史、生命の誕生から真核生物の出現まで (担当: 小保方 潤一)	事前: シラバスの理解 事後: ミニレポートの提出
2	藻類が生み出した多様な世界	藻類の多様な体制や生活史とその進化 (担当: 小保方 潤一)	事後: ミニレポートの提出
3	陸に上がった植物と生活史	陸上植物の主な系統と生活史など (担当: 小保方 潤一)	事前: 事前学習課題の学習
4	植物の環境適応と進化	陸上植物の環境への適応と多様化 (担当: 小保方 潤一)	事後: ミニレポートの提出
5	原核微生物	古細菌、真性細菌の細胞構造や特徴について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
6	真核微生物	真核微生物である酵母やカビの特徴について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
7	菌類と産業との関わり	さまざまな菌類と人間生活との関わり、産業利用について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
8	動物、特に脊椎動物の食性の多様化	脊椎動物の分類や多様性について、特に食性に焦点をあてる (担当: 井上 亮)	事後: ミニレポートの提出
9	免疫系からみた脊椎動物の進化	免疫系の多様性から脊椎動物の起源・進化を考える (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習 事後: ミニレポートの提出
10	産業動物 (ウシ) の系統	くらしに関わる動物、特にウシの系統と品種改良について (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習
11	産業動物 (ブタ・ニワトリ) の系統	くらしに関わる動物、特にブタとニワトリの系統と品種改良について (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習 事後: ミニレポートの提出
12	水産生物の世界: 海綿と刺胞動物	カイメン、クラゲ、サンゴ、イソギンチャクなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事後: ミニレポートの提出
13	水産生物の世界: 冠輪動物	貝類、イカ・タコ、ゴカイなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事前: 事前学習課題の学習
14	水産生物の世界: 脱皮動物と新口動物	エビ・カニなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事後: ミニレポートの提出
15	水産生物の世界: 魚類、両生類、爬虫類、哺乳類	魚類、カエル、ウミガメ、ワニ、クジラなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事前: 事前学習課題の学習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エッセンシャル キャンベル生物学	Simon, Dickey, Hogan, Reece (池内、伊藤、箸本 監訳)	丸善出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャンベル生物学	Urry, Cain, Wasserman, Minorsky, Reece (池内、伊藤、箸本、道上 監訳)	丸善出版
2			
3			

評価方法 (基準)
各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題 (10%)、最終試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生への

メッセージ	
担当者の研究室等	ゲノム生物学研究室（小保方）、応用微生物学研究室（和田）、動物機能科学研究室（井上）、
備考	

科目名	ゲノムと生命	科目名 (英文)	Genome and Life
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小保方 潤一
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1076a0		

授業概要・目的	ゲノムとは何か?この問いに対する答えは一つではない。実は、ゲノムの定義は時代とともに何度も変わってきた。一口にゲノムと言っても、生物種、調べる現象、解析の技術や手法などによって、ゲノムのもつ様々な側面や性質が見えてくる。この講義では、ゲノムの一般的な性質や機能と、生命を操作する「ゲノム科学」の先端技術などを紹介するだけではなく、ゲノムの科学史、風変わりなゲノムを持つ生物、ゲノムに関わるユニークな現象などを紹介しながら、ゲノムとは何かを考え、ゲノム研究がこれからの人々や社会にどのような影響を与えていくのかを、自然観や生命観に対する影響も含めて、考察したい。																																																																		
到達目標	① ゲノムの一般的な定義を理解した上で、ゲノムに対する多面的な見方が出来るようになる。 ② 共生進化をもたらした生物の多様性について、例を挙げて説明することが出来る。 ③ ゲノムの塩基配列を解説することの重要性を、説明することが出来る。 ④ ゲノム編集などのゲノム操作技術が社会に持つ影響力について、説明することが出来る。 ⑤ ゲノムの研究が人々や社会の生命観にどのような影響を与えてきたか、また今後与えるかを、自分の言葉で説明出来る。																																																																		
授業方法と留意点	授業方法は、パワーポイントと板書、プリント資料、を併用して行う。基本的に、高校で生物学を選択しなかった学生でも内容を理解できるように、基礎的な部分から平易に説明するが、理解をより促すため、各回の講義テーマに応じて、事前学修課題やミニレポートの提出を求める。また、授業の冒頭で前回講義した内容に関する復習を行うとともに、後半には学生との質疑応答の時間を設ける。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゲノムとは何か?</td> <td>「昔のゲノム」と「今のゲノム」</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ゲノムDNA</td> <td>C値パラドクスと反復配列、利己的DNA、利他行動</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>DNA配列を読む</td> <td>ゲノム解読技術の昔と今、土方仕事から情報科学へ</td> <td>事前：事前学修課題の学修</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ゲノムの進化</td> <td>原核ゲノムと真核ゲノム、ミトコンドリアと葉緑体</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>進化はどうやって進むのか</td> <td>突然変異と中立進化、個人のゲノムと集団のゲノム</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>共生進化の意外な展開</td> <td>進化系統樹の謎と共生進化、二次共生、新しい系統樹、</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>遺伝子を運ぶ、ゲノムを変える</td> <td>ウイルス、プラスミド、トランスポゾン、</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>光を食べる動物たち</td> <td>植物の光適応、ミドリゾウリムシ、光合成ウミウシの謎</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>PCR法と環境ゲノム</td> <td>素晴らしいアイデアと技術が微生物学や産業を変えた</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>進化の芽を探す</td> <td>進化遺伝学、実験進化学、比較ゲノム学</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ゲノム編集の衝撃</td> <td>新しい技術の登場とその波及効果</td> <td>事前：事前学修課題の学修</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ゲノムはゆるく読まれる</td> <td>ゲノムと細胞分化、エピゲノムという新しい考え方</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ゲノムは助けあう</td> <td>海藻のヒトエグサから見えてきた世界、生態系とゲノム</td> <td>事前：事前学修課題の学修</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ゲノムは一気に変わる</td> <td>ゲノムの進化速度を考える</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ゲノムの教え、ゲノムの未来</td> <td>ここまでの講義内容を整理してゲノムの意味を再考する</td> <td>事前：事前学修課題の学修</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ゲノムとは何か?	「昔のゲノム」と「今のゲノム」	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出	2	ゲノムDNA	C値パラドクスと反復配列、利己的DNA、利他行動	事後：ミニレポートの提出	3	DNA配列を読む	ゲノム解読技術の昔と今、土方仕事から情報科学へ	事前：事前学修課題の学修	4	ゲノムの進化	原核ゲノムと真核ゲノム、ミトコンドリアと葉緑体	事後：ミニレポートの提出	5	進化はどうやって進むのか	突然変異と中立進化、個人のゲノムと集団のゲノム	事後：ミニレポートの提出	6	共生進化の意外な展開	進化系統樹の謎と共生進化、二次共生、新しい系統樹、	事後：ミニレポートの提出	7	遺伝子を運ぶ、ゲノムを変える	ウイルス、プラスミド、トランスポゾン、	事後：ミニレポートの提出	8	光を食べる動物たち	植物の光適応、ミドリゾウリムシ、光合成ウミウシの謎	事後：ミニレポートの提出	9	PCR法と環境ゲノム	素晴らしいアイデアと技術が微生物学や産業を変えた	事後：ミニレポートの提出	10	進化の芽を探す	進化遺伝学、実験進化学、比較ゲノム学	事後：ミニレポートの提出	11	ゲノム編集の衝撃	新しい技術の登場とその波及効果	事前：事前学修課題の学修	12	ゲノムはゆるく読まれる	ゲノムと細胞分化、エピゲノムという新しい考え方	事後：ミニレポートの提出	13	ゲノムは助けあう	海藻のヒトエグサから見えてきた世界、生態系とゲノム	事前：事前学修課題の学修	14	ゲノムは一気に変わる	ゲノムの進化速度を考える	事後：ミニレポートの提出	15	ゲノムの教え、ゲノムの未来	ここまでの講義内容を整理してゲノムの意味を再考する	事前：事前学修課題の学修
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ゲノムとは何か?	「昔のゲノム」と「今のゲノム」	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出																																																																
2	ゲノムDNA	C値パラドクスと反復配列、利己的DNA、利他行動	事後：ミニレポートの提出																																																																
3	DNA配列を読む	ゲノム解読技術の昔と今、土方仕事から情報科学へ	事前：事前学修課題の学修																																																																
4	ゲノムの進化	原核ゲノムと真核ゲノム、ミトコンドリアと葉緑体	事後：ミニレポートの提出																																																																
5	進化はどうやって進むのか	突然変異と中立進化、個人のゲノムと集団のゲノム	事後：ミニレポートの提出																																																																
6	共生進化の意外な展開	進化系統樹の謎と共生進化、二次共生、新しい系統樹、	事後：ミニレポートの提出																																																																
7	遺伝子を運ぶ、ゲノムを変える	ウイルス、プラスミド、トランスポゾン、	事後：ミニレポートの提出																																																																
8	光を食べる動物たち	植物の光適応、ミドリゾウリムシ、光合成ウミウシの謎	事後：ミニレポートの提出																																																																
9	PCR法と環境ゲノム	素晴らしいアイデアと技術が微生物学や産業を変えた	事後：ミニレポートの提出																																																																
10	進化の芽を探す	進化遺伝学、実験進化学、比較ゲノム学	事後：ミニレポートの提出																																																																
11	ゲノム編集の衝撃	新しい技術の登場とその波及効果	事前：事前学修課題の学修																																																																
12	ゲノムはゆるく読まれる	ゲノムと細胞分化、エピゲノムという新しい考え方	事後：ミニレポートの提出																																																																
13	ゲノムは助けあう	海藻のヒトエグサから見えてきた世界、生態系とゲノム	事前：事前学修課題の学修																																																																
14	ゲノムは一気に変わる	ゲノムの進化速度を考える	事後：ミニレポートの提出																																																																
15	ゲノムの教え、ゲノムの未来	ここまでの講義内容を整理してゲノムの意味を再考する	事前：事前学修課題の学修																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ひらく、ひらく「バイオの世界」</td> <td>日本生物工学会編</td> <td>化学同人</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>エッセンシャルキャンベル生物学</td> <td>池内、伊藤、菅本 監訳</td> <td>丸善出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ひらく、ひらく「バイオの世界」	日本生物工学会編	化学同人	2	エッセンシャルキャンベル生物学	池内、伊藤、菅本 監訳	丸善出版	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ひらく、ひらく「バイオの世界」	日本生物工学会編	化学同人																																																																
2	エッセンシャルキャンベル生物学	池内、伊藤、菅本 監訳	丸善出版																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	各授業の事前学修課題 (10%)、授業中の前回講義の学修確認小テスト (20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題 (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等備考																																																																			

科目名	分子からみた植物の働き	科目名 (英文)	Molecular World of the Plants
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	椎名 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1075a0		

授業概要・目的	人類は、野生植物の役立つ性質を伸ばし、不要な性質を失わせたり変化させることで、野菜や作物を作り出してきた。これを野生植物の栽培化とよぶ。古代の人類はこれを経験的に行ったが、植物分子の知識が蓄積した現代は、望みの性質をもつ植物をデザインすることも可能になりつつある。本講義では、植物の様々な形質や機能に関する分子を紹介し、その働きを平易に解説する。また、植物の最も基本的な機能「光合成」の分子基盤もわかりやすく説明する。農業や食品に関する専門的な学習を始める前に、食糧生産の基盤となる植物の働きに関して分子レベルの知識を得ることを本講義の目的とする。
到達目標	① 植物の環境感知とストレス適応機構を理解する。 ② 植物の形作りの基礎を理解する。 ③ 野菜や作物の栽培化の分子基盤を知る。 ④ 光合成の分子基盤を理解する。
授業方法と留意点	教科書とプリント資料を使い講義を行う。授業に先立って教科書の指定部分を読み、基本事項に関する小テスト (Moodle 利用) を受験すること。また、毎回の授業では、事前に提示する「今週の討議課題」について意見交換する時間を設けるので、積極的に参加すること。講義内容の理解は、毎回の講義の「振り返り」と定期試験で評価する。

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>すごい植物</td> <td>動かない植物がみせる驚異の力を見てみよう。</td> <td>事前：シラバスの確認 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>植物の光センサー</td> <td>植物の生活に大切な光環境を感知に働く光センサーについて、役割と働きを理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>重力を感知するセンサー</td> <td>植物の重力感知との分子機構を理解する。宇宙での植物の成長についても紹介する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>動く植物</td> <td>オジギソウや食虫植物など、動けない植物の動きについて紹介する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>気孔の戸締り</td> <td>気孔は昼間開き、乾燥すると閉じる。気孔を開け閉めする分子機構を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>魅力的な花作り</td> <td>植物は魅力的な花を作り花粉を運ぶ昆虫を誘引している。花の形作りと色作りの分子基盤を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>光合成</td> <td>光エネルギー変換の秘密 光エネルギーを化学エネルギーに変換する光合成の秘密を紹介する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>光合成とストレス</td> <td>暗反応のキー酵素であるルビスコを中心に、ストレスと光合成について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>光合成と地球</td> <td>光合成と地球の関係を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>植物の進化</td> <td>植物の起源と進化を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>草を野菜にする</td> <td>人間は野生植物を多彩な作物として利用しやすい形に変えてきた。その過程で変化した重要な遺伝子について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>農業と植物ホルモン</td> <td>農業では、植物ホルモンの力をうまく利用している。その実際を紹介する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>植物の分泌物</td> <td>天然ゴムや漆など、人間生活に役立っている樹液の成分と合成機構を紹介する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>遺伝子組換え植物の虫退治</td> <td>遺伝子組換え技術を使い、害虫抵抗性の植物を作る技術を紹介する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ゲノム編集技術</td> <td>植物をデザインしよう</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	すごい植物	動かない植物がみせる驚異の力を見てみよう。	事前：シラバスの確認 事後：学習課題の確認	2	植物の光センサー	植物の生活に大切な光環境を感知に働く光センサーについて、役割と働きを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	3	重力を感知するセンサー	植物の重力感知との分子機構を理解する。宇宙での植物の成長についても紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	4	動く植物	オジギソウや食虫植物など、動けない植物の動きについて紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	5	気孔の戸締り	気孔は昼間開き、乾燥すると閉じる。気孔を開け閉めする分子機構を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	6	魅力的な花作り	植物は魅力的な花を作り花粉を運ぶ昆虫を誘引している。花の形作りと色作りの分子基盤を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	7	光合成	光エネルギー変換の秘密 光エネルギーを化学エネルギーに変換する光合成の秘密を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	8	光合成とストレス	暗反応のキー酵素であるルビスコを中心に、ストレスと光合成について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	9	光合成と地球	光合成と地球の関係を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	10	植物の進化	植物の起源と進化を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	11	草を野菜にする	人間は野生植物を多彩な作物として利用しやすい形に変えてきた。その過程で変化した重要な遺伝子について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	12	農業と植物ホルモン	農業では、植物ホルモンの力をうまく利用している。その実際を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	13	植物の分泌物	天然ゴムや漆など、人間生活に役立っている樹液の成分と合成機構を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	14	遺伝子組換え植物の虫退治	遺伝子組換え技術を使い、害虫抵抗性の植物を作る技術を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	15	ゲノム編集技術	植物をデザインしよう	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	すごい植物	動かない植物がみせる驚異の力を見てみよう。	事前：シラバスの確認 事後：学習課題の確認																																																														
2	植物の光センサー	植物の生活に大切な光環境を感知に働く光センサーについて、役割と働きを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
3	重力を感知するセンサー	植物の重力感知との分子機構を理解する。宇宙での植物の成長についても紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
4	動く植物	オジギソウや食虫植物など、動けない植物の動きについて紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
5	気孔の戸締り	気孔は昼間開き、乾燥すると閉じる。気孔を開け閉めする分子機構を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
6	魅力的な花作り	植物は魅力的な花を作り花粉を運ぶ昆虫を誘引している。花の形作りと色作りの分子基盤を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
7	光合成	光エネルギー変換の秘密 光エネルギーを化学エネルギーに変換する光合成の秘密を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
8	光合成とストレス	暗反応のキー酵素であるルビスコを中心に、ストレスと光合成について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
9	光合成と地球	光合成と地球の関係を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
10	植物の進化	植物の起源と進化を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
11	草を野菜にする	人間は野生植物を多彩な作物として利用しやすい形に変えてきた。その過程で変化した重要な遺伝子について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
12	農業と植物ホルモン	農業では、植物ホルモンの力をうまく利用している。その実際を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
13	植物の分泌物	天然ゴムや漆など、人間生活に役立っている樹液の成分と合成機構を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
14	遺伝子組換え植物の虫退治	遺伝子組換え技術を使い、害虫抵抗性の植物を作る技術を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
15	ゲノム編集技術	植物をデザインしよう	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>植物の体の中では何が起きているのか</td> <td>嶋田幸久、萱原正嗣</td> <td>ベレ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	植物の体の中では何が起きているのか	嶋田幸久、萱原正嗣	ベレ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	植物の体の中では何が起きているのか	嶋田幸久、萱原正嗣	ベレ出版														
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	小テスト (40%)、討議活動 (10%)、定期試験 (50%)
学生へのメッセージ	授業では、植物の面白い話題や、きれいな画像をできるだけたくさん紹介したいと思います。
担当者の	8号館3階教員室 303

研究室等	
備考	

科目名	生きている土壌	科目名 (英文)	Living Soil
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐野 修司
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1074a0		

授業概要・目的	作物の生産基盤として、土壌の役割は重要である。土壌中には微生物を含めて多くの生物が生息しており、物質循環をはじめとした機能面で役割を担っているほか、土壌自身も外部からの影響により変化しており、まさに土壌は生きているといえる。また、作物などの植物生育と関連していることから、他の生物の生命活動にも影響をおよぼしているほか、周辺環境のかかわりも深い。本講義では、上記の観点から、土壌自身の生物性、特性の変化、作物生育や周辺環境とのかかわりなど、幅広い観点から土壌の役割について講義する。																																																																		
到達目標	① 作物の生産基盤としての土壌の重要性を概説できる。 ② 土壌の生物性について概説できる。 ③ 土壌も人為的な管理や環境の変化により変化することを概説できる。 ④ 土壌と作物生育や周辺環境とのかかわりについて概説できる。																																																																		
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、DVDなどによる映像の上映や、プリントを配布し理解を深める。また原則毎回、事前学習として次回の講義内容に関するミニレポートの提出を求めるほか、事後学習の効果を高めるために前回講義した内容に関する振り返りシートの記入を実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生産基盤としての土壌</td> <td>講義の目的、生態系での土壌の役割など</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>土壌の生物性</td> <td>土壌の生物性・化学性・物理性、生物性の位置付けなど</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>土壌微生物</td> <td>土壌の微生物の種類、微生物の評価法、多様性など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>土壌動物</td> <td>土壌動物の種類、土壌中での生態系、土壌中の害虫など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>土壌病害</td> <td>土壌病害の種類、土壌病害発生のメカニズムなど</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>土壌生成</td> <td>土壌生成因子、気候による土壌の変化、メカニズムなど</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>土壌劣化</td> <td>土壌劣化の種類、劣化のメカニズム、修復の実例など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>人為と土壌</td> <td>人為による土壌の変化、農耕地土壌や造成土の特性など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>土づくり</td> <td>土づくり資材、有機物による土づくり、土づくり実例など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>土壌と植物生育</td> <td>植物生育における土壌の役割など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>土壌と食糧生産</td> <td>食糧生産における土壌の役割、土壌とヒトの健康との関係など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>有機農業</td> <td>有機農業、有機農業における土壌中の物質動態など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>土壌と地域環境</td> <td>地域環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>土壌と地球環境</td> <td>地球環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最新の事例紹介</td> <td>講義に関連した最新の研究事例、実践例など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	生産基盤としての土壌	講義の目的、生態系での土壌の役割など	事前：シラバスの理解 事後：振り返りシートの記入	2	土壌の生物性	土壌の生物性・化学性・物理性、生物性の位置付けなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	3	土壌微生物	土壌の微生物の種類、微生物の評価法、多様性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	4	土壌動物	土壌動物の種類、土壌中での生態系、土壌中の害虫など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	5	土壌病害	土壌病害の種類、土壌病害発生のメカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	6	土壌生成	土壌生成因子、気候による土壌の変化、メカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	7	土壌劣化	土壌劣化の種類、劣化のメカニズム、修復の実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	8	人為と土壌	人為による土壌の変化、農耕地土壌や造成土の特性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	9	土づくり	土づくり資材、有機物による土づくり、土づくり実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	10	土壌と植物生育	植物生育における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	11	土壌と食糧生産	食糧生産における土壌の役割、土壌とヒトの健康との関係など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	12	有機農業	有機農業、有機農業における土壌中の物質動態など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	13	土壌と地域環境	地域環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	14	土壌と地球環境	地球環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	15	最新の事例紹介	講義に関連した最新の研究事例、実践例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	生産基盤としての土壌	講義の目的、生態系での土壌の役割など	事前：シラバスの理解 事後：振り返りシートの記入																																																																
2	土壌の生物性	土壌の生物性・化学性・物理性、生物性の位置付けなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
3	土壌微生物	土壌の微生物の種類、微生物の評価法、多様性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
4	土壌動物	土壌動物の種類、土壌中での生態系、土壌中の害虫など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
5	土壌病害	土壌病害の種類、土壌病害発生のメカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
6	土壌生成	土壌生成因子、気候による土壌の変化、メカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
7	土壌劣化	土壌劣化の種類、劣化のメカニズム、修復の実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
8	人為と土壌	人為による土壌の変化、農耕地土壌や造成土の特性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
9	土づくり	土づくり資材、有機物による土づくり、土づくり実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
10	土壌と植物生育	植物生育における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
11	土壌と食糧生産	食糧生産における土壌の役割、土壌とヒトの健康との関係など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
12	有機農業	有機農業、有機農業における土壌中の物質動態など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
13	土壌と地域環境	地域環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
14	土壌と地球環境	地球環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
15	最新の事例紹介	講義に関連した最新の研究事例、実践例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 土壌学の基礎</td> <td>松中照夫</td> <td>農文協</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 土壌学の基礎	松中照夫	農文協	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新版 土壌学の基礎	松中照夫	農文協																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	ミニレポート (25%)、振り返りシート (25%)、定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	農業生産だけでなく環境面でも基盤となる土壌について、普段じっくりと目を向ける機会がないと思いますが、この講義を通じて土壌そのものへの理解のみならず農業生産性や周辺環境そして人の暮らしとのかかわりについても理解が深まることを目指します。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考																																																																			

科目名	作物とエネルギー生産	科目名 (英文)	Crops and Energy Production
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川崎 通夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1073a0		

授業概要・目的	作物は、人類が利用するエネルギーの重要な供給源の一つとなっている。「作物とエネルギー生産」では、(1)バイオマスエネルギーにおける生産と利用の現状および課題、(2)エネルギー作物における種類、生態・形態・生理的形質、栽培および利用、(3)バイオ燃料の種類、製造法および利用などについて概説する。作物とエネルギー生産との係わり合いやエネルギー作物に関する現状、重要性と課題を理解し、それらを説明する上で必要な基礎知識を身につける。
到達目標	①作物と人類が利用するエネルギーとの関係性を理解する。 ②バイオマスエネルギーにおける生産と利用の現状について説明できる。 ③主要なエネルギー作物における種類、植物学的形質、栽培、利用、展望と課題について理解する。 ④バイオ燃料の種類、製造法および利用について説明できる。
授業方法と留意点	配布する講義資料とパワーポイントを用い、且つ、板書を適宜行い講義を行う。各講義中に、講義した内容に関する小テストを実施する。また、各講義の後にはラーニングポートフォリオを行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの生産と利用の現状	事前：シラバスの理解 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
2	作物とエネルギー	食用作物、油料作物、糖料作物、デンプン料作物	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
3	エネルギー作物	エネルギー作物とは？ エネルギー作物の要件	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
4	糖質系エネルギー作物：サトウキビ	糖質系エネルギー作物(サトウキビ)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
5	糖質系エネルギー作物：テンサイ等	糖質系エネルギー作物(テンサイ、スイートソルガム等)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
6	澱粉系エネルギー作物：トウモロコシ等	デンプン系エネルギー作物(トウモロコシ、コムギ)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
7	澱粉系エネルギー作物：イモ類	デンプン系エネルギー作物(キャッサバ等のイモ類等)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
8	セルロース系エネルギー作物：サトウキビ等	セルロース系エネルギー作物(サトウキビ、トウモロコシ)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
9	セルロース系エネルギー作物：エリアンサス等	セルロース系エネルギー作物(エリアンサス、ネビアグラス等)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
10	エネルギー作物：イネ	エネルギー作物としてのイネの現状	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
11	バイオ燃料：バイオエタノール	バイオエタノールの製造と利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
12	バイオ燃料：バイオディーゼル等	バイオディーゼルとバイオジェット燃料の製造と利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
13	バイオ燃料：バイオペレット等	バイオペレットおよびバイオガスの製造と利用、バイオマス発電	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
14	エネルギー作物の生産システム	エネルギー作物における栽培とポストハーベスト	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
15	エネルギー作物の展望、総括	エネルギー作物における展望と課題、ラーニングポートフォリオを用いた総括	事前：事前学修課題の学習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エネルギー作物学	森田茂紀	朝倉書
2	作物学の基礎Ⅱ 資源作物・飼料作物	中村 聡、後藤 雄佐、新田 洋司	農文協	
3				

評価方法 (基準)	小テスト (50%)、および、ラーニングポートフォリオ (50%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	作物は食料として重要ですが、人類のエネルギー資源としても私たちの生活に欠かせないものとなっています。本授業を通じて、エネルギー作物の現状、重要性および課題などについて理解を深め、農学生としての素養を更に身に付けられるよう頑張ってください。
担当者の 研究室等	担当教員は作物科学研究室に所属しています。もし質問や相談などありましたら、枚方キャンパス 8 号館 (農学部棟) 2 階の作物科学研究室 (208 号室) まで遠慮なくお尋ね下さい。
備考	

科目名	昆虫とくらし	科目名 (英文)	Insects and Human life
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井 毅
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1072a0		

授業概要・目的	昆虫の祖先は約4億年前に地球上に現れ、今や地球上の全生物種の70%を超える種数を占めると言われている。この繁栄に成功した理由として、脊椎動物にはないムシが持つ昆虫独特の環境への適応能力が指摘されており、我々ヒトは、ある時はムシと作物を争い、ある時はムシの特性を学び応用することで生活をより豊かなものへと変えていくことに成功した。「昆虫とくらし」では、害虫と益虫というヒトの視点を通じたムシの二面性について紹介し、ムシを通じて生態を中立的に見る目を身につける。
到達目標	①昆虫の環境への適応戦略が、ヒトに代表される哺乳動物と似ている点と異なる点を理解できる。 ②身近にいる昆虫の存在を実感し、特にヒトの暮らしと関わり合いの深い、ゴキブリに代表される害虫やカイコに代表される益虫の生活史の実体が分かる。 ③害虫や益虫はヒトの価値観に基づく呼称であることを知り、自然の中の生物を中立的な視点で見つめられるようになる。
授業方法と留意点	・パワーポイントによるスライドと教科書「昆虫科学読本(東海大学出版)」を用いた講義形式とする。 ・事後学習では各回の授業内容を踏まえた記述形式の課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 神話に出てくるムシ	「昆虫とくらし」の紹介、古今東西神話に現れるムシの紹介と概説	事前：シラバスの理解 事後：今回の講義内容の課題
2	ムシのからだ	ムシと哺乳類の体の大きさや構造の違い～循環器と呼吸器を中心に～	事後：今回の講義内容の課題
3	地球史の中のムシ	ムシの発生と激変する環境への適応～古生代、中生代、新生代のムシ～	事後：今回の講義内容の課題
4	害虫と言われるムシ ゴキブリ	ゴキブリの生態、ヒトはなぜゴキブリをきらうのか？	事後：今回の講義内容の課題
5	害虫と言われるムシ イナゴ	イナゴの生態、イナゴと農作物	事後：今回の講義内容の課題
6	害虫と言われるムシ カ	カの生態、病気を媒介するカとその実例	事後：今回の講義内容の課題
7	害虫と言われるムシ ダニ	ダニの生態、指標生物としてのダニ	事後：今回の講義内容の課題
8	侵入害虫	日本に入ってくる昆虫の実例の紹介と生態系のかく乱	事後：今回の講義内容の課題
9	害虫とどう向き合うか	害虫とは何か？ 害虫を根絶するということ	事後：今回の講義内容の課題
10	モデル昆虫	生物学と関わり合いの深いムシたち	事後：今回の講義内容の課題
11	ハチとハチミツ	ハチの生態、ハチミツの起源	事後：今回の講義内容の課題
12	カイコと繊維利用	カイコとヒトの歴史、カイコの有用性	事後：今回の講義内容の課題
13	カイコとロボット	センサーとしてのカイコ	事後：今回の講義内容の課題
14	インセクトセラピー	好かれるムシ、嫌われるムシ	事後：今回の講義内容の課題
15	未来のヒトの暮らしとムシ	我々ヒトはこれからムシとどう付き合っていくべきか？	事後：今回の講義内容の課題

関連科目	生物学 (1年生後期)・多様性生物学(3年生前期)
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	昆虫科学読本		東海大学出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	徹底図解 昆虫の世界	岡島秀治	新星出版社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席点(授業感想または簡単なアンケートを予定)90%、受講態度10%で評価する。定期考査は行なわない。
-----------	---

学生へのメッセージ	身近なのに意外と知らない虫のこと、多いのではないのでしょうか？ ムシが好きな人も嫌いな人も、一緒にムシの世界を覗いてみませんか？ 連絡は Teams で行ないますので、受講者は必ず本科目の Teams に登録してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	応用昆虫学研究室
------------	----------

科目名	植物の改良	科目名 (英文)	Plant Improvement
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛島 智一
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1071a0		

授業概要・目的	人は植物を食料として利用するだけでなく、家畜の飼料や観賞用、工業用原料、医薬品用原料などさまざまに利用している。そして、人は品種を作るという概念を持つ前から収穫量が多いものや病気に強いものなど、自然に存在する有用な形質を示す植物を選んできた。しかし、メンデルが遺伝の法則を発見したことにより、体系的に植物を改良することが可能となった。本講義では、改良の対象となる植物の形質について概説するとともに、従来おこなわれている植物改良の手法から、今日、注目を集めている遺伝子工学の技術を利用したゲノム編集までを解説し、植物の改良に必要な基礎的な知識を身につける。
到達目標	① 植物の特性を理解し、改良目的を探す力を身につける。 ② 植物改良の方法について説明できる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、問題を提起し、議論することで理解を深める。また、講義後のミニレポートの提出と定期的な小テストまたは小レポートを課す。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	植物の改良を行うには	植物による改良方法の違い、改良の対象になる形質など	事前:シラバスの理解 事後:ミニレポートの提出
2	植物の構造	植物細胞の構造、細胞小器官と役割	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
3	植物の発生と生理	植物器官の構造、植物の生活環	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
4	遺伝子と遺伝	遺伝子の構造、遺伝、連鎖、遺伝子発現	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
5	材料の収集と評価と保存	形質変化に利用可能な母本の収集	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
6	交配による改良	植物の生殖、交配	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
7	突然変異による改良	突然変異体の作製	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
8	倍数体を利用した改良	倍数体、異数体の作製	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
9	種間雑種を利用した改良、栄養繁殖植物の改良	種間交配、栄養繁殖植物	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
10	細胞工学を利用した改良	組織培養、細胞培養	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
11	遺伝子マーカーの利用	遺伝子座、マーカー選抜	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
12	遺伝子工学を利用した改良	遺伝子の単離、形質転換	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
13	ゲノム編集を利用した改良	ゲノム編集	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
14	データベースの利用	遺伝子情報、遺伝子発現情報、系統データベース	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
15	品種の管理	種苗法、カルタヘナ法	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出

関連科目 生物学、ゲノム分子生物学、植物遺伝子工学、ゲノムと生命など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	植物の遺伝と育種	米澤勝衛/向井康比古/福井希一	朝倉書店
2	植物育種学	北柴大泰、西尾剛 編	文永堂出版
3	エッセンシャル遺伝学・ゲノム科学	ダニエル・L・ハートル/中村千春・岡田清孝 監訳	化学同人

評価方法 (基準) 各授業の事前学習課題 (15%)、小テストまたは小レポート (10%)、事後課題 (15%)、レポート (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ わからないときは遠慮なく質問してください。

担当者の研究室等 8号館2階 植物遺伝育種学研究室

備考 事前事後学習に要する総時間の目安は30時間

科目名	植物の病気	科目名 (英文)	Plant Disease
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	飯田 祐一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1070a0		

授業概要・目的	<p>ヒトや動物が病気になるように植物も病気にかかる。様々な防除法が開発されているにも関わらず、いまだに約15%の作物は病原菌による被害を受け、毎年約8億人分の食料が損失している。地球上にはこれ以上、農業に適した土地がないとされ、病気や害虫から作物を保護することは人類の生存において欠かすことができない課題である。</p> <p>本講義では、有機栽培、化学合成農薬、薬剤耐性菌、ポストハーベスト問題など、現代社会において一般にも身近な問題について、各学科でこれまでに学修した農作物の持続的・安定的な供給、食品の安全・安心、国際的な食料の流通や消費などの知識をベースに幅広い視点で議論するアクティブラーニング型の講義である。</p>
到達目標	<p>① なぜ生物は病気になるのか、病原菌による感染の仕組みを概説できる。</p> <p>② どのように病気を防ぐのか、病害から植物を保護する方法について概説できる。</p> <p>③ 有機農業、耐性菌などの植物病に関するキーワードを説明できる。</p> <p>④ 農薬とはなにか、安全性や関連するシステムについて説明できる。</p>
授業方法と留意点	<p>反転講義、グループディスカッション、プレゼン、ロールプレイ、ジグソー法などアクティブラーニングを軸とした講義形式で、学生間の相互評価も取り入れる。</p> <p>第2回以降は与えられたテーマについて事前に学習し、グループディスカッションに備える。</p> <p>スマホ、タブレット、PCなどのデバイスは必携。</p> <p>時事問題や学生からの意見など授業計画にはないテーマも積極的に取り入れる。</p>

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	本講義のテーマや進め方、ルール、成績評価について説明	事前：シラバスの理解
2	なぜ病気になる？	ヒトも植物もなぜ病気になるのか？病気に強い品種、弱い品種は何で決まる？ また植物病のパンデミックについて考える。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
3	どうやって抑える？	どうやって植物の病気を防ぐのか？ヒトとは違い植物の治療は難しいことから予防（防除）が重要となる。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
4	どうやって病気になる？	微生物とは何か？ 病原菌はどこにいるのか？ どのように植物に感染するのか？ 微生物の違いや病原菌の感染について学ぶ。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
5	農薬は危険か？	なぜヒトが飲む医薬は安全で、農薬は危険と思われるのか？ 農薬の登録システムや歴史、安全性について議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
6	耐性菌とは？	ヒトでも植物でも薬の効かない病原菌が問題となっている。その問題点と対策を議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
7	生物農薬	生物農薬とは何か？ また化学農薬と生物農薬のメリットとデメリットについて議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
8	有機栽培	有機栽培・特別栽培とは？ 2050年までに農業全体の1/4を有機農業にするという農水省の方針は実現可能か？	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
9	植物の病気と輸出入	食料自給率が40%を切る我が国は、多く農産物や肥料を輸入している。輸出入に関わるポストハーベスト病害、植物検疫、残留農薬基準について議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
10	遺伝子組換え・ゲノム編集による病害防除	遺伝子組換えとゲノム編集技術の違い、従来の育種技術と比べたメリットとデメリットについて学修し、議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
11	植物疾病と貧困	化学農薬の散布にはコストがかかり、また植物病害の発生は経済的な損失となり貧困に直結する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
12	植物疾病と環境保全	近代農業は化学農薬の合成やビニール製の防除資材など石油産業への依存度が高いことから、地球環境への負荷の少ない植物病害の防除について議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
13	総括	これまでの講義内容を総括し、議論する。	事前：中間テストの学習 事後：ミニッツレポートの提出	
14	中間テスト	これまでの講義内容から「植物の病気」に関する中間テストとその解説を実施する。	事前：プレゼンテーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
15	あらためて考える今後の農薬	農薬とはなにか、安全性や関連する法律・検査システムなど、学生自身の意見を基に今後の農薬の在り方について説明・プレゼンする。	事前：プレゼンの準備 事後：授業アンケート、ミニッツレポートの提出	

関連科目	生命倫理
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各講義での学生間相互評価 (60%)、教員評価 (20%)、中間テスト (20%) から 60%以上で合格とする。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	農業生産学科 植物病理学研究室 飯田祐一郎			
備考				

科目名	園芸の技術	科目名 (英文)	Horticultural Technique
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 祐人
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF1069a0		

授業概要・目的	我が国の果樹、野菜、花卉などの園芸作物生産は、限られた土地を有効活用し、なおかつ消費者のニーズに合った高品質な商品を生産するため、種々の特殊な技術を用いて行われている。この「園芸の技術」では、実際の園芸作物における生産流通現場で応用されている興味深い「技」に焦点を当てて紹介する。植物生理学的な背景に基づく各技術の概要と、それらの技術を用いることで得られる生産性の向上や市場における付加価値および経済効果について論じる。なお、授業担当者は地方自治体の試験場での実務経験を持ち、生産現場の実情なども交えて講義を行う。
到達目標	①園芸作物の生産現場で用いられている各技術の手法を説明できる。 ②各技術における対象作物、生産・流通上の効果、利用上の留意点などについて概説できる。
授業方法と留意点	授業は主にパワーポイントと配布資料による講義形式で行う。なるべく基礎的な解説は避け、栽培現場での実用例を多く取り上げて紹介する。授業後、理解を深めるためのミニレポートを定期的に提出させ、翌回の授業でその内容について議論する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	野菜・花卉の接ぎ木	野菜・花卉の接ぎ木法と効果 (耐病性、低温伸長性など)	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
2	果樹の接ぎ木	果樹の接ぎ木法と効果 (耐病性、わい性など)	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
3	果樹の整枝せん定	新梢の誘引、捻枝 (ブドウ)、摘心 (ウメ)、樹形改造	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
4	野菜の無核栽培	果菜類 (トマト、スイカなど) における無核化と単為結果	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
5	果樹の無核栽培	果樹 (ブドウなど) における無核化と単為結果	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
6	野菜の花芽分化誘導	温度 (春化) 処理、窒素制限による花芽分化 (イチゴ)	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
7	被覆資材利用	被覆資材による除草、保温、病虫害防除	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
8	植物ホルモン利用	植物成長調整剤 (ホルモン剤) による発芽促進、休眠打破など	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
9	果樹の高糖度栽培	果樹 (カンキツなど) の高糖度化技術	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
10	野菜・花卉の養液栽培	養液栽培によるイチゴ、トマト、花卉類の安定生産	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
11	被覆種子の利用	被覆種子による殺菌、播種の効率化	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
12	鮮度保持	鮮度保持剤、冷蔵、CA 貯蔵による果実、切り花の鮮度保持	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
13	野菜の軟白栽培	アスパラガス、ニラなどの軟白栽培による高付加価値化	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
14	果実の追熟	エチレンによる果実の追熟処理、カキの脱渋	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
15	果樹病虫害の防除	有機栽培、天敵利用、フェロモン剤による害虫防除	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農業技術体系 野菜編・果樹編・花卉編		農文協
2				
3				

評価方法 (基準)	授業後に提出を求める課題およびミニレポート内容 (50%) と期末レポート (50%) により総合的に評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	園芸作物の栽培について、知っていると日常生活でも野菜や果物を見る目が少し変わるような知見を紹介したいと思います。ぜひ興味を持った項目は自分でも調べながら受講してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	8号館2階 園芸科学研究室
------------	---------------

科目名	管理栄養士総合演習	科目名 (英文)	Practice in Integrated Nutrition for Registered Dietitians
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三, 畦西 克己, 岸本 良美, 黒川 通典, 樽井 雅彦, 百木 和, 森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF4063a0		

授業概要・目的
 これまで修得してきた専門分野及び専門基礎分野等の知識や技能・態度を相互に関連させることにより、管理栄養士業務を円滑に遂行するために必要な総合力を修得することを目的とする。さらに、管理栄養士の職務内容に対応する専門分野を横断的に理解することによって、どのような知識、技能・態度が必要か総合的に学修する。具体的には、基礎栄養学・応用栄養学・臨床栄養学・栄養教育論・公衆栄養学・給食経営管理論を総合して、栄養状態の評価・栄養管理、課題把握・解決に至る栄養ケアプロセス総合的な能力を養う。

到達目標
 ① 管理栄養士の業務に係る専門的知識、技能・態度に必要な総合力を身につける。
 ② 施設ごとの給食管理、栄養管理、栄養教育及び栄養指導を実践できる。
 ③ 傷病者の病態に対応した栄養アセスメントを行い、病態を把握した栄養ケアプランの作成、実施、モニタリング等の企画、立案ができる。

授業方法と留意点
 ① 学生が主体性を持ったアクティブラーニング形式の授業法を実施する。
 ② QFT (Question Formulation Technique) による質問づくりによるグループ学習を実施する。
 ③ 各演習において、学習課題を設け、まとめ、発表、討論し、レポートとしてその内容を提出する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	QFT (Question Formulation Technique) による質問づくりによるグループ学習方法を学ぶ (担当: 全員)	管理栄養士の社会的使命について調べる
2	給食の生産	給食における調理工程・提供管理システムについて学修する (担当: 樽井)	各種オペレーションを調査する
3	食品業界	生産と流通、加工食品、販売チャネル、市場と課題について学修する (担当: 樽井)	食品産業の特色について調べる
4	災害時における公衆栄養活動	自然災害発生時における行政栄養士の役割を、実例をもとに考える (担当: 黒川)	これまでの災害や被災地の状況について調べる。配付資料を整理する
5	健康づくりボランティア	食生活改善推進員など、住民の健康増進に寄与する活動を行っているボランティア団体について学修する (担当: 黒川)	健康づくりボランティアの活動について調べる・配付資料を整理する
6	栄養部門の位置づけ	病院における栄養部の位置づけ・役割・診療報酬について課題をまとめる (担当: 百木)	臨地実習先、他病院の状況について調べる
7	栄養指導	病院における個人栄養指導・集団栄養指導について課題をまとめる (担当: 百木)	臨地実習先、他病院の状況について調べる
8	災害時における医療施設の対応	災害時の医療における栄養ケアについて、実例をもとに考える (担当: 畦西)	災害時の対応や病院での備蓄状況について調べる
9	チーム医療について	医療施設におけるチーム医療について、現状の問題点と今後のあり方を考える (担当: 畦西)	臨地実習先、他病院、海外の状況について調べる
10	社会で活用する栄養教育	ソーシャル・マーケティングを活用した栄養教育について学修する (担当: 森)	商業マーケティングとソーシャル・マーケティングの違いを調べ、整理する
11	社会に普及する栄養教育	栄養教育を社会に普及するためのソーシャルイノベーションについて学修する (担当: 森)	新しいアイデアの効果的な普及方法について調べ、整理する
12	食事摂取基準	食事摂取基準を活用するために、各栄養素の策定根拠について、理解を深める (担当: 岸本)	食事摂取基準の各論を復習しておく
13	食事摂取基準	各栄養素の策定根拠について、巻末の参考論文などの資料を調べ、まとめる (担当: 岸本)	参考論文や資料を集め、レポートをまとめる
14	食事と医薬品の相互作用	食品・栄養素と医薬品との主たる相互作用について学修する (担当: 喜多)	食品・栄養素と医薬品の相互作用の事例頻度について調べる
15	生活習慣病における薬物治療の特徴について	高血圧、糖尿病、高尿酸血症など生活習慣病における主要な薬物治療について学修する (担当: 喜多)	生活習慣病における薬物治療の特徴について調べる

関連科目
 管理栄養士国家試験受験資格関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	各指導教員が指定するテキスト		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	別途、指示する。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業評価は定期テストで評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	本科目における、課題レポート、小テスト、講義資料等については、各担当教員からの指示に従ってください。			
担当者の 研究室等	樽井雅彦 (農学部 8 号館 2F223) 森 美奈子 (農学部 8 号館 3F) 黒川典通 (農学部 8 号館 2F221) 岸本良美 (農学部 8 号館 3F 324) 畦西克己 (農学部 8 号館 2F220) 喜多大三 (農学部 8 号館 2F225) 百木 和 (農学部 8 号館 2F219)			
備考				

科目名	臨地実習指導 (演習)	科目名 (英文)	Guidance to Field Practice(Seminar)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	黒川 通典, 畦西 克己, 樽井 雅彦, 百木 和
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3062a0		

授業概要・目的	<p>「臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の事前・事後に行う演習科目。事前学習として、実習の意義、目的を理解して、実習に臨む姿勢、知識・技術について横断的かつ、総合的な理解を涵養することにより、様々な状況に対応した研究課題を設定して実習に取り組む姿勢を修得する。事後学習として、「臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」終了後に、各実習において設定した課題についての発表・討議で学修効果を高め、管理栄養士の職域において、連携が必要となる関連職種が兼ね備える基本的な知識や技術を理解し、各職域で連携協働するために必要な能力を修得する。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 管理栄養士の使命と役割を説明することができる。さらに、関連職種と協働関係を構築するための知識および技術について、説明することができる。</p> <p>② 臨地実習に取り組むにあたり、専門基礎分野（社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康に関連する科目）、専門分野（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論に関連する科目）で修得した知識および技術について、管理栄養士の実践活動の場でどのように応用されるのか、説明することができる。</p> <p>③ 管理栄養士の実践活動の場（臨地実習）を通して学修した、適切な栄養ケアプロセスのための課題発見および解決方法について、各実践活動の場の視点から、さらには専門分野を横断した視点から討議することができる。</p> <p>④ 上記の目標を達成するために必要な基礎的学力として、管理栄養士に関連する専門科目の知識・判断力問題に適切に回答することができる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習に取り組むにあたり、「給食経営管理論」「公衆栄養学」「臨床栄養学」の各実践活動の場に応用するという視点から、課題の発見および解決を通して、PDCAサイクルに基づく適切な栄養ケアプロセスができるよう、事前学習を行う。 ・臨地実習終了後、実習を通して発見した課題およびその解決方法について、報告および討議を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨地実習報告会</td> <td>3年次に4年次生が行う実習報告会に参加し、目的、内容を把握する</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>給食経営管理論実習の概要</td> <td>給食経営管理実習の目的・意義、各給食施設の概要と特徴を説明、学内実習施設の見学</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>公衆栄養学臨地実習の概要</td> <td>公衆栄養学臨地実習の目的・意義、地域保健行政機関の概要</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>臨地実習の諸注意</td> <td>実習を受けるための注意点の確認、誓約書等の書類作成</td> <td>実習書の再確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>臨地実習の課題</td> <td>実習課題への取り組み方について</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>臨地実習のまとめ</td> <td>実習内容の再確認のためのグループ討議</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>給食経営管理論実習報告会</td> <td>実習内容についてのグループごとの報告</td> <td>報告要旨の再確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>公衆栄養学臨地実習報告会</td> <td>実習内容についてのグループごとの報告</td> <td>報告要旨の再確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>臨床栄養学臨地実習に際して</td> <td>臨床栄養学臨地実習の目的・意義、各病院・医療センターの概要</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>臨地実習の諸注意</td> <td>実習を受けるための注意点の確認、誓約書等の書類作成</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>臨地実習の課題</td> <td>実習課題への取り組み方について</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>臨地実習のまとめ</td> <td>実習内容の再確認のためのグループ討議</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>臨床栄養学臨地実習報告会</td> <td>実習内容についてのグループごとの報告 (前半)</td> <td>報告要旨の再確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>臨床栄養学臨地実習報告会</td> <td>実習内容についてのグループごとの報告 (後半)</td> <td>報告要旨の再確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合実習報告会</td> <td>3年次生に向けた総括的な実習内容報告</td> <td>報告要旨の再確認</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	臨地実習報告会	3年次に4年次生が行う実習報告会に参加し、目的、内容を把握する	教科書の熟読	2	給食経営管理論実習の概要	給食経営管理実習の目的・意義、各給食施設の概要と特徴を説明、学内実習施設の見学	教科書の熟読	3	公衆栄養学臨地実習の概要	公衆栄養学臨地実習の目的・意義、地域保健行政機関の概要	教科書の熟読	4	臨地実習の諸注意	実習を受けるための注意点の確認、誓約書等の書類作成	実習書の再確認	5	臨地実習の課題	実習課題への取り組み方について	教科書の熟読	6	臨地実習のまとめ	実習内容の再確認のためのグループ討議	教科書の熟読	7	給食経営管理論実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告	報告要旨の再確認	8	公衆栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告	報告要旨の再確認	9	臨床栄養学臨地実習に際して	臨床栄養学臨地実習の目的・意義、各病院・医療センターの概要	教科書の熟読	10	臨地実習の諸注意	実習を受けるための注意点の確認、誓約書等の書類作成	教科書の熟読	11	臨地実習の課題	実習課題への取り組み方について	教科書の熟読	12	臨地実習のまとめ	実習内容の再確認のためのグループ討議	教科書の熟読	13	臨床栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告 (前半)	報告要旨の再確認	14	臨床栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告 (後半)	報告要旨の再確認	15	総合実習報告会	3年次生に向けた総括的な実習内容報告	報告要旨の再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	臨地実習報告会	3年次に4年次生が行う実習報告会に参加し、目的、内容を把握する	教科書の熟読																																																																
2	給食経営管理論実習の概要	給食経営管理実習の目的・意義、各給食施設の概要と特徴を説明、学内実習施設の見学	教科書の熟読																																																																
3	公衆栄養学臨地実習の概要	公衆栄養学臨地実習の目的・意義、地域保健行政機関の概要	教科書の熟読																																																																
4	臨地実習の諸注意	実習を受けるための注意点の確認、誓約書等の書類作成	実習書の再確認																																																																
5	臨地実習の課題	実習課題への取り組み方について	教科書の熟読																																																																
6	臨地実習のまとめ	実習内容の再確認のためのグループ討議	教科書の熟読																																																																
7	給食経営管理論実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告	報告要旨の再確認																																																																
8	公衆栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告	報告要旨の再確認																																																																
9	臨床栄養学臨地実習に際して	臨床栄養学臨地実習の目的・意義、各病院・医療センターの概要	教科書の熟読																																																																
10	臨地実習の諸注意	実習を受けるための注意点の確認、誓約書等の書類作成	教科書の熟読																																																																
11	臨地実習の課題	実習課題への取り組み方について	教科書の熟読																																																																
12	臨地実習のまとめ	実習内容の再確認のためのグループ討議	教科書の熟読																																																																
13	臨床栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告 (前半)	報告要旨の再確認																																																																
14	臨床栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告 (後半)	報告要旨の再確認																																																																
15	総合実習報告会	3年次生に向けた総括的な実習内容報告	報告要旨の再確認																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	実習に対する理解度 (50%)、報告会におけるプレゼンテーション (50%) を基準に評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等																																																																			
備考																																																																			

科目名	臨地実習指導（演習）	科目名（英文）	Guidance to Field Practice(Seminar)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	黒川 通典, 畦西 克己, 樽井 雅彦, 百木 和
ディプロマポリシー(DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3062a0		

授業概要・目的	<p>「臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の事前・事後に行う演習科目。事前学習として、実習の意義、目的を理解して、実習に臨む姿勢、知識・技術について横断的かつ、総合的な理解を涵養することにより、様々な状況に対応した研究課題を設定して実習に取り組む姿勢を修得する。事後学習として、「臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」終了後に、各実習において設定した課題についての発表・討議で学修効果を高め、管理栄養士の職域において、連携が必要となる関連職種が兼ね備える基本的な知識や技術を理解し、各職域で連携協働するために必要な能力を修得する。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 管理栄養士の使命と役割を説明することができる。さらに、関連職種と協働関係を構築するための知識および技術について、説明することができる。</p> <p>② 臨地実習に取り組むにあたり、専門基礎分野（社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康に関連する科目）、専門分野（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論に関連する科目）で修得した知識および技術について、管理栄養士の実践活動の場でどのように応用されるのか、説明することができる。</p> <p>③ 管理栄養士の実践活動の場（臨地実習）を通して学修した、適切な栄養ケアプロセスのための課題発見および解決方法について、各実践活動の場の視点から、さらには専門分野を横断した視点から討議することができる。</p> <p>④ 上記の目標を達成するために必要な基礎的学力として、管理栄養士に関連する専門科目の知識・判断力問題に適切に回答することができる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習に取り組むにあたり、「給食経営管理論」「公衆栄養学」「臨床栄養学」の各実践活動の場に応用するという視点から、課題の発見および解決を通して、PDCAサイクルに基づく適切な栄養ケアプロセスができるよう、事前学習を行う。 ・臨地実習終了後、実習を通して発見した課題およびその解決方法について、報告および討議を行う。 																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨地実習報告会</td> <td>3年次に4年次生が行う実習報告会に参加し、目的、内容を把握する</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>給食経営管理論実習の概要</td> <td>給食経営管理実習の目的・意義、各給食施設の概要と特徴を説明、学内実習施設の見学</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>公衆栄養学臨地実習の概要</td> <td>公衆栄養学臨地実習の目的・意義、地域保健行政機関の概要</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>臨地実習の諸注意</td> <td>実習を受けるための注意点の確認、誓約書等の書類作成</td> <td>実習書の再確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>臨地実習の課題</td> <td>実習課題への取り組み方について</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>臨地実習のまとめ</td> <td>実習内容の再確認のためのグループ討議</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>給食経営管理論実習報告会</td> <td>実習内容についてのグループごとの報告</td> <td>報告要旨の再確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>公衆栄養学臨地実習報告会</td> <td>実習内容についてのグループごとの報告</td> <td>報告要旨の再確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>臨床栄養学臨地実習に際して</td> <td>臨床栄養学臨地実習の目的・意義、各病院・医療センターの概要</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>臨地実習の諸注意</td> <td>実習を受けるための注意点の確認、誓約書等の書類作成</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>臨地実習の課題</td> <td>実習課題への取り組み方について</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>臨地実習のまとめ</td> <td>実習内容の再確認のためのグループ討議</td> <td>教科書の熟読</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>臨床栄養学臨地実習報告会</td> <td>実習内容についてのグループごとの報告（前半）</td> <td>報告要旨の再確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>臨床栄養学臨地実習報告会</td> <td>実習内容についてのグループごとの報告（後半）</td> <td>報告要旨の再確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合実習報告会</td> <td>3年次生に向けた総括的な実習内容報告</td> <td>報告要旨の再確認</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	臨地実習報告会	3年次に4年次生が行う実習報告会に参加し、目的、内容を把握する	教科書の熟読	2	給食経営管理論実習の概要	給食経営管理実習の目的・意義、各給食施設の概要と特徴を説明、学内実習施設の見学	教科書の熟読	3	公衆栄養学臨地実習の概要	公衆栄養学臨地実習の目的・意義、地域保健行政機関の概要	教科書の熟読	4	臨地実習の諸注意	実習を受けるための注意点の確認、誓約書等の書類作成	実習書の再確認	5	臨地実習の課題	実習課題への取り組み方について	教科書の熟読	6	臨地実習のまとめ	実習内容の再確認のためのグループ討議	教科書の熟読	7	給食経営管理論実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告	報告要旨の再確認	8	公衆栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告	報告要旨の再確認	9	臨床栄養学臨地実習に際して	臨床栄養学臨地実習の目的・意義、各病院・医療センターの概要	教科書の熟読	10	臨地実習の諸注意	実習を受けるための注意点の確認、誓約書等の書類作成	教科書の熟読	11	臨地実習の課題	実習課題への取り組み方について	教科書の熟読	12	臨地実習のまとめ	実習内容の再確認のためのグループ討議	教科書の熟読	13	臨床栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告（前半）	報告要旨の再確認	14	臨床栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告（後半）	報告要旨の再確認	15	総合実習報告会	3年次生に向けた総括的な実習内容報告	報告要旨の再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	臨地実習報告会	3年次に4年次生が行う実習報告会に参加し、目的、内容を把握する	教科書の熟読																																																																
2	給食経営管理論実習の概要	給食経営管理実習の目的・意義、各給食施設の概要と特徴を説明、学内実習施設の見学	教科書の熟読																																																																
3	公衆栄養学臨地実習の概要	公衆栄養学臨地実習の目的・意義、地域保健行政機関の概要	教科書の熟読																																																																
4	臨地実習の諸注意	実習を受けるための注意点の確認、誓約書等の書類作成	実習書の再確認																																																																
5	臨地実習の課題	実習課題への取り組み方について	教科書の熟読																																																																
6	臨地実習のまとめ	実習内容の再確認のためのグループ討議	教科書の熟読																																																																
7	給食経営管理論実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告	報告要旨の再確認																																																																
8	公衆栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告	報告要旨の再確認																																																																
9	臨床栄養学臨地実習に際して	臨床栄養学臨地実習の目的・意義、各病院・医療センターの概要	教科書の熟読																																																																
10	臨地実習の諸注意	実習を受けるための注意点の確認、誓約書等の書類作成	教科書の熟読																																																																
11	臨地実習の課題	実習課題への取り組み方について	教科書の熟読																																																																
12	臨地実習のまとめ	実習内容の再確認のためのグループ討議	教科書の熟読																																																																
13	臨床栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告（前半）	報告要旨の再確認																																																																
14	臨床栄養学臨地実習報告会	実習内容についてのグループごとの報告（後半）	報告要旨の再確認																																																																
15	総合実習報告会	3年次生に向けた総括的な実習内容報告	報告要旨の再確認																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	実習に対する理解度(50%)、報告会におけるプレゼンテーション(50%)を基準に評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等																																																																			
備考																																																																			

科目名	給食経営管理実習	科目名 (英文)	Practice in Food Service Business Management
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樽井 雅彦, 新名 洋美, 古野 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF2061a0		

授業概要・目的	特定給食施設での給食業務について、「給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を活かし、大量調理実習を体験し喫食者に適した食事の提供について栄養面、衛生面、経営面、施設・設備管理など、様々な側面から総合的に考え、自主的に計画・運営できる力を修得することを目的とする。具体的には、特定多数の喫食者に対し、適切な栄養・食事管理を行い、実際に食材の購入・準備から大量調理、食事と栄養情報の提供、提供後の評価・分析を行い、実践に即した能力を修得する。
到達目標	① 栄養士として業務全体のマネジメントが理解できる。 ② 各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び資料が作成できる。 ③ 給食における栄養管理、帳票類が理解できる。 ④ 原価管理（原価計算、損益分岐点分析、ABC分析等）が理解できる。
授業方法と留意点	・班に分かれて各テーマに沿って課題解決に取り組む。 ・試作段階での疑問点をまとめておき、シミュレーション（模擬実習）で解消しておくこと。 ・また早期に各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び栄養媒体等を完成させ、教員へ提出すること。 ・1回あたり2コマ（180分授業）[4時間]×15回=計60時間の授業とする。
科目学習の効果（資格）	栄養士として業務全体のマネジメントが理解出来る。各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び資料が作成出来る。給食における栄養管理、帳票類が理解出来る。原価管理（原価計算、損益分岐点分析、ABC分析等）が理解出来る。管理栄養士国家試験「給食経営管理論」分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション（授業の進め方、グループ構成、課題説明等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
2	献立作成	実習計画1（給与栄養目標量の設定、食品構成表の作成、献立の立て方等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
3	実習室、機器類	実習計画2（実習室案内及び機器類の説明、清掃、試作のための発注業務等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
4	大量調理	大量調理（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
5	大量調理と事務処理①	大量調理と事務処理①（試作、改善点の検討、評価・改善のための調査法、実習の全体評価等）	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
6	大量調理と事務処理②	大量調理と事務処理②（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、検食と保存食について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
7	大量調理と事務処理③	大量調理と事務処理③（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案等）、作成作業工程について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
8	温冷配膳車運用方法	従来の提供方法と温冷配膳車提供方法について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
9	大量調理と事務処理④	大量調理と事務処理④（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、栄養教育媒体の作成	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
10	大量調理と事務処理⑤	大量調理と事務処理⑤（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、アンケート用紙の作成	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
11	大量調理と事務処理⑥	大量調理と事務処理⑥（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、提供管理について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
12	大量調理と事務処理⑦	大量調理と事務処理⑦（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、配膳作業について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
13	大量調理と事務処理⑧	大量調理と事務処理⑧（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）、下膳と食器洗浄について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
14	大量調理と事務処理⑨	大量調理と事務処理⑨（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案等）、清掃と点検について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
15	原価計算、損益分岐点分析	原価計算の演習、加重平均栄養成分表作成、損益分岐点分析の演習、小テスト	配布した資料などを事前・事後に学習しておく

関連科目 「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理論Ⅱ」「給食運営実習（校外）」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	実習記録ノート及び演習(40%)、実習への取り組み(30%)、定期試験(20%)、小テスト(10%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	給食業務に必要な対応能力及び統率力を養える。			
担当者の 研究室等	農学部 8 号館 2F 教員室 223			
備考				

科目名	給食経営管理論Ⅱ	科目名 (英文)	Food Service Business Management Theory II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2060a0		

授業概要・目的	「給食経営管理論Ⅰ」で学修した内容を十分に理解した上で、給食運営管理における基本的マーケティングや組織を管理する際のマネジメントの考え方や方法を学ぶことを目的とする。具体的には、給食部門管理者として効率的かつ安全に運営するための組織管理・人事管理・それにかかる経費やマーケティングに関する基本的知識を学修し、そのシステム構築やマネジメントの知識と技能を修得し、経営管理能力を養う。また、危機管理の対応や、医療施設における給食運営についての実践例について学修し、実践的な解決能力を養う。																																																																		
到達目標	① 経営管理の意義と機能について説明できる。 ② 給食とマーケティングについて説明できる。 ③ 給食の衛生管理について説明できる。 ④ 給食の原価構成について説明できる。 ⑤ 給食運営の人員配置について説明できる。 ⑥ 各種大量調理技術について説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	・各班に分かれてテーマに沿って課題解決に取り組む。 ・予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、事前に疑問点を考えておくこと。また復習として授業時の板書や資料に基づいて各自のノートにまとめておくこと。 ・小テストを適宜実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	給食運営や食品流通の理解を基に、経営管理 (組織・人事、会計・原価、情報処理、事故・災害時対策等) について関連の資源 (食品の流通や食品開発の状況、給食に関わる組織やそれにかかる経費) との関係を経営的に述べ、栄養面、安全面に加え、経済面全般のマネジメントが行えるようにする。また、マーケティングの原理やその応用法、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法について述べる。また各種給食施設の特徴についても学修する。管理栄養士国家試験「給食経営管理論」分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>給食経営管理</td> <td>給食経営管理の概要</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>管理栄養士</td> <td>管理栄養士の役割</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>給食経営と組織</td> <td>経営管理の意義Ⅰ (給食経営と組織)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>給食経営管理の評価</td> <td>経営管理の意義Ⅱ (給食経営管理の評価)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>栄養・食事管理</td> <td>経営管理の機能と展開Ⅰ (栄養・食事管理)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>品質の標準化</td> <td>経営管理の機能と展開Ⅱ (品質の標準化：大量調理の技術特性)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>マーケティングの原理</td> <td>マーケティングⅠ (マーケティングの原理)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>マーケティングの活用</td> <td>マーケティングⅡ (マーケティングの活用)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>HACCP システム</td> <td>衛生管理の意義Ⅰ (HACCP システムの運用)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>危機管理対策</td> <td>衛生管理の意義Ⅱ (危機管理対策)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>雇用形態</td> <td>給食の人事管理Ⅰ (雇用形態)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>教育・訓練</td> <td>給食の人事管理Ⅱ (教育・訓練)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>原価計算</td> <td>給食の原価構成Ⅰ (原価計算)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>財務諸表</td> <td>給食の原価構成Ⅱ (財務諸表)</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>財務管理、その他</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	給食経営管理	給食経営管理の概要	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	2	管理栄養士	管理栄養士の役割	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	3	給食経営と組織	経営管理の意義Ⅰ (給食経営と組織)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	4	給食経営管理の評価	経営管理の意義Ⅱ (給食経営管理の評価)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	5	栄養・食事管理	経営管理の機能と展開Ⅰ (栄養・食事管理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	6	品質の標準化	経営管理の機能と展開Ⅱ (品質の標準化：大量調理の技術特性)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	7	マーケティングの原理	マーケティングⅠ (マーケティングの原理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	8	マーケティングの活用	マーケティングⅡ (マーケティングの活用)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	9	HACCP システム	衛生管理の意義Ⅰ (HACCP システムの運用)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	10	危機管理対策	衛生管理の意義Ⅱ (危機管理対策)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	11	雇用形態	給食の人事管理Ⅰ (雇用形態)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	12	教育・訓練	給食の人事管理Ⅱ (教育・訓練)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	13	原価計算	給食の原価構成Ⅰ (原価計算)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	14	財務諸表	給食の原価構成Ⅱ (財務諸表)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	15	まとめ	財務管理、その他	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	給食経営管理	給食経営管理の概要	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
2	管理栄養士	管理栄養士の役割	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
3	給食経営と組織	経営管理の意義Ⅰ (給食経営と組織)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
4	給食経営管理の評価	経営管理の意義Ⅱ (給食経営管理の評価)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
5	栄養・食事管理	経営管理の機能と展開Ⅰ (栄養・食事管理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
6	品質の標準化	経営管理の機能と展開Ⅱ (品質の標準化：大量調理の技術特性)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
7	マーケティングの原理	マーケティングⅠ (マーケティングの原理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
8	マーケティングの活用	マーケティングⅡ (マーケティングの活用)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
9	HACCP システム	衛生管理の意義Ⅰ (HACCP システムの運用)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
10	危機管理対策	衛生管理の意義Ⅱ (危機管理対策)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
11	雇用形態	給食の人事管理Ⅰ (雇用形態)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
12	教育・訓練	給食の人事管理Ⅱ (教育・訓練)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
13	原価計算	給食の原価構成Ⅰ (原価計算)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
14	財務諸表	給食の原価構成Ⅱ (財務諸表)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
15	まとめ	財務管理、その他	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
関連科目	「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理実習」「給食運営実習 (校外)」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『栄養管理と生命科学シリーズ』給食経営と管理の科学</td> <td>井川聡子、松月弘恵</td> <td>理工図書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>カラーグラフ食品成分表</td> <td></td> <td>実務出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『栄養管理と生命科学シリーズ』給食経営と管理の科学	井川聡子、松月弘恵	理工図書	2	カラーグラフ食品成分表		実務出版	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	『栄養管理と生命科学シリーズ』給食経営と管理の科学	井川聡子、松月弘恵	理工図書																																																																
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、授業への取り組み (30%)、小テスト (20%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	給食運営に関する実務面、栄養面、安全面などのマネジメントについて理解する。																																																																		
担当者の研究室等	農学部 8 号館 2F 教員室 223																																																																		
備考																																																																			

科目名	給食経営管理論 I	科目名 (英文)	Food Service Business Management Theory I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2059a0		

授業概要・目的
給食施設における管理栄養士の業務を理解するため、給食運営や経営の方法を修得することを目的とする。具体的には、関連法規、栄養食事管理、情報管理、食材料管理、原価管理、品質管理など、管理栄養士が給食におけるマネジメントを行うために必要な知識と技能を修得するため、特定給食施設において特定多人数に対する食事提供の適切な運営方法について理解する。また、栄養アセスメントの結果に基づき、大量調理の特性を理解した食事計画、安全な食事の提供のための衛生管理、それに対する評価・改善などを学修する。

到達目標
給食運営に関する食事計画、栄養面、安全面のマネジメントについて理解する。

授業方法と留意点
・毎回テーマに沿って授業を進め、最後の10分でその日の授業内容に関する小テストを実施し理解度をチェックする。
・予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、事前に疑問点を考えておくこと。また復習として授業終了時に実施する小テストで未回答だった項目は各自のノートにまとめておくこと。

科目学習の効果 (資格)
給食業務を行うために必要な栄養管理、献立作成などの食事の計画や作業を効率的かつ安全に運営するためのシステムの把握及び給食が生活習慣病予防の観点から果たす役割や栄養・衛生・品質・生産 (調理) の管理について学修する。管理栄養士国家試験「給食経営管理論」分野に該当し、資格取得に活かせる。
管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	給食について	給食の概念	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
2	給食経営管理	給食経営管理の概念	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
3	栄養管理	栄養・食事管理 I (栄養・食事管理の概要、栄養・食事アセスメント)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
4	食事管理	栄養・食事管理 II (栄養・食事計画、栄養・食事計画の実施)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
5	品質管理	給食の品質 (給食の品質の標準化)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
6	生産 (原価)	給食の生産 I (原価)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
7	生産 (調理) と提供	給食の生産 II (食材、生産 (調理) と提供)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
8	安全・衛生 (食品)	給食の安全・衛生 I (安全・衛生管理の概要、給食の安全・衛生の実際)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
9	安全・衛生 (災害)	給食の安全・衛生 II (事故・災害時対策)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
10	施設・設備管理	施設・設備管理 (生産 (調理) 施設・設備設計、食事環境の設計と設備)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
11	人事・事務	給食の人事・事務 (人事・労務管理、事務管理)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
12	給食施設 I	施設別給食経営管理 I (病院、高齢者・介護保険施設)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
13	給食施設 II	施設別給食経営管理 II (児童福祉施設、障害者福祉施設)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
14	給食施設 III	施設別給食経営管理 III (学校給食、事業所給食、外食・中食・配食)	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
15	まとめ	今期授業の確認・質疑応答	配布した資料などを事前・事後に学習しておく

関連科目
「給食経営管理論 II」 「給食経営管理実習」「給食運営実習 (校外)」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	栄養管理と生命科学シリーズ給食経営と管理の科学	井川聡子、松月弘恵	理工図書
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準)
定期試験 (50%)、授業への取り組み (30%)、小テスト (20%) で評価し、60%以上で合格とする。
・給食運営に関する栄養面、安全面のマネジメントについて説明することができるか。
・関係法規の内容について理解しているか。

学生へのメッセージ
給食運営に関する実務面、栄養面、安全面などのマネジメントについて理解する。

担当者の研究室等
農学部 8 号館 2F 教員室 223

備考

科目名	公衆栄養学実習	科目名 (英文)	Practice in Public Health Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	黒川 通典, 古野 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3058a0		

授業概要・目的	地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を、具体的な数値を用いた演習により養う。また、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な実践的手法を修得する。
到達目標	① 「公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ」で学修した内容を基本に具体的実践事例をとりあげることにより、より深く理解する。 ② 健康栄養の課題に関する情報収集や解決に向けてのプロセスを理解する。 ③ 確率論的なものの見方を理解し、統計学的推測（推定と検定）の原理と方法を説明できる。 ④ 調査や測定により得られた数値・文字データ特性を考察するための、適切な集計方法や統計処理方法を選択できる。 ⑤ 調査や測定により得られた結果を適切に考察し、図表等で表現できる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義、およびコンピュータを使った演習を行う。また、必要に応じてグループワークを行う。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	健康増進計画、食育推進計画の実態把握	地方自治体が作成する健康増進計画、食育推進計画を調査する	自治体が作成した健康増進計画、食育推進計画を把握しておく
3	健康増進計画、食育推進計画の評価	地方自治体が作成する健康増進計画、食育推進計画を評価し、プレゼンテーションを行う	自治体が作成した健康増進計画、食育推進計画を把握しておく
4	公衆栄養プログラムの目標設定 (優先課題の検討)	地方自治体の健康課題について、科学的根拠に基づき優先順位付けを行う	自治体が作成した健康増進計画、食育推進計画を把握しておく
5	公衆栄養プログラムの目標設定 (行動目標の作成)	設定した健康課題について、KJ法を用いて行動目標を設定する	自治体が作成した健康増進計画、食育推進計画を把握しておく
6	公衆栄養プログラムの作成	設定した行動目標を達成するための公衆栄養プログラム (事業計画) を作成する	自治体の公衆栄養プログラムを把握しておく
7	公衆栄養プログラムの立案 (プリシード・プロシードモデルの作成)	公衆栄養プログラムを効果的に実施するためのプリシード・プロシードモデルを作成し、プレゼンテーションを行う	プレゼンの練習を行っておく
8	地域診断	作成した公衆栄養プログラムのアセスメントのための質問票調査の企画と設計を行う	社会調査について調べておく
9	食事記録調査	24時間食事記録調査の栄養計算を行う	事前に食事記録調査を実施しておく
10	食事記録調査の分析	食事記録調査の集計を行う	統計用語について、理解しておく
11	食事記録調査と食事摂取基準	食事記録調査の結果を日本人の食事摂取基準を用いて個人と集団の評価を行う	日本人の食事摂取基準を把握しておく
12	食物摂取頻度調査法	食物摂取頻度調査による食事調査を行い、栄養計算する	食物摂取頻度調査法の注意点を把握しておく
13	食物摂取頻度調査の分析	食物摂取頻度調査の結果を日本人の食事摂取基準を用いて個人と集団の評価を行う	日本人の食事摂取基準を把握しておく
14	食事調査の評価	これまで行った質問票調査データ、栄養計算データをもとに分析を行う	検定方法を確認しておく
15	報告書の作成	食事調査と質問票調査の結果を用いて報告書を作成する	統計手法について、理解しておく

関連科目 公衆栄養学Ⅰ・公衆栄養学Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公衆栄養学実習	鈴木三枝・中谷弥栄子	第一出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	毎回の提出物 (75%)、プレゼンテーション (25%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	公衆栄養学研究室

科目名	公衆栄養学Ⅱ	科目名 (英文)	Public Health Nutrition II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3057a0		

授業概要・目的	我主に我が国の健康・栄養問題と主要な健康・栄養施策を理解するとともに地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また、集団の健康・栄養問題について、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。
到達目標	地域集団の健康問題の現状認識と生活習慣の改善に向けた計画や政策および制度について、現在取り組まれている政策や社会制度を具体的な計画やプログラムを理解している。 ①国民の健康づくりにおける保健・医療・福祉の位置づけと相互の関係について概説できる。 ②現在の国民医療・福祉制度について概説できる。 ③栄養疫学、食事調査の基本的な考え方を理解している。 ④公衆栄養マネジメントを説明できる。
授業方法と留意点	主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、必要に応じて映像を使った課題レポートをもとに、グループ討議を行う。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	健康増進基本指針と地方計画	健康増進基本指針、健康増進地方計画、食育推進計画について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	2	公衆栄養マネジメント	公衆栄養マネジメントの概念とプロセス、プリシード・プリシードモデルについて	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	3	公衆栄養アセスメント	公衆栄養アセスメントの目的と枠組み、その方法について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	4	公衆栄養プログラムの目標	公衆栄養プログラムの目標設定、計画、実施について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	5	公衆栄養プログラムの実施・評価	過程・影響・結果評価とフィードバックについて	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	6	公衆栄養プログラムの展開 (地域)	地域特性に対応した公衆栄養プログラムについて	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	7	公衆栄養プログラムの展開 (食環境・特性別)	食環境づくりや地域集団の特性別に対応した公衆栄養プログラムについて	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	8	栄養疫学の概要	疫学の概要、歴史、取り扱う分野について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	9	栄養疫学の指標	疾病頻度、曝露効果の測定について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	10	栄養疫学の方法	観察研究と介入研究	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	11	栄養疫学のための食事調査法	食品と栄養素	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	12	食事摂取量の測定方法	食事調査の種類と特徴	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	13	食事摂取量と食事摂取基準	日本人の食事摂取基準を用いた評価	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	14	食事摂取基準の評価方法	エネルギー調整栄養素摂取量、データの処理と解析について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	15	まとめ	これまでの授業内容についての再確認	事前・事後に教科書を読み、用語調べを行う

関連科目 公衆衛生学・臨床栄養学・応用栄養学・栄養教育学・給食経営管理論と関連しています

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 第7版	吉池信男、林宏一 編集	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 (最新版)		(財)厚生統計協会
	2	国民健康・栄養調査報告 (最新版)	健康栄養情報研究会 編	第一出版
	3	日本人の食事摂取基準 (最新版)	厚生労働省	第一出版

評価方法 (基準)	各回提出の確認テスト 30%、定期試験 70%
学生へのメッセージ	公衆栄養学Ⅱでは、主に公衆栄養学に関する実務的技能を扱います。
担当者の研究室等	公衆栄養学研究室 (221)
備考	

科目名	公衆栄養学 I	科目名 (英文)	Public Health Nutrition I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2056a0		

授業概要・目的	我が国や諸外国の健康・栄養問題と主要な健康・栄養施策、栄養に関する各種統計を理解するとともに、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また、さらに各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。
到達目標	① 健康の考え方について説明できる。 ② プライマリ・ヘルスケアについて説明できる。 ③ 疾病の一次、二次、三次予防について説明できる。 ④ 我が国や諸外国における健康・栄養に関する現状や問題について理解する。 ⑤ 地域や集団の健康を維持・増進するのに必要な栄養政策について理解する。
授業方法と留意点	主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、必要に応じて映像を使った課題レポートをもとに、グループ討議を行う。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	公衆栄養学の概念	公衆栄養学の意義や目的について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	2	公衆栄養活動の沿革	集団の健康の維持・増進と疾病の予防を図る公衆栄養活動の沿革について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	3	社会環境と健康・栄養問題	我が国の人口問題・長寿社会や食糧問題について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	4	食健康状態と食事の変化	エネルギー・栄養素摂取量の変化、食生活の変化について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	5	食料需給表、食料自給率	我が国の食料自給率・食品生産・流通について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	6	国民健康・栄養調査の目的・方法	国民健康・栄養調査の目的・方法について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	7	国民健康・栄養調査結果の概要	最新の国民健康・栄養調査結果の概要について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	8	公衆栄養活動と管理栄養士	公衆栄養活動と管理栄養士・栄養士制度について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	9	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、健康栄養政策	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題および健康栄養政策について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	10	法規 (地域保健法)	地域保健法について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	11	法規 (健康増進法)	健康増進法について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	12	健康日本 21	健康日本 21・健康増進計画について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	13	公衆栄養施策 (健康・栄養関連の指針・ガイドライン)	食生活指針・運動指針について	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	14	公衆栄養施策 (健康・栄養関連の教育ツール)	食事バランスガイドについて	事前に教科書を読み、用語調べを行う・確認テストの再確認を行う
	15	まとめ	これまでの授業内容についての再確認	事前・事後に教科書を読み、用語調べを行う

関連科目 公衆衛生学・臨床栄養学・応用栄養学・栄養教育学・給食経営管理論と関連しています

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 第7版	吉池信男、林宏一 編集	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 (最新版)		(財)厚生統計協会
	2	国民健康・栄養調査報告 (最新版)	健康栄養情報研究会 編	第一出版
	3	日本人の食事摂取基準 (最新版)	厚生労働省	第一出版

評価方法 (基準)	各回提出の確認テスト 30%、定期試験 70%
学生へのメッセージ	公衆栄養学 I では、主に公衆栄養学に関する知識を扱います。
担当者の研究室等	公衆栄養学研究室 (221)
備考	

科目名	臨床栄養学実習Ⅲ	科目名 (英文)	Practice in Clinical Nutrition III
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	畦西 克己、中田 恵理子
ディプロマポリシー (DP)	DP5○、DP6○、DP7○、DP8○		
科目ナンバリング	OAF3055a0		

授業概要・目的
臨床栄養学Ⅱ～Ⅳで修得した病態や栄養状態に基づいた栄養管理法を修得することを目的とする。臨床栄養学実習Ⅱで修得した栄養評価手法を用いて、栄養アセスメントと栄養診断、栄養介入の技術を学修する。各種栄養療法（経口栄養・経腸栄養・静脈栄養）の特徴と実施方法、栄養状態の評価・判定、栄養介入計画の立案・実施、モニタリングや再評価という一連の栄養管理プロセスおよび各種疾患における栄養管理法を修得する。具体的には、肝硬変や膵炎といった消化管疾患、摂食嚥下障害、エネルギーたんぱく質欠乏障害などの症例に対する栄養評価・判定、栄養介入計画の立案・実施、モニタリング、再評価について学修する。さらに必要に応じて、疾患に応じた病態別治療用特殊食品の活用や献立作成および調理を実施する。

- 到達目標**
- ①栄養スクリーニング・栄養アセスメントの方法および手技・技法を身につける。
 - ②栄養管理計画が立案できる。
 - ③疾患に応じた栄養管理の概要について説明できる。
 - ④栄養管理プロセスの概要について説明できる。
 - ⑤疾患に応じた栄養療法および食事療法の概要が説明できる。

授業方法と留意点
授業方法は下記の授業計画に従い、本実習はグループワークを通して、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を育成する。必要に応じてテキストの使用や資料を配布する。実践形式を重要視した授業とし、レポートおよび課題の提出を求める。

科目学習の効果 (資格)
今後の病院臨床実習に必要な病態と栄養に関する知識や技術を修得するために重要科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	栄養スクリーニング①	低栄養症例による主観的包括的評価 (SGA) および客観的利用評価 (OGA) を行う	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
2	栄養スクリーニング②	NST (栄養サポートチーム) による低栄養症例検討とベッドサイド問診による栄養スクリーニングを行う	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
3	栄養アセスメント①	低栄養症例の栄養アセスメント・身体徴候の観察と問診・身体計測 (上腕三頭筋部、肩甲骨下部など)	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
4	栄養アセスメント②	栄養摂取量の評価、24時間思い出し法、食事記録による調査、食生活状況調査 (問診)、食生活状況の評価	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
5	栄養アセスメント③	体組成の評価 (インピーダンス法)、タンパク質栄養状態の評価 (クレアチニン身長係数、窒素出納値の推定)、空腹時エネルギー対処および呼吸症など	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
6	栄養アセスメント④	症例による必要栄養量の算出	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
7	栄養療法の実際①	経腸栄養療法 栄養投与ルートの決め方および栄養剤の種類と選択	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
8	栄養療法の実際②	経腸栄養療法 投与開始時期、初期量、投与速度、増加・減量のタイミング	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
9	栄養療法の実際③	静脈栄養療法 (中心静脈栄養法、抹消静脈栄養法) 必要エネルギー量の計算	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
10	栄養管理計画①	消化器疾患における低栄養症例の栄養管理計画の作成	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
11	栄養管理計画②	周術期における低栄養症例の栄養管理計画の作成	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
12	咀嚼・嚥下障害の評価	粘性評価 (同心円法)、物性評価 (硬さ、凝集性、付着性)、舌圧測定、筋電図測定、咬合力測定	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
13	摂食嚥下障害の食事①	嚥下困難食の献立作成	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
14	摂食嚥下障害の食事②	嚥下困難食の調整	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成
15	鉄欠乏性貧血の食事	鉄欠乏性貧血食の調整	テキスト、配布資料などを事前に学習しておく。レポート作成

関連科目 臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	臨床栄養学トレーニングテキスト症例から学ぶ栄養ケア	本田佳子 編者	医歯薬出版
2	ブックス新版臨床栄養学 [第4版]	田中明、加藤昌彦 編著	建帛社	
3	カレント臨床栄養学 [第3版]	明渡陽子、長谷川輝美、山崎大治 編著	建帛社	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				

	3		
評価方法 (基準)	各回の課題への取り組み、グループワークを主体とする実習のため、欠席、遅刻、早退はしないこと（出席を重視）。遅刻3回で1日欠席とする。4日以上欠席で単位不認定とする。レポートおよび課題80%、出席状況を含め授業態度20%により評価する。その他、課題への取り組み状況により評価を行う。		
学生への メッセージ	病態別の栄養管理プロセスおよび栄養ケア・マネジメント、栄養指導、食事療法の考え方や方法を修得するための実習です。今まで学修してきた臨床栄養学1～Ⅲをしっかりと復習しておいてください。		
担当者の 研究室等	8号館2階 臨床栄養学第2研究室 (220)		
備考			

科目名	臨床栄養学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practice in Clinical Nutrition II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	百木 和・織田 奈央子・中田 恵理子
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF3054a0		

授業概要・目的	「臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の講義で修得した栄養管理プロセスや疾患別栄養管理の考え方を基に、臨床現場における管理栄養士の業務内容や栄養管理手法の実践について修得することを目的とする。臨床栄養管理における栄養管理プロセスに用いられる手法である臨床診査、臨床検査、身体計測、食事調査法、必要栄養量の算定方法、栄養補給法の検討や疾患に応じた栄養指導など、それぞれの実習を通して、臨床現場において管理栄養士が身につけるべき技術の実践について学修する。
到達目標	栄養ケアプロセスに必要な技術を理解し、活用できる。
授業方法と留意点	個別あるいはグループワークでの取り組みを主体とする実習および講義（ビデオ、スライド含む）により行う。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験受験資格対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実習の進め方 栄養スクリーニングの実践	実習のオリエンテーション、栄養スクリーニング (SGA, MNA) の実践	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
2	栄養アセスメントの実践	栄養アセスメント (ODA) の実践	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
3	身体計測の実践	身体計測の手法と評価法	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
4	食事調査法の実践	食事調査法の概要と自身の食事記録からの栄養価計算	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
5	食事結果からの評価法	栄養価計算結果を基にした対象者の評価	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
6	臨床検査、必要量の算出方法	症例を用いた臨床検査値の評価、必要栄養量の考え方	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
7	輸液、栄養剤の考え方	静脈栄養、経腸栄養の考え方と使われる製剤の種類	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
8	栄養管理計画作成①	脂質異常症症例の栄養管理計画作成	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
9	栄養管理計画作成②と発表	脂質異常症症例の栄養管理計画作成および発表	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
10	症例提示、検討①	ロールプレイに向けて症例提示 (代謝、内分泌、消化器、循環器疾患)、発表準備	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
11	指導媒体作成	媒体作成、発表準備	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
12	模擬栄養指導①	個別栄養指導のロールプレイ①	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
13	症例提示、検討②	ロールプレイに向けて症例提示 (糖尿病、脂質異常症、腎、呼吸器疾患)、発表準備	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
14	指導媒体作成②	媒体作成、発表準備	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。
15	模擬栄養指導②	個別栄養指導のロールプレイ② (患者役と栄養士役入れ替え)	関連科目の復習、配布した資料などを事前・事後に学習し、課題に対して準備しておく。

関連科目 基礎栄養学、臨床医学概論、臨床病態学、応用栄養学等 栄養系科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践 臨床栄養	東口 高志	医学書院
2	カレント 臨床栄養学	明渡 陽子ほか	建帛社	
3				

評価方法 (基準) 各回の課題への取り組み、グループワークを主体とする実習のため、欠席、遅刻、早退はしないこと。遅刻 3回で1日欠席とする。5日以上の欠席で単位不認定とする。課題 60%、小テスト 20%、授業への取り組み (ルーブリック評価) 20%により評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 2年次前期 臨床栄養学Ⅰの講義で学習した内容を実践する内容です。しっかり復習をして、臨んでください。

担当者の研究室等 8号館2階 219研究室

備考

科目名	臨床栄養学実習 I	科目名 (英文)	Practice in Clinical Nutrition I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	百木 和・織田 奈央子・中田 恵理子
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF2053a0		

授業概要・目的	「臨床栄養学 I・II」の講義で修得した治療食や疾患別栄養管理の考え方を基に、臨床現場における治療食の実際について修得することを目的とする。臨床栄養管理における栄養補給法や食品構成に基づく献立作成、発注、調理を行い、成分栄養別治療食の食事療法の実際を学修する。具体的には、展開食の基本を理解した上で、常食から軟食・エネルギーコントロール食・たんぱく質コントロール食への展開および食物アレルギー食、嚥下調整食の実際について学修する。さらに、治療食の食事療法に用いられる特別治療用食品の実際についても学修する。
到達目標	① 成分栄養別治療食の食事療法を理解する。 ② 食品構成に基づく治療食の献立作成を行うことができる。
授業方法と留意点	・個別あるいはグループワークでの取り組みを主体とする実習および講義（ビデオ、スライド含む）により行う。 ・1回あたり1.5コマ（135分授業）[3時間]×15回=計45時間の授業とする。授業内容により、3コマ[6時間]で実施する回がある。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実習の進め方、確認テスト 治療食の概要	実習のオリエンテーション、治療食の概要	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
2	一般治療食の概要	一般治療食の概要と展開食献立作成の際の注意点	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
3	展開食の献立作成	展開食の献立作成と栄養価計算	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
4	栄養価調整、発注	各献立の栄養価調整と食材発注	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
5	軟食調理	全粥、軟食の調理実習	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
6	小テスト、エネルギーコントロール食（EC食）の概要	成分栄養別治療食の概要と糖尿病食品交換表	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
7	EC食の献立作成	エネルギーコントロール食の献立作成と栄養価計算	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
8	EC食の栄養価調整、発注	各献立の栄養価調整と食材発注	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
9	EC食の調理	エネルギーコントロール食の調理実習	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
10	小テスト、たんぱく質コントロール食（PC食）の概要	たんぱく質コントロール食の概要と腎臓病食品交換表	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
11	PC食の献立作成	たんぱく質コントロール食の献立作成と栄養価計算	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
12	PC食の栄養価調整	各献立の栄養価調整と食材発注	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
13	PC食の栄養価調整、発注	各献立の栄養価調整と食材発注	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
14	PC食の調理	たんぱく質コントロール食の調理実習	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う
15	食物アレルギー対応食、嚥下調整食の実際と調理	食物アレルギーの概要と対応食、嚥下調整食の実際	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく 授業内で指示する課題を行う

関連科目	調理学、給食経営管理論、臨床栄養学1、2、3、4
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本食品成分表 2021 八訂		医歯薬出版
2	糖尿病食事療法のための食品交換表第7版		日本糖尿病学会	
3	腎臓病食品交換表 第9版	黒川 清監修、中尾 俊之他 編	医歯薬出版	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	各回の課題への取り組み、グループワークを主体とする実習のため、欠席、遅刻、早退はしないこと。 遅刻3回で1日欠席とする。5日以上欠席で単位不認定とする。 課題60%、小テスト20%、授業への取り組み(ルーブリック評価)20%により評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	治療食の献立作成、調理は、疾患ごとに使える食材に制限があり、通常の調理とは異なる点が多々あります。 臨床栄養学の講義で学んだ内容を復習して臨んでください。
担当者の 研究室等	8号館2階 臨床栄養学第1研究室(219)
備考	食品成分表は、改訂に伴って成分値の変更があるため、調理学実習で購入しているものや中古のもので兼用せずに購入してください。 電卓が必須です。 調理のためのベーシックデータ第5版(調理学実習で購入済)を持参してください。

科目名	栄養薬理学	科目名 (英文)	Nutritional Pharmacology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3052a0		

授業概要・目的	「栄養薬理学」は、管理栄養士として医療現場で汎用される医薬品や経腸栄養に必要経腸及び経静脈栄養剤について学修する。たとえば、NST (栄養サポートチーム) の一員として実施する栄養管理や栄養指導などにおいて、薬物療法に使用される基本的な医薬品の薬理作用や、経腸・経静脈栄養剤に関する薬剤情報は必要な基礎知識である。本講義では、特に生活習慣病の薬物療法に使用されている医薬品、並びに経腸・経静脈栄養剤に使用される主な経腸・経静脈栄養剤の適正使用に関する知識、栄養管理に必要な食品と薬物との相互作用についての情報などを修得することを目的とする。
到達目標	① NSTにおける管理栄養士の役割について概説できる。 ② 生活習慣病における食事・運動の修正項目について概説できる。 ③ 医薬品と食べ物との相互作用の例を挙げて説明できる。 ④ 経腸・経静脈栄養法の知識を身につける。 ⑤ 生活習慣病の薬物療法に汎用される医薬品についての知識を身につける。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行い、必要に応じてDVDなどによる画像を使用し、理解を深める。各講義前に、事前学習で閲読した教科書の内容についての理解度確認テスト (15%) 及び、授業後に授業内容の理解度確認テスト (15%) を moodle で実施する。事後学習では、授業のふりかえりレポート (10%) を moodle に提出する。 ※moodleを使用するため、各自のスマートフォンなどのデバイスを十分充電してきてください。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格に必要な科目の一つです。臨床栄養学での経腸栄養や経静脈栄養に関係する科目であり、生活習慣病の薬物治療も学べます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第1章 薬理学の基礎知識	・ガイダンス、薬理学の基礎知識 ・理解度確認テスト I (授業前) 及び II (授業後) の実施 (moodle)	・事前学習: 教科書 (教) p1~41 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出 (moodle)
2	第2章 食べ物と医薬品の相互作用	・薬物代謝酵素と各種食材、納豆類や高カリウム含有食材とワルファリンの薬効変化などを学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p42~56 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
3	第3章 さまざまな疾患に利用される治療薬	・抗炎症薬、狭心症などの治療薬について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p57~71 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
4	第4章 生活習慣病と治療薬 ・生活習慣病と薬物治療①	・1型糖尿病について、インスリン療法について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p72~81 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
5	第4章 生活習慣病と治療薬 ・生活習慣病と薬物治療②	・2型糖尿病について、経口血糖降下薬およびインスリン療法について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p72~81 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
6	第4章 生活習慣病と治療薬 ・生活習慣病と薬物治療③	・脂質異常症と薬物療法について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p82~88 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
7	第4章 生活習慣病と治療薬 ・生活習慣病と薬物治療④	・高血圧症と薬物療法について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p88~99 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
8	第4章 生活習慣病と治療薬 ・生活習慣病と薬物治療⑤	・高尿酸血症と薬物療法について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p100~107 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
9	第4章 生活習慣病と治療薬 ・生活習慣病と薬物治療⑥	・骨粗しょう症と薬物療法について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p107~116 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
10	・食事・運動などの生活習慣修正項目について	・各種生活習慣病の食事・運動などの生活習慣における修正項目について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 指定された資料を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
11	第5章 経腸栄養剤 ・経腸栄養法及び経静脈栄養について①	・経腸栄養法について学ぶ。 ・経腸栄養ルートとそれらの特徴 ・中心静脈栄養法と末梢静脈栄養法の各特徴について ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p117~123 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
12	第5章 経腸栄養剤 ・経腸栄養法について②	・経腸輸液 (栄養剤) と濃厚流動食などの種類、特徴及び投与方法を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p123~147 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
13	第5章 経腸栄養剤 ・経静脈栄養について③	・病態別栄養剤について学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p148~163 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
14	第6章 経静脈栄養の基礎輸液に関する基本的知識	・輸液の目的、輸液成分、浸透圧、身体の構成成分及び電解質の役割について学ぶ。 ・中心静脈栄養法と末梢静脈栄養法の各特徴について ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 教科書 (教) p164~180 を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出
15	臨床栄養管理について	・栄養管理の症例として学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習: 指定された資料を閲読 ・事後学習: ふりかえりレポートの提出

関連科目	臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ、薬理学、管理栄養士総合演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養薬理学	田中芳明・中村 強 編	建帛社

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学〔第3版〕	中嶋敏勝 編	医歯薬出版
	2	薬理学テキスト	佐藤 進 編	廣川書店
	3			
評価方法 (基準)	各講義前に、①事前学習で閲読した教科書の内容についての理解度確認テスト(15%)、授業後に授業内容の理解度確認テスト(15%)を実施する。事後学習では振り返りレポート(10%)を提出する。毎回実施するこれらの評価点(15回:合計評価割合40%)および定期試験(評価割合60%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	毎回の授業では、事前学習、事後学習を実行することで、管理栄養士が必要な薬物に関する知識が身につけてきます。			
担当者の 研究室等	農学部食品栄養学科 研究室 225 (農学部 2F)			
備考				

科目名	臨床栄養学Ⅳ	科目名 (英文)	Clinical Nutrition IV
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3051a0		

授業概要・目的 「臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で修得した栄養管理法の基礎知識を基に、臨床現場における管理栄養士の業務内容の実際を修得することを目的とする。具体的には、症例に対して、栄養管理に必要な情報収集、栄養評価、栄養診断、栄養介入、モニタリング・再評価といった栄養管理法の実際を修得する。また、症例検討により、摂食機能障害、胃切除、炎症性腸疾患、肝硬変、脾疾患、低栄養、術前・術後、周術期、廃用症候群などの病態に対する適切な栄養管理法について修得する。また、介護施設や在宅における要支援・要介護レベルに応じた栄養管理について学修する。具体的には、咀嚼・嚥下機能低下、口腔疾患、悪性腫瘍、サルコペニア、ロコモティブシンドロームなどによる低栄養症例の栄養管理法および食事指導法を修得するとともに、介護予防についても学修する。加えて、乳幼児期・小児期の栄養管理についても修得する。

到達目標 ① 各疾患における病態や栄養生理および代謝と栄養管理について理解できる。
② 各疾患における病態に応じた適切な栄養療法について理解できる。
③ 傷病者・介護者の栄養管理や経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターの解釈について理解できる。
④ 症例に基づいた各疾患における食事療法および栄養管理を計画・実施できる能力を身につける。
⑤ NSTにおける管理栄養士の役割について理解し、臨床栄養の知識を修得する。

授業方法と留意点 下記の授業計画に従い、主に教科書に沿ってパワーポイントで講義を行い、必要に応じて資料を配布します。予習を重要視した授業形式とし、事前学習としてオンデマンドによる講義およびテキスト学習を行う。また、復習確認として、各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。

科目学習の効果 (資格) 臨床栄養学Ⅳは管理栄養士国家試験において広範囲から出題されている。また、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの発展的な内容が多いことから、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習を兼ねて授業を進めていく。今後の病院臨床実習に必要な病態と栄養に関する知識や技術を修得するために重要科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	高齢期病態の復習	高齢期に陥りやすい病態と栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
2	高齢期 (症例検討) 摂食・嚥下障害、虚弱、サルコペニア	高齢期に陥りやすい病態と栄養管理、症例に基づく栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
3	摂食・嚥下障害 (症例検討)	摂食嚥下障害の病態と栄養管理、症例に基づく栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
4	サルコペニア・ロコモティブシンドローム、廃用性筋萎縮症 (症例検討)	サルコペニア・ロコモティブシンドローム、廃用性筋萎縮症の病態と栄養管理、症例に基づく栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
5	消化器疾患 (症例検討) 胃・十二指腸潰瘍、胃癌	胃潰瘍、胃癌などの病態と栄養管理、症例に基づく栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
6	消化器疾患 (症例検討) 炎症性腸疾患	炎症性腸疾患の病態と栄養管理、症例に基づく栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
7	消化器疾患 (症例検討) 肝硬変	肝硬変の病態と栄養管理、症例に基づく栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
8	消化器疾患 (症例検討) 急性膵炎、慢性膵炎	急性膵炎、慢性膵炎の病態と栄養管理、症例に基づく栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
9	癌の栄養管理に関する復習	癌の病態と栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
10	癌治療 (症例検討) 化学療法・放射線療法	化学療法および放射線療法の副作用による味覚障害、食欲不振に対する栄養管理と症例に基づく栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
11	癌緩和ケアおよび終末期ケア (症例検討)	癌緩和ケアおよび終末期ケアと栄養管理、症例に基づく栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
12	手術、周術期管理の復習	外科侵襲時の代謝と栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
13	手術、周術期 (症例検討)	消化器外科手術と病態および栄養管理、症例に基づく栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
14	乳幼児期・小児期の疾患 (症例検討)	発熱、脱水、下痢、消化不良などの病態と栄養管理、症例に基づく栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
15	食物アレルギー管理の実際	食物アレルギーの栄養管理と食事指導	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。

関連科目 臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、応用栄養学Ⅰ、基礎栄養学、解剖生理学、臨床医学概論、臨床病態学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	臨床栄養教育トレーニングテキスト 症例から学ぶ栄養ケア	本田佳子 編者	医歯薬出版株式会社
2	ブックス新版臨床栄養学 [第4版]	田中明、加藤昌彦 編著	建帛社
3	カレント臨床栄養学 [第3版]	明渡陽子、長谷川輝美、山崎大治 編著	建帛社

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準) 出席回数が授業回数の2/3未満の者は、評価の対象外とする。また、遅刻または早退した場合は、3回につき欠席1回分として取り扱う。定期試験にて、学習内容に関する知識・理解力を評価する(60%)、予習・復習の成果を小テストで評価(30%)、授業への取り組み(ルーブリック評価・10%)で評価し、60%以上で合格とする。

学生への 授業後に毎回、前回授業の小テストを実施する。関連科目の復習をしっかりと行い、教科書やノートの重要用語および項目などを理解しておくこと。

メッセージ	
担当者の研究室等	8号館2階 臨床栄養学第2研究室 (220)
備考	

科目名	臨床栄養学Ⅲ	科目名 (英文)	Clinical Nutrition III
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3050a0		

授業概要・目的	各器官系の代表的な疾患に対する栄養学的な病態の理解ならびに栄養管理プロセスの理解を深め、栄養評価・栄養に関連する問題の抽出、栄養介入計画（栄養補給法を考慮した栄養学的治療法と栄養教育法を含む）の立案・実施、モニタリング、再評価のPDCAに沿った栄養管理法の修得を目的とする。消化器系疾患を中心に栄養学的に病態を理解し、疾患に基づいた栄養管理プロセスの修得を目的とする。具体的には、胃・十二指腸潰瘍および炎症性腸疾患などの胃腸疾患、肝炎および肝硬変などの消化器疾患、咀嚼・嚥下機能低下を伴う口腔疾患、悪性腫瘍、術前・術後周術期の病態に対応する適切な栄養管理のための知識とその方法を修得する。
到達目標	① 低栄養に陥る消化器疾患、癌、高齢期疾患などの栄養学的な病態および食事療法の理論を理解できる。 ② 総括的な栄養管理プロセスについて理解ができ、栄養教育（栄養指導）に結びつけることができる。 ③ 各疾患の栄養評価、栄養管理計画および栄養介入（栄養補給法）の知識を修得する。 ④ 各疾患の栄養モニタリングと栄養管理の評価について、理解できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主に教科書に沿ってパワーポイントで講義を行い、必要に応じて資料を配布します。予習を重要視した授業形式とし、事前学習としてオンデマンドによる講義およびテキスト学習を行う。また、復習確認として、各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。 状況に応じて、Teams、Formsを使用した遠隔授業（双方型）に切り替える。
科目学習の効果（資格）	臨床栄養学Ⅲは管理栄養士国家試験において広範囲から出題されている。また、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱの発展的な内容が多いことから、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱの復習を兼ねて授業を進めていく。今後の病院臨床実習に必要な病態と栄養に関する知識や技術を修得するために重要科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
1	栄養診断と栄養介入	栄養アセスメントに基づいた栄養状態の判定と栄養療法介入後の再評価	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
2	低栄養と原因疾患	低栄養に関わる摂食・嚥下障害、認知症、サルコペニア、褥瘡、癌、肝硬変、短腸症候群、熱傷などの病態栄養と栄養管理	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
3	摂食障害	神経性食欲不振症、神経性大食症の病態栄養、栄養管理および食事指導	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
4	咀嚼障害と認知症	咀嚼障害と認知症の病態栄養および食事療法	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
5	フレイルティ（虚弱）とサルコペニア	フレイルティ（虚弱）とサルコペニアの定義および病態栄養、および食事指導	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
6	摂食・嚥下障害	摂食・嚥下障害の定義および病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
7	摂食・嚥下障害と嚥下調整食	学会分類嚥下調整食の概要と摂食・嚥下機能別の活用および食事指導	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
8	消化器疾患 胃・十二指腸潰瘍、胃癌	胃・十二指腸潰瘍、胃癌などの病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
9	消化器疾患 炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）	炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
10	消化器疾患 肝炎、肝硬変、脂肪肝	肝炎、肝硬変、脂肪肝の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
11	消化器疾患 急性膵炎、慢性膵炎	急性膵炎、慢性膵炎の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事療法	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
12	手術、周術期	術前、術後の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
13	クリティカルケア 外傷、熱傷など	クリティカルケア（外傷、熱傷など）の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
14	癌治療（化学療法・放射線治療）	化学療法・放射線治療の病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事指導	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。
15	癌緩和ケアおよび終末期ケア	癌緩和ケアおよび終末期ケアの病態栄養、栄養アセスメント、栄養管理計画、モニタリングと評価および食事指導	テキスト、配布資料などを事前・事後に学習しておく。

関連科目 臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、応用栄養学Ⅰ、基礎栄養学、解剖生理学、臨床医学概論、臨床病態学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ブックス新訂臨床栄養学〔第4版〕	田中明、加藤昌彦 編著	建帛社
2	カレント臨床栄養学〔第3版〕	明渡陽子、長谷川輝美、山崎大治 編著	建帛社
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準)	出席回数が授業回数の 2/3 未満の者は、評価の対象外とする。また、遅刻または早退した場合は、3 回につき欠席 1 回分として取り扱う。定期試験にて、学習内容に関する知識・理解力を評価する(60%)、予習・復習の成果を小テストで評価(30%)、授業への取り組み(ルーブリック評価・10%)で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	授業後に毎回、前回授業の小テストを実施する。関連科目の復習をしっかりと行い、教科書やノートの重要用語および項目などを理解しておくこと。
担当者の 研究室等	8 号館 2 階 臨床栄養学第 2 研究室 (220)
備考	

科目名	臨床栄養学Ⅱ	科目名 (英文)	Clinical Nutrition II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	百木 和
ディプロマポリシー (DP)	DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF2049a0		

授業概要・目的	「臨床栄養学Ⅰ」で修得した栄養管理プロセスの基礎知識を基に、各器官系の代表的な疾患に対する栄養学的な病態の理解、及び栄養評価・栄養に関連する問題の抽出、栄養介入計画（栄養補給法を考慮した栄養学的治療法と栄養教育法を含む）の立案・実施、モニタリング、再評価のPDCAに沿った栄養管理法の修得を目的とする。 代謝系疾患を中心に栄養学的に病態を理解し、疾患に基づいた栄養管理プロセスの修得を目的とする。具体的には、栄養障害、肥満・代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、呼吸器疾患、筋・骨格系疾患、小児・妊産婦疾患の病態に対応する適切な栄養管理のための知識とその方法を修得する。
到達目標	① 疾患毎の病態および食事療法の理論について説明することができる。 ② 疾患の予防治療のための栄養管理および栄養教育方法を考えることができる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主に教科書に沿って講義を行い、必要に応じて資料を配布する。予習を重要視した授業形式とし、復習確認として、講義前に小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、栄養障害	たんぱく質エネルギー栄養障害 (PEM) について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
2	肥満	肥満症、メタボリックシンドロームについて	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
3	糖尿病	糖尿病の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
4	脂質異常症	脂質異常症の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
5	小テスト、高尿酸血症	高尿酸血症、痛風の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
6	内分泌疾患	甲状腺疾患等の内分泌疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
7	循環器疾患 (虚血性心疾患)	動脈硬化症、虚血性心疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
8	循環器疾患 (うっ血性心不全)	うっ血性心不全の食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
9	小テスト、腎疾患 (糸球体腎炎)	腎疾患の概略と糸球体腎炎、ネフローゼの食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
10	腎疾患 (糖尿病性腎症)	糖尿病性腎症、CKDの概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
11	腎疾患 (透析)	透析療法の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
12	小テスト、呼吸器疾患	COPD、喘息等の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
13	血液系疾患	貧血、出血性疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
14	乳幼児疾患	乳幼児特有の疾患の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
15	妊産婦疾患	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病の概略と食事療法について	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)

関連科目	臨床医学概論、臨床病態学、基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学1、3、4
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カレント 臨床栄養学 第3版	明渡 陽子ほか	建帛社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席回数が授業回数の 2/3 未満の者は、評価の対象外とする。また、遅刻または早退した場合は、3 回につき欠席 1 回分として取り扱う。定期試験にて、学習内容に関する知識・理解力を評価する(60%)、予習・復習の成果を小テストで評価(30%)、授業への取り組み(ルーブリック評価・10%)で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	これまでに学んできた代謝や人体で営まれる正常な機能と結び付けて理解する必要があります。 暗記だけでなく、理解するように心がけてください。
担当者の 研究室等	8 号館 2 階 臨床栄養学第 1 研究室
備考	

科目名	臨床栄養学 I	科目名 (英文)	Clinical Nutrition I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	百木 和、畦西 克己
ディプロマポリシー (DP)	DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF2048a0		

授業概要・目的	臨床栄養学の意義と目的、及び臨床現場における管理栄養士の業務内容、栄養管理の方法などを通して、臨床栄養学の概念の修得を目的とする。具体的には、チーム医療、NST (栄養サポートチーム) における管理栄養士業務と多職種連携の概要、対象者の栄養状態を評価・判定する栄養評価法、栄養介入計画の立案・実施、モニタリング、再評価の PDCA に沿った栄養管理法である栄養管理プロセスの流れを理解する。また、外来や入院患者に対する栄養教育の方法や、栄養ケア記録 (PES)、問題志向型システム (POS) を用いた栄養カルテの記載方法について修得する。さらに、医療制度及び介護保険制度について学修する。
到達目標	① 臨床における栄養ケアプロセスの意義と目的を理解し、説明できる。 ② 栄養ケアプロセスの手法である、栄養状態の把握 (アセスメント)、問題点の発見、問題解決するためのケアプランの作成 (栄養補給計画、栄養教育計画、他職種との連携など)、実践と経過観察 (ケア記録の作成) など、それぞれの項目について知識と技術を理解し、説明できる。 ③ 医療・介護保険制度について理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主に教科書に沿ってパワーポイントで講義を行い、必要に応じて資料を配布する。予習を重要視した授業形式とし、復習確認として、小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	臨床栄養学の概念	臨床栄養学の概念、意義と目的について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
2	医療と臨床栄養	医療での管理栄養士の役割と職業倫理、クリニカルパスと栄養ケア、チーム医療について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
3	小テスト、医療制度の概念	医療制度の基本と診療報酬制度について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
4	介護保険制度の概念	介護制度の基本と介護報酬制度について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
5	小テスト、栄養スクリーニングとアセスメント (臨床診査)	スクリーニングとアセスメントの種類、臨床診査項目について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
6	栄養アセスメント (身体計測)	アセスメントを行うための身体計測、食事調査の種類と評価法について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
7	小テスト、栄養アセスメント (臨床検査)	臨床検査値の概略について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
8	栄養ケアプラン (必要量決定法)	栄養ケアプランを立てるための必要量の決め方について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
9	栄養ケアプラン (必要量決定の実際)	栄養ケアプランを立てるための必要量決定の実際について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
10	栄養補給法 (経口栄養)	病院給食について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
11	栄養補給法 (経腸栄養)	経腸栄養法の考え方と適応について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
12	栄養補給法 (経静脈栄養)	経静脈栄養法の考え方と適応について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
13	小テスト、栄養療法による合併症および副作用について	経腸栄養療法、静脈栄養療法による合併症とその予防について (担当: 百木)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
14	栄養障害傷病者・要介護者への栄養教育	過栄養傷病者および要介護者への栄養教育について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)
15	小テスト、栄養ケアの記録	栄養ケア記録の意義、問題志向型システム (POS) について (担当: 畦西)	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく (90分) 学修した内容をノートにまとめて整理する (90分)

関連科目 基礎栄養学、臨床医学概論、臨床病態学、応用栄養学等 栄養系科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	カレント 臨床栄養学 第3版	明渡 陽子ほか	建帛社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	実践 臨床栄養	東口 高志	医学書院
2			

	3		
評価方法 (基準)	出席回数が授業回数の 2/3 未満の者は、評価の対象外とする。また、遅刻または早退した場合は、3 回につき欠席 1 回分として取り扱う。定期試験にて、学習内容に関する知識・理解力を評価する(60%)、予習・復習の成果を小テストで評価(30%)、授業への取り組み(ルーブリック評価・10%)で評価し、60%以上で合格とする。		
学生への メッセージ	これまでに学んできた代謝や人体で営まれる正常な機能と結び付けて理解する必要があります。暗記だけでなく、理解するように心がけてください。		
担当者の 研究室等	8 号館 2 階 臨床栄養学第 1 研究室 (百木、219)、第 2 研究室 (畦西、220)		
備考	小テスト等で電卓が必要です。		

科目名	栄養教育論実習	科目名 (英文)	Practice in Nutrition Education
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 美奈子, 古野 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF3047a0		

授業概要・目的
 管理栄養士の主要職務となる対象者を支援するための個別・集団栄養教育の方法を行動科学やカウンセリングなどの理論と応用のスキルを実習を通して修得することを目的とする。具体的には、個別栄養教育では、対象者の食生活実態を把握し、課題抽出・解決にむけての栄養教育計画を立案し、対象者自らの行動修正・変容へ導くために栄養カウンセリングやコーチングの技術を用いてロールプレイングをする。集団栄養教育では、グループ実習により対象集団の食生活をアンケート調査、データ解析 (統計処理) を経て実態把握のもと優先課題を抽出し、プライマリヘルスケアに向けての栄養教育プログラムを作成する。さらに、各ライフステージに応じた栄養教育を効果的に行うための指導媒体の作成やプレゼンテーションを行い、管理栄養士に求められる総合マネジメントの能力を身につけることを目標とする。

- 到達目標**
- ① 対象者の課題解決にむけての栄養教育計画の立案ができる。
 - ② カウンセリングとコーチングの技術を用いてロールプレイングができる。
 - ③ アンケート調査の分析と統計処理ができる。
 - ④ ライフステージごとの指導媒体の作成と効果的な栄養教育のプレゼンテーションができる。
 - ⑤ 栄養教育の PDCA マネジメントの基礎スキルを習得している。

授業方法と留意点
 ・毎回の授業を PDCA マネジメントに沿って実施する。
 ・アクティブラーニング形式の授業で、グループごとの演習、討議、発表、相互評価なども行なう。
 ・パソコンを多く使用する。

科目学習の効果 (資格)
 栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去の問題対策を授業内で実施し、試験対策に活かされる効果を有する。
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	栄養教育とアセスメント	授業オリエンテーション 個人のアセスメントの実施と身体活動状況の把握	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
2	個人面接法	カウンセリングとコーチング技法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
3	ロールプレイング実習	ロールプレイングと面接記録方法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
4	集団面接方法	集団面接技法の修得 インタビューガイドの作成とインタビューの実施、記録の作成と分析	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
5	情報の収集と利用	栄養教育の情報リテラシーとエビデンスの検索	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
6	アンケート調査	アンケート票の作成と実施、データ解析	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
7	優先課題の特定と目標設定	優先課題の特定方法と目標設定の技法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
8	栄養教育プログラムの作成	栄養教育プログラム案の作成と企画評価	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
9	栄養教育教材の選択と作成	栄養教育教材作成案の作成と教材作成	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
10	栄養教育プレゼンテーション	栄養教育教材を用いたプレゼンテーションのトレーニング	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
11	集団栄養教育	集団栄養教育技法のトレーニング	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
12	行動変容技法	行動変容技法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
13	栄養教育評価と見直し	栄養教育評価方法の種類とフィードバック方法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
14	小児期の栄養教育	小児期の栄養教育方法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる
15	成人期・高齢期の栄養教育	成人期・高齢期の栄養教育方法の修得	事前にテキスト指定ページを熟読して、事後に記録用紙を完成させる

関連科目 栄養教育論 I・II・III

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり	南江堂
2	フローチャートで学ぶ栄養教育論実習	橘ゆかり・森美奈子	建帛社
3	日本人の食事摂取基準 2020年版	佐々木敏	第一出版

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 課題提出 (80%)、プレゼンテーション等実習技能・態度 (20%)
 課題は提出期限を必ず守り、すべての課題を提出することが単位習得条件です。

学生へのメッセージ 栄養教育論実習では、自分自身やクラスメートを対象者のモデルとして、実践的な栄養教育のトレーニングをします。栄養士・管理栄養士としての職業使命感や倫理観も身につけていただきます。個人情報の守秘義務や倫理上のルールをしっかりと守って授業に参加してください。

担当者の研究室等

備考

科目名	栄養教育論Ⅲ	科目名 (英文)	Nutrition Education III
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF3046a0		

授業概要・目的	PDCA マネジメントを活用した栄養教育マネジメントと情報解析の修得を目的とする。具体的には、栄養教育実施にむけて健常学生を対象者のモデルとして、日常生活の食物摂取・生活活動・身体活動状況等の基礎情報を収集して評価判定を実施し、データ解析をする。これらの解析にあたり、データ入力・統計処理に関する方法を学ぶことにより、食生活を含む生活診断・評価を行い、科学的根拠に基づく課題解決を促す個別の栄養教育マネジメントを身につける。
到達目標	① 個人を対象とした栄養教育マネジメントの手法を理解する。 ② 栄養教育に必要な情報収集の手法を修得する。 ③ 収集した情報のデータ解析ができる。 ④ 科学的根拠に基づいた個人の栄養教育が立案できる。
授業方法と留意点	スライドを用いながら講義を進めるが、演習プリントも配布し、質疑応答、グループ討議などの時間を設ける。毎回、予復習プリントを配布するので指定されたテキストのページを予習し、授業内容の概要を復習する。パソコンを多く用いる。
科目学習の効果 (資格)	栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去の問題対策を授業内で実施し、試験対策に活かされる効果を有する。 管理栄養士国家試験受験資格の取得に係る科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	栄養スクリーニングの方法	主観的栄養アセスメントの方法 (授業オリエンテーション・グループワーク・グループ討議)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
2	栄養アセスメントの方法Ⅰ	客観的栄養アセスメントと情報収集方法 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
3	栄養アセスメントの方法Ⅱ	データ解析食事調査 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
4	栄養アセスメントの方法Ⅲ	データ解析：生活活動調査 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
5	栄養アセスメントの方法Ⅲ	データ解析：身体状況調査 (小テスト・講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
6	栄養アセスメントの方法Ⅳ	食事摂取基準を用いた評価：推定と統計 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
7	栄養アセスメントの方法Ⅴ	男女差や BMI 区分による差の検定 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
8	栄養アセスメントの方法Ⅵ	エネルギー摂取量と各栄養素摂取量の関係 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
9	栄養アセスメントの方法Ⅶ	調査結果の比較：要因係数データの検定 (小テスト・講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
10	栄養教育の目標設定	優先課題の特定と目標設定 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
11	栄養教育の計画立案	個人の課題解決のための栄養教育計画立案 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
12	栄養教育の実施	個人を対象とした栄養教育の実施と情報の整理・共有 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
13	栄養教育の結果評価	教育前後の変化 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
14	栄養教育マネジメントの評価Ⅰ	経過評価・影響評価 (小テスト・講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：復習プリントを仕上げる
15	栄養教育マネジメントの評価Ⅱ	総合評価・経済評価 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む

関連科目	栄養教育論Ⅰ・栄養教育論Ⅱ・栄養教育論実習
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり	南江堂
	2	フローチャートで学ぶ栄養教育論実習	橘ゆかり・森美奈子	建帛社
	3	日本人の食事摂取基準 2020年版	佐々木敏	第一出版

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022	医療情報科学研究所	メディックメディア
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題提出 (45%)、小テスト (10%) 定期試験 (45%) で評価し、60%以上で合格とする。 課題は提出期限を必ず守り、すべての課題を提出することが単位修得条件です。			
学生への メッセージ	管理栄養士は、専門職業人として、エビデンスのある栄養教育の知識や技術が求められます。正しい情報を入力し、評価し、分析することは、とても重要です。この科目の学びで、専門職業人としての自覚をもって歩んでいく契機になるように努めましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	栄養教育論Ⅱ	科目名 (英文)	Nutrition Education II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF3045a0		

授業概要・目的	個人・集団のライフステージ特性を踏まえ、適正な食生活支援を行う方法論を学修することを目的とする。具体的には、個人対象には栄養カウンセリングやコーチング技法により食行動を把握・評価し、行動目標設定・実践・習慣化を支援し食行動の変容に導くための行動療法の理論を学修する。また、集団対象では共通課題解決に向け、プログラム立案・実施・評価の後、汎用性のあるプログラムの活用法を学修する。ライフステージ別に人々の食行動・食環境の解析、適切な栄養評価・診断を行い、対象者の自覚を促しつつ個人要因の行動変容、食環境整備へと繋ぐ栄養教育の方法論を修得する。
到達目標	① ライフステージとライフスタイル別の栄養教育の特性を説明できる。 ② 対象者の課題解決のための手法を推論できる。 ③ 対象者の課題解決のための栄養教育を栄養ケアマネジメントに適用できる。 ④ 栄養教育に必要なコミュニケーション力を獲得する。
授業方法と留意点	スライドを用いながら講義を進めるが、質疑応答、グループ討議などの時間を設ける。毎回、予復習プリントを配布するので、指定されたテキストのページを予習し、授業内容の概要を復習する。
科目学習の効果 (資格)	栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去の問題対策を授業内で実施し、試験対策に活かされる効果を有する。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許の取得に係る科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	栄養カウンセリングⅠ	カウンセリングの基本 (授業オリエンテーション・講義・グループワーク)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
2	栄養カウンセリングⅡ	栄養カウンセリングの特徴と基本姿勢 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
3	栄養カウンセリングⅢ	栄養カウンセリングの実際 (小テスト・講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
4	栄養教育に必要なスキル	栄養教育に必要なスキル コミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキル (講義・グループワーク・プレゼンテーション・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
5	集団を対象とした栄養教育	集団を対象とした栄養マネジメントサイクル (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
6	情報へのアクセスと栄養教育	ソーシャルマーケティングを活用した栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
7	ライフステージ別栄養教育Ⅰ	妊娠・授乳期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
8	ライフステージ別栄養教育Ⅱ	乳幼児期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
9	ライフステージ別栄養教育Ⅲ	学童期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
10	ライフステージ別栄養教育Ⅳ	思春期の栄養教育 (小テスト・講義・グループワーク・プレゼンテーション・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
11	ライフステージ別栄養教育Ⅴ	成人期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
12	ライフステージ別栄養教育Ⅵ	高齢期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
13	ライフステージ別栄養教育Ⅶ	傷病者の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
14	ライフステージ別栄養教育Ⅷ	障がい者の栄養教育 (小テスト・講義・グループワーク・プレゼンテーション・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる
15	ライフステージ別栄養教育Ⅸ	アスリートの栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前: テキストの指定ページを読む 事後: 授業課題を仕上げる

関連科目 栄養教育論Ⅰ・栄養教育論Ⅲ・栄養教育論実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり	南江堂
2	フローチャートで学ぶ栄養教育論実習	橘ゆかり・森美奈子	建帛社	
3	日本人の食事摂取基準 2020年版	佐々木敏	第一出版	

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022	医療情報科学研究所	メディックメディア
	2	栄養カウンセリング論	赤松利恵	化学同人
	3			
評価方法 (基準)	演習課題提出 (40%)、小テスト (10%) 定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。 課題は提出期限を必ず守り、すべての課題を提出することが単位修得条件です。			
学生への メッセージ	栄養士・管理栄養士は、対象者の健康支援者として、縁の下の力持ち的な役割を担っています。対象者への理解を深めるためには、日頃の学生生活でも周囲の人とコミュニケーションを良く図り、お互いに助け合う精神を培いましょう。専門職業人としての心構えを授業や生活を通して学んでいきましょう。			
担当者の 研究室等 備考	8号館3階326			

科目名	栄養教育論Ⅱ	科目名 (英文)	Nutrition Education II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF3045a0		

授業概要・目的	個人・集団のライフステージ特性を踏まえ、適正な食生活支援を行う方法論を学修することを目的とする。具体的には、個人対象には栄養カウンセリングやコーチング技法により食行動を把握・評価し、行動目標設定・実践・習慣化を支援し食行動の変容に導くための行動療法の理論を学修する。また、集団対象では共通課題解決に向け、プログラム立案・実施・評価の後、汎用性のあるプログラムの活用法を学修する。ライフステージ別に人々の食行動・食環境の解析、適切な栄養評価・診断を行い、対象者の自覚を促しつつ個人要因の行動変容、食環境整備へと繋ぐ栄養教育の方法論を修得する。
到達目標	① ライフステージとライフスタイル別の栄養教育の特性を説明できる。 ② 対象者の課題解決のための手法を推論できる。 ③ 対象者の課題解決のための栄養教育を栄養ケアマネジメントに適用できる。 ④ 栄養教育に必要なコミュニケーション力を獲得する。
授業方法と留意点	スライドを用いながら講義を進めるが、質疑応答、グループ討議などの時間を設ける。毎回、予復習プリントを配布するので、指定されたテキストのページを予習し、授業内容の概要を復習する。
科目学習の効果 (資格)	栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去の問題対策を授業内で実施し、試験対策に活かされる効果を有する。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許の取得に係る科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	栄養カウンセリングⅠ	カウンセリングの基本 (授業オリエンテーション・講義・グループワーク)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
2	栄養カウンセリングⅡ	栄養カウンセリングの特徴と基本姿勢 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
3	栄養カウンセリングⅢ	栄養カウンセリングの実際 (小テスト・講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
4	栄養教育に必要なスキル	栄養教育に必要なスキル コミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキル (講義・グループワーク・プレゼンテーション・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
5	集団を対象とした栄養教育	集団を対象とした栄養マネジメントサイクル (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
6	情報へのアクセスと栄養教育	ソーシャルマーケティングを活用した栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
7	ライフステージ別栄養教育Ⅰ	妊娠・授乳期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
8	ライフステージ別栄養教育Ⅱ	乳幼児期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
9	ライフステージ別栄養教育Ⅲ	学童期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
10	ライフステージ別栄養教育Ⅳ	思春期の栄養教育 (小テスト・講義・グループワーク・プレゼンテーション・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
11	ライフステージ別栄養教育Ⅴ	成人期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
12	ライフステージ別栄養教育Ⅵ	高齢期の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
13	ライフステージ別栄養教育Ⅶ	傷病者の栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
14	ライフステージ別栄養教育Ⅷ	障がい者の栄養教育 (小テスト・講義・グループワーク・プレゼンテーション・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる
15	ライフステージ別栄養教育Ⅸ	アスリートの栄養教育 (講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業課題を仕上げる

関連科目 栄養教育論Ⅰ・栄養教育論Ⅲ・栄養教育論実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり	南江堂
2	フローチャートで学ぶ栄養教育論実習	橘ゆかり・森美奈子	建帛社	
3	日本人の食事摂取基準 2020年版	佐々木敏	第一出版	

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022	医療情報科学研究所	メディックメディア
	2	栄養カウンセリング論	赤松利恵	化学同人
	3			
評価方法 (基準)	演習課題提出 (40%)、小テスト (10%) 定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。 課題は提出期限を必ず守り、すべての課題を提出することが単位修得条件です。			
学生への メッセージ	栄養士・管理栄養士は、対象者の健康支援者として、縁の下の力持ち的な役割を担っています。対象者への理解を深めるためには、日頃の学生生活でも周囲の人とコミュニケーションを良く図り、お互いに助け合う精神を培いましょう。専門職業人としての心構えを授業や生活を通して学んでいきましょう。			
担当者の 研究室等 備考	8号館3階326			

科目名	栄養教育論 I	科目名 (英文)	Nutrition Education I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2044a0		

授業概要・目的	栄養教育の意義と栄養教育に必要な基礎知識と理論を学修することを目的とする。栄養士・管理栄養士が、我が国における栄養教育の進展、並びに国民の健康管理・増進に果たしてきた役割を学ぶとともに、現代人が抱えている食行動・食生活・食環境に関わる様々な課題を食行動変容の関りの面から理解する。これらの食の現状を踏まえ、栄養教育の意義、行動科学を中心とする理論、栄養教育マネジメントで用いる基礎理論を習得する。また、栄養士・管理栄養士の職務、職域、職業使命感や職業倫理についても理解する。
到達目標	① 栄養教育の意義・特性について説明できる。 ② 栄養士の職務、職域、職業使命、職業倫理について説明できる。 ③ 人の食行動・食生活・食環境について理解している。 ④ 栄養状態の改善と食行動変容の関りに関して説明できる。 ⑤ 行動変容の基礎となる行動科学の学習理論を説明できる。 ⑥ 栄養教育に活用する基礎知識が習得できている。 ⑦ 栄養教育マネジメントで用いる基礎理論を理解している。
授業方法と留意点	スライドを用いながら講義中心に進めるが、グループワークやグループ討議、プレゼンテーション等のアクティブラーニング形式を取り入れる。指定されたテキストのページや配布資料を予習する。毎回、授業内容の理解を深める小テストや復習課題を課す。質疑応答の時間を授業内に設ける。授業時には、指定されたテキストを持参する。
科目学習の効果 (資格)	栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去の問題対策を授業内で実施し、試験対策に活かされる効果を有する。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許の取得に係る科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	栄養教育の概念 (1)	授業オリエンテーション、栄養教育の定義と目的について、国民の健康課題の現状を理解をする。(講義・グループワーク)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる
2	栄養教育の概念 (2)	栄養教育の対象と機会について習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
3	栄養士・管理栄養士の職務、職域、職業使命感、職業倫理	栄養士・管理栄養士の職務、職域、職業使命感、職業倫理について理解する。(講義・DVDの視聴・課題の復習)	事前：事前配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
4	栄養教育に必要な関係法規	栄養教育に必要な関係法規について法的知識を習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
5	行動科学理論と栄養教育 (1) ①～③	行動科学の定義と行動変容について理解する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習・小テスト)	事前：テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
6	行動科学理論と栄養教育 (2) ④～⑥	行動科学の代表的な理論やモデルを習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
7	行動科学理論と栄養教育 (3) ⑦～⑩	行動科学の代表的な理論やモデルを習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
8	行動科学理論と栄養教育 (4) ⑪～⑭	行動科学の代表的な理論やモデルを習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
9	行動科学理論と栄養教育 (5)	行動科学理論に基づく健康支援のプロセスを理解する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
10	栄養教育に活用する基礎知識 (1)	日本人の食事摂取基準の栄養教育への活用について習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・小テスト・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
11	栄養教育に活用する基礎知識 (2)	食生活指針と食事バランスガイドの栄養教育への活用について習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
12	栄養教育に活用する基礎知識	健康的な食生活管理に活用する知識を	事前：テキストの指定ページを読み、	

		識 (3)	習得する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・課題の復習)	分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる
	13	栄養教育マネジメント (1)	栄養教育マネジメントの枠組み・アセス メントについて理解する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分から ない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる (2時間)
	14	栄養教育マネジメント (2)	健康・食物摂取状況のアセスメントの調 査方法について理解する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、 分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる
	15	栄養教育マネジメント (3)	個人要因や環境要因のアセスメントや 優先課題の特定について理解する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・小テスト)	事前：テキストの指定ページを読み、 分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる
関連科目	栄養教育論Ⅱ・栄養教育論Ⅲ・栄養教育論実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり他	南江堂
	2	フローチャートで学ぶ栄養教育論実習	橘ゆかり・森美奈子	建帛社
	3	日本人の食事摂取基準 2020年版	佐々木敏	第一出版
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2023年版 栄養士実力認定試験過去問題集	一般社団法人 全国栄養士養成施 設協会	建帛社
	2	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022	医療情報科学研究所	メディックメディア
	3			
評価方法 (基準)	演習課題提出 (40%)、小テスト (10%) 定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	栄養士・管理栄養士は、人々の健康づくりを支援するために、徹底的に対象者の方の立場になって考え、貢献できる人となることが求められます。この授業を通じて学んだことを日々の生活や今後の人生にも役立てて欲しいと思っています。楽しく前向きな気持ちで、授業に取り組みましょう！			
担当者の 研究室等 備考	8号館3階326			

科目名	栄養教育論 I	科目名 (英文)	Nutrition Education I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 美奈子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2044a0		

授業概要・目的	栄養教育の意義と栄養教育に必要な基礎知識と理論を学修することを目的とする。栄養士・管理栄養士が、我が国における栄養教育の進展、並びに国民の健康管理・増進に果たしてきた役割を学ぶとともに、現代人が抱えている食行動・食生活・食環境に関わる様々な課題を食行動変容の関りの面から理解する。これらの食の現状を踏まえ、栄養教育の意義、行動科学を中心とする理論、栄養教育マネジメントで用いる基礎理論を習得する。また、栄養士・管理栄養士の職務、職域、職業使命感や職業倫理についても理解する。
到達目標	① 栄養教育の意義・特性について説明できる。 ② 栄養士の職務、職域、職業使命、職業倫理について説明できる。 ③ 人の食行動・食生活・食環境について理解している。 ④ 栄養状態の改善と食行動変容の関りに関して説明できる。 ⑤ 行動変容の基礎となる行動科学の学習理論を説明できる。 ⑥ 栄養教育に活用する基礎知識が習得できている。 ⑦ 栄養教育マネジメントで用いる基礎理論を理解している。
授業方法と留意点	スライドを用いながら講義中心に進めるが、グループワークやグループ討議、プレゼンテーション等のアクティブラーニング形式を取り入れる。指定されたテキストのページや配布資料を予習する。毎回、授業内容の理解を深める小テストや復習課題を課す。質疑応答の時間を授業内に設ける。授業時には、指定されたテキストを持参する。
科目学習の効果 (資格)	栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去の問題対策を授業内で実施し、試験対策に活かされる効果を有する。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許の取得に係る科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	栄養教育の概念 (1)	授業オリエンテーション、栄養教育の定義と目的について、国民の健康課題の現状を理解をする。(講義・グループワーク)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる
2	栄養教育の概念 (2)	栄養教育の対象と機会について習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
3	栄養士・管理栄養士の職務、職域、職業使命感、職業倫理	栄養士・管理栄養士の職務、職域、職業使命感、職業倫理について理解する。(講義・DVDの視聴・課題の復習)	事前：事前配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
4	栄養教育に必要な関係法規	栄養教育に必要な関係法規について法的知識を習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
5	行動科学理論と栄養教育 (1) ①～③	行動科学の定義と行動変容について理解する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習・小テスト)	事前：テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
6	行動科学理論と栄養教育 (2) ④～⑥	行動科学の代表的な理論やモデルを習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
7	行動科学理論と栄養教育 (3) ⑦～⑩	行動科学の代表的な理論やモデルを習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
8	行動科学理論と栄養教育 (4) ⑪～⑭	行動科学の代表的な理論やモデルを習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページと配布資料を読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
9	行動科学理論と栄養教育 (5)	行動科学理論に基づく健康支援のプロセスを理解する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読む 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
10	栄養教育に活用する基礎知識 (1)	日本人の食事摂取基準の栄養教育への活用について習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・小テスト・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
11	栄養教育に活用する基礎知識 (2)	食生活指針と食事バランスガイドの栄養教育への活用について習得する。(講義・グループワーク・グループ討議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習プリントを仕上げる	
12	栄養教育に活用する基礎知識	健康的な食生活管理に活用する知識を	事前：テキストの指定ページを読み、	

		識 (3)	習得する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・課題の復習)	分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる																
	13	栄養教育マネジメント (1)	栄養教育マネジメントの枠組み・アセス メントについて理解する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、分からない語 句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる (2時間)																
	14	栄養教育マネジメント (2)	健康・食物摂取状況のアセスメントの調 査方法について理解する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・課題の復習)	事前：テキストの指定ページを読み、 分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる																
	15	栄養教育マネジメント (3)	個人要因や環境要因のアセスメントや 優先課題の特定について理解する。 (講義・グループワーク・グループ討 議・小テスト)	事前：テキストの指定ページを読み、 分からない語句について調べる 事後：授業終了時に示す課題と復習 プリントを仕上げる																
関連科目	栄養教育論Ⅱ・栄養教育論Ⅲ・栄養教育論実習																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>栄養教育論 改定第5版</td> <td>武見ゆかり他</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フローチャートで学ぶ栄養教育論実習</td> <td>橘ゆかり・森美奈子</td> <td>建帛社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本人の食事摂取基準 2020年版</td> <td>佐々木敏</td> <td>第一出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり他	南江堂	2	フローチャートで学ぶ栄養教育論実習	橘ゆかり・森美奈子	建帛社	3	日本人の食事摂取基準 2020年版	佐々木敏	第一出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり他	南江堂																	
2	フローチャートで学ぶ栄養教育論実習	橘ゆかり・森美奈子	建帛社																	
3	日本人の食事摂取基準 2020年版	佐々木敏	第一出版																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2023年版 栄養士実力認定試験過去問題集</td> <td>一般社団法人 全国栄養士養成施 設協会</td> <td>建帛社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022</td> <td>医療情報科学研究所</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2023年版 栄養士実力認定試験過去問題集	一般社団法人 全国栄養士養成施 設協会	建帛社	2	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022	医療情報科学研究所	メディックメディア	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	2023年版 栄養士実力認定試験過去問題集	一般社団法人 全国栄養士養成施 設協会	建帛社																	
2	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022	医療情報科学研究所	メディックメディア																	
3																				
評価方法 (基準)	演習課題提出 (40%)、小テスト (10%) 定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	栄養士・管理栄養士は、人々の健康づくりを支援するために、徹底的に対象者の方の立場になって考え、貢献できる人となることが求められます。この授業を通じて学んだことを日々の生活や今後の人生にも役立てて欲しいと思っています。楽しく前向きな気持ちで、授業に取り組みましょう！																			
担当者の 研究室等 備考	8号館3階326																			

科目名	応用栄養学実習	科目名 (英文)	Practice in Applied Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山田 徳広、織田 奈央子、岸本 良美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○、DP3○、DP4○、DP5○		
科目ナンバリング	OAF3043a0		

授業概要・目的	栄養管理の基礎となる考え方を理解し、一連の栄養管理プロセスを学ぶことにより、個人及び集団の栄養管理に必要な基本的技能を修得することを目的とする。応用栄養学で学んだライフステージごとの栄養管理を事例を用いて演習し、栄養管理プロセスの活用技術だけでなく、食品構成から献立作成などを含む一連の栄養管理プロセスの理解を深める。また、運動時の栄養管理では、運動時のエネルギー消費量の推定や運動処方について理解し、栄養処方技術の修得を目指す。																																																																		
到達目標	各ライフステージにおける栄養管理のあり方と、食事摂取基準に基づいた栄養管理の基本を修得する。																																																																		
授業方法と留意点	応用栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの教科書と配布プリントに基づき、実習を行う。項目ごとにレポート提出を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>応用栄養学実習の意義と進め方について</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>妊娠期の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>授乳期の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>新生児期・乳児期の栄養管理①</td> <td>調乳の実習とその評価</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>新生児期・乳児期の栄養管理②</td> <td>離乳食の調理実習とその評価</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>幼児期の栄養管理①</td> <td>事例を基にした栄養管理演習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>幼児期の栄養管理②</td> <td>食物アレルギー除去食の調理実習とその評価</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学童期の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>思春期の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>成人期の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>高齢期の栄養管理</td> <td>事例を基にした栄養管理演習、嚥下調整食の実習とその評価</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>運動時の栄養管理①</td> <td>事例を基にした栄養管理演習、スポーツ競技者の食事の献立作成</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>運動時の栄養管理②</td> <td>スポーツ競技者の食事の調理実習</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>運動時の栄養管理③</td> <td>スポーツ競技者の食事の献立作成・調理実習の評価 (発表)</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括とディスカッション</td> <td>全体のまとめ</td> <td>毎回の授業時に指示する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	応用栄養学実習の意義と進め方について	毎回の授業時に指示する	2	妊娠期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する	3	授乳期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する	4	新生児期・乳児期の栄養管理①	調乳の実習とその評価	毎回の授業時に指示する	5	新生児期・乳児期の栄養管理②	離乳食の調理実習とその評価	毎回の授業時に指示する	6	幼児期の栄養管理①	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する	7	幼児期の栄養管理②	食物アレルギー除去食の調理実習とその評価	毎回の授業時に指示する	8	学童期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する	9	思春期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する	10	成人期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する	11	高齢期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習、嚥下調整食の実習とその評価	毎回の授業時に指示する	12	運動時の栄養管理①	事例を基にした栄養管理演習、スポーツ競技者の食事の献立作成	毎回の授業時に指示する	13	運動時の栄養管理②	スポーツ競技者の食事の調理実習	毎回の授業時に指示する	14	運動時の栄養管理③	スポーツ競技者の食事の献立作成・調理実習の評価 (発表)	毎回の授業時に指示する	15	総括とディスカッション	全体のまとめ	毎回の授業時に指示する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	応用栄養学実習の意義と進め方について	毎回の授業時に指示する																																																																
2	妊娠期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する																																																																
3	授乳期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する																																																																
4	新生児期・乳児期の栄養管理①	調乳の実習とその評価	毎回の授業時に指示する																																																																
5	新生児期・乳児期の栄養管理②	離乳食の調理実習とその評価	毎回の授業時に指示する																																																																
6	幼児期の栄養管理①	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する																																																																
7	幼児期の栄養管理②	食物アレルギー除去食の調理実習とその評価	毎回の授業時に指示する																																																																
8	学童期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する																																																																
9	思春期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する																																																																
10	成人期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習	毎回の授業時に指示する																																																																
11	高齢期の栄養管理	事例を基にした栄養管理演習、嚥下調整食の実習とその評価	毎回の授業時に指示する																																																																
12	運動時の栄養管理①	事例を基にした栄養管理演習、スポーツ競技者の食事の献立作成	毎回の授業時に指示する																																																																
13	運動時の栄養管理②	スポーツ競技者の食事の調理実習	毎回の授業時に指示する																																																																
14	運動時の栄養管理③	スポーツ競技者の食事の献立作成・調理実習の評価 (発表)	毎回の授業時に指示する																																																																
15	総括とディスカッション	全体のまとめ	毎回の授業時に指示する																																																																
関連科目	基礎栄養学、応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、応用栄養学Ⅲ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>配布プリント</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布プリント			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	配布プリント																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>応用栄養学 改訂第7版 (健康・栄養科学シリーズ)</td> <td>渡邊令子、伊藤節子、瀧本秀美 編</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>改定スタディ応用栄養学</td> <td>東条仁美 編著</td> <td>建帛社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本人の食事摂取基準 2020年版</td> <td>伊藤貞嘉、佐々木 敏 監修</td> <td>第一出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	応用栄養学 改訂第7版 (健康・栄養科学シリーズ)	渡邊令子、伊藤節子、瀧本秀美 編	南江堂	2	改定スタディ応用栄養学	東条仁美 編著	建帛社	3	日本人の食事摂取基準 2020年版	伊藤貞嘉、佐々木 敏 監修	第一出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	応用栄養学 改訂第7版 (健康・栄養科学シリーズ)	渡邊令子、伊藤節子、瀧本秀美 編	南江堂																																																																
2	改定スタディ応用栄養学	東条仁美 編著	建帛社																																																																
3	日本人の食事摂取基準 2020年版	伊藤貞嘉、佐々木 敏 監修	第一出版																																																																
評価方法 (基準)	レポート (評価割合 50%) と実習への取り組み (ルーブリック評価・評価割合 50%) で評価し、60%以上で合格とする。皆さんの学習状況によって変更する場合があります。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	山田徳広 (8号館、3F 応用栄養学研究室) 岸本良美 (8号館、3F 基礎栄養学研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	応用栄養学Ⅲ	科目名 (英文)	Applied Nutrition III
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山田 徳広、藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF3042a0		

授業概要・目的	「運動、スポーツ時の栄養・代謝」「運動、スポーツの健康・体力への影響」「トレーニング時の栄養補給法」について理解するとともに特殊環境時における栄養・代謝並びに栄養補給法について理解することを目的とする。生体リズムは、体温や血圧、睡眠やエネルギー代謝などの生命活動と関連がある。生体リズムや生活リズムと栄養・食事の関係について理解する。自然環境、社会環境の変化に応じた栄養状態の特徴を十分に理解し、適切な栄養補給のあり方についても修得する。また、災害時の適切な栄養支援活動についても学ぶ。
到達目標	運動・スポーツや特殊環境などにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理について理解する。
授業方法と留意点	教科書を中心に講義形式で授業を進める。ポイントまとめたスライド映写や、適宜プリントも配布する。各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	運動・スポーツと栄養②	運動時の生理的特徴とエネルギー代謝：運動時の呼吸・循環応答	毎回の授業時に指示する
3	運動・スポーツと栄養③	運動時の生理的特徴とエネルギー代謝：体力、運動トレーニング	毎回の授業時に指示する
4	運動・スポーツと栄養④	運動と栄養ケア：運動の健康への影響、健康づくりのための身体活動基準および指針、運動時の食事摂取基準	毎回の授業時に指示する
5	運動・スポーツと栄養⑤	運動と栄養ケア：エネルギー・栄養素の摂取、水分・電解質補給	毎回の授業時に指示する
6	運動・スポーツと栄養⑥	運動と栄養ケア：スポーツ貧血、食事内容と摂取のタイミング、ウエイトコントロール	毎回の授業時に指示する
7	運動・スポーツと栄養⑦	運動と栄養ケア：アスリートの栄養	毎回の授業時に指示する
8	環境と栄養①	環境変化に対する生体応答とホメオスタシス	毎回の授業時に指示する
9	環境と栄養②	生体リズム、生活リズムと栄養	毎回の授業時に指示する
10	環境と栄養③	ストレスと栄養ケア	毎回の授業時に指示する
11	環境と栄養④	特殊環境と栄養ケア：特殊環境下の代謝変化	毎回の授業時に指示する
12	環境と栄養⑤	特殊環境と栄養ケア：熱中症と水分・電解質補給	毎回の授業時に指示する
13	環境と栄養⑥	特殊環境と栄養ケア：高温・低温環境と栄養、高圧・低圧環境と栄養、無重力環境と栄養	毎回の授業時に指示する
14	環境と栄養⑦	特殊環境と栄養ケア：災害時の栄養	毎回の授業時に指示する
15	「応用栄養学Ⅲ」のまとめ	復習とまとめ	毎回の授業時に指示する

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	健康・栄養科学シリーズ 応用栄養学 改定 第7版	渡邊令子、伊藤節子、瀧本秀美 編集	南江堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	各講義前に前回の講義の学習確認小テストを行う。評価方法は、小テスト(評価割合 15%)および定期試験(評価割合 85%)で評価し、60%以上で合格とする。 皆さんの学習状況によって変更する場合があります。
-----------	---

学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	応用栄養学Ⅱ	科目名 (英文)	Applied Nutrition II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2041a0		

授業概要・目的	各器官や機能の発達には決定的に重要な時期が存在し、この時期に正常な発育が妨げられると重大な機能障害を招く恐れがある。現ステージの栄養・健康状態は前ステージの影響を強く受け、次ステージに受け継がれていく。妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に理解することにより、栄養状態の評価・判定の基本的考え方を修得することを目的とする。健康増進、疾病の発症予防と重症化予防、介護予防に寄与する栄養素の機能等を理解し、健康への影響に関する栄養管理の基本的な考え方や方法について理解する。
到達目標	① 各ライフステージで生じる健康・栄養課題の背景と特徴を理解し、栄養管理の基本的考え方を修得する。 ② 健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能などを理解し、健康への影響に関するリスク管理の基本的考え方や方法について修得する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、講義中に定期的に小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「応用栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	成長、発達、加齢	概念、身体的・精神的変化と栄養	毎回の授業時に指示する
2	妊娠期の栄養①	生理的特徴	毎回の授業時に指示する
3	妊娠期の栄養②	栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
4	授乳期の栄養	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
5	新生児期・乳児期の栄養	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
6	幼児期の栄養	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
7	学童期の栄養	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
8	思春期の栄養	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
9	成人期の栄養①	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア (生活習慣病予防)	毎回の授業時に指示する
10	成人期の栄養②	生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア (更年期)	毎回の授業時に指示する
11	高齢期の栄養①	生理的特徴	毎回の授業時に指示する
12	高齢期の栄養②	栄養アセスメント、栄養ケア	毎回の授業時に指示する
13	高齢期の栄養③	高齢期にリスクの高まる疾患に対する栄養アセスメントと栄養ケア	毎回の授業時に指示する
14	高齢期の栄養④	介護予防・合併症予防(QOL向上)に対する栄養アセスメントと栄養ケア	毎回の授業時に指示する
15	「応用栄養学Ⅱ」のまとめ	復習とまとめ	毎回の授業時に指示する

関連科目	全ての専門コア科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	健康・栄養科学シリーズ 応用栄養学 改定 第7版	渡邊令子 編集	南江堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

評価方法 (基準)	授業内に実施する小テスト(50%)および定期試験(50%)で評価し、総合点60%以上で合格とする。 皆さんの学習状況によって変更する場合があります。
-----------	---

学生へのメッセージ	一生懸命勉強してください。
-----------	---------------

担当者の研究室等	8号館2階 臨床栄養学第2研究室 (220)
----------	------------------------

備考	
----	--

科目名	応用栄養学 I	科目名 (英文)	Applied Nutrition I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2040a0		

授業概要・目的	個人及び集団に応じた適切な栄養管理を行うためには、対象者や対象集団の身体状況や栄養状態を的確に把握し、問題点を明確にする必要がある。栄養管理の基本である栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養に関連する問題の抽出、栄養介入、栄養モニタリングと栄養管理の評価及びそのフィードバックについて理解することを目的とする。食事摂取基準の各指標の意義、エネルギーや各栄養素の策定の基礎、活用の基礎、栄養評価と栄養介入などを修得する。
到達目標	① 栄養状態の評価や判定の基本的な考え方を理解する。 ② 食事摂取基準策定の考え方や科学的根拠について理解する。
授業方法と留意点	教科書を中心に講義形式で授業を進める。ポイントまとめたスライド映写や、適宜プリントも配布する。各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。また、事前学習としてオンデマンドによる講義およびテキスト学習を導入する。状況に応じて、Teams、Forms を使用した遠隔授業（双方型）に切り替える。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	栄養ケア・マネジメント①	応用栄養学で学ぶこと、栄養ケア・マネジメントの概要	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
2	栄養ケア・マネジメント②、小テスト	栄養スクリーニング、栄養アセスメントの方法	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
3	栄養ケア・マネジメント③、小テスト	栄養ケアプログラムの計画、目標設定、実施	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
4	栄養ケア・マネジメント④、小テスト	栄養マネジメントの評価、判定	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
5	食事摂取基準の基礎的理解①、小テスト	食事摂取基準の意義・策定方針	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
6	食事摂取基準の基礎的理解②、小テスト	食事摂取基準活用に関する基本的事項	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
7	食事摂取基準の基礎的理解③、小テスト	エネルギーの食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
8	食事摂取基準の基礎的理解④、小テスト	たんぱく質の食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
9	食事摂取基準の基礎的理解⑤、小テスト	脂質の食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
10	食事摂取基準の基礎的理解⑥、小テスト	炭水化物、エネルギー産生栄養素バランスの食事摂取基準	毎関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
11	食事摂取基準の基礎的理解⑦、小テスト	脂溶性ビタミンの食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
12	食事摂取基準の基礎的理解⑧、小テスト	水溶性ビタミンの食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
13	食事摂取基準の基礎的理解⑨、小テスト	多量ミネラル、微量ミネラルの食事摂取基準	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
14	食事摂取基準の基礎的理解⑩、小テスト	対象特性、生活習慣病と栄養	関連科目の復習、教科書の該当ページを事前に学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)
15	「応用栄養学 I」のまとめ、小テスト	復習とまとめ	事前に指示した関連科目の復習、教科書の該当ページを学習しておく。(2時間) 学修した内容をノートにまとめて整理する。(2時間)

関連科目	臨床栄養学、解剖生理学、臨床医学概論、基礎栄養学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	応用栄養学	渡辺令子、伊藤節子、瀧本秀美 編集	南江堂
	2	日本人の食事摂取基準 2020 年版	伊藤貞嘉、佐々木 敏 監修	第一出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席回数が授業回数の 2/3 未満の者は、評価の対象外とする。また、遅刻または早退した場合は、3 回につき欠席 1 回分として取り扱う。各講義前に前回の講義の学習確認小テストを行う。小テスト(評価割合 30%)および定期試験(評価割合 60%)、課題(評価割合 10%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	授業前に毎回、前回授業の小テストを実施する。関連科目の復習をしっかりと行い、教科書やノートの重要用語および項目などを理解しておくこと。			
担当者の 研究室等	8 号館 2 階 臨床栄養学第 2 研究室 (220)			
備考				

科目名	基礎栄養学実習	科目名 (英文)	Practice in Basic Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山田 徳広, 岸本 良美, 中田 恵理子
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP3③		
科目ナンバリング	OAF1039a0		

授業概要・目的
 栄養現象を、実験を通じて学修することを目的とする。試験管内の In vitro の実験系と、動物、ヒトを使った In vivo 実験を用いる。具体的には、In vitro の実験系において唾液とラット小腸膜酵素を用いたときのでんぷんの消化性、でんぷんとセルロースを消化酵素または硫酸で消化したときの糖の結合様式による分解性の違い、生卵とゆで卵を用いたたんぱく質の加熱変性が消化性に及ぼす影響、などを学修する。ラットを用いた実験系においては、食事が肝臓の脂質並びにグリコーゲン濃度に及ぼす影響などを学修する。ヒト試験においては、たんぱく質摂取量が尿中尿素排泄量に及ぼす影響と食後血糖の推移及びエネルギー代謝の測定方法などを学修する。

- 到達目標**
- ①でんぷんの消化機構について説明できる。
 - ②糖質の結合様式の違いによる消化性の違いについて説明できる。
 - ③たんぱく質の変性が、たんぱく質の消化性に及ぼす影響について説明できる。
 - ④胆汁酸の役割について説明できる。
 - ⑤グルコースの吸収機構について説明できる。
 - ⑥絶食が肝臓グリコーゲン量に及ぼす影響について説明できる。
 - ⑦正常肝と脂肪肝の脂質組成の違いについて説明できる。
 - ⑧高たんぱく質食と低たんぱく質食摂取の尿中尿素量の違いについて説明できる。
 - ⑨水溶性食物繊維の血糖への影響について説明できる。
 - ⑩アミノ酸スコアの計算方法を習得する。
 - ⑪タイムスタディ法によるエネルギー消費量の計算方法を習得する。
 - ⑫間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝の測定方法を習得する。

授業方法と留意点
 ・下記の授業計画に従い、実験と実習を実施する。
 ・1回あたり1.5コマ(135分授業) [3時間] ×15回=計45時間の授業とする。

科目学習の効果 (資格)
 管理栄養士国家試験「基礎栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員(任用資格)の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	でんぷんの消化	唾液と腸液によるでんぷんの消化をみる。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
2	でんぷんとセルロースの消化	でんぷんとセルロースの消化性の違いをみる。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
3	たんぱく質の消化性	生卵とゆで卵の消化性の違いをみる。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
4	胆汁酸の働き	胆汁酸を加えたときと、加えないときの脂肪の消化性をみる。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
5	小腸からのグルコース吸収	ラット反転腸管を用いてグルコース吸収性をみる。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
6	絶食ラットの肝臓グリコーゲンの分離と定量	絶食ラットの肝臓グリコーゲンを分離して定量する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
7	正常肝と脂肪肝からの脂質の抽出	正常食または高脂肪食を摂取したラットの肝臓から脂質成分を抽出する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
8	正常肝と脂肪肝の脂質成分	正常肝または脂肪肝の脂質成分を、薄層クロマトグラフィーを用いて確認する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
9	高たんぱく質食と低たんぱく質食摂取による尿中尿素量の変化	高たんぱく質食または低たんぱく質食摂取時の尿中尿素濃度を測定する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
10	高たんぱく質食と低たんぱく質食摂取による尿中クレアチニン量の変化とクレアチニン補正	前週に採取した尿のクレアチニン濃度を測定し、前週に測定した尿中尿素濃度をクレアチニン補正する。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
11	血糖曲線	75gのブドウ糖を飲んだ後の血糖曲線の推移をみる。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
12	水溶性食物繊維の血糖曲線への影響	水溶性食物繊維を加えた75gのブドウ糖を飲んだ後の血糖曲線の推移をみる。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
13	タンパク質の栄養価の求め方	アミノ酸スコアの計算。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
14	タイムスタディ法によるエネルギー消費量の計算	タイムスタディ法によるエネルギー消費量の計算。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。
15	間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝の測定。	間接熱量計によるエネルギー消費量と基質代謝の測定。	配布した資料などを事前・事後に学習しておく。

関連科目 全ての専門コア科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布プリント		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準) 実験に取り組む姿勢(評価割合50%)とレポート(評価割合50%)で評価し、60%以上で合格とする。
 皆さんの学習状況によって変更する場合があります。

学生への 一生懸命勉強してください。

メッセージ	
担当者の 研究室等	応用栄養学研究室 (325)
備考	

科目名	基礎栄養学	科目名 (英文)	Basic Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山田 徳広, 岸本 良美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1038a0		

授業概要・目的	<p>栄養学の基礎を学ぶ。始めに栄養とは何か、栄養と身体活動とのバランスの重要性を理解し、メタボリックシンドロームと栄養との関係、個々人の身体状況に応じた栄養（テーラーメイドの栄養管理）の大切さを学修する。次に、各栄養素の特徴と代謝の概要を含め、摂食行動、消化器系の特徴、各栄養素の消化・吸収と体内動態について学修し、たんぱく質、糖質、脂質、ビタミン、無機質（ミネラル）、水・電解質、食物繊維といった各栄養素の生体での役割について学びを深めていく。さらに、エネルギー代謝並びに遺伝と栄養についても学ぶ。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 食事の意義、栄養と健康・疾病との関係についての基礎的事項が説明できる。 ② 摂食行動についての基礎的事項が説明できる。 ③ 五大栄養素の栄養についての基礎的事項が説明できる。 ④ 食物繊維と難消化性オリゴ糖についての基礎的事項が説明できる。 ⑤ 水・電解質の役割についての基礎的事項が説明できる。 ⑥ エネルギー代謝についての基礎的事項が説明できる。 ⑦ 遺伝子発現と栄養についての説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、講義中に定期的に小テストを実施する。</p>																																																																		
科目学習の効果（資格）	<p>管理栄養士国家試験「基礎栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>栄養の概念</td> <td>食事の意義、栄養と健康・疾病との関係について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>摂食行動</td> <td>摂食行動について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>消化と吸収①</td> <td>各消化器の構造と特徴について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>消化と吸収②</td> <td>各栄養素の消化と吸収について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>たんぱく質の栄養</td> <td>たんぱく質とアミノ酸の働きと栄養評価法について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>糖質の栄養</td> <td>糖質の働きについて</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>食物繊維と難消化性オリゴ糖について</td> <td>食物繊維と消化性オリゴ糖の働きについて</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>脂質の栄養</td> <td>各脂質成分の働きについて</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ビタミンの栄養①</td> <td>脂溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ビタミンの栄養② ミネラルの栄養①</td> <td>水溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について 多量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ミネラルの栄養②</td> <td>微量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>水・電解質の役割</td> <td>水・電解質の役割と脱水について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>エネルギー代謝①</td> <td>エネルギー代謝の概念について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>エネルギー代謝②</td> <td>エネルギー消費量の測定方法について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>遺伝子発現と栄養</td> <td>遺伝子発現と栄養について</td> <td>配布した資料などを事前・事後に学習しておく</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	栄養の概念	食事の意義、栄養と健康・疾病との関係について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	2	摂食行動	摂食行動について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	3	消化と吸収①	各消化器の構造と特徴について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	4	消化と吸収②	各栄養素の消化と吸収について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	5	たんぱく質の栄養	たんぱく質とアミノ酸の働きと栄養評価法について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	6	糖質の栄養	糖質の働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	7	食物繊維と難消化性オリゴ糖について	食物繊維と消化性オリゴ糖の働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	8	脂質の栄養	各脂質成分の働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	9	ビタミンの栄養①	脂溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	10	ビタミンの栄養② ミネラルの栄養①	水溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について 多量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	11	ミネラルの栄養②	微量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	12	水・電解質の役割	水・電解質の役割と脱水について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	13	エネルギー代謝①	エネルギー代謝の概念について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	14	エネルギー代謝②	エネルギー消費量の測定方法について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく	15	遺伝子発現と栄養	遺伝子発現と栄養について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	栄養の概念	食事の意義、栄養と健康・疾病との関係について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
2	摂食行動	摂食行動について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
3	消化と吸収①	各消化器の構造と特徴について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
4	消化と吸収②	各栄養素の消化と吸収について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
5	たんぱく質の栄養	たんぱく質とアミノ酸の働きと栄養評価法について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
6	糖質の栄養	糖質の働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
7	食物繊維と難消化性オリゴ糖について	食物繊維と消化性オリゴ糖の働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
8	脂質の栄養	各脂質成分の働きについて	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
9	ビタミンの栄養①	脂溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
10	ビタミンの栄養② ミネラルの栄養①	水溶性ビタミンの構造と働き、及び欠乏症・過剰症について 多量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
11	ミネラルの栄養②	微量ミネラルの働き、及び欠乏症・過剰症について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
12	水・電解質の役割	水・電解質の役割と脱水について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
13	エネルギー代謝①	エネルギー代謝の概念について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
14	エネルギー代謝②	エネルギー消費量の測定方法について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
15	遺伝子発現と栄養	遺伝子発現と栄養について	配布した資料などを事前・事後に学習しておく																																																																
関連科目	<p>全ての専門コア科目</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>栄養管理と生命科学シリーズ 基礎栄養学</td> <td>小林謙一、山田徳広、岸本良美 他</td> <td>理工図書株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	栄養管理と生命科学シリーズ 基礎栄養学	小林謙一、山田徳広、岸本良美 他	理工図書株式会社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	栄養管理と生命科学シリーズ 基礎栄養学	小林謙一、山田徳広、岸本良美 他	理工図書株式会社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	<p>授業内に実施する小テスト(50%)および定期試験(50%)で評価し、総合点60%以上で合格とする。 皆さんの学習状況によって変更する場合があります。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>一生懸命勉強してください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>応用栄養学研究室 (325)</p>																																																																		
備考																																																																			

科目名	調理学実習Ⅲ	科目名 (英文)	Practice in Cookery Science III
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安藤 真美, 野原 綾
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2037a0		

授業概要・目的	「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」で修得した知識と技術をもとに、調理による食品の味、色、香り、物性および成分変化とおいしさとの関係について、より深く理解することを目的とする。具体的には、穀類、野菜類、卵類、肉類などの食材を用いて調理条件を変化させ、でんぷんの糊化と物性との関係、食品に含まれる色素成分の調理による変色と安定化、食品の調理性に対する調味料の影響、調理による成分の変化等について調理実習・調理科学実験を行う事により理解を深める。また、各種官能評価法により食品および調理品の評価を行い、おいしさの評価について学修する。
到達目標	① 調理による食品の味、色、香り、物性および成分変化を理解した調理ができる。 ② 調理による食品の味、色、香り、物性および成分変化とおいしさとの関係に関して評価できる。 ③ 官能検査の手法を用いて、食品や調理・加工品の評価ができる。
授業方法と留意点	・下記の授業計画に従い、実習を行う。 ・前半は、各種官能評価法により食品および調理品の評価を行い、おいしさの評価について学修する。 ・後半は、各種食材の調理条件を変化させ、調理による食品の味、色、香り、物性および成分変化とおいしさとの関係に関して、調理学実習・実験を行う。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-2. 食事と調理の科学的理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「調理学実習Ⅲ」のガイダンス	「調理学実習Ⅲ」で学ぶ内容の概説	事前にシラバスを読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する
2	官能評価法の実験① (5味識別、順位法)	基本的な味の味質や強さの判定 順位法による調理品の特性判定	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
3	官能評価法の実験② (2点比較法、3点比較法)	2点比較法、3点比較法による調理品の特性判定	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
4	官能評価法の実験③ (評点法)	評点法による調理品の特性判定	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
5	だし汁の調理	だし汁の種類と味の相乗効果	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
6	米の調理性と嗜好性	炊飯に対する米の種類、水温、浸漬時間の影響	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
7	小麦粉の調理性と嗜好性	小麦粉の種類と性質、添加物の影響	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
8	豆類の調理性と嗜好性	豆の種類と加熱による変化	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
9	野菜の調理性と嗜好性	野菜の吸水と放水、色素の変化、酵素による褐変	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
10	卵の調理性と嗜好性	卵の鮮度鑑別、卵白の起泡性と泡の安定性、卵液の熱凝固性	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
11	肉類の調理性と嗜好性	肉の軟化方法	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
12	砂糖の調理性と嗜好性	砂糖の加熱による変化	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
13	ゲル化剤の調理性と嗜好性	各種ゲル化剤について扱い方の違いや特徴	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
14	油脂の調理性と嗜好性	油脂の種類、揚げ油の温度変化、油の吸着と食品の脱水	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
15	まとめ	「調理学実習Ⅲ」のふりかえり	事前に今までのレポートを見直す 事後、実習全体を通して目標に対する到達度を評価する

関連科目	調理学、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nブックス調理科学実験 (第2版)	長尾慶子、香西みどり 編	建帛社
2	日本食品成分表 2021 八訂 栄養計算ソフト・電子版付		医歯薬出版	
3	調理のためのベーシックデータ 第5版	松本 伸子 監修	女子栄養大出版部	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	調理と理論	山崎 清子、洪川 祥子、島田 キ ミエ、下村 道子 著	同文書院
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート 30%、授業に取り組む姿勢 (ルーブリック評価) 30%、小テスト (40%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8号館3階319研究室			
備考				

科目名	調理学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practice in Cookery Science II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安藤 真美, 新名 洋美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1036a0		

授業概要・目的	「調理学実習Ⅰ」で修得した基礎的知識と技術をもとに、和・洋・中・その他の各様式の食事を題材とした実践的調理実習を通して、食品の調理性、様々な対象や場面に応じて嗜好性、生体利用性等に配慮した食事設計について応用力・発展力を身につけることを目的とする。具体的には、立案した食事計画の実際を経験することにより、食事計画の「計画 (Plan)」「実践 (Do)」「評価 (Check)」「改善 (Action)」を行う。さらに、日本の食文化の継承を視野に入れた正月料理などの行事食やもてなしの食事、世界各国の食文化をふまえた各種料理を調理することにより、歴史的背景や伝統を考慮したうえで調理する力を養う。
到達目標	① 日常食の献立作成の基本、1食あたりの食品の使用量を考慮した1食単位および1日単位の食事設計と調理ができる。 ② 食品成分表を食事摂取のアセスメントと食事計画に活用できる。 ③ 日本の伝統的食文化の特性に応じた正月料理や日本料理等食文化をふまえた調理ができる。 ④ 世界各国の食文化・歴史的背景・伝統を考慮した調理ができる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、実習を行う。基本的な実習の流れは「調理学実習Ⅰ」と同様であるが、日本および世界各国の食文化をふまえた内容を主とする。必要に応じて教員によるデモンストレーションおよびDVDなどによる画像を使用し、理解を深める。さらに、グループワークとして様々な対象や場面に応じて嗜好性、生体利用性等に配慮した食事設計について検討する。立案した食事計画を調理・試食することにより実践的な技術を学修する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-2. 食事と調理の科学の理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「調理学実習Ⅱ」のガイダンス	「調理学実習Ⅱ」で学ぶ内容の概説	事前にシラバスを読み全体内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、テキストおよび配布したプリントを使って復習する
2	献立作成 (日常食)	グループワークによる日常食の献立作成	事前に「調理学」で学んだ献立作成について復習する 事後は、グループ毎に献立を完成させる
3	日本料理 (もち米の調理、揚げ調理について)	実習内容: 赤飯、天ぷら、赤だし	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
4	西洋料理 (鱈の三枚おろし)	実習内容: 鱈のムニエル、フルーツサラダ、カボチャスープ	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
5	中華料理 (小麦粉の生物的膨化)	実習内容: 包子 (2種)、石花凍	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
6	献立実習 (日常食)	第2回で立案した日常食の献立実習	事前に実習準備をしておく 事後は、修正・改善すべき点をまとめレポートをまとめる
7	献立報告会 (日常食)	第2回および第6回をふまえたグループ毎による日常食の献立報告会	事前に報告準備をしておく 事後は、他班の発表をうけて修正・追加すべき点をまとめる
8	献立作成 (行事食)	グループワークによる行事食の献立作成	事前に行事食について調べておく 事後は、グループ毎に献立を完成させる
9	諸外国料理	実習内容: パエリア、生春巻き、杏仁豆腐	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
10	行事食 (正月料理)	実習内容: 雑煮、三祝肴	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
11	行事食 (クリスマス料理)	実習内容: Roast Chicken、Canape、Grape Punch	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
12	行事食 (節分料理)	実習内容: すし、梅そうめんの吸い物	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
13	献立実習 (行事食)	第8回で立案した行事食の献立実習	事前に実習準備をしておく 事後は、修正・改善すべき点をまとめレポートをまとめる
14	献立報告会 (行事食)	第8回および第13回をふまえたグループ毎による行事食の献立報告会	事前に報告準備をしておく 事後は、他班の発表をうけて修正・追加すべき点をまとめる
15	実技試験	試験内容を事前に提示し実施	事前に提示した実技試験の内容を確認し練習しておく 事後、実習全体を通して目標に対する到達度を評価する

関連科目	調理学、調理学実習Ⅰ
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食べ物と健康、給食の運営 調理学実習 第2版	大谷貴美子、饗庭照美、松井元子、村元由佳里 編	講談社
2	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子、森 美奈子	化学同人	
3	八訂準拠 ビジュアル食品成分表		大修館書店	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	調理のためのベーシックデータ 第6版	松本 仲子 監修	女子栄養大出版部
	2	調理と理論	山崎 清子、渋谷 祥子、島田 キミエ、下村 道子 著	同文書院
	3	映像で学ぶ 調理と基礎のサイエンス	松崎 政三、寺本 あい、藤井 恵子 著	学際企画
評価方法 (基準)	レポート(評価割合 50%)、授業に取り組む姿勢(ルーブリック評価・評価割合 30%)、実技試験(評価割合 20%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	事前に実施内容を配布するため、必ずよく読んで必要な準備をして実習に臨んでください。 また、日常的な食経験の積み重ねが重要であるため、学んだ内容を意識して生活して下さい。			
担当者の 研究室等	8号館3階319研究室			
備考	実習に臨む服装等が不適切な場合は実習参加を認めません。 レポートはコメントをつけて返却します。 食材準備の都合上、順番や内容が変更になることがあります。			

科目名	調理学実習 I	科目名 (英文)	Practice in Cookery Science I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安藤 真美, 織田 奈央子, 古野 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF1035a0		

授業概要・目的	食品の調理性に関する実践的知識と基本的調理操作に関する基礎的能力を育成すること、および食の様々な場面において必要な基本的マナーと、安全・衛生面に関する正しい理解と認識を深めることを目的とする。具体的には、代表的な調理器具の扱い方と調理操作（ゆでる、煮る、蒸す、炒める、揚げる等）の基本を修得し、食品の特性や調理に伴う栄養の損失を考えた食品の組み合わせ方について学修する。また、調味%を理解することにより、調味の標準化に関する基礎的事項を修得する。さらに、栄養価計算をとおり、食品の栄養面の特徴や1食当たりの使用量および食品成分表の理解と活用能力を育成する。
到達目標	① 代表的な調理器具を使用し代表的な調理操作ができる。 ② 食品の調理性および味付けの基本をふまえ、調味割合として調味の標準化ができる。 ③ 食品の調理性や調理に伴う栄養の損失を考えた食品の組み合わせ方について説明できる。 ④ 食品の栄養面の特徴や1食当たりの使用量を理解し、食品成分表を使用して栄養価計算ができる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、実習を行う。基本的な実習の流れは、教員による説明⇒実習⇒試食⇒後片付けとする。必要に応じて教員によるデモンストレーションおよびDVDなどによる画像を使用し、理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-2. 食事と調理の科学の理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「調理学実習 I」のガイダンス	「調理学実習 I」で学ぶ内容の概説および調理を伴う実習における衛生管理についての説明	事前にシラバスを読み全体内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、テキストおよび配布したプリントを使って復習する
2	レポートの書き方	レポートの書き方の説明（調味料の概量・調味パーセント・作業スケジュール・栄養価計算など）	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する
3	計量器具の扱い方と食品重量	計量スプーンの扱い方と食品重量に対する重量感覚に関する実習	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、テキストおよび配布プリントを使って実技も含めて復習する
4	包丁の扱い方	包丁の種類や扱い方の基本に関する実習	事前にテキストの該当部分を読み、内容を把握し、不明な点や興味のある部分について調べる 事後、テキストおよび配布プリントを使って実技も含めて復習する
5	日本料理（ご飯の炊き方、煮干しのだしとり方、青菜のゆで方）	実習内容：ご飯、味噌汁、だし巻き卵、青菜のおひたし	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
6	西洋料理（ひき肉料理の基本、サラダの基本）	実習内容：Hamburg Steak, Salade de Legumes	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
7	中華料理（湯菜・炒菜・拌菜の基礎）	実習内容：黄花湯 青椒炒牛肉絲 香芹拌菜	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
8	日本料理（すし飯の作り方、乾物の扱い方、一番出しのとり方）	実習内容：ちらしずし、菊花豆腐の吸い物	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
9	西洋料理（ホワイトソースの作り方）	実習内容：Macaroni Gratin, Fruits Salad, lemonade	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
10	中華料理（点心の基礎）	実習内容：鍋貼餃子、酸辣菜、川粉条	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
11	日本料理（希釈卵液の熱凝固、吉野鶏について）	実習内容：ご飯、煮魚、茶碗蒸し、吉野鶏とみつばの吸い物	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
12	和菓子（寒天の扱い方、白玉粉の扱い方、煎茶の入れ方）	実習内容：白玉あんみつ、そばボーロ、煎茶	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
13	洋菓子（卵の熱凝固、紅茶の入れ方）	実習内容：Pudding, Cookie, Tea	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
14	中華菓子（卵の起泡性、中国茶の入れ方）	実習内容：鶏蛋?, 石花凍, 中国茶	事前にテキストおよびプリントをもとに、作業スケジュールを考える 事後、実習内容に関するレポートをまとめる
15	実技試験（切り方）	基本的な切り方の確認	事前に基本的な切り方の再確認して練習する 事後、実習全体を通して目標に対する到達度を評価する

関連科目	調理学
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	食べ物と健康, 給食の運営 調理学実習 第2版	大谷貴美子, 饗庭照美, 松井元子, 村元由佳里 編	講談社
2	八訂準拠 ビジュアル食品成分表		大修館書店
3	調理のためのベーシックデータ 第6版	松本 伸子 監修	女子栄養大出版部

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子、森 美奈子 編	化学同人
	2	調理と理論	山崎 清子、渋川 祥子、島田 キミエ、下村 道子 著	同文書院
	3	映像で学ぶ 調理と基礎のサイエンス	松崎 政三、寺本 あい、藤井 恵子 著	学際企画
評価方法 (基準)	レポートなどの提出物(評価割合 40%)、授業に取り組む姿勢(評価割合 30%)、小テストおよび実技試験(評価割合 30%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	事前の実施内容を配布するため、必ずよく読んで必要な準備をして実習に臨んでください。 日常的な調理経験が多いほど実習で学んだことが効果的に身に付くため、普段の生活においてできるだけ調理する機会をもつようによろしくしてください。			
担当者の 研究室等	8号館3階319研究室			
備考	実習に臨む服装等が不適切な場合は実習参加を認めません。 レポートはコメントをつけて返却します。 食材準備の都合上、順番や内容が変更になることがあります。			

科目名	食品加工学実習	科目名 (英文)	Practice in Food Processing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉井 英文, 新名 洋美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2034a0		

授業概要・目的	<p>「食品加工学実習」は、実際に穀類、砂糖、野菜、果実等の加工食品を作る基礎技術を修得する。食パン、うどん、アイスクリーム、ヨーグルト、ジャム、カスタードクリーム、豆腐ほかの製造を実習しながら、食品素材の加工特性（食品成分の物理的、化学的変化）、食品製造原理や技術について学ぶ。さらに、製造後の製品評価を多角的視点で行う事により、日常生活での加工食品の選択がより安全・安心なものとなり、健やかな食生活基礎を作ることができる。加えて、本実習を通して食への興味を広げ、食の原点を見つめなおし、真に豊かな食生活に貢献することを目的とする。特に、管理栄養士として加工食品の適切な取り扱いと食品開発に関わる基礎的技術の修得も目指す。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 食品の加工実習により、食品加工の原理を理解する。 ② 管理栄養士がもつべき食品加工にかかる基礎知識を実践的に修得し、加工食品の特質を理解する。 ③ 乳化、攪拌、加熱操作、酸化等加工に関わる技術単語を理解する。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・各実習のはじめに Power Point およびプリントで実習内容を説明する。 ・実習は、各班 4-5 人として実習を実施する。 ・実習のはじめに、材料、操作を確認し、実習ノートに記載した後、実習を実施する。 ・1回あたり 1.5 コマ (135 分授業) [3 時間] ×15 回=計 45 時間の授業とする。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実習ガイダンス</td> <td>食品加工の基礎知識の確認、ノートの記述法</td> <td>資料、参考書による予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>いも類加工食品の品質</td> <td>こんにゃくの硬さ</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>乳化食品の加工 (1)</td> <td>アイスクリームの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>豆類の加工</td> <td>豆腐の製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>穀類食品の加工</td> <td>バターロールパンの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>乳化食品の加工 (2)</td> <td>マヨネーズの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>穀類の加工 (1)</td> <td>食パンの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>乳化食品の加工 (3)</td> <td>カスタードクリームの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>穀類加工食品の品質評価</td> <td>スポンジケーキの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>発酵食品の加工</td> <td>ヨーグルトの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>野菜類の加工</td> <td>ジャムの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>飲料の加工</td> <td>茶、紅茶の抽出操作</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>野菜類の加工</td> <td>酵素による野菜の軟化操作</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>穀類の加工 (2)</td> <td>うどんの製造</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>加工法のまとめ</td> <td>総括 発表</td> <td>資料、参考書による予習、復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	実習ガイダンス	食品加工の基礎知識の確認、ノートの記述法	資料、参考書による予習	2	いも類加工食品の品質	こんにゃくの硬さ	資料、参考書による予習、復習	3	乳化食品の加工 (1)	アイスクリームの製造	資料、参考書による予習、復習	4	豆類の加工	豆腐の製造	資料、参考書による予習、復習	5	穀類食品の加工	バターロールパンの製造	資料、参考書による予習、復習	6	乳化食品の加工 (2)	マヨネーズの製造	資料、参考書による予習、復習	7	穀類の加工 (1)	食パンの製造	資料、参考書による予習、復習	8	乳化食品の加工 (3)	カスタードクリームの製造	資料、参考書による予習、復習	9	穀類加工食品の品質評価	スポンジケーキの製造	資料、参考書による予習、復習	10	発酵食品の加工	ヨーグルトの製造	資料、参考書による予習、復習	11	野菜類の加工	ジャムの製造	資料、参考書による予習、復習	12	飲料の加工	茶、紅茶の抽出操作	資料、参考書による予習、復習	13	野菜類の加工	酵素による野菜の軟化操作	資料、参考書による予習、復習	14	穀類の加工 (2)	うどんの製造	資料、参考書による予習、復習	15	加工法のまとめ	総括 発表	資料、参考書による予習、復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	実習ガイダンス	食品加工の基礎知識の確認、ノートの記述法	資料、参考書による予習																																																																
2	いも類加工食品の品質	こんにゃくの硬さ	資料、参考書による予習、復習																																																																
3	乳化食品の加工 (1)	アイスクリームの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
4	豆類の加工	豆腐の製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
5	穀類食品の加工	バターロールパンの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
6	乳化食品の加工 (2)	マヨネーズの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
7	穀類の加工 (1)	食パンの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
8	乳化食品の加工 (3)	カスタードクリームの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
9	穀類加工食品の品質評価	スポンジケーキの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
10	発酵食品の加工	ヨーグルトの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
11	野菜類の加工	ジャムの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
12	飲料の加工	茶、紅茶の抽出操作	資料、参考書による予習、復習																																																																
13	野菜類の加工	酵素による野菜の軟化操作	資料、参考書による予習、復習																																																																
14	穀類の加工 (2)	うどんの製造	資料、参考書による予習、復習																																																																
15	加工法のまとめ	総括 発表	資料、参考書による予習、復習																																																																
関連科目	食品加工学、食品学実験Ⅰ～Ⅱ、調理学実習Ⅰ～Ⅲ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実験プリント</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	実験プリント			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	実験プリント																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食品学実験書</td> <td>藤田修三、山田和彦/編著</td> <td>医歯薬出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食品加工、食品機能実験</td> <td>大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美</td> <td>東京教学社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食品学実験書	藤田修三、山田和彦/編著	医歯薬出版株式会社	2	食品加工、食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美	東京教学社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	食品学実験書	藤田修三、山田和彦/編著	医歯薬出版株式会社																																																																
2	食品加工、食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美	東京教学社																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の実習 2 週間後に、実習内容をまとめたレポートを提出する。実習内容の目的、材料、操作、結果、参考文献を記載すること。このレポート (80%) および実習中の内容 (ルーブリック評価・20%) で評価し、60%以上で合格とする。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>食品加工の原理を理解し、食品製造プロセスについて調べてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	農学部 8 号館 3F 教員室 (3 2 2)																																																																		
備考																																																																			

科目名	食品衛生学実験	科目名 (英文)	Experiments in Food Hygiene
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平原 嘉視, 小林 直木, 新名 洋美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF2033a0		

授業概要・目的	「食品衛生学」の講義で学修した食品衛生の知識を基礎として、食品の危害の原因を解明し、飲食に起因する健康被害を未然に防ぐために重要な科学的根拠(エビデンス)を得るための技術を実験を通じて修得する。具体的には、手指や調理器具の細菌汚染状況や消毒効果を把握するための手法を修得する。また、市販の食品を用いて食品添加物や残留農薬の安全性を評価するために実験の手法や分析機器の原理を理解し、得られた結果から講じるべき衛生管理について自ら考察できリスク管理の力を養う。
到達目標	① 食品中の手指等の汚染状況を把握する細菌学的検査ができ、衛生管理手法について説明することができる。 ② 食品中の着色料(酸性タール色素等)の抽出・同定ができ、薄層クロマトグラフィーの原理を説明できる。 ③ 食品中の発色剤(亜硝酸ナトリウム等)の定量ができ、比色測定を説明できる。 ④ 食品中の保存料(ソルビン酸、安息香酸ナトリウム等)の定量ができ測定原理を説明できる。 ⑤ 残留農薬の抽出・同定ができ、抽出原理、GC/MSの測定原理が説明できる。
授業方法と留意点	実験前に測定する目的、意義や操作方法、測定原理をパワーポイントやプリントを用いて説明した後、班単位で実験を行う。実験終了後、各個人で実習内容のまとめを行い、実験レポートを作成し、指示された期限内に提出する。
科目学習の効果(資格)	本実験は、管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員(任用資格)などの資格取得に活かせることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 食品添加物の分析	食品衛生学実験の目的、基礎知識と諸注意 食品中の発色剤(亜硝酸ナトリウム)の解説	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
2	食品添加物の分析①	食品中の発色剤(亜硝酸ナトリウム)の抽出・測定 分光光度計の原理	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
3	食品添加物の分析①	食品中の発色剤(亜硝酸ナトリウム)の抽出・測定 分光光度計の原理	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
4	細菌汚染検査 食品添加物の分析②	衛生管理のための試験 空中落下細菌、手指・調理器具の汚染状況、洗浄・消毒効果(ATPふき取り試験、スタンプ法) 食品中の保存料(ソルビン酸、安息香酸)の解説	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
5	細菌汚染検査 食品添加物の分析②	衛生管理のための試験 空中落下細菌、手指・調理器具の汚染状況、洗浄・消毒効果(ATPふき取り試験、スタンプ法) 食品中の保存料(ソルビン酸、安息香酸)の解説	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
6	食品添加物の分析③ 器具の操作法 細菌汚染検査	食品中の保存料(ソルビン酸、安息香酸)抽出、HPLC測定 ピペット操作法、溶液の希釈の理解 空中落下細菌の測定、スタンプ法結果判定、評価	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
7	食品添加物の分析③ 器具の操作法 細菌汚染検査	食品中の保存料(ソルビン酸、安息香酸)抽出、HPLC測定 ピペット操作法、溶液の希釈の理解 空中落下細菌の測定、スタンプ法結果判定、評価	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
8	食品添加物の分析④	食品中の保存料(ソルビン酸、安息香酸)の結果考察 HPLC原理、クロマトグラフィーの原理、分液ロート操作法 食品中の着色料(タール系色素)の解説、抽出	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
9	食品添加物の分析④	食品中の保存料(ソルビン酸、安息香酸)の結果考察 HPLC原理、クロマトグラフィーの原理、分液ロート操作法 食品中の着色料(タール系色素)の解説、抽出	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
10	食品添加物の分析⑤ 残留農薬分析①	TLCを用いた食品中の着色料(タール系色素)の測定 野菜、果実中の残留農薬試験の解説	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
11	食品添加物の分析⑤ 残留農薬分析①	TLCを用いた食品中の着色料(タール系色素)の測定 野菜、果実中の残留農薬試験の解説	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
12	残留農薬分析②	野菜、果実中の残留農薬試験(試料調製、抽出、測定)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
13	残留農薬分析②	野菜、果実中の残留農薬試験(試料調製、抽出、測定)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
14	残留農薬分析③ 総括	野菜、果実中の残留農薬(濃度計算、考察) ガスクロマトグラフ質量分析法(GC-MS)原理	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。

	15	残留農薬分析③ 総括	総括 野菜、果実中の残留農薬（濃度計算、考察） ガスクロマトグラフ質量分析法（GC-MS） 原理 総括	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。																
関連科目	食品衛生学、食品学各論、食品学実験Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>配布する実験書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布する実験書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	配布する実験書																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食品衛生検査指針 2015</td> <td>厚生労働省監修</td> <td>日本食品衛生協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>衛生試験法・注解 2020</td> <td>日本薬学会</td> <td>金原出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食品衛生検査指針 2015	厚生労働省監修	日本食品衛生協会	2	衛生試験法・注解 2020	日本薬学会	金原出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	食品衛生検査指針 2015	厚生労働省監修	日本食品衛生協会																	
2	衛生試験法・注解 2020	日本薬学会	金原出版																	
3																				
評価方法 (基準)	実験後、期限内に実験内容をまとめたレポートを提出する。実験内容の目的、方法、結果、考察、参考文献を記載する。このレポート（60%）および実験中の取り組み（40%）より評価する。																			
学生への メッセージ	食品の安全性を守るための科学的な根拠（エビデンス）を得るための方法を実験を通じて学びます。得られた結果は、成分規格や基準などと比較して食品衛生上どのような意味があり、どのようなリスク管理を行えば良いのかを考えていきましょう。																			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス農学部 教員室320																			
備考																				

科目名	食品学実験Ⅱ	科目名 (英文)	Experiments in Food Science II
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水間 智哉, 野原 綾
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1032a0		

授業概要・目的	「食品学実験Ⅰ」における学修を踏まえて、実際の食品に微量含まれる無機質とビタミンの定量分析を行う。また、比色法によるビタミンC及び鉄の分析、原子吸光法によるマグネシウム、高速液体クロマトグラフィー法によるビタミンCの測定法をそれぞれ修得し、それらの測定原理を理解することを目的とする。具体的には、実験を通じて、食品の栄養特性に関する知識を高める。また、食品機能性の評価指標として抗酸化活性の測定を行い、機能性評価と消化酵素阻害活性における活性測定の意義を理解する。 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な実験手法を教授する。
到達目標	① 食品学の基礎的知識を修得し、食品各成分の分析手法を実習により理解する。 ② 管理栄養士がもつべき分析にかかる基礎知識を修得し、食品成分含量や機能性評価のための基礎知識を養う。 ③ ビタミンの分析手法である比色法、および液体クロマトグラフィー法の原理を説明できる。
授業方法と留意点	・実験前に測定する目的、意義や操作方法、測定原理をパワーポイントやプリントを用いて説明した後、班単位で実験を行う。 ・実験終了後、各個人で実習内容のまとめを行い、実習レポートを作成し、指示された期限内に提出する。 ・一部の授業テーマについては課題作成による学習とする。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。 企業ニーズが高い食品の高度分析法を修得することで、あらゆる食品企業勤務に対応できる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実験ガイダンス	実験ノートの記述法の確認、薬品の安全な使用方法	ビベット、天秤の使用法について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
2	分析機器	分光光度計の使い方、各種分析機器の原理	ランバートベアの法則について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
3	鉄の分析	キレート法を用いた鉄の分析	キレートについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
4	鉄の分析	大豆の鉄の分析	検量線について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
5	カリウムの定量	原子吸光法	原子吸光について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
6	ポリフェノール含量の測定	お茶のポリフェノール含量の測定	ポリフェノールについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
7	ビタミンC 定量のための試薬調整	ビタミンCの定量の原理と薬品	ビタミンCについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
8	ビタミンCの定量	比色法を用いたビタミンCの定量	酸化と還元について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
9	ビタミンCの劣化	ビタミンCの酵素的劣化	ビタミンの劣化について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
10	ビタミンCのHPLCによる定量	液体クロマトグラフィー	カラムについて事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
11	抗酸化活性	DPPH ラジカル消去能	抗酸化活性について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
12	酵素的褐変	果実の色の変化	酵素的褐変について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
13	酵素反応	α -グリコシダーゼ酵素反応	酵素反応速度について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
14	カテキン	カテキンの酵素反応阻害	阻害について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。
15	実験データの整理	エクセルを用いたデータ整理	表計算について事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験レポートを作成する。

関連科目	食品学総論・各論など食品関連科目
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実験プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品学実験書	藤田修三、山田和彦/編著	医歯薬出版株式会社
	2	食品加工、食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、	東京教学社

			武曾歩、山本久美	
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習後に実習結果を、レポートにまとめる。また、実習中に与えた課題についても答える。レポートの提出は、1週間後の実習前までとする。レポート(80%)、実習中の内容(ルーブリック評価・20%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	健康志向など消費者ニーズの高まりは、食品分析の高度化を推し進めることになりました。 原子吸光分析や液体クロマトグラフィーなど先端機器を使用する高度な分析手法も取り扱います。			
担当者の 研究室等	8号館3階 321研究室			
備考	☆初回ガイダンスのみ Teams を使った動画ファイル提供によるオンラインとします。Teams の連絡用チャネルのファイルに動画ファイルを置いていますのでご視聴ください。			

科目名	食品学実験 I	科目名 (英文)	Experiments in Food Science I
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水間 智哉, 小林 直木, 野原 綾
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1031a0		

授業概要・目的
 実際の食品を用いて、食品成分表で用いられている手法に基づいて食品の基本的成分である水分、たんぱく質、脂質、炭水化物の分析を行い、重量分析、容量分析、比色分析など食品成分の分析に必要な分析原理や手法を学修し、食品の持つ性質、機能および役割を理解する。実験を通じて、共同実験者とのコミュニケーションをとり自ら実験操作を行う習慣を身につける。また、実験器具や薬品の取り扱い方など食品学実験に必要な基礎知識を修得する。さらに、実験値と食品成分表に記載されている文献値を比較して実験値の意味を理解し、管理栄養士として必携となる食品成分表に記載されている数値の意味の理解を深める。
 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な実験手法を教授する。

到達目標
 ① 実験器具や試薬の取り扱いを理解し、安全に実験を行うことができる。
 ② 食品中の水分やたんぱく質を測定することができ、重量分析や改良ケルダール法の原理を説明することができる。
 ③ 食品中の脂質や炭水化物を測定することができ、ソックスレー抽出法や比色分析の原理を説明することができる。
 ④ 食品中のヨウ素価を測定することができ、脂質の変敗について説明することができる。
 ⑤ 実験値から食品成分表に記載されている数値の意味を説明することができる。
 ⑥ コミュニケーションを取り自ら実験操作を進めることができる。

授業方法と留意点
 ・実験前に測定する目的、意義や操作方法、測定原理をパワーポイントやプリントを用いて説明した後、班単位で実験を行う。
 ・実験終了後、各個人で実習内容のまとめを行い、実習レポートを作成し、指示された期限内に提出する。
 ・一部の授業テーマについては課題作成による学習とする。

科目学習の効果 (資格)
 ・管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。
 ・食品企業・公的機関の品質管理・分析業務に直結し、商品開発にも活かせる。
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	食品学実習の目的、内容、実験上の基礎知識と諸注意	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
2	実験の基礎	実験器具、試薬の取り扱い、デシケート準備	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
3	水分、灰分測定①	食品中の水分の定量 (常圧加熱乾燥法) 灰分 (重量分析)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
4	水分、灰分測定②	灰分の定量 (乾式灰化法) (550℃法) (重量分析)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
5	脂質の分析①	脂質の定量 (ソックスレー抽出法: 抽出) (重量分析)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
6	脂質の分析②	脂質の定量 (ソックスレー抽出法: 秤量、恒量、粗脂肪計算)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
7	脂質の分析③	ヨウ素価測定	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
8	たんぱく質の分析① (改良ケルダール法)	シュウ酸標準液および水酸化ナトリウム溶液の調製	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
9	たんぱく質の分析②	ケルダール分解装置の設置 試料分解準備	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
10	たんぱく質の分析③	ケルダール分解装置試料分解	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
11	たんぱく質の分析④	水酸化ナトリウム溶液の力価測定	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
12	たんぱく質の分析⑤	分解溶液の蒸留および滴定、窒素量計算	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
13	炭水化物の分析①	アンスロン・硫酸法 (比色分析)	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
14	炭水化物の分析②	アンスロン・硫酸法 (検量線の作成、全糖量の算出)、差し引き法	事前に配布した資料を確認し実験の目的、流れを把握しておく。実験後、実習レポートを作成する。
15	まとめ	食品成分表との比較、ディスカッション、総評	事前に配布した資料を確認してお。終了後、レポートを作成する。

関連科目 食品学総論・各論など食品関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実験プライマリーガイド	倉沢新一他	化学同人
2	食品学実験	中谷延二、菊崎泰枝 編著	光生館	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本食品標準成分表 2015 年版 (七訂) 分析マニュアル・解説	安井明美他編	建帛社
2				
3				

評価方法 (基準) 次回の実習までに、実習内容をまとめたレポートを提出する。実習内容の目的、方法、結果、考察、参考文献を記載すること。レポート (80%)、実習中の内容 (ルーブリック評価・20%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 食品企業の食品管理・開発現場では日常業務ともいえる重要な分析手法を学びます。

担当者の研究室等 8号館3階 321教室

備考 1年前期に同時進行する食品学総論と関連付けながら進めていきます。

食品成分表（女子栄養大学出版）を持ってきてください。

科目名	調理学	科目名 (英文)	Cookery Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安藤 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1030a0		

授業概要・目的	調理とは、献立作成から始まり、食品選択・調理操作・供卓までの一連のプロセスを含んでいることを理解し、健全な食生活を送るための調理学の役割と、調理をより効果的に活用するために必要な理論と実際を学修することを目的とする。具体的には、エネルギー源、調理機器、調理操作について大量調理への応用展開も視野に入れて理解し、さらに各種食品の調理性を原理から理解して修得する。また、様々な対象や場面に応じて栄養・嗜好性に加えて経済性や効率性さらには食環境など食を取り巻く生活全体を捉えた食事設計の基礎を学修する。
到達目標	① 調理の意義を説明できる。 ② 各種の調理・調味操作の原理・要点について説明できる。 ③ 各食品の調理性について説明できる。 ④ 食事摂取基準を活用し、様々な対象や場面に応じた1食単位および1日単位の食事設計（献立作成・調理操作手順等）の方法を説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主にパワーポイントを用いた講義をweb配信する。 必要に応じて資料はweb配信する。 各講義後に、講義の確認小テストをweb上で行う。 Web上のふりかえりシートにより質問を受け付ける。
科目学習の効果（資格）	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムにおける「D-1. 食べ物と健康の関連の理解」および「D-2. 食事と調理の科学の理解」に該当する。さらに管理栄養士国家試験「食べ物と健康」の分野に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「調理学」のガイダンス	調理学で学ぶ内容の概説、調理の意義について	事前にシラバスを読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)
2	おいしさの科学	食物の嗜好性(おいしさ)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
3	調理器具と非加熱調理操作	非加熱調理操作(計量・洗浄・浸漬・切断・成型・磨砕・粉砕・混合・攪拌・圧搾・濾過・冷却・冷凍・解凍など)における調理器具と調理操作について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
4	調理器具と加熱調理操作	加熱調理操作(エネルギー源・伝熱方法・湿式加熱・乾式加熱・誘電加熱・誘導加熱)における調理器具と調理操作および新調理システム(真空調理・クックチル・クックフリーズなど)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
5	食品成分表	食品成分表の理解と活用について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
6	植物性食品の調理性(米・小麦・芋類・豆類)	米・小麦・芋類・豆類の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
7	植物性食品の調理性(野菜類・果物類・きのこ類・海藻類)	野菜類・果物類・きのこ類・海藻類の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
8	動物性食品の調理性(肉類・魚介類)	肉類・魚介類の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
9	動物性食品の調理性(卵類・乳類)	卵類・乳類の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
10	成分抽出素材・その他	デンプン・ゲル化材料などの調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
11	調味料と調味操作	調味パーセントの理解と各種調味料の調理特性について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)	
12	食事設計(食事摂取基準と食品構成)	食事摂取基準の理解と活用および食品構成の作成について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間)	

				る(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)
	13	1食単位の食事設計	食事摂取基準を活用した1食単位の食事設計(献立作成・調理操作手順など)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)
	14	1日単位の食事設計	食事摂取基準を活用した1日単位の食事設計(献立作成・調理操作手順など)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(2時間)
	15	エコ・クッキング	エコ・クッキング(環境に配慮した調理)について	事前にテキストの該当部分を読み、全体的内容を把握し、不明な部分や興味のある部分を調べてまとめる(2時間) 事後、テキストおよび配布プリントを使って復習する(1.5時間) また、講義全体を通して目標に対する到達度を評価する(30分)
関連科目	食品学総論、食品学各論、食品加工学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	四訂 健康・調理の科学	和田淑子・大越ひろ 編著	建帛社
	2	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子、森 美奈子 編	化学同人
	3	八訂準拠ビジュアル食品成分表		大修館書店
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	調理と理論	山崎 清子・渋川 祥子・島田 キミエ・下村 道子 著	同文書院
	2	食べ物と健康、給食の運営 調理学実習 第2版	大谷貴美子/饗庭照美/松井元子/村元由佳利・編	講談社サイエンティフィク
	3	調理のためのベーシックデータ 第6版	松本 伸子 監修	女子栄養大出版部
評価方法(基準)	小テスト(評価割合30%)および筆記試験(評価割合70%)により、総合的に評価を行う。60%以上で合格とする。			
学生へのメッセージ	講義で学んだことを毎日の食生活の中で常に反映させるよう意識して下さい。			
担当者の研究室等	8号館3階319研究室			
備考				

科目名	食品加工学	科目名 (英文)	Food Processing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉井 英文
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF2029a0		

授業概要・目的	食品加工学は、食品に物理的、化学的処理を施して、その食品の栄養的価値並びに保存性を高めるための理論と方法を学ぶものである。本講義では、食品加工の意義を学ぶと同時に、食品の素材や加工特性、食品劣化の要因、食品の加工法、貯蔵法を学修する。本講義と「食品加工学実習」を学ぶことにより、栄養士・管理栄養士として勤務する上で食のエキスパートとして必要な食品の利用や判別能力を身につけることを目的とする。
到達目標	① 食品加工の基礎的知識を修得し、食品加工に関わる技術を総合的に理解する。 ② 管理栄養士がもつべき基礎知識を修得し、食品表示制度や製品検査などの実践のための基礎を養う。 ③ 食品の素材や加工特性、食品劣化の要因について、説明できる。
授業方法と留意点	講義を、教科書とプリントを用いて、食品加工の基礎原理について講義する。各講義中課題を与える。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食品加工の目的	食品加工の意義	食習慣の変化と加工食品について復習しておくこと
2	食品保存の原理	水分活性と食品の劣化、たんぱく質の熱変性、澱粉の老化	食品劣化の原因について予習しておくこと
3	各種保存法	浸透圧、殺菌、pH、冷凍	水分の制御と食品の劣化について予習しておくこと
4	食品加工法の原理	物理的操作、化学的操作	乾燥、抽出について予習しておくこと
5	食品加工の生物的操作	微生物による加工、遺伝子操作、細胞融合、乳酸菌	酵素、アミラーゼ、レンニンについて予習しておくこと
6	穀類の加工	米、小麦 (たんぱく質、グルテン)、麵	アミロースについて予習しておくこと
7	豆類の加工	大豆、豆腐、納豆	たんぱく質の凝集について予習しておくこと
8	植物性食品の栄養と加工	いも類、野菜類、果実、ジャム、飲料	ペクチンについて予習しておくこと
9	動物性食品の栄養と加工 (1)	畜肉、ハム、燻製	食肉加工品について予習しておくこと
10	動物性食品の栄養と加工 (2)	卵、牛乳、水産物加工、魚の鮮度	K 値、牛乳の殺菌法について予習しておくこと
11	油脂、調味料	食用油脂の分類、油脂の改変、調味料	甘味料、香辛料について予習しておくこと
12	微生物利用食品	アルコール飲料、発酵、みそ、しょうゆ	発酵について予習しておくこと
13	機能性食品	食物繊維、魚油、乳酸菌	化学構造について予習しておくこと
14	包装	食品包装材料、プラスチック、酸素の透過	包装フィルムについて予習しておくこと
15	製品表示、賞味期限と消費期限	品質の規格化、賞味期限、原材料、法律	加工食品安全性について予習しておくこと

関連科目	食品加工学実習、食品学総論、食品学各論、調理学
------	-------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい食品加工学	高村仁知、森山達哉	南江堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	食品加工学	管理栄養士国家試験教科研究会	中山書店
2	食品学各論	津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修	中山書店
3	食品加工・食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美	東京教学社

評価方法 (基準)	毎回の講義後、講義中に与えられた Forms の提出 (30%)、レポート課題提出 (20%) および定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。Forms の提出は、次回の講義開始までとする。
学生へのメッセージ	質問は、Teams のチャットでしてください。
担当者の研究室等備考	農学部 8 号館 3F 教員室 (322)

科目名	食品加工学	科目名 (英文)	Food Processing
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉井 英文
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OAF2029a0		

授業概要・目的	食品加工学は、食品に物理的、化学的処理を施して、その食品の栄養的価値並びに保存性を高めるための理論と方法を学ぶものである。本講義では、食品加工の意義を学ぶと同時に、食品の素材や加工特性、食品劣化の要因、食品の加工法、貯蔵法を学修する。本講義と「食品加工学実習」を学ぶことにより、栄養士・管理栄養士として勤務する上で食のエキスパートとして必要な食品の利用や判別能力を身につけることを目的とする。
到達目標	① 食品加工の基礎的知識を修得し、食品加工に関わる技術を総合的に理解する。 ② 管理栄養士がもつべき基礎知識を修得し、食品表示制度や製品検査などの実践のための基礎を養う。 ③ 食品の素材や加工特性、食品劣化の要因について、説明できる。
授業方法と留意点	講義を、教科書とプリントを用いて、食品加工の基礎原理について講義する。各講義中課題を与える。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	食品加工の目的	食品加工の意義	食習慣の変化と加工食品について復習しておくこと
	2	食品保存の原理	水分活性と食品の劣化、たんぱく質の熱変性、澱粉の老化	食品劣化の原因について予習しておくこと
	3	各種保存法	浸透圧、殺菌、pH、冷凍	水分の制御と食品の劣化について予習しておくこと
	4	食品加工法の原理	物理的操作、化学的操作	乾燥、抽出について予習しておくこと
	5	食品加工の生物的操作	微生物による加工、遺伝子操作、細胞融合、乳酸菌	酵素、アミラーゼ、レンニンについて予習しておくこと
	6	穀類の加工	米、小麦 (たんぱく質、グルテン)、麵	アミロースについて予習しておくこと
	7	豆類の加工	大豆、豆腐、納豆	たんぱく質の凝集について予習しておくこと
	8	植物性食品の栄養と加工	いも類、野菜類、果実、ジャム、飲料	ペクチンについて予習しておくこと
	9	動物性食品の栄養と加工 (1)	畜肉、ハム、燻製	食肉加工品について予習しておくこと
	10	動物性食品の栄養と加工 (2)	卵、牛乳、水産物加工、魚の鮮度	K 値、牛乳の殺菌法について予習しておくこと
	11	油脂、調味料	食用油脂の分類、油脂の改変、調味料	甘味料、香辛料について予習しておくこと
	12	微生物利用食品	アルコール飲料、発酵、みそ、しょうゆ	発酵について予習しておくこと
	13	機能性食品	食物繊維、魚油、乳酸菌	化学構造について予習しておくこと
	14	包装	食品包装材料、プラスチック、酸素の透過	包装フィルムについて予習しておくこと
	15	製品表示、賞味期限と消費期限	品質の規格化、賞味期限、原材料、法律	加工食品安全性について予習しておくこと

関連科目	食品加工学実習、食品学総論、食品学各論、調理学
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい食品加工学	高村仁知、森山達哉	南江堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品加工学	管理栄養士国家試験教科研究会	中山書店
	2	食品学各論	津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修	中山書店
	3	食品加工・食品機能実験	大田英明、松井利郎、船越淳子、武曾歩、山本久美	東京教学社

評価方法 (基準)	毎回の講義後、講義中に与えられた Forms の提出 (30%)、レポート課題提出 (20%) および定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。Forms の提出は、次回の講義開始までとする。
学生へのメッセージ	質問は、Teams のチャットでしてください。
担当者の研究室等備考	農学部 8 号館 3F 教員室 (322)

科目名	食品衛生学	科目名 (英文)	Food Hygiene
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平原 嘉視
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1028a0		

授業概要・目的
食品に起因する健康被害を未然に防ぎ、食品の安全を守るために、食品の生産・加工・保存・流通・調理段階で発生する食品衛生上の健康危害を理解し、対策・予防を行うための基礎的知識を修得することを目的とする。具体的には、食品衛生行政組織や食品関係法規を理解し、食中毒の原因となる病原微生物や残留農薬、動物性医薬品、食品添加物、食品汚染物質や食品・器具容器包装などに関する衛生を学修する。また、食品衛生管理、食品の表示制度について理解し、食品の安全性を守るためのエビデンスとなる基本知識を学修する。
授業では、国の食品衛生行政の実務経験を活かして、食品衛生現場における具体的な事例に基づき食品衛生を生活に結びつけた身近なものとして学修する。

- 到達目標**
- ① 食品衛生に関する行政組織、食品衛生関連法規、リスク分析について説明することができる。
 - ② 食品の変質の種類と変質の防止方法について説明することができる。
 - ③ 食中毒病因物質の種類、病因物質別の予防方法を説明できる。
 - ④ 食品中の汚染物質について例を挙げて説明することができる。
 - ⑤ 食品添加物の種類、使い方、安全性評価方法について説明できる。
 - ⑥ 食品の衛生管理について説明することができる。
 - ⑦ 食品表示の種類、役割、機能について説明することができる。

授業方法と留意点
本講義は、対面授業方式により食品衛生の基礎知識を深める。具体的には、授業ごとの到達目標を決め、それに沿った解説や演習問題を行い、受講者各自で問題を解いた後、解答の解説を行う。講義後には Moodle を用いて、その日の内容の小テストや感想などをレポートとしてまとめて決められた期限までに提出する。その他、必要に応じて追加の演習問題などの課題を課す。小テスト、授業終了時の振り返りシートについても評定とする。また、その他課題がある場合はその提出も授業出席の根拠として含める。

科目学習の効果 (資格)
本講義は、管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) などの資格取得に活かせることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	食品衛生と法規 ①	食品衛生の概要、わが国の法規、食品安全基本法と食品衛生法、食の安全を支える体系について学ぶ。	事前：教科書の第1回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第1回の小テストを行う。
2	食品衛生と法規 ②	リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションのリスク分析 (リスクアナリシス) について学ぶ。	事前：教科書の第2回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第2回の小テストを行う。
3	食品衛生と法規 ③	食品衛生に関連する法規 食品衛生法 (リスク管理) 日本の食品衛生行政組織 (食品衛生を担う者) 食品衛生に関わる国際的組織及び委員会について学ぶ。	事前：教科書の第3回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第3回の小テストを行う。
4	食品の変質 ①	食品の変質とは、微生物による変質、化学的変質、酸敗の判定法、鮮度、腐敗度の判定法について学ぶ。	事前：教科書の第4回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第4回の小テストを行う。
5	食品の変質 ②	食品成分の変化によって生じる有害物質、食品の変質の防止法について学ぶ。	事前：教科書の第5回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第5回の小テストを行う。
6	食中毒 ① 食品と食中毒	食中毒とは、食中毒予防原則、食中毒の発生状況、微生物とは、微生物の食品への関与、微生物の制御について学ぶ。	事前：教科書の第6回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第6回の小テストを行う。
7	食中毒 ②	食中毒の種類、細菌性食中毒 (感染型) について学ぶ。	事前：教科書の第7回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第7回の小テストを行う。
8	食中毒 ③	細菌性食中毒 (毒素型)、ウイルス性食中毒、人獣 (畜) 共通感染症について学ぶ。	事前：教科書の第8回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第8回の小テストを行う。
9	食中毒 ④	寄生虫による食中毒、動物性自然毒について学ぶ。	事前：教科書の第9回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第9回の小テストを行う。
10	食中毒⑤ 食品中の汚染物質	植物性自然毒、食品中汚染物質 (カビ毒、化学物質、有害元素、放射性物質) について学ぶ。	事前：教科書の第10回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第10回の小テストを行う。
11	異物、アレルゲン、残留農薬、動物用医薬品	異物、アレルゲン、残留農薬、動物用医薬品について学ぶ。	事前：教科書の第11回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第11回の小テストを行う。
12	器具・容器包装 遺伝子組み換え食品 食品添加物 ①	器具・容器包装、遺伝子組み換え食品とゲノム編集食品、食品添加物の指定、分類について学ぶ。	事前：教科書の第12回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第12回の小テストを行う。
13	食品添加物 ② 食品衛生管理	食品添加物の種類・用途・表示および HACCP、ISO、集団給食施設等における衛生管理などについて学ぶ。	事前：教科書の第13回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第13回の小テストを行う。
14	食品表示制度①	食品表示法、食品表示基準、期限表示、栄養成分表示、アレルギー表示、遺伝子組み換え表示などについて学ぶ。	事前：教科書の第14回の内容に関わる箇所を予習しておく 事後：第14回の小テストを行う。
15	食品表示制度② リスク分析に基づく食品の 安全性、リスクバランス	健康や栄養に関する表示、虚偽・誇大広告およびリスク分析に基づく食品の安全性、リスクバランスについて学ぶ。	事前：第1回～15回の内容の復習を行っておく。 事後：第15回の小テストを行う。

関連科目 食品衛生学実験、食品学各論、食品学実験Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	食べ物と健康 食品衛生学	白尾美佳等	光生館
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養管理と生命科学シリーズ食品衛生学	後藤政幸、熊田薫、熊谷優子他	理工図書
	2	食品安全の事典	日本食品衛生学会編	朝倉書店
	3			
評価方法 (基準)	各講義の学習確認小テスト (30%)、振り返りシート (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	この授業では、食品衛生の現場における具体的な事例に基づき食品衛生を生活に結びつけた身近なものとして学びます。講義中での復習問題、事前・事後学習、小テストなどを通して理解していきましょう。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス農学部 教員室320			
備考				

科目名	食品学各論	科目名 (英文)	Food Materials Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1027a0		

授業概要・目的
 一般に利用されている食品を植物性食品、動物性食品、油糧食品等に分類し、個々の食品についてその性状や含有成分（主要成分や微量成分）の理化学的性質を理解することを目的とする。具体的には、甘味料、調味料、香辛料などの食品添加物、調理加工品、バイオ食品の特性についても学修するとともに、食品の基本的性質を基にした利用法（加工と貯蔵への応用や微生物を利用した発酵食品を含む）についても学修する。「食品学総論」に引き続いて、健康で豊かな食生活を作り上げるための食品及び食品素材の特性に関する知識を高める。また、食品加工のための食品素材の物理的、化学的性質を理解し、「食品加工学実習」へと知識、理解をつなげる。
 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な知識を教授する。

- 到達目標**
- ① 食品加工の基礎的知識を修得し、食品加工に関わる技術を総合的に理解する。
 - ② 管理栄養士がもつべき基礎知識を修得し、食品表示制度や製品検査などの実践のための基礎を養う。
 - ③ 食品中の代表的含有成分、その性質について、説明できる。
 - ④ 食品中成分の劣化について、物理的因子、化学的因子を説明できる。

授業方法と留意点
 講義形式

科目学習の効果（資格）
 管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食生活と健康	食習慣と生活習慣病	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
2	食品成分表	食品表示法の概要、保健機能食品	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
3	穀類	米、小麦、とうもろこし	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
4	いも類	いも類の特徴、じゃがいも、さつまいも等	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
5	野菜類	ビタミン類、クロロフィル、緑黄色野菜	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
6	きのこ、藻類	キノコ類の特徴、フレーバー、アルギン酸、ペクチン	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
7	植物性食品の栄養と加工 (1)	植物性食品の特徴と分類、野菜類の分類	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
8	植物性食品の栄養と加工 (2)	果実類の特徴	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
9	動物性食品の栄養と加工 (1)	食肉の種類、組織、構造、成分、食肉の加工	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
10	動物性食品の栄養と加工 (2)	卵、牛乳、魚介類、水産食品の鮮度	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
11	油脂、調味料	植物性油脂、動物性油脂、加工油脂の特徴	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
12	微生物利用食品	アルコール飲料、みそ、しょうゆ、納豆	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
13	食品の保存と加工	食品保存における物理化学的因子	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
14	食品の保存と成分変化	たんぱく質の変性、でんぷんの老化、脂質の酸化	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
15	食品加工	食品加工の特質	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）

関連科目
 食品学総論、食品学実験Ⅰ、食品学実験Ⅱ、食品加工学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品学Ⅱ 食品の分類と特性・用途を正しく理解するために	佐藤薫、中島肇 編	化学同人
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	管理栄養士国家試験過去問解説集 5年分徹底解説	管理栄養士国家試験対策研究会	

	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の課題（評価割合 10%）および定期試験（評価割合 90%）で評価し、総点 60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	1 年生前期で履修した食品学総論の知識が必須です。しっかり復習した後、講義にのぞんでください。			
担当者の 研究室等	8 号館 3 階 321 教室			
備考				

科目名	食品学総論	科目名 (英文)	General Food Science
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	OAF1026a0		

授業概要・目的
 栄養管理を行う際に必要であり、健康に欠かせない食品の成分や性質を学び食品の役割・機能を理解することを目的とする。具体的には、食品の一次機能を担うたんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミン、無機質など生命維持に必要な食品成分の化学構造・性質、物性等や栄養特性を理解する。また、色素成分、呈味成分、におい成分などおいしさを感じさせる二次機能、及び人の健康の維持・増進に関わる三次機能を有する特定保健用食品等の成分と作用について学修する。
 本科目担当者は民間企業で15年以上の製造・品質管理・商品開発を経験しており、その経験を生かした実践的な知識を教授する。

到達目標
 ① 食品の一次、二次及び三次機能について説明することができる。
 ② アミノ酸・ペプチド、たんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミン、無機質の種類、構造、性質を化学的に説明することができる。
 ③ 食品中の色、味、におい成分の種類、構造、性質を化学的に説明することができる。
 ④ 特定保健用食品の成分と作用について説明することができる。
 ⑤ 食品の主観的評価（官能評価）の方法について説明することができる。

授業方法と留意点
 講義形式

科目学習の効果（資格）
 管理栄養士国家試験「食べ物と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる。
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	人間と食品	食品学とは、食物の歴史の変遷、食物連鎖、食料と環境問題	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
2	食品の一次機能たんぱく質①	食品の機能分類、たんぱく質とは、アミノ酸の種類と構造	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
3	たんぱく質②	たんぱく質の種類、性質、たんぱく質の変性	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
4	炭水化物①	炭水化物の定義と分類、食品成分としての炭水化物の役割	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
5	炭水化物②	単糖、オリゴ糖	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
6	炭水化物③	多糖、食物繊維	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
7	脂質①	脂質の定義、分類、脂肪酸	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
8	脂質②	油脂の性質、酸化、リン脂質	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
9	ビタミン①	ビタミンの定義、分類、脂溶性ビタミン	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
10	ビタミン②	水溶性ビタミンの機能	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
11	無機質	無機質の種類、性質、機能	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
12	食品の二次機能①	水分、水の構造と性質、色素成分	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
13	食品の二次機能②	呈味成分、香気・におい成分の種類、作用、テクチャー	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
14	食品の三次機能	三次機能を持つ主な食品成分とその作用	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）
15	食事設計	官能評価（官能検査）の種類と検査手法	授業前に教科書で各講義内容を学習し（1時間）、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく（1時間）

関連科目
 食品学各論、食品学実験Ⅰ、食品学実験Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品学Ⅰ 食品成分とその機能を正しく理解するために	佐藤薫、中島肇 編	化学同人
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	管理栄養士国家試験過去問解説集 5年分徹底解説	管理栄養士国試対策研究会	中央法規出版

	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の小テスト（評価割合 10%）および定期試験（評価割合 90%）で評価し、総点 60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	食品成分の本質的な理解を目指します。みなさんの今後の勉学の基礎となる内容です。			
担当者の 研究室等	8 号館 3 階 321 研究室			
備考				

科目名	微生物学実験	科目名 (英文)	Experiments in Microbiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加藤 直樹, 小林 直木
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF2025a0		

授業概要・目的	人体と微生物や毒性物質との相互作用について、「微生物学実験」を通して学習することを目的とする。具体的には、無菌操作や滅菌、消毒方法、微生物の培養、顕微鏡観察やグラム染色等による分類など基本手技を修得する。また、環境や人体からの微生物の分離同定、抗菌物質の感受性試験、大腸菌を用いた遺伝子組換え実験を通して、感染症の原因となる微生物と人体との関係についての正しい考え方、知識を身につける。																																																																		
到達目標	① 微生物を安全に取り扱うために必要な設備、機器、器具などの種類を理解し、使用方法を修得する。 ② 細菌や酵母、カビのそれぞれに適した培養方法を理解し、分離、培養に必要な基本手技を身につける。 ③ 生物学的、生化学的性状に基づく微生物の同定法を理解し、その実験に必要な技術を修得する。 ④ 抗菌物質の微生物に対する効果を理解する。 ⑤ 微生物を安全に取り扱うための洗浄や消毒、殺菌に関する方法を理解し、正しく行えるようにする。 ⑥ 大腸菌の形質転換実験により、遺伝子組換えの関する基本的な知識を身につける。																																																																		
授業方法と留意点	・実験（配布するプリント教材に沿って行う） ・1回あたり1.5コマ（135分授業）[3時間]×15回=計45時間の授業とする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」分野に該当し、資格取得に活かせる。 微生物の分離同定や検査を行うのに必要な無菌操作などの実験技術を身につけることができる。食品の衛生管理において必要な消毒や殺菌についての正しい知識を身につけることができる。 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>微生物実験の概要</td> <td>実験の概要</td> <td>事前：シラバスの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>微生物実験の基本操作</td> <td>無菌操作、滅菌、消毒</td> <td>事前：実験内容の確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>微生物の培養 I</td> <td>培地の種類、組成、調製</td> <td>事前：実験内容の確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>微生物の培養 II</td> <td>微生物の培養、分離、保存</td> <td>事前：実験内容の確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>微生物の観察 I</td> <td>顕微鏡の種類、光学、実体顕微鏡の取り扱い</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>微生物の観察 II</td> <td>染色による観察、コロニーの形状観察</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>微生物の同定 I</td> <td>生物学的性状および生化学的性状による細菌の同定</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>微生物の同定 II</td> <td>酵母、カビの培養と観察</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>環境検体の検査</td> <td>環境や食品などからの細菌の分離、培養と観察</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>人体検体の検査</td> <td>人体部位からの細菌の分離、培養と観察</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>手指の洗浄と消毒法</td> <td>手指の細菌の採取、分離と、洗浄法、消毒法</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>加熱殺菌法</td> <td>加熱殺菌法、煮沸殺菌法、生菌数測定</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>細菌と抗菌物質</td> <td>薬剤感受性試験、生菌数測定</td> <td>事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>遺伝子組換え実験</td> <td>大腸菌の形質転換</td> <td>事前：実験内容の確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>微生物実験の総括</td> <td>実験の総括</td> <td>事後：実験結果のまとめ、レポート作成</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	微生物実験の概要	実験の概要	事前：シラバスの理解	2	微生物実験の基本操作	無菌操作、滅菌、消毒	事前：実験内容の確認	3	微生物の培養 I	培地の種類、組成、調製	事前：実験内容の確認	4	微生物の培養 II	微生物の培養、分離、保存	事前：実験内容の確認	5	微生物の観察 I	顕微鏡の種類、光学、実体顕微鏡の取り扱い	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	6	微生物の観察 II	染色による観察、コロニーの形状観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	7	微生物の同定 I	生物学的性状および生化学的性状による細菌の同定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	8	微生物の同定 II	酵母、カビの培養と観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	9	環境検体の検査	環境や食品などからの細菌の分離、培養と観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	10	人体検体の検査	人体部位からの細菌の分離、培養と観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	11	手指の洗浄と消毒法	手指の細菌の採取、分離と、洗浄法、消毒法	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	12	加熱殺菌法	加熱殺菌法、煮沸殺菌法、生菌数測定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	13	細菌と抗菌物質	薬剤感受性試験、生菌数測定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ	14	遺伝子組換え実験	大腸菌の形質転換	事前：実験内容の確認	15	微生物実験の総括	実験の総括	事後：実験結果のまとめ、レポート作成
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	微生物実験の概要	実験の概要	事前：シラバスの理解																																																																
2	微生物実験の基本操作	無菌操作、滅菌、消毒	事前：実験内容の確認																																																																
3	微生物の培養 I	培地の種類、組成、調製	事前：実験内容の確認																																																																
4	微生物の培養 II	微生物の培養、分離、保存	事前：実験内容の確認																																																																
5	微生物の観察 I	顕微鏡の種類、光学、実体顕微鏡の取り扱い	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
6	微生物の観察 II	染色による観察、コロニーの形状観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
7	微生物の同定 I	生物学的性状および生化学的性状による細菌の同定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
8	微生物の同定 II	酵母、カビの培養と観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
9	環境検体の検査	環境や食品などからの細菌の分離、培養と観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
10	人体検体の検査	人体部位からの細菌の分離、培養と観察	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
11	手指の洗浄と消毒法	手指の細菌の採取、分離と、洗浄法、消毒法	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
12	加熱殺菌法	加熱殺菌法、煮沸殺菌法、生菌数測定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
13	細菌と抗菌物質	薬剤感受性試験、生菌数測定	事前：実験内容の確認 事後：実験結果のまとめ																																																																
14	遺伝子組換え実験	大腸菌の形質転換	事前：実験内容の確認																																																																
15	微生物実験の総括	実験の総括	事後：実験結果のまとめ、レポート作成																																																																
関連科目	微生物学、分子生物学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>栄養系微生物学</td> <td>藤原永年、岩田建</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>微生物実験マニュアル（第2版）</td> <td>安藤昭一編著</td> <td>技報堂出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	栄養系微生物学	藤原永年、岩田建	南江堂	2	微生物実験マニュアル（第2版）	安藤昭一編著	技報堂出版	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	栄養系微生物学	藤原永年、岩田建	南江堂																																																																
2	微生物実験マニュアル（第2版）	安藤昭一編著	技報堂出版																																																																
3																																																																			
評価方法（基準）	実験に取り組む姿勢（ルーブリック評価・40%）とレポート（60%）で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	目には見えない「微生物」は私たちの生活と深い関わりがあります。微生物に関する正しい知識と取り扱い方法を習得しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	農学部 8号館 3F 教員室(308)																																																																		
備考																																																																			

科目名	生化学実験	科目名 (英文)	Experiments in Biochemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人, 小林 直木
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF1024a0		

授業概要・目的
生命現象を化学的に探究するのが生化学であるが、講義だけで生化学を理解するのは困難である。本科目は実験を通じて生化学の知識を深めることを目的とする。具体的には、pH と緩衝液、糖質の性質、たんぱく質・アミノ酸の性質、脂質の性質、ビタミン・無機質 (ミネラル) の性質を学修し、次に動物の臓器を用いて生体中のグリコーゲン、脂質成分、DNA を定量する。さらに、酵素の基本的性質と酵素反応速度論並びに生体における酸化反応と電子伝達を学修する。

- 到達目標**
- ① pH と緩衝液について説明できる。
 - ② 五大栄養素定性反応について説明できる。
 - ③ 肝臓グリコーゲンと筋肉グリコーゲンについて説明できる。
 - ④ 脂肪組織の脂質成分について説明できる。
 - ⑤ 肝臓 DNA について説明できる。
 - ⑥ 各因子の酵素反応への影響が説明できる。
 - ⑦ 細胞における酸化還元反応が説明できる。

授業方法と留意点
・下記の授業計画に従い、実験を実施する。
・1回あたり 1.5 コマ (135 分授業) [3 時間] ×15 回=計 45 時間の授業とする。

科目学習の効果 (資格)
生体が生きている仕組みを理解し、栄養素や生体成分の化学的な性質と、体内での機能・代謝の基礎を学びます。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。生化学の知識は、栄養学・臨床栄養学と結びつけ医療の現場で発揮することができます。近年では、がんの治療を生化学の知識をもとに、がんセンターなどで医師などと共に研究する管理栄養士も見られます。栄養士、管理栄養士の資格を取る上でも、とても重要な基礎知識です。
管理栄養士国家試験受験資格、栄養

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	pH と緩衝液	pH メーターによる pH の測定をする 緩衝液の調整と働きを学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
2	糖質の定性反応	糖質の定性反応を学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
3	たんぱく質・アミノ酸の定性反応	たんぱく質・アミノ酸の定性反応を学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
4	脂質の定性反応	脂質の定性反応を学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
5	ビタミンの定性反応	ビタミンの定性反応を学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
6	尿中ミネラルの定性反応	尿中ミネラルの定性反応を学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
7	肝臓グリコーゲンの分離と定量	ラットの肝臓グリコーゲンを分離して 定量する	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
8	筋肉グリコーゲンの分離と定量	ラットの筋肉グリコーゲンを分離して 定量する	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
9	脂肪組織の脂肪酸組成	牛脂身から脂質を抽出し、薄層クロマト グラフィーを用いてその組成を確認する	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
10	肝臓 DNA の分離	ラットの肝臓から DNA を抽出する	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
11	肝臓 DNA の定量	ラットの肝臓の DNA 量を定量する	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
12	酵素反応①	反応時間と酵素濃度が酵素反応に及ぼす影響をみる	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
13	酵素反応①	基質濃度が酵素反応に及ぼす影響をみる	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
14	酵素反応①	反応温度と pH が酵素反応に及ぼす影響をみる	配布した資料などを事前・事後に学習しておく
15	生体の酸化反応と電子伝達	ラットの心臓を用いた生きた細胞における酸化還元反応を学ぶ	配布した資料などを事前・事後に学習しておく

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生化学実験	田代 操 編著	化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

評価方法 (基準)
実験に取り組む姿勢 (ルーブリック評価・評価割合 50%) とレポート (評価割合 50%) で評価し、60% 以上で合格とする。

学生へのメッセージ
『生化学実験』では、『生化学』の授業で学んだ内容をより深く理解することを目的とするとともに、生体成分の分析・解析の基本として、分光光度計による定量分析により、酵素活性の分析を行います。これらを通じて実験の原理を理解し、基本操作を身につけてください。またレポート作成を通して、科学データの基本的な報告書の書き方も身につけて下さい。教科書をよく読んで、予習・復習を忘れずに、興味を持ってしっかりと理解するように努めて下さい。

担当者の研究室等
薬学部 1 号館 5 階大塚教授室

備考

科目名	解剖生理学実習	科目名 (英文)	Practice in Anatomy and Physiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹・野原 綾
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF1023a0		

授業概要・目的	本実習は、解剖学および生理学の基礎知識を学修し、人体の構造と機能について理解することとする。具体的には、人体模型標本・骨格標本、実験動物（ラット）の解剖を通して生体の器官・臓器の位置を知り、組織標本を光学顕微鏡で観察することで、組織の構造を特徴を細胞レベルで学修する。生理学実習では、実際に診療で用いられる機器を用いて検査手技を体験し、人体の生理機能、生命活動および環境変化に対する適応機構について理解を深める。 並行して開講する解剖生理学の講義内容と関連させることで、知識の定着化を図っていく。 授業担当者は、教育病院で内科診療に従事し、学生の臨床実習や研修医の教育・指導経験を有しており、実際の診療現場における解剖生理学の意義や重要性を示しながら、実践的な知識を修得することを目的としている。
到達目標	① 生体の構造について器官・組織・細胞レベルで説明でき、それらの生理機能を説明できる。 ② 生理機能検査の意義・原理・方法を説明でき、実施することができる。 ③ 人体に関する知識を栄養学、薬理学、臨床病態学の学修に活用できる。 ④ 基本的な操作・手技を修得する。 ⑤ 実習に主体的に取り組み、得られた結果に対して客観的な分析と科学的な考察ができる。
授業方法と留意点	A, B 2つのグループ（各 40 名）で隔週に実施。実習内容により 3～5 名の小グループに分かれて課題に取り組む。1 回目は 1.5 時限（135 分）、2 回目以降は 3 時限（270 分）の実習を 1 日で実施し、1.5 時限×15 回分の授業内容を 8 日間で修了する。スケッチ等の課題は実習中に作成し、事後学習で完成して期限内に提出する。 最終回に顕微鏡を用いた組織の観察について口頭試験を実施する。 並行して同時期に開講する「解剖生理学」において、本実習の内容に配慮した順序で系統講義を行い、本実習内容に関連した「まとめの小テスト」を
科目学習の効果（資格）	管理栄養士国家試験の出題基準項目「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」に該当し、解剖生理学の系統的な知識と、これを基にした主要な疾患や病態に関する知識は、管理栄養士の資格取得に必須である。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 顕微鏡の使用法 人体模型①	実習のすすめ方 ICT ツールの使用法 顕微鏡を用いた組織の観察法 人体模型の分解と組み立て	事後学習：顕微鏡観察について教科書復習
2	肉眼解剖 1 交連骨格模型 人体模型②	交連骨格模型の観察 関節のスケッチ 人体模型の観察 骨格筋のスケッチ	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料（PDF など）予習 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習
3	組織学実習 1 顕微鏡	組織標本の観察・スケッチ 骨組織、筋組織 消化管：食道・胃・小腸・大腸	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習
4	肉眼解剖 2 脈管模型 臓器模型	心臓・血管系の臓器模型の観察・スケッチ 肝臓、腎臓の臓器模型の観察・スケッチ	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習
5	組織学実習 2 顕微鏡	組織標本の観察・スケッチ 心臓・血管系 肝臓、膵臓、腎臓	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習
6	肉眼解剖 3 臓器模型 生理学実習 1 バイタルサイン 呼吸機能検査	上気道、肺の臓器模型 観察・スケッチ 聴診器、血圧計の使い方 バイタルサイン測定 呼吸機能検査（スパイロメーター）	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習
7	組織学実習 3 顕微鏡	組織標本の観察・スケッチ 気管・気管支、肺 内分泌系（下垂体、甲状腺、副腎）	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：スケッチ課題の完成、授業内容の復習
8	ラットの解剖 1	解剖の手技に関する事前講義 小グループ毎にラット雄雌 1 対を解剖する。 消化管・肝臓・膵臓・脾臓の解剖：観察とスケッチ	事前学習：解剖の手順について予習 事後学習：スケッチ内容を含めたレポート作成
9	ラットの解剖 2	心臓・呼吸器系の解剖：観察とスケッチ 腎泌尿器系・内分泌系・生殖器系の解剖：観察とスケッチ	第 8 回に統合
10	生理学実習 2 身体所見 循環器系 血液系	身体測定、バイタルサインの測定 心電図検査（安静時・運動負荷後） ヘモグロビン簡易測定器	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：課題の完成、授業内容の復習
11	生理学実習 3 尿検査 生化学検査	尿検査：テストテープの使い方 尿比重計 唾液アミラーゼ測定	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：課題の完成、授業内容の復習
12	肉眼解剖 4 生理学実習 4 生化学検査 神経系	口腔内スケッチ：手鏡使用 血糖測定：自己血糖測定器の使い方 対光反射、マリオット盲点 腱反射、棒反応 皮膚感覚：触覚、冷覚	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：課題の完成、授業内容の復習
13	肉眼解剖 5 神経系	神経系臓器模型の観察・スケッチ 脳神経起始部	事前学習：該当範囲の教科書、配布資料予習 事後学習：課題の完成、授業内容の復習

		組織学実習 4 顕微鏡	組織標本の観察・スケッチ 脊髄、小脳	
	14	試問：肉眼解剖、組織学実習	小グループ毎に顕微鏡標本の観察、ラット解剖時の肉眼写真等の試問に解答する。	事前学習：提出したスケッチ課題の見直し、教科書、配布資料（PDF）の復習 口頭試問準備
	15	試問；生理学実習	小グループ毎に生理検査機器についての試問に解答する。	事前学習：第 14 回と統合 事後学習：口頭試問復習
関連科目	解剖生理学（前期） 臨床医学概論（後期） 臨床病態学（2 年次前期）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養科学シリーズ NEXT「解剖生理学実習」	森田規之、河田光博、松田賢一	講談社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人体の構造と機能：解剖生理学	荒木英爾、藤田 守 他	建帛社
	2	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学	志村二三夫、岡 純、山田和彦	羊土社
	3			
評価方法 （基準）	実習態度： 評価割合 30% 肉眼・組織標本スケッチ、生理学実習データなど提出課題： 評価割合 30% 口頭試問成績： 評価割合 40% 合計 60%で合格とする。 合格点に達しない場合には、追加課題（レポート等）が課せられる。			
学生への メッセージ	自分の眼でみて、手を動かし、五感を働かせて、生きた解剖生理学の知識を修得してください。			
担当者の 研究室等	臨床医学研究室（224）			
備考				

科目名	薬理学	科目名 (英文)	Pharmacology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF2022a0		

授業概要・目的	近年、管理栄養士はチーム医療スタッフとして重要な役割を担っている。たとえば、栄養サポートチーム (NST: Nutrition Support Team) における栄養管理や生活習慣病などの栄養指導を進める上で、基本的な医薬品や薬物療法の理解は必要な知識のひとつである。「薬理学」では、医薬品の基本的な体内動態および薬効・薬理作用を解説し、主な疾病に対する薬物療法において使用する医薬品を概説し、臨床現場での実践に向けた管理栄養士に必要な薬物療法の基礎知識を身につける。 SDGs 3, 4
到達目標	① 薬物療法における管理栄養士の役割について概説できる。 ② 医薬品の作用する機構や体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) について概説できる。 ③ 医薬品と食べ物との相互作用の例を挙げて説明できる。 ④ 自律神経系 (交感神経・副交感神経) に作用する医薬品を例あげて説明できる。 ⑤ 各種疾患に作用する医薬品について知識を身につける。
授業方法と留意点	本授業では受講者の主体的な学びを通して、専門科目に必要な薬理学の基礎知識を身につける。 事前学習: 受講者は Moodle にアクセスし、授業日に学習する内容の動画を配信しているので、事前に視聴し学習する。 授業の開始後、すぐに①理解度確認テスト I 行う。 ①理解度確認テスト I の実施 (講義前) 講義後、再度、moodle にアクセスして、理解度確認テスト II を行う。 ②理解度確認テスト II の実施 (講義後) なお、授業時間中に Moodle にアクセスして理解度確認テストを受験する際に、I
科目学習の効果 (資格)	食品衛生管理者及び食品衛生監視員 (任用資格) の資格取得に係る科目であり、管理栄養士に必要な医薬品の基礎知識を身につけることができる。また、管理栄養士国家試験、登録販売者試験等に出题される医薬品の知識も修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	薬理学の基礎	薬物の歴史、関係法規、受容体および薬物の吸収・代謝、食品との薬物の相互作用などを学ぶ。 ①理解度確認テスト I の実施 (講義前) 講義前に、Moodle にアクセスし理解度確認テスト I を行う。 ②理解度確認テスト II の実施 (講義後) 事後学習については、moodle にアクセスして、期日までに第 1 回薬理学の講義内容の復習と第 1 回薬理学ふりかえりレポートの作成および小テストを行う。	事前: 受講者は、薬理学の Teams にアクセスし、公開している第 1 回薬理学の講義 PDF ファイルを事前に視聴し学習する。 事後: 期日までに、第 1 回薬理学の講義内容の復習とその薬理学ふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
2	交感神経作用薬・遮断薬	自律神経系の概説とアドレナリン受容体、交感神経作用薬および遮断薬など	事前: 受講者は、薬理学の Teams にアクセスし、公開している第 2 回薬理学の講義 PDF ファイルを事前に視聴し学習する。 事後: 期日までに、第 2 回薬理学の授業講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
3	副交感神経作用薬・遮断薬	アセチルコリン受容体、副交感神経作用薬・遮断薬および筋弛緩薬など	事前: 受講者は、薬理学の Teams にアクセスし、公開している第 3 回薬理学の講義 PDF ファイルを事前に視聴し学習する。 事後: 期日までに、第 3 回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
4	体性神経系作用薬・遮断薬	コリンエステラーゼ阻害薬、筋弛緩薬、自律神経節遮断薬など	事前: 受講者は、薬理学の Teams にアクセスし、公開している第 4 回薬理学の講義 PDF ファイルを事前に視聴し学習する。 事後: 期日までに、第 4 回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
5	循環器系に作用する薬 I	高血圧とその治療薬など	事前: 受講者は、薬理学の Teams にアクセスし、公開している第 5 回薬理学の講義 PDF ファイルを事前に視聴し学習する。 事後: 期日までに、第 5 回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポートを作成及び小テストを行う。
6	循環器系に作用する薬 II	狭心症、心筋梗塞、不整脈などの虚血性	事前: 受講者は、薬理学の Teams にアクセスし、公

			心疾患の治療薬など	開している第6回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第6回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポートを作成及び小テストを行う。
7	オータコイドについて		プロスタグランジン、ヒスタミンおよびセロトニンについて	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第7回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第7回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
8	炎症に関する薬Ⅰ		非ステロイド性抗炎症薬および抗ヒスタミン薬	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第8回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第8回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
9	炎症に関する薬Ⅱ		ステロイド性抗炎症薬および抗アレルギー薬	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第9回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第9回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
10	呼吸器系に作用する薬		呼吸器・消化器系に作用する薬：気管支喘息	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第10回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第10回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート及び小テストを行う。
11	代謝・内分泌の異常による疾患に作用する薬		糖尿病、高尿酸血症、骨粗しょう症とそれらの治療薬	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第11回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第11回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
12	消化器系に作用する薬		胃・十二指腸潰瘍治療薬、クローン病、潰瘍性大腸炎とそれらの治療薬	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第12回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第12回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
13	抗生物質		β-ラクタム系、アミノグリコシド系、テトラサイクリン系、クロラムフェニコール系などの抗生物質	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第13回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日までに、第13回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
14	がん作用する薬		代謝拮抗剤、アルキル化剤、抗がん性抗生物質、微小管作用薬など	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第14回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：期日まで、第14回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。
15	がん作用する薬		代謝拮抗剤、アルキル化剤、抗がん性抗生物質、微小管作用薬など	事前：受講者は、薬理学のTeamsにアクセスし、公開している第15回薬理学の講義PDFファイルを事前に視聴し学習する。 事後：事後：期日まで、第15回薬理学の講義内容の復習とそのふりかえりレポート作成及び小テストを行う。

					トを行う。
関連科目	栄養薬理学、臨床栄養学、臨床医療演習、臨床医療実勢演習、セルフメディケーション演習、など				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	イラストで学ぶ薬理学第3版	田中越郎	医学書院	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	薬理学テキスト	佐藤 進 編	廣川書店	
	2	栄養薬理学	田中芳明・中村 強編	建帛社	
	3	疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学〔第3版〕	中嶋敏勝 編	医歯薬出版	
評価方法 (基準)	各授業の理解度確認テストⅠ(10%)、理解度確認テストⅡ(10%)、ふりかえりレポートの提出(10%)、小テスト(10%) および期末テスト(60%)で評価し、60%以上で合格とする。なお、取り組み状況(受講態度、各授業でのテスト受験、課題提出など)が不良の場合は減点する。				
学生への メッセージ	ICT ツールはスマートフォン、タブレット、ノート型パソコンなどを使用します。十分充電し、受講してください。				
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 農学部8号館2F (教員室225)				
備考					

科目名	運動生理学	科目名 (英文)	Exercise Physiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF2021a0		

授業概要・目的	ヒトが日常生活において運動やスポーツを実施した場合の生体諸機能の応答や、運動を継続した場合の適応およびそのメカニズムを理解することを目的とする。具体的には、身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的变化の特徴について理解する。各ライフステージにおける健康管理のための身体活動・運動の意義について理解し、望ましい運動の種類や強度、栄養補給法について学修する。健康づくりのための身体活動基準および健康づくりのための身体活動指針 (アクティブガイド) の基本概念および科学的根拠について理解する。
到達目標	① 健康づくりのための身体活動・運動の意義について理解できる。 ② 身体活動基準および身体活動指針 (アクティブガイド) の基本理念および科学的根拠について説明できる。 ③ 運動による応答および運動トレーニングによる適応について、生理的变化の特徴を説明できる。 ④ 体力を向上させるための運動の種類とトレーニング方法について説明できる。 ⑤ さまざまなトレーニング時における効果的な栄養補給法について概説できる。
授業方法及び留意点	<事前学習> 授業開始までに、教科書の授業範囲を読んでおく。 <授業> 教員による解説、グループワークおよび発表、理解度確認テストにより理解を深める。 <事後学習> 復習課題により知識の定着に努める。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」分野、「応用栄養学」に該当し、資格取得に活かせる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	栄養学と運動生理学とのかわり	食事と身体運動との関わりについて説明する。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p14～18 を読んでおく。 事後：復習課題
2	骨格筋の構造と筋収縮	骨格筋の構造、筋線維の種類、筋収縮の仕組みについて説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p19～30 を読んでおく。 事後：復習課題	
3	神経系の役割	運動時における神経系の役割について説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p32～44 を読んでおく。 事後：復習課題	
4	運動と呼吸・循環	運動時における呼吸・循環応答について説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p46～56 を読んでおく。 事後：復習課題	
5	酸素摂取量と運動時のエネルギー代謝	運動時における酸素摂取量とエネルギー代謝について説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p57～63 を読んでおく。 事後：復習課題	
6	運動とエネルギー源	運動と栄養素との関わりについて説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p66～84 を読んでおく。 事後：復習課題	
7	エネルギー消費量	安静時および運動によるエネルギー消費とその推定方法について説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p86～99 を読んでおく。 事後：復習課題	
8	身体組成・体格	一般人およびスポーツ選手の身体組成とその測定方法について説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p101～112 を読んでおく。 事後：復習課題	
9	筋肉づくりとタンパク質	タンパク質代謝について復習し、タンパク質が筋合成に及ぼす影響について説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p114～129 を読んでおく。 事後：復習課題	
10	骨づくりと栄養素・身体活動	骨の構造・機能について復習し、運動が骨形成に及ぼす影響について説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。	事前：教科書 p131～142 を読んでおく。 事後：復習課題	

			授業の最後に、理解度確認テストを行う。	
	11	体温調節と水分補給	運動時における体温調節と水分補給について説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p144～152 を読んでおく。 事後：復習課題
	12	加齢に伴う身体機能の変化	加齢に遠なう身体機能の変化について復習し、運動が機能低下へ及ぼす影響について説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p154～167 を読んでおく。 事後：復習課題
	13	身運動処方	運動が生活習慣病の予防や改善に及ぼす影響、新しい運動処方の考え方について説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p169～187 を読んでおく。 事後：復習課題
	14	身体活動と健康	健康づくりのための身体活動基準および指針策定の経緯と内容について説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p189～199 を読んでおく。 事後：復習課題
	15	スポーツ選手の食事管理	スポーツ活動の目的に応じた食事と、トレーニング期ごとの望ましい栄養摂取について説明する。 テーマについてグループワーク・プレゼンテーションを行う。 授業の最後に、理解度確認テストを行う。	事前：教科書 p201～214 を読んでおく。 事後：復習課題

関連科目 解剖生理学、解剖生理学実習、臨床医学概論、臨床病態学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	運動生理学	編著：麻見直美、川中健太郎	羊土社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	運動・スポーツ栄養学	編著：中村亜紀、ほか	講談社
2	解剖生理をおもしろく学ぶ	増田敦子	サイオ出版
3			

評価方法 (基準)
 ・定期試験 (40%)
 ・小テスト 毎回 (30%)
 ・レポート 毎回 (30%)
 定期試験・小テスト・レポートの合計 60 点以上で単位認定する。

学生へのメッセージ
 本科目は、学生が主体的 (当事者意識) で自律的に学ぶことを期待しています。
 課題などは期限内に必ず提出してください。期限を遅れた提出は認めません (やむを得ない理由がある場合は、申し出てください)。

担当者の研究室等
 8 号館 3 階 教員室 323

備考

科目名	臨床病態学	科目名 (英文)	Clinical Pathophysiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF2020a0		

授業概要・目的	医療施設において、管理栄養士は疾患に応じた食事療法を立案し、患者および家族への栄養指導を行うとともに、病棟ではNST（栄養サポートチーム）の主要なスタッフとして重要な役割を担っている。本講義では、1年次に学修した解剖生理学および臨床医学概論の知識をもとに、管理栄養士の関わりが大きい疾患である、栄養障害と代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患、運動器疾患、悪性腫瘍に重点をおいて、主要な疾患の成り立ち、診断に至るプロセスと最新の治療法、栄養管理や食事療法の基礎について学修する。
到達目標	① 主要疾患の病因、病態（臓器・組織の変化）について理解する。 ② 主要疾患の病因・病態に基づいた検査・診断及び治療についての知識を総合的に理解する。 ③ 栄養管理、食事療法等が重要となる疾患の病態と治療について理解する。 ④ 対象となる疾患、病態の診療で用いられる専門用語や略語の意味を学修する。
授業方法と留意点	対面方式の講義に、適宜 DVD など動画の供覧を加えた授業を実施する。事前に ICT ツール (Teams) を用いて、授業内容のパワーポイント (PPT) を提供し、授業では資料として配布する。教科書の該当箇所を参照しながら予習・復習する。授業終了後、ICT ツール (Moodle) を用いて、国家試験問題に準じた内容の「まとめのテスト」を出題し、所定の期限内の解答を求め、期末成績評価に反映させる。
科目学習の効果 (資格)	1年次に学修した解剖生理学、臨床医概論を含めると、管理栄養士国家試験の出題基準に該当する項目や疾患について網羅している。1年次、2年次を通して、国試対策に必要な知識を得ることができる。 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	栄養障害	栄養素の欠乏、過剰 生体の維持と栄養との関連 加齢と老化	事後学習：授業の PPT 復習、教科書の該当項目復習 Moodle まとめ的小テスト
2	肥満と代謝疾患	肥満、メタボリックシンドローム 脂質異常症 高尿酸血症、痛風 先天性代謝異常症	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
3	糖尿病	糖尿病の診断と治療 病型分類 糖尿病合併症 食事療法、運動療法 経口治療薬、注射薬	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
4	消化器疾患 1	消化管疾患の診断と治療 胃・十二指腸潰瘍、 炎症性腸疾患、 腸閉塞、たんぱく漏出性胃腸症	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
5	消化器疾患 2	肝胆膵疾患の診断と治療 肝炎、肝硬変、脂肪肝 胆石症、胆のう炎 膵炎	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
6	悪性腫瘍	腫瘍と発癌のメカニズム 消化器癌の診断と治療 食道癌、胃癌、大腸癌 肝臓癌、膵癌	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
7	循環器疾患	主な循環器疾患の診断と治療 虚血性心疾患 不整脈 肺栓塞 高血圧	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
8	内分泌疾患	主な内分泌疾患の診断と治療 下垂体疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患 クッシング病・症候群	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
9	呼吸器疾患	肺癌の診断と治療 肺炎の診断と治療 呼吸リハビリテーション	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
10	神経疾患	認知症の診断と治療 パーキンソン病・症候群 嚥下機能障害 脳血管障害	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
11	腎・泌尿器系	腎不全の治療 糖尿病性腎症 CKD(慢性腎臓病) 血液透析、腹膜透析 前立腺癌	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
12	産婦人科疾患	妊娠と分娩 妊娠合併症の管理 妊娠高血圧 妊娠糖尿病 女性生殖器疾患：乳癌、子宮癌	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
13	感染症	主な感染症の診断と治療 細菌感染症 ウイルス感染症 真菌感染症	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト

	14	血液・免疫アレルギー	寄生虫・原虫疾患 白血病の分類と治療 自己免疫疾患・膠原病の診断と治療 免疫不全 アレルギー疾患の分類と治療	事前学習：Teams (PPT)で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめの小テスト
	15	運動器疾患	運動器(筋骨格)系疾患 骨粗鬆症、骨軟化症、変形性関節症、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム	事前学習：Teams (PPT)で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめの小テスト
関連科目	解剖生理学 解剖生理学実習 臨床医学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヴィジュアル栄養学テキスト 疾病の成り立ち	田中清	中山書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	健康・栄養科学シリーズ 臨床医学	羽生大記/河手久弥	南江堂
	2	疾病の成り立ち：臨床医学 第4版	田中明/加藤昌彦	建帛社
	3			
評価方法 (基準)	まとめのテスト(評価割合30%)および期末試験(評価割合70%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	臨床の現場で役立つ病気についての最新の知識を学びます。			
担当者の 研究室等	臨床医学研究室(224)			
備考	国家試験対策を念頭に、1年次の解剖生理学、臨床医学概論の内容も加味した、期末試験を実施する。			

科目名	分子生物学	科目名 (英文)	Molecular Biochemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF2019a0		

授業概要・目的	遺伝子発現と栄養の関係を理解するための基本的知識として、遺伝子の構造、DNAの塩基配列、複製と修復、リボ核酸 (RNA) の合成 (転写)、たんぱく質の合成 (翻訳) と翻訳後修飾、分解などの一連の遺伝子情報の流れとその調節機構を理解することを目的とする。具体的には、がんや生活習慣病を含む様々な疾患と遺伝子多型の関連や、遺伝形質と栄養の相互作用を学修する。また、遺伝子組み換え技術の原理を理解し、臨床医学や創薬・バイオテクノロジー産業への応用に関する基本的知識を修得する。
到達目標	① 分子生物学についての基礎的知識を身につける。 ② 疾患と遺伝子、遺伝子と栄養の関わりについて理解する。 ③ 遺伝子組み換え技術について理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主に反転授業の形式、アクティブラーニングの形式、ABD読書法の方法をもって授業する。また、各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。 必ず事前課題をやってくる。およそ一時間ほどかかります。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野に対応するべく、生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになる。また、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項を理解できるようになる。 管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	細胞とその構成成分	内容: 生命の基本単位である細胞とその構成成分について 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
2	ゲノムの構造と遺伝子	内容: 生物の遺伝情報を支配しているゲノムとゲノムの中にある遺伝子の成り立ちについて 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
3	遺伝情報の発現①転写	内容: DNA から mRNA へ情報が写し取られるメカニズムについて 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
4	遺伝情報の発現②翻訳	内容: mRNA の情報に基づきたんぱく質が合成されるメカニズムについて 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
5	遺伝情報の複製	内容: 遺伝情報がどのように複製され、維持されるかについて 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日の

			うちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
6	遺伝的組換え	内容: 遺伝子組み換え技術の原理と応用について 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
7	たんぱく質の構造と機能	内容: 生命機能に不可欠な分子であるたんぱく質の構造と特性について 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
8	細胞のシグナル伝達	内容: 細胞内外のシグナルが伝達されるしくみについて 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
9	細胞周期	内容: 細胞が増殖するしくみについて 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
10	受精と発生	内容: 受精と発生のしくみについて 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
11	がんと老化	内容: がんが発生するしくみ、細胞や個体が老化するしくみについて 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解

			くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
12	免疫と神経	内容: 免疫や神経をつかさどる細胞間コミュニケーションのしくみについて 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
13	疾患と遺伝子	内容: 多因子疾患としての生活習慣病について 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
14	遺伝子と栄養の関わり	内容: 食事による遺伝子発現の変化、遺伝子多型と栄養について 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
15	分子生物学的技術とその応用	内容: 基礎的な研究手法と応用技術について 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される

関連科目 微生物学、微生物学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Moodle にて公開する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	好きになる分子生物学 (KS 好きになるシリーズ)	萩原清文 著、多田富雄 監修	講談社
	2			
	3			

評価方法 (基準) ①毎回の小テスト (30%)、および②レポート、小論文、演習問題などの課題 (30%)、③定期試験 (30%)、④受講態度及びサマリーのポスター賞 (10%) の総合点で評価する。毎回の提出物の提出状況はその都度形成的評価としてフィードバックし、最終的には成績評価 (④受講態度) に加える。

学生へのメッセージ
 ~担当教員からのメッセージ:
 こんにちは! 薬学部の大塚です。
 分子生物学の内容は多岐にわたります。自ら学ぶ姿勢を持って主体的に学習出来るように、教員はファシリテーターに徹して、口頭による講義は致しません。
 毎回の授業の終りに Moodle を用いて「ふりかえりシート」を書く時間 (5分間) を設け、理解の程度を把握すると同時に質問を受け、次回に回答します。また講義開始前の学生証による出席確認と、講義終了時のふりかえりシート、講義課題、プレゼンテーションメモの提出が全てなされたことをもって、講義出席の証拠と

担当者の研究室等 薬学部 1 号館 5 階大塚研究室

備考

科目名	微生物学	科目名 (英文)	Microbiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	加藤 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	OAF1018a0		

授業概要・目的	様々な微生物 (細菌、ウイルス、寄生虫など) のうち、人間にとって有用・有益な微生物と、食中毒や食品介在性感染症の原因となる微生物の構造、増殖機構、汚染源、伝播機構などの基本的知識並びにそれらによる感染症の病態や予防に関する知識を得ることを目的とする。また、栄養管理上問題となる感染性疾患 (肝炎、腎障害など) の概略についても学修する。
到達目標	① 微生物の基本的な構造ならびに性質を学び、食品微生物や病原微生物の特徴を学修する。 ② 食品加工などに利用される微生物の作用や疾病における発症メカニズムについて理解する。 ③ 食品の微生物管理や食品を介する感染症の発生予防に関する実践的な知識を身につける。
授業方法と留意点	PowerPoint を用いて解説する。授業で使用する PowerPoint ファイルを PDF に変換して Teams や WebFolder にアップロードし、学生が印刷又はパソコンなどで利用できるようにする。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」分野に該当し、資格取得に活かせる。 食品・飲料の品質や安全性に影響する微生物の特徴と、それらの防除について、人体と微生物の関わりや感染症について理解するために必要な基礎的知識を身につけることができる。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	微生物の基礎	微生物とは何か? 微生物の発見と微生物学の歴史について概説する	事前: 教科書の第1章を読んでおく 事後: 講義内容と第1回小テストの理解
2	微生物の分類	微生物分類の基礎として、ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫の違いについて概説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第2回小テストの理解
3	生活と微生物	微生物を利用した食品や医薬品などの生産、食品の変敗や感染症などについて概説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第3回小テストの理解
4	微生物の取扱い	微生物の検出、分離、培養について概説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第4回小テストの理解
5	微生物制御と衛生管理	有用微生物を適切に利用し、有害微生物による被害を防ぐ理論と技術について概説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第5回小テストの理解
6	病原微生物	感染症や食中毒を引き起こす微生物について概説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第6回小テストの理解
7	生体防御機構	生体防御に関わる器官、細胞、分子について概説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第7回小テストの理解
8	感染症の治療	感染症 (食品由来を含む) の治療について概説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第8回小テストの理解
9	感染症の予防	感染症 (食品由来を含む) の予防について概説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第9回小テストの理解
10	ウイルスの特徴	ウイルスの構造、分類、増殖の仕組みについて解説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第10回小テストの理解
11	代表的な病原性ウイルス	代表的なウイルス感染症 (食品由来を含む) について解説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第11回小テストの理解
12	細菌の特徴	細菌の構造、分類、増殖の仕組みについて解説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第12回小テストの理解
13	代表的な病原性細菌	代表的な細菌感染症について解説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第13回小テストの理解
14	真菌、原虫、寄生虫の特徴	真菌、原虫、寄生虫の構造、分類、増殖の仕組みについて解説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第14回小テストの理解
15	代表的な病原性真菌、原虫、寄生虫	代表的な真菌感染症、原虫感染症、寄生虫感染症について解説する	事前: 教科書の指示範囲を読み、配付する事前課題に取り組む 事後: 講義内容と第15回小テストの理解

関連科目: 微生物学実験、分子生物学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養系微生物学	藤原永年、岩田建	南江堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

評価方法 (基準)	各授業の最初に学習確認のための小テストを行う。この毎回実施する小テスト(40%)及び期末テスト(60%)で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	微生物学は生活に密着した学問です。日々の暮らしのなかで微生物の存在を意識しながら学習すると、楽しく学べると思います。
担当者の 研究室等	農学部 8 号館 3F 教員室(308)
備考	

科目名	生化学	科目名 (英文)	Biochemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP3③, DP4④		
科目ナンバリング	OAF1017a0		

授業概要・目的	生命現象を化学的に探究するのが生化学である。生体の構成成分と代謝を理解するための元素、化合物の特徴に始まり、細胞の構造、糖質、脂質、たんぱく質 (アミノ酸)、核酸などの性質、酵素反応の特徴、生体エネルギー論と、授業を展開していく。次に、解糖系、クエン酸回路 (TCA 回路)、β-酸化、電子伝達系・酸化リン酸化、アミノ基転移反応、酸化的脱アミノ反応、尿素回路を中心とした三大栄養素の代謝と、生体内におけるグリコーゲン、トリグリセリド及びコレステロールの生合成を学修する。さらに、遺伝情報の発現とたんぱく質合成並びに免疫システムの基礎を学修する。 国連の持続可能な開発目標 SDGs の 6 に対応する。
到達目標	① 三大栄養素の構造的特徴についての基礎的事項が説明できる。 ② 生体エネルギーについての基礎的事項が説明できる。 ③ 三大栄養素の代謝とその関係性について説明できる。 ④ 核酸・遺伝現象・たんぱく質合成についての基礎的事項が説明できる。 ⑤ 酵素反応の基礎的事項が説明できる。 ⑥ ホルモンとその受容体についての基礎的事項が説明できる。 ⑦ 免疫に関する基礎的事項が説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、主に反転授業の形式、アクティブラーニングの形式、ABD 読書法の方法をもって授業する。また、各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。 必ず事前課題をやってくる。およそ一時間ほどかかります。
科目学習の効果 (資格)	生体が生きている仕組みを理解し、栄養素や生体成分の化学的な性質と、体内での機能・代謝の基礎を学びます。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。生化学の知識は、栄養学・臨床栄養学と結びつけ医療の現場で発揮することができます。近年では、がんの治療を生化学の知識をもとに、がんセンターなどで医師などと共に研究する管理栄養士も見られます。栄養士、管理栄養士の資格を取得する上でも、とても重要な基礎知識です。 管理栄養士国家試験受験資格、

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	三大栄養素の構造と特徴①	内容：糖質の構造と特徴について アミノ酸の構造と特徴について 方法：事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
2	三大栄養素の構造と特徴②	内容：たんぱく質の構造と特徴について 脂質の構造と特徴について 方法：事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
3	細胞と細胞内小器官	内容：細胞、細胞質、各細胞内小器官の特徴と働きについて 方法：事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
4	生体エネルギー	内容：ATP の生成を中心とした生体エネルギー論について 方法：事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、

			講義後に配信される 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
5	糖質の代謝①	内容：解糖系、TCA 回路と、それに続く電子伝達系・酸化リン酸化について 方法：事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる（事前課題）。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
6	糖質の代謝②	内容：グリコーゲン合成、糖新生、ウロンサン回路、五炭糖リン酸回路について 方法：事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる（事前課題）。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
7	脂質の代謝①	内容：β-酸化と TCA 回路を中心とした脂質代謝について 方法：事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる（事前課題）。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
8	脂質の代謝②	内容：脂肪酸の合成とコレステロール代謝について 方法：事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる（事前課題）。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
9	たんぱく質・アミノ酸の代謝①	内容：アミノ基転移反応と酸化的脱アミノ反応について 方法：事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる（事前課題）。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
10	たんぱく質・アミノ酸の代謝②	内容：尿素回路について 三大栄養素の代謝の関係性について 方法：事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる（事前課題）。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
11	核酸の基礎	内容：DNA、RNA などの核酸の基礎について 方法：事前に ABD 読書法でテキストを読む	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。

			んで要約しサマリーシートを作成してくる(事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
12	遺伝子発現とたんぱく質の合成		内容: 遺伝子発現とたんぱく質の合成について 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる(事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
13	酵素反応の特徴①		内容: 酵素の構造的特徴について 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる(事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
14	酵素反応の特徴②, ホルモン		内容: 酵素反応の基礎的事項について ホルモンの作用機構について 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる(事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される
15	免疫の基礎		内容: 液性免疫、細胞性免疫といった免疫機構の基礎について 方法: 事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる(事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。 【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。 【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げ、Moodle に写真をアップロードすること。 講義後は Moodle を用いた 授業アンケートを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信される

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生化学ガイドブック改訂第 3 版増補	遠藤克己、三輪一智	南江堂
	2	健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 改訂第 5 版	奥 恒行、柴田克己 編集	南江堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各講義前に、前回の講義の学習確認小テストを行う。 ①毎回実施する小テスト(14回:評価割合 30%) ②定期試験(評価割合 30%) ③レポート課題(評価割合 30%) ④講義態度・サマリー賞受賞歴等(評価割合 10%)
-----------	--

	で評価し、60%以上で合格とする。 毎回提出する講義課題、ふりかえりシート、サマリーシートも形成的評価の対象として使用する。
学生への メッセージ	担当教員からのメッセージ： こんにちは！薬学部の大塚です。 生化学は多岐にわたります。自ら学ぶ姿勢を持って主体的に学習出来るように、教員はファシリテーターに徹して、口頭による講義は致しません。 毎回の授業の終りにMoodleを用いて「ふりかえりシート」を書く時間（5分間）を設け、理解の程度を把握すると同時に質問を受け、次回に回答します。また講義開始前の学生証による出席確認と、講義終了時のふりかえりシート、講義課題、プレゼンテーションメモの提出が全てなされたことをもって、講義出席の証拠とします。Mo
担当者の 研究室等	薬学部 1 号館 5 階大塚教授室
備考	

科目名	臨床医学概論	科目名 (英文)	Introduction to Clinical Medicine
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○		
科目ナンバリング	OAF1016a0		

授業概要・目的	本講義では、管理栄養士として働くために必要な臨床医学の基礎知識を修得することを目的とする。1年次前期「解剖生理学」で学修した人体の構造と機能に関する知識を基に、疾患や病態について理解し、生体制御機構と疾患の関連、診断と治療の基本的な考え方を修得する。問診、症候から病歴聴取、臨床検査など疾患診断に至るプロセスを学ぶとともに、医療に従事する者としての基本的な心得として、診療情報の取り扱い、医の倫理や医療安全についても学修する。授業担当者は、総合内科専門医、内分泌代謝科専門医としての診療経験と、学生実習や臨床研修医の指導経験を有しており、臨床医の視点で、管理栄養士に求められる臨床医学に関する実践的な知識を修得することを目的としている。
到達目標	① 主要な症候から診断に至る過程を理解する。 ② 主要な疾患の検査・診断及び治療法について理解する。 ③ 診療録 (カルテ) の意義や記載方法について理解する。 ④ 医療倫理や医療安全の実態について理解する。
授業方法と留意点	対面方式の講義に、適宜 DVD など動画の供覧を加えた授業を実施する。事前に ICT ツール (Teams) を用いて、授業内容のパワーポイント (PPT) を提供し、教科書の該当箇所を参照しながら予習する。授業終了後、ICT ツール (Moodle) を用いて、国家試験問題に準じた内容の「まとめのテスト」を出題し、所定の期限内の回答する。授業内容により、課題の提出を求める。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野に該当し、主要な疾患と病態に関する知識は資格取得に必須である。管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 病気とは何か	授業のすすめ方 病気と疾患、疾患の種類、遺伝背景や環境因子との関連を学ぶ	事後学習：授業の PPT 復習、教科書の該当項目復習 Moodle まとめ的小テスト
2	症候と診察法	症状、症候についての問診 (医療面接) から、視診、聴診、打診、神経診察など一連の診察法について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
3	臨床検査の意義	血液、尿、生化学検査、胸部 X 線、CT・MRI 検査など画像診断、心電図など生理検査の意義と特殊検査の適応、鑑別診断について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
4	診療録の記載	診療録 (カルテ) 記載における基本的事項、個人情報の保護や診療情報の共有など留意すべき点を学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
5	神経系と生体制御	中枢神経、末梢神経、自律神経による生体制御システムと病態について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
6	内分泌と生体制御	内分泌系の生体調節、フィードバック機構と病態について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
7	免疫系と生体制御	免疫系のネットワークによる生体制御と病態について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
8	循環器系	循環動態を評価する検査法と病態との関連について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
9	消化器系	消化器系の機能検査、画像診断と病態との関連について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 (120 分) 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 (90 分) Moodle まとめ的小テスト (30 分)
10	呼吸器系	呼吸機能検査と病態との関連について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
11	腎・泌尿器系	腎機能の評価法と病態との関連について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
12	血液系	血液疾患の検査と病態について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト
13	医の倫理	医療における倫理上の課題について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 授業中に課題提示、ディスカッション 事後学習：PPT で授業内容の復習、課題の提出
14	終末期医療と緩和ケア	終末期医療、アドバンスケアプランニング、緩和ケアの実践について学ぶ	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 授業中に課題提示、ディスカッション 事後学習：PPT で授業内容の復習、課題の提出
15	医療安全	医療事故、インシデント報告、院内感染	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予

			対策など、医療現場における安全管理体制について学ぶ	習 (120分) 授業中に課題提示、ディスカッション 事後学習：PPTで授業内容の復習、課題の提出
関連科目	解剖生理学 (前期) 解剖生理学実習 (前期) 臨床病態学 (2年次前期)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヴィジュアル栄養学テキスト 疾病の成り立ち	田中清	中山書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	健康・栄養科学シリーズ 臨床医学	羽生大記/河手久弥	中山書店
	2	疾病の成り立ち：臨床医学 第4版	田中明/加藤昌彦	建帛社
	3			
評価方法 (基準)	学期末に、国家試験の出題形式に準じて期末試験を実施する。授業毎の小テストあるいは課題 (評価割合 40%) と学期末試験成績 (評価割合 60%) により、合計 60%以上をもって合格の基準とする。			
学生へのメッセージ	前期の「解剖生理学」で修得した基礎知識を基に、実際に病気の診断に至る過程を勉強します。			
担当者の研究室等	臨床医学研究室			
備考				

科目名	解剖生理学	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP3③, DP4④		
科目ナンバリング	OAF1015a0		

授業概要・目的	本講義では、生体の構造（解剖学）および機能（生理学）を学修し、人体の精密かつ複雑な構造と機能の基本を、細胞、組織、臓器・器官、器官系及び個体のレベルで理解することを目的とする。個体の発生・成長・老化の過程や、臓器・器官の協調による生体の調節について理解を深め、生体の恒常性を維持する機構を学修する。授業担当者は大学病院および地域の基幹教育病院において内科診療に従事し、学生および臨床研修医の指導を行ってきた経験を有する。本講では栄養学を学ぶ基礎となる生命の仕組みを理解する能力を養うとともに、診療の現場に役立ち、管理栄養士国家試験にも対応できる、実践的な知識を修得することを目標としている。
到達目標	① 人体を構成する臓器・器官について列挙でき、その位置や構造や機能を説明できる。 ② 臓器・器官を構成する特徴的な組織・主な細胞の機能について説明できる。 ③ 細胞の基本構造と、それを構成する細胞内小器官について説明できる。 ④ 生体内情報伝達システム、細胞間情報伝達システムについて説明できる。 ⑤ 体内環境の恒常性維持機構（体液組成・血圧・呼吸・体温など）について説明できる。 ⑥ 生体防御機構について説明できる。 ⑦ 栄養素の消化吸収について説明できる。 ⑧ 人体に関する基礎知識を今後学修する栄養学、薬理学、臨床病態学等に活用できるよう修得する。
授業方法及び留意点	対面方式の講義に、適宜 DVD など動画の供覧を加えた授業を実施する。事前に ICT ツール (Teams) を用いて、授業内容のパワーポイント (PPT) を提供し、教科書の該当箇所を参照しながら予習する。授業終了後、ICT ツール (Moodle) を用いて、国家試験問題に準じた内容の「まとめのテスト」を出題し、所定の期限内の回答を求める。並行して関連した内容で実施する「解剖生理学実習」で知識の定着化を図る。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験の出題基準項目「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」に該当し、解剖生理学の系統的な知識と、これを基にした主要な疾患と病態に関する理解は、管理栄養士の資格取得に必須である。 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 解剖生理学 (基礎医学) を学ぶための心得 細胞と組織	授業のすすめ方、 ICT ツールの使用法と注意点 評価の方法 細胞と組織の構造と機能	事後学習：Moodle による まとめテスト 授業の PPT 復習、教科書の該当項目復習
2	骨格系・筋肉系	骨・筋肉の構造と機能 肉眼所見 (骨格模型・人体模型) と組織所見の対応	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ小テスト
3	消化器系 1 消化管	口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ小テスト
4	消化器系 2 肝胆膵	肝臓、胆のう、膵臓の構造と機能	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ小テスト
5	循環器系	心臓、主な動脈・静脈、リンパ系の構造と機能	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ小テスト
6	呼吸器系	鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺の構造と機能	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ小テスト
7	泌尿器系	腎臓・尿路系の構造と機能	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ小テスト
8	生殖系・発生	女性生殖器・男性生殖器の構造と機能	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ小テスト
9	内分泌系	視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・膵臓 (内分泌) の構造と機能	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ小テスト
10	中枢神経系 1	大脳、間脳、脳幹、小脳の構造と機能	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ小テスト
11	中枢神経系 2 末梢神経 1	脊髄の構造と機能 脊髄神経・脳神経の構造と機能	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ小テスト
12	末梢神経 2	自律神経系の構造と機能 神経伝達の仕組み	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ小テスト
13	神経感覚器系 皮膚感覚器系	平衡聴覚器、視覚器、味覚器、嗅覚器の構造と機能 温痛覚器・皮膚の構造と機能	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習

	14	血液・造血器系	血球と血漿、脾臓・骨髄の構造と機能	Moodle まとめ的小テスト 事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
	15	生体防御系	免疫・アレルギー、生体防御機構	事前学習：Teams (PPT) で該当する基礎的事項の予習 事後学習：PPT および教科書で授業内容の復習 Moodle まとめ的小テスト	
関連科目	解剖生理学実習（前期） 臨床医学概論（後期） 臨床病態学（2年次前期）				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	人体の構造と機能：解剖生理学		荒木英爾、藤田守 他	建帛社
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学		志村二三夫、岡 純、山田和彦	羊土社
	2	健康・栄養科学シリーズ 臨床医学		羽生大記/河手久弥	南江堂
	3				
評価方法 （基準）	講義の学習確認、実習で修得した内容も含めた、まとめの小テストや課題を授業終了時に出題する。小テスト・課題は指定期間内に ICT ツール (Moodle) で解答する。小テストと課題（評価割合 40%）、および期末試験(評価割合 60%)により、合計 60%以上で合格とする。				
学生への メッセージ	管理栄養士をめざす皆さんが、是非とも知っておくべき医学の基礎知識を興味をもって学んでもらいたいと思います。				
担当者の 研究室等	臨床医学研究室 (224)				
備考					

科目名	医療福祉論	科目名 (英文)	Health and Welfare
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAF3014a0		

授業概要・目的	本講義は、わが国における医療福祉の現状と課題を理解することを目的とする。具体的には、医療福祉にかかる各種制度を理解した上で、その実態と課題について学修する。また、医療福祉サービスの提供主体や関係する専門職について理解するほか、諸外国の医療福祉の実態についても学修し、わが国の医療福祉の特徴と課題を説明できるように講義する。医療福祉の関係法令も踏まえながら、医療福祉施策がどのような目的で立案され、実施されているかについても理解する。特に、管理栄養士・栄養士に関係する医療福祉制度について理解できるように、具体的事例等も提示しながら講義する。
到達目標	① 医療福祉の概念について理解し説明できる。 ② わが国における各種の医療福祉制度について理解する。 ③ 健康保険制度や各種医療福祉サービスについて体系的に理解し、説明できる。 ④ 欧米の医療福祉の実態について理解する。
授業方法と留意点	授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。各講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現代社会と福祉	現代社会における医療福祉制度の意味や概念について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
2	医療福祉の法制度の変遷	歴史と社会的背景を踏まえ、医療福祉の法制度の変遷と概要について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
3	医療福祉活動を推進する行政機能	わが国の医療福祉活動を推進する行政の仕組みと機能について、国と地方の機能について、具体例を交えて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
4	社会保障制度と医療保険制度	わが国の社会保障制度と医療保険制度について、諸外国の制度との比較も含め、その歴史の変遷と概要について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
5	医療保険制度の仕組みと機能	医療保険制度の具体的な仕組みと機能 (保険者、被保険者、保険料、給付、保険外併用療養、傷病手当、出産育児一時金等) について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
6	健康増進法	健康増進法の目的、基本方針の概要と医療福祉との関係性について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
7	地域における健康増進	地域住民の健康増進のための様々な取り組みと具体的な施策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
8	医療ソーシャルワークの役割と機能	医療ソーシャルワークの概念、業務、機能、役割について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
9	高齢者への支援と制度	高齢者の生活実態を理解し、高齢者への支援について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
10	障害者福祉の理念	身体障害・知的障害・精神障害・発達障害など各種障害の定義とその特性について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
11	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて、その概要と具体的な構造について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
12	在宅福祉サービスの制度	在宅福祉サービスのあり方から保健・医療・福祉の連携について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
13	健康危機管理	自然災害、感染症、食中毒等の健康危機管理とその対応について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
14	医療福祉制度の各国比較 (1) 英国と米国	諸外国の医療福祉制度の実態について、英国と米国について紹介する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
15	医療福祉制度の各国比較 (2) 北欧	諸外国の医療福祉制度の実態について、北欧について紹介する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目	公衆衛生学 健康管理概論
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会福祉 (新・基礎からの社会福祉)	室田保夫、倉持史朗、蜂谷俊隆	ミネルヴァ書房
	2	国民の福祉と介護の動向・最新刊		厚生労働統計協会
	3			

評価方法 (基準)	講義ごとに、学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト及び出席 (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 90%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	医療・福祉全般について、特に医療・社会福祉の視点から理解します。
-----------	----------------------------------

担当者の	農学部 8 号館 2F 教員室 (222)
------	-----------------------

研究室等	
備考	

科目名	医療福祉論	科目名 (英文)	Health and Welfare
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAF3014a0		

授業概要・目的	本講義は、わが国における医療福祉の現状と課題を理解することを目的とする。具体的には、医療福祉にかかる各種制度を理解した上で、その実態と課題について学修する。また、医療福祉サービスの提供主体や関係する専門職について理解するほか、諸外国の医療福祉の実態についても学修し、わが国の医療福祉の特徴と課題を説明できるように講義する。医療福祉の関係法令も踏まえながら、医療福祉施策がどのような目的で立案され、実施されているかについても理解する。特に、管理栄養士・栄養士に關係する医療福祉制度について理解できるように、具体的事例等も提示しながら講義する。
到達目標	① 医療福祉の概念について理解し説明できる。 ② わが国における各種の医療福祉制度について理解する。 ③ 健康保険制度や各種医療福祉サービスについて体系的に理解し、説明できる。 ④ 欧米の医療福祉の実態について理解する。
授業方法と留意点	授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。各講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	現代社会と福祉	現代社会における医療福祉制度の意味や概念について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	2	医療福祉の法制度の変遷	歴史と社会的背景を踏まえ、医療福祉の法制度の変遷と概要について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	3	医療福祉活動を推進する行政機能	わが国の医療福祉活動を推進する行政の仕組みと機能について、国と地方の機能について、具体例を交えて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	4	社会保障制度と医療保険制度	わが国の社会保障制度と医療保険制度について、諸外国の制度との比較も含め、その歴史の変遷と概要について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	5	医療保険制度の仕組みと機能	医療保険制度の具体的な仕組みと機能 (保険者、被保険者、保険料、給付、保険外併用療養、傷病手当、出産育児一時金等) について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	6	健康増進法	健康増進法の目的、基本方針の概要と医療福祉との関係性について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	7	地域における健康増進	地域住民の健康増進のための様々な取り組みと具体的な施策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	8	医療ソーシャルワークの役割と機能	医療ソーシャルワークの概念、業務、機能、役割について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	9	高齢者への支援と制度	高齢者の生活実態を理解し、高齢者への支援について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	10	障害者福祉の理念	身体障害・知的障害・精神障害・発達障害など各種障害の定義とその特性について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	11	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて、その概要と具体的な構造について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	12	在宅福祉サービスの制度	在宅福祉サービスのあり方から保健・医療・福祉の連携について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	13	健康危機管理	自然災害、感染症、食中毒等の健康危機管理とその対応について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	14	医療福祉制度の各国比較 (1) 英国と米国	諸外国の医療福祉制度の実態について、英国と米国について紹介する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
	15	医療福祉制度の各国比較 (2) 北欧	諸外国の医療福祉制度の実態について、北欧について紹介する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目	公衆衛生学 健康管理概論
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会福祉 (新・基礎からの社会福祉)	室田保夫、倉持史朗、蜂谷俊隆	ミネルヴァ書房
	2	国民の福祉と介護の動向・最新刊		厚生労働統計協会
	3			

評価方法 (基準)	講義ごとに、学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト及び出席 (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 90%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	医療・福祉全般について、特に医療・社会福祉の視点から理解します。
-----------	----------------------------------

担当者の	農学部 8 号館 2F 教員室 (222)
------	-----------------------

研究室等	
備考	

科目名	健康管理概論	科目名 (英文)	Introduction to Health Management
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF2013a0		

授業概要・目的	健康管理概論は、管理栄養士が地域、職域、学校などで公衆栄養実践活動を営むための基礎科学である。本授業では、公衆栄養活動を科学的根拠に基づいて行うことに対する理解を深めるための知識や考え方を身につけることを目的とする。また、管理栄養士として理解が必要な疾患、特に生活習慣病の病態などを含め講義する。具体的には、健康について概観した上で各種健康づくりと健診・検診について学修する。さらに食事や運動などの生活習慣と生活習慣病との関連性を解説する。
到達目標	① 健康の定義と健康づくりのあり方を理解し説明できる。 ② わが国における健康づくり政策について、実施主体別に説明できる。 ③ 疾病予防の観点で各種健診や検診について理解し、説明できる。 ④ 生活習慣病の発症機序や予防について理解を深め、説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。講義ごとに、講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	主な健康指標	主要な健康指標について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
3	健康づくり政策	国レベル、地方レベルで施行されている各種健康づくり政策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
4	生活習慣病 (1) 高血圧性疾患	主要な生活習慣病のうち高血圧性疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
5	生活習慣病 (2) 脳血管疾患	主要な生活習慣病のうち脳血管疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
6	生活習慣病 (3) 心疾患	主要な生活習慣病のうち心疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
7	生活習慣病 (4) がん	主要な生活習慣病のうちがんの概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
8	がん対策とがん検診	各種がん対策と市町村や職域で実施しているがん検診について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
9	メタボリックシンドロームと健康	肥満やメタボリックシンドロームと健康について解説し、特定健康診査、特定保健指導について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
10	健康づくりと保険者	健康診断の実態と、健康管理における保険者の役割について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
11	健康づくりと産業保健	企業における健康づくりについて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
12	歯科保健と健康	歯科保健の実態と健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
13	生活習慣と健康 (1) 食生活と身体活動	生活習慣のうち、食生活と身体活動が健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
14	生活習慣と健康 (2) 喫煙、飲酒、睡眠、ストレス	喫煙や飲酒、睡眠、ストレスが健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
15	予防	一次予防、二次予防、三次予防について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目	公衆衛生学、医療福祉論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学・最新版	鈴木庄晃	南江堂
	2	公衆衛生が見える・最新版	赤澤宏平、今村知明ら	医療情報科学研究所
	3			

評価方法 (基準)	講義ごとに、学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト及び出席 (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 90%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	健康づくりと生活習慣病を中心とした各種疾病、さらには食習慣など生活習慣について詳しく学びます。
-----------	---

担当者の研究室等備考	農学部 8 号館 2F 教員室 (222)
------------	-----------------------

科目名	健康管理概論	科目名 (英文)	Introduction to Health Management
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF2013a0		

授業概要・目的	健康管理概論は、管理栄養士が地域、職域、学校などで公衆栄養実践活動を営むための基礎科学である。本授業では、公衆栄養活動を科学的根拠に基づいて行うことに対する理解を深めるための知識や考え方を身につけることを目的とする。また、管理栄養士として理解が必要な疾患、特に生活習慣病の病態などを含め講義する。具体的には、健康について概観した上で各種健康づくりと健診・検診について学修する。さらに食事や運動などの生活習慣と生活習慣病との関連性を解説する。
到達目標	① 健康の定義と健康づくりのあり方を理解し説明できる。 ② わが国における健康づくり政策について、実施主体別に説明できる。 ③ 疾病予防の観点で各種健診や検診について理解し、説明できる。 ④ 生活習慣病の発症機序や予防について理解を深め、説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。講義ごとに、講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	健康の概念	健康の定義と社会・環境と健康について概要を理解する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
2	主な健康指標	主要な健康指標について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
3	健康づくり政策	国レベル、地方レベルで施行されている各種健康づくり政策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
4	生活習慣病 (1) 高血圧性疾患	主要な生活習慣病のうち高血圧性疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
5	生活習慣病 (2) 脳血管疾患	主要な生活習慣病のうち脳血管疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
6	生活習慣病 (3) 心疾患	主要な生活習慣病のうち心疾患の概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
7	生活習慣病 (4) がん	主要な生活習慣病のうちがんの概要について解説し、その予防について言及する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
8	がん対策とがん検診	各種がん対策と市町村や職域で実施しているがん検診について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
9	メタボリックシンドロームと健康	肥満やメタボリックシンドロームと健康について解説し、特定健康診査、特定保健指導について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
10	健康づくりと保険者	健康診断の実態と、健康管理における保険者の役割について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
11	健康づくりと産業保健	企業における健康づくりについて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
12	歯科保健と健康	歯科保健の実態と健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
13	生活習慣と健康 (1) 食生活と身体活動	生活習慣のうち、食生活と身体活動が健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
14	生活習慣と健康 (2) 喫煙、飲酒、睡眠、ストレス	喫煙や飲酒、睡眠、ストレスが健康に与える影響について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
15	予防	一次予防、二次予防、三次予防について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目	公衆衛生学、医療福祉論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学・最新版	鈴木庄晃	南江堂
	2	公衆衛生が見える・最新版	赤澤宏平、今村知明ら	医療情報科学研究所
	3			

評価方法 (基準)	講義ごとに、学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト及び出席 (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 90%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	健康づくりと生活習慣病を中心とした各種疾病、さらには食習慣など生活習慣について詳しく学びます。
-----------	---

担当者の研究室等備考	農学部 8 号館 2F 教員室 (222)
------------	-----------------------

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF2012a0		

授業概要・目的
 公衆衛生学とは、社会の組織的な取り組みを通じて疾病を予防し、寿命を延ばし、健康を増進する科学および技術である。本講義では、健康を維持・向上させるための保健、医療、福祉、環境など公衆衛生全般について学修するなかで、健康および公衆衛生の概念や保健・医療・福祉の制度、健康増進や疾病予防の考え方や取り組み、健康・疾病に関わる各種統計資料、健康状態・疾病の測定と評価、健康情報の利用と管理、処理などについて理解する。具体的には、健康や公衆衛生の概念と歴史、わが国の健康の現状と医療保険制度を学修したうえで、食品保健、生活習慣病対策、感染症対策と母子保健、老人保健、環境保健など多岐にわたる公衆衛生分野の理解を深め、公衆衛生における栄養の関わりとともに、疫学の方法や手法についても学修する。

- 到達目標**
- ① 公衆衛生学の概略を理解し、個人及び集団における健康と疾病、社会と環境、栄養との関係の重要性について説明できる。
 - ② わが国における保健、医療、福祉及び介護の諸制度の内容について説明できる。
 - ③ わが国の健康増進や疾病予防の現状と問題点を理解し、説明できる。
 - ④ 主な健康指標や健康情報を理解し、それらの情報の利用や処理、管理ができるようになる。
 - ⑤ 疫学の基礎を理解し、疫学的手法について説明できる。

授業方法と留意点
 下記の授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。各講義では、クラス内での議論などを通じて理解をより深める。また各講義ごとに、講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。

科目学習の効果 (資格)
 管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生学序論	健康と公衆衛生の概念や歴史を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
2	保健統計と医療資源	各種保健統計 (人口統計、平均余命、有訴者率、受療率等) と医療に必要な資源を解説し、健康情報の利用方法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
3	医療制度	医療制度と医療システムについて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
4	地域医療制度	わが国の医療制度における国、地方自治体の役割を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
5	母子保健	母子保健法を中心に、母子保健の概要について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
6	学校保健	学校保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
7	高齢者保健と介護保険	高齢者に対する医療制度と法律、介護保険について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
8	産業保健	産業保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
9	環境保健	環境衛生と環境保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
10	食品保健	国民栄養とその対策、食中毒について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
11	感染症と国際保健	感染症の定義、分類、各種法律 (感染症法、予防接種法等)、世界の保健問題を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
12	生活習慣と生活習慣病	身体活動や食事、喫煙、飲酒、ストレスなど各種生活習慣と生活習慣病とその予防について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
13	疫学	疫学の方法と各種指標について解説し、健康情報の処理の手法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
14	疫学的手法	疫学研究における各種手法とスクリーニングについて解説し、健康情報の管理の手法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
15	EBM と疫学研究	疫学研究の倫理と EBM、EBM に基づいた対策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目 健康管理概論、医療福祉論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	指定しない		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向・最新版		厚生労働統計協会
2	公衆衛生が見える・最新版	赤澤宏平、今村知明ら	医療情報科学研究所	
3				

評価方法 (基準)
 講義ごとに、学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト及び出席 (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 90%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ
 公衆衛生学の全般を理解します。非常に広い範囲をカバーしますので大変ですが、頑張ってください。

担当者の研究室等
 農学部 8 号館 2F 教員室 (222)

備考

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF2012a0		

授業概要・目的
 公衆衛生学とは、社会の組織的な取り組みを通じて疾病を予防し、寿命を延ばし、健康を増進する科学および技術である。本講義では、健康を維持・向上させるための保健、医療、福祉、環境など公衆衛生全般について学修するなかで、健康および公衆衛生の概念や保健・医療・福祉の制度、健康増進や疾病予防の考え方や取り組み、健康・疾病に関わる各種統計資料、健康状態・疾病の測定と評価、健康情報の利用と管理、処理などについて理解する。具体的には、健康や公衆衛生の概念と歴史、わが国の健康の現状と医療保険制度を学修したうえで、食品保健、生活習慣病対策、感染症対策と母子保健、老人保健、環境保健など多岐にわたる公衆衛生分野の理解を深め、公衆衛生における栄養の関わりとともに、疫学の方法についても学修する。

- 到達目標**
- ① 公衆衛生学の概略を理解し、個人及び集団における健康と疾病、社会と環境、栄養との関係の重要性について説明できる。
 - ② わが国における保健、医療、福祉及び介護の諸制度の内容について説明できる。
 - ③ わが国の健康増進や疾病予防の現状と問題点を理解し、説明できる。
 - ④ 主な健康指標や健康情報を理解し、それらの情報の利用や処理、管理ができるようになる。
 - ⑤ 疫学の基礎を理解し、疫学的手法について説明できる。

授業方法と留意点
 下記の授業計画に従い、パワーポイントを用いて講義を行う。各講義では、クラス内での議論などを通じて理解をより深める。また各講義ごとに、講義内容に関する小テストを実施して理解度を確認する。

科目学習の効果 (資格)
 管理栄養士国家試験「社会・環境と健康」分野に該当し、資格取得に活かせる
 管理栄養士国家試験受験資格、栄養士、食品衛生管理者・食品衛生監視員 (任用資格) の取得に係る科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	保健統計と医療資源	各種保健統計 (人口統計、平均余命、有訴者率、受療率等) と医療に必要な資源を解説し、健康情報の利用方法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
3	医療制度	医療制度と医療システムについて解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
4	地域医療制度	わが国の医療制度における国、地方自治体の役割を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
5	母子保健	母子保健法を中心に、母子保健の概要について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
6	学校保健	学校保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
7	高齢者保健と介護保険	高齢者に対する医療制度と法律、介護保険について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
8	産業保健	産業保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
9	環境保健	環境衛生と環境保健の概要を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
10	食品保健	国民栄養とその対策、食中毒について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
11	感染症と国際保健	感染症の定義、分類、各種法律 (感染症法、予防接種法等)、世界の保健問題を解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
12	生活習慣と生活習慣病	身体活動や食事、喫煙、飲酒、ストレスなど各種生活習慣と生活習慣病とその予防について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
13	疫学	疫学の方法と各種指標について解説し、健康情報の処理の方法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
14	疫学的手法	疫学研究における各種手法とスクリーニングについて解説し、健康情報の管理の方法について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する
15	EBM と疫学研究	疫学研究の倫理と EBM、EBM に基づいた対策について解説する	講義資料を事前に配布し、事前・事後に学習する

関連科目 健康管理概論、医療福祉論

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	公衆衛生が見える・最新版	赤澤宏平、今村知明ら	医療情報科学研究所
3			

評価方法 (基準)
 講義ごとに、学習確認小テストを行う。毎回実施の小テスト及び出席 (評価割合 10%) および定期試験 (評価割合 90%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ
 公衆衛生学の全般を理解します。非常に広い範囲をカバーしますので大変ですが、頑張ってください。

担当者の研究室等
 農学部 8 号館 2F 教員室 (222)

備考

科目名	化学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Chemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平原 嘉視
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAF1011a0		

授業概要・目的	化学的知識・思考は、食品学、食品衛生学および栄養学領域における基礎・専門科目を理解する上で欠かせない。本講義では、化学の基礎知識を確実なものとするとともに、大学における専門科目の理解に不可欠な化学の知識を修得することを目的とする。「化学演習」では、同時期開講する「化学」にて講義した物質の成り立ち、理論化学、無機化学、有機化学に関する基本事項について、問題演習を通じて完全に理解し、専門課程・卒業論文研究における化学的な課題に対処する能力を身につける。
到達目標	① 教科書に記載された無機化合物の構造式を書くことができる。 ② 元素の電子配置について問題を通して説明することができる。 ③ 化学結合について問題を通して説明することができる。 ④ 水溶液の濃度、pHなどの計算問題を解くことができる。 ⑤ 主な有機化合物の種類と性質について問題を通して説明できる。
授業方法と留意点	本講義は対面授業方式により、受講者の主体的な演習を通して化学の基礎知識を身につける。具体的には、授業ごとの到達目標を決め、教師が概説したのちそれに沿った演習問題を受講者各自で解く。その後、教師がパワーポイントを用いて解答のポイントを解説することを繰り返して内容の理解を深める。各講義後にはその講義の内容について Moodle を用いて小テストの課題とその授業の振り返りシートを期限内に提出する。その他、必要に応じてレポートや追加の演習問題などの課題を課す。講義開始前の学生証による出席確認、講義中での演習、発表など
科目学習の効果 (資格)	本講義で化学演習の演習を自ら解くことにより、受講者は化学の基礎知識や学ぶ方法を主体的に身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	原子の構造と性質	原子の構造、原子番号、質量数、放射能と放射線などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第1回の授業内容を予習しておく。 事後：第1回の小テストを行う。
2	原子の電子構造	原子の原子殻、軌道の形、電子配置などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第2回の授業内容を予習しておく。 事後：第2回の小テストを行う。
3	周期表と元素	電子配置と周期表、典型元素と遷移元素、周期性などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第3回の授業内容を予習しておく。 事後：第3回の小テストを行う。
4	化学結合と分子①	化学結合と電気陰性度、イオン結合、金属結合、共有結合、結合の極性などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第4回の授業内容を予習しておく。 事後：第4回の小テストを行う。
5	化学結合と分子②	共有結合、配位結合、金属結合、分子結合、結合の極性などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第5回の授業内容を予習しておく。 事後：第5回の小テストを行う。
6	物質の量と状態 ①	原子量と分子量、パーセント濃度、溶液の調製法、モルについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第6回の授業内容を予習しておく。 事後：第6回の小テストを行う。
7	物質の量と状態 ②	モル濃度、当量濃度について問題を通して学ぶ。	事前：化学の第7回の授業内容を予習しておく。 事後：第7回の小テストを行う。
8	物質の量と状態 ③	溶液の希釈について問題を通して学ぶ。	事前：化学の第8回の授業内容を予習しておく。 事後：第8回の小テストを行う。
9	物質の量と状態 ④	モル、モル濃度復習、溶液の希釈復習、重量の量る桁数、有効数字について問題を通して学ぶ	事前：化学の第9回の授業内容を予習しておく。 事後：第9回の小テストを行う。
10	酸塩基平衡	水のイオン積、酸塩基の水溶液のpHについて問題を通して学ぶ	事前：化学の第10回の授業内容を予習しておく。 事後：第10回の小テストを行う。
11	酸化還元反応	酸化と還元、酸化還元反応などについて問題を通して学ぶ	事前：化学の第11回の授業内容を予習しておく。 事後：第11回の小テストを行う。
12	有機化合物の構造、異性体と立体化学	有機化合物の結合、炭化水素の種類と置換基の種類、芳香族化合物、異性体、構造異性体、立体異性体、光学異性体などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第12回の授業内容を予習しておく。 事後：第12回の小テストを行う。
13	有機化学反応	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化還元反応、置換反応、付加反応などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第13回の授業内容を予習しておく。 事後：第13回の小テストを行う。
14	糖類と脂質	単糖類と二糖類、多糖類、脂質、ホルモン、生体膜などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第14回の授業内容を予習しておく。 事後：第14回の小テストを行う。
15	アミノ酸とタンパク質、核酸 -DNA と RNA-	アミノ酸、たんぱく質、核酸の構造、遺伝子とRNAの構造、遺伝子、RNAの機能などについて問題を通して学ぶ。	事前：化学の第15回の授業内容を予習しておく。 事後：第15回の小テストを行う。

関連科目 生化学、食品化学、基礎栄養学、食品衛生学、解剖生理学、薬理学、調理学Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コ・メディカル化学	齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二	裳華房
2				
3				

評価方法 (基準)	各講義の学習確認小テスト (30%)、振り返りシート (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	この授業は自らが主体的に演習を解く科目ですので、事前・事後学修、小テストなどを通して、わからないところを解決して、進んで行きましょう。
担当者の 研究室等	枚方キャンパス農学部 教員室320
備考	

科目名	化学	科目名 (英文)	Fundamentals of Chemistry
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1010a0		

授業概要・目的	<p>化学的知識・思考は、食品学および栄養学領域における基礎・専門科目を理解する上で欠かせない。本講義では、化学の基礎知識を確実なものとするともに、大学における専門科目の理解に不可欠な化学の知識を修得することを目的とする。「化学」では、物質の成り立ちから、理論化学、無機化学、有機化学に関する基本事項を学修し、専門課程・卒業研究における化学的な課題に対処する能力を身につける。また、同時期開講の「化学演習」において、「化学」にて講義した基本事項について、問題演習を通じて理解する。</p> <p>SDGs 2, 3, 4</p>
到達目標	<p>① 教科書に記載された無機化合物の構造式を書くことができる。 ② 元素の電子配置が説明できる。 ③ 化学結合が説明できる。 ④ 水溶液の濃度、pHなどの計算ができる。 ⑤ 主な有機化合物の種類と性質を説明できる。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業では受講者の主体的な学びを通して、専門科目に必要な化学の基礎知識を身につける。</p> <p>①事前学習：受講者は次回の授業で学習する内容を、教科書で予習しておく。 ②理解度確認テストⅠ：授業前に、moodle にアクセスして、このテストを受験する。 ③理解度確認テストⅡ：化学講義後、講義内容について、moodle にアクセスして、このテストを受験する。 ④事後学習：受講者は、Moodle にアクセスし、小テスト及び、ふりかえりをシートに記入し、期限内に提出する。</p> <p>対面式授業が中</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>本授業で化学を学ぶことにより、無機化学および有機化学の基礎的知識や考え方を主体的に身につけることができる。 食品衛生管理者及び食品衛生監視員 (任用資格) の資格取得に係る科目</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 原子の構造と性質	<p>ガイダンス：、講義や評価方法などを説明する。</p> <p>①授業前、理解度確認テストⅠを実施する。 その後、 下記の内容で講義する。 ②授業後、理解度確認テストⅡを実施する。 ③事後学習では、Moodle にアクセスして、小テスト 及び振り返りレポートを期限内に、moodle に提出する。</p> <p>講義内容：原子、同位体、原子量、同素体、水素原子モデル、電子配置、周期表、周期表と元素の性質の周期性などについて学ぶ。</p>	<p>事前：第1回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。</p> <p>事後：第1回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する。</p>
2	原子の電子構造	<p>原子の電子殻 軌道の形、電子配置などについて学ぶ。</p> <p>原子軌道、混成軌道などについて学ぶ。</p>	<p>事前：第2回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。</p> <p>事後：第2回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する</p>
3	周期表と元素	<p>典型元素、遷移元素の性質、無機化合物の種類と性質などについて学ぶ。</p>	<p>事前：第3回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。</p> <p>事後：第3回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する</p>
4	化学結合と分子	<p>化学結合と電気陰性度などについて学ぶ。イオン結合、共有結合、無機化合物の化学式などについて学ぶ。</p>	<p>事前：第4回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。</p> <p>事後：第4回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する</p>
5	物質の量と状態	<p>原子量と分子量、モル、アボガドロ定数、濃度、物質の三態などについて学ぶ。</p>	<p>事前：第5回化学で学習する内容小テスト及び、ふりかえりシートを、教科書で予習しておく。</p> <p>事後：第5回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する</p>
6	溶液の化学	<p>溶解度、浸透圧、コロイドなどについて学ぶ。</p>	<p>事前：第6回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。</p>

				事後：第 6 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する
7	酸塩基平衡	水のイオン積、酸塩基の水溶液の pH などについて学ぶ。		事前：第 7 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 7 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する
8	酸化還元反応	酸化と還元、酸化還元反応などについて学ぶ。		事前：第 8 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 8 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する
9	無機化学のまとめ	無機化学(第 1 回～第 8 回授業まで)の復習 7 章までの化学の第一部について、理解度確認テストを実施し、その内容について、学習する。 受講者が理解不十分な項目について、自ら学び、また、他の受講者とともに、お互いに説明・共有する。		事前：第 1 回～第 8 回の授業、理解度確認テストを復習する。 事後：第 9 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する
10	有機化合物の構造	第 8 章 有機化合物の結合、炭化水素の種類と置換基の種類、芳香族化合物などについて学ぶ。 ①授業前、理解度確認テスト I を実施する。その後、下記の内容で講義する。 ②授業後、理解度確認テスト II を実施する。 ③事後学習では、Moodle にアクセスして、小テスト及び振り返りレポートを期限内、moodle に提出する。 事後：第 8 章有機化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する		事前：第 10 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 10 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する
11	異性体と立体化学	第 9 章 異性体、構造異性体、立体異性体、光学異性体などを学ぶ。		事前：第 11 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 11 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する
12	有機化学反応	第 10 章 有機化合物の起こす求核反応・求電子反応などについて学ぶ。 事後：第 10 章有機化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する		事前：第 12 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 12 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、提出する。
13	糖類と脂質	第 12 章 単糖類と二糖類、多糖類、脂質、ホルモン、生体膜などについて学ぶ。		事前：第 13 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 13 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりレポートを実施し、moodle に提出する。
14	アミノ酸とタンパク質	第 13 章 炭水化物、アミノ酸、たんぱく質などの化学構造について学ぶ。		事前：第 14 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 14 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりシートを実施し、moodle に提出する。
15	核酸-DNA と RNA	第 15 章 核酸の構造、遺伝子と RNA の構造、遺伝子、RNA の機能などについて学ぶ。		事前：第 15 回化学で学習する内容を、教科書で予習しておく。 事後：第 15 回化学の講義内容の復習、化学小テスト及び、ふりかえりシートを実施し、moodle に提出する。

関連科目 生化学、食品化学、基礎栄養学、食品衛生学、解剖生理学、薬理学、調理学Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コ・メディカル化学	齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二	裳華房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義時に配布する資料		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各授業の理解度確認テストⅠ(10%)、理解度確認テストⅡ(10%)、ふりかえりレポートの提出(10%)、小テスト(10%) および期末テスト(60%)で評価し、60%以上で合格とする。なお、取り組み状況(受講態度、各授業でのテスト受験、課題提出など)が不良の場合は、最大10%減点する場合がある。			
学生への メッセージ	化学の Teams コードの入力、Moodle の自己登録キーの入力をして下さい。授業のお知らせは、Teams 連絡用のチャンネルで行ないますので、必ず、Teams の連絡用チャンネルを確認してください。 この授業は自らが主体的に学ぶ科目ですので、事前・事後学習、小テストなどを通して、わからないところを解決してから、次に進んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス農学部 8 号館 2F 225 号室			
備考				

科目名	生物学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Biology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岸本 良美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAF1009a0		

授業概要・目的	本演習では、「生物学」の講義と連動し、栄養学と食品学を学ぶうえで重要な、ヒトを中心とした生物学の演習問題に取り組み、基礎的理解を深めるとともに応用能力、問題解決能力を養う。また同時に生物学の基礎に関する様々な問いかけに触れることで、背景となる周辺知識を学び、健康や環境にまつわる種々の問題について自分なりの考えを構築し、生物現象に関する理解を深めることを目的とする。
到達目標	生物学の基礎知識を組み合わせて、演習で扱う応用問題に解答することができる。 生物学の応用問題を解く上で鍵となった考え方、根拠について説明できる。
授業方法と留意点	「生物学」の講義と連動して、毎回配布するプリントの問題を各自解く。授業時間の後半において、解説と質疑応答を行い、不明点を解消する。
科目学習の効果 (資格)	「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。管理栄養士に必要な基礎的知識の一つです。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	生物学の基礎演習問題を解き、自分の理解度を把握する。生物学で学ぶポイントを整理する。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
2	生体を構成する物質	生体を構成する主な元素と分子 (水、タンパク質、脂質、糖質、核酸、無機質) に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
3	細胞の構造	細胞の構造と各種細胞内小器官に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
4	酵素	酵素とは何か、酵素反応の特徴に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
5	代謝①	エネルギー通貨 ATP、呼吸とエネルギー産生に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
6	代謝②	光合成と窒素固定に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
7	さまざまな生命活動にかかわるタンパク質	タンパク質の立体構造と機能、各種タンパク質の働きに関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
8	遺伝子①	DNA の構造、遺伝子とゲノム、DNA の複製に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
9	遺伝子②	遺伝情報の発現に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
10	生殖・発生	生殖、発生のしくみに関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
11	体液の恒常性	血液の成分と働き、肝臓と腎臓の働きに関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
12	体内環境の維持	自立神経系、内分泌系、体温調節、血糖の調節に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
13	生体防御	免疫に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
14	環境応答	神経細胞による情報伝達のしくみ、中枢神経、神経系による骨格筋の運動調節に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する
15	地球環境と生物多様性	環境と生態、生物多様性、進化に関する演習問題を解く。	事前:「生物学」の講義内容を復習しておく 事後: 解けなかった問題を復習する

関連科目 生物学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	食と栄養を学ぶための生物学	堀田久子・池晶子・塚元葉子	化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業中の課題 (40%) と定期試験 (60%) により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	生物学の知識を定着させるためには、問題演習が不可欠です。自分でしっかりと考え、分からないところは質問・復習をして、着実に進んでいきましょう。
担当者の研究室等備考	基礎栄養学研究室 (8号館 324)

科目名	生物学	科目名 (英文)	Fundamentals of Biology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1008a0		

授業概要・目的	<p>栄養学と食品学は、生物学の知識を基に構築されている。栄養学と食品学を学ぶうえでの必要最小限の有機化学の知識を学修した後に、生物学の中の人体に関係する部分を網羅的に学修する。最後に、環境と生態、生物多様性、進化の基礎についても学修する。具体的には、細胞の構造、酵素、生体内での代謝、体内でのたんぱく質の働き、遺伝、血液、主要臓器である肝臓と腎臓の働き、体内環境の維持機構、生体防御機構、神経系、環境と生態、生物多様性、進化についての基礎的知識を学修する。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 生体を構成する分子について説明できる。 ② 細胞の構造と各種細胞内小器官の基本的働きについて説明できる。 ③ 酵素の基本的特徴について説明できる。 ④ 生体エネルギーとは何かについて説明できる。 ⑤ 光合成と窒素固定と栄養とのかかわりについて説明ができる。 ⑥ 生体内におけるたんぱく質の基礎的働きについて説明できる。 ⑦ 遺伝現象と生殖、発生の基礎について説明できる。 ⑧ 血液、肝臓、腎臓の基本的な働きについて説明できる。 ⑨ 体内環境の維持の基礎について説明できる。 ⑩ 免疫機構の基礎について説明できる。 ⑪ 神経伝達の基礎について説明できる。 ⑫ 環境と生態、生物多様性、進化の基礎について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業方法は下記の授業計画に従い、主にパワーポイントおよび板書にて講義を行う。また、各講義前に、前回の講義の小テストを実施する。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」、「臨床栄養学」などの科目を理解するために必要な基礎的科目です。管理栄養士に必要な基礎的知識の一つです。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生体を構成する元素</td> <td>生体を構成する主な元素と基本的な原子団</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生体を構成する物質</td> <td>生体を構成する主な元素と分子 (水、たんぱく質、脂質、糖質、核酸、無機質)</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>細胞の構造</td> <td>細胞の構造と各種細胞内小器官</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>酵素</td> <td>酵素とは何か、酵素反応の特徴</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>代謝①</td> <td>エネルギー通貨 ATP、呼吸とエネルギー産生</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>遺伝子②</td> <td>光合成と窒素固定</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>さまざまな生命活動にかかわるタンパク質</td> <td>たんぱく質の立体構造と機能、各種たんぱく質の働き</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>遺伝子①</td> <td>DNA の構造、遺伝子とゲノム、DNA の複製</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>遺伝子②</td> <td>遺伝情報の発現</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>生殖・発生</td> <td>生殖、発生のしくみ</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>体液の恒常性</td> <td>血液の成分と働き、肝臓と腎臓の働き</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>体内環境の維持</td> <td>自立神経系、内分泌系、体温調節、血糖の調節</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>生体防御</td> <td>免疫</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>環境応答</td> <td>神経細胞による情報伝達のしくみ、中枢神経、神経系による骨格筋の運動調節</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>地球環境と生物多様性</td> <td>環境と生態、生物多様性、進化</td> <td>次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	生体を構成する元素	生体を構成する主な元素と基本的な原子団	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	2	生体を構成する物質	生体を構成する主な元素と分子 (水、たんぱく質、脂質、糖質、核酸、無機質)	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	3	細胞の構造	細胞の構造と各種細胞内小器官	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	4	酵素	酵素とは何か、酵素反応の特徴	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	5	代謝①	エネルギー通貨 ATP、呼吸とエネルギー産生	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	6	遺伝子②	光合成と窒素固定	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	7	さまざまな生命活動にかかわるタンパク質	たんぱく質の立体構造と機能、各種たんぱく質の働き	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	8	遺伝子①	DNA の構造、遺伝子とゲノム、DNA の複製	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	9	遺伝子②	遺伝情報の発現	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	10	生殖・発生	生殖、発生のしくみ	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	11	体液の恒常性	血液の成分と働き、肝臓と腎臓の働き	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	12	体内環境の維持	自立神経系、内分泌系、体温調節、血糖の調節	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	13	生体防御	免疫	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	14	環境応答	神経細胞による情報伝達のしくみ、中枢神経、神経系による骨格筋の運動調節	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。	15	地球環境と生物多様性	環境と生態、生物多様性、進化	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	生体を構成する元素	生体を構成する主な元素と基本的な原子団	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
2	生体を構成する物質	生体を構成する主な元素と分子 (水、たんぱく質、脂質、糖質、核酸、無機質)	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
3	細胞の構造	細胞の構造と各種細胞内小器官	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
4	酵素	酵素とは何か、酵素反応の特徴	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
5	代謝①	エネルギー通貨 ATP、呼吸とエネルギー産生	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
6	遺伝子②	光合成と窒素固定	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
7	さまざまな生命活動にかかわるタンパク質	たんぱく質の立体構造と機能、各種たんぱく質の働き	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
8	遺伝子①	DNA の構造、遺伝子とゲノム、DNA の複製	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
9	遺伝子②	遺伝情報の発現	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
10	生殖・発生	生殖、発生のしくみ	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
11	体液の恒常性	血液の成分と働き、肝臓と腎臓の働き	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
12	体内環境の維持	自立神経系、内分泌系、体温調節、血糖の調節	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
13	生体防御	免疫	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
14	環境応答	神経細胞による情報伝達のしくみ、中枢神経、神経系による骨格筋の運動調節	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
15	地球環境と生物多様性	環境と生態、生物多様性、進化	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。																																																																
関連科目	<p>全ての専門コア科目</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食と栄養を学ぶための生物学</td> <td>堀田久子・池晶子・塚元葉子</td> <td>化学同人</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食と栄養を学ぶための生物学	堀田久子・池晶子・塚元葉子	化学同人	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	食と栄養を学ぶための生物学	堀田久子・池晶子・塚元葉子	化学同人																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>授業期間内に課す課題 (50%)、期末に課す定期テスト (50%) で評価する予定。皆さんの学習状況によって変化する場合があります。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>一生懸命勉強してください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>農学部 8 号館 3F 応用栄養学研究室 (325)</p>																																																																		

科目名	農業知的財産	科目名 (英文)	Agricultural Intellectual Property
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中世古 裕之、犬飼 一博
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF3007a0		

授業概要・目的
 農林水産業は、生活の根幹を支える重要な産業でありながら、これまで十分な知的財産に関する法的支援が図られていなかった。そこで、農林水産業における知的財産の重要性を認識し、知的財産制度を有効に活用するために、農林水産業と密接に関連する知的財産の基礎的知識や各種制度の在り方、農林水産業における知的財産制度の活用方法の修得を目的とする。具体的には、農林水産分野における知的財産法制の概観、種苗法に基づく品種登録制度の概要（海外での新品種の保護制度を含む。）、農林水産品の「地域ブランド」保護制度である地域団体商標制度及び地理的表示制度の内容、農林水産業における品質認証表示規制等の概要、水際措置、食品の安全性確保のための各種手法（GAP、HACCP等）の概要等について修得する。

到達目標
 日本の農林水産業の競争力の維持・向上を図ると共に、農作物の持続的・安定的な供給を図ることを目的として、農林水産業における知的財産の重要性を認識する。そのために、農林水産業において活用可能な知的財産制度を十分に理解し、農林水産業の現場において実践的に活用できる知識を習得した人材を育成することを本授業の目標とする。

授業方法と留意点
 授業方法は下記の授業計画に従い、主にレジュメ等を用いて講義を行い、必要に応じて資料を配布する。講義を中心とした授業形式とする。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農林水産業と知的財産権	農林水産業における知的財産権の重要性、知的財産制度全体の概要 (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
2	商標制度	商標制度の概要 (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
3	地域団体商標制度	地域団体商標制度の概要、登録要件、その効果について (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
4	地理的表示保護制度	地理的表示制度の概要、地域団体商標制度との違い、海外における地理的表示保護の対策 (TRIPS協定、各国のGI制度) について (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
5	品種登録制度	品種登録制度の概要 (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
6	品種登録制度の要件・効果及び海外での育成者権の保護	品種登録の要件・効果、UPOV条約の概要、海外での育成者権の保護等について (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
7	品種登録制度における訴訟	品種登録が要件を欠く場合の対抗手段について (裁判例解説) (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
8	農林水産業と不正競争防止法 (品質認証)	不正競争防止法における品質認証表示規制 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
9	農林水産業と不正競争防止法 (表示保護)	不正競争防止法における表示保護、商品形態保護 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
10	農林水産業と不正競争防止法 (営業秘密)	不正競争防止法における営業秘密の保護 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
11	水際措置	知的財産侵害物品の水際取締制度 (税関での輸入差止) の概要 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
12	その他の知的財産制度の活用 (特許・実用新案)	農林水産業における特許・実用新案の概要について (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
13	その他の知的財産制度の活用 (意匠・著作)	農林水産業における意匠・著作の概要について (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
14	訴訟制度概要	農林水産業における各種訴訟制度全体の紹介 (裁判例解説)、それに対する弁護士の役割 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
15	食品の安全性確保・農林水産知財の今後の課題	食品の安全性確保のための各種手法 (GAP、HACCP等) の概要、農林水産業における各種制度の課題、今後の展望等 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂版 攻めの農林水産業のための知財戦略～食の日本ブランドの確立に向けて～	農水知財基本テキスト編集委員会	経済産業調査会
2			
3			

評価方法 (基準)
 定期試験 100%で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の

研究室等	
備考	

科目名	森林生態学	科目名 (英文)	Forest Ecology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	檀浦 正子
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF3006a0		

授業概要・目的	森林のあるところに文明が起こり、森林がなくなれば文明も滅びたように、昔から人間は森林を利用して生きてきた。日本は、国土の67%を森林に覆われる世界でも有数の森林国である。森林は、近年の環境問題を解決するための、また持続可能な資源の開発を行うための、大きな鍵となる。本講義では、森林の生態についての知識を得ることを目標にする。また森林生態学を研究する方法や、環境の計測などに関する理解を深める。さらに森林と人間のかかわりや、森林が地球環境に及ぼす影響、日本の林業の問題点などについても考察を行う。																																																																		
到達目標	① 森林の機能と役割を理解し、森林生態学の知識を得る ② 森林と人間と地球環境との相互作用を理解する ③ 現在の森林や環境をめぐる問題を自分のこととして考察する																																																																		
授業方法と留意点	授業はパワーポイント、板書を主に講義を行う。授業の理解を深めるための課題を課す。またグループワークを実施し、グループごとに現在の森林環境問題に関する課題を選び、発表する。																																																																		
科目学習の 効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>森林とは何か</td> <td>森林の定義、世界の森林、森林の動態</td> <td>事後レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>樹木とは何か</td> <td>樹木の定義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>樹木の実際</td> <td>樹木の各部位のはたらき</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>森林環境に関する課題: 課題の設定</td> <td>グループワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>樹木の物質生産</td> <td>樹木の生長</td> <td>事後レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>光合成と呼吸</td> <td>光合成と呼吸の化学式</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>樹木と水</td> <td>通水阻害、乾燥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>森林環境に関する課題: 調査</td> <td>グループワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>森林環境とその測定法</td> <td>樹木の生長と環境の影響</td> <td>事後レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>森林の物質循環</td> <td>炭素、水、窒素の循環</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>森林の物質循環の測定法</td> <td>物質循環の測定法に関する研究の最前線</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>森林環境に関する課題: 発表スライド作成</td> <td>グループワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>森林の多様性</td> <td>多様性とはなにか、多様性はなぜ重要か</td> <td>事後レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>森林と林業、環境問題</td> <td>林業の実際、現在の森林環境問題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>森林環境に関する課題: 発表</td> <td>グループワーク</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	森林とは何か	森林の定義、世界の森林、森林の動態	事後レポート	2	樹木とは何か	樹木の定義		3	樹木の実際	樹木の各部位のはたらき		4	森林環境に関する課題: 課題の設定	グループワーク		5	樹木の物質生産	樹木の生長	事後レポート	6	光合成と呼吸	光合成と呼吸の化学式		7	樹木と水	通水阻害、乾燥		8	森林環境に関する課題: 調査	グループワーク		9	森林環境とその測定法	樹木の生長と環境の影響	事後レポート	10	森林の物質循環	炭素、水、窒素の循環		11	森林の物質循環の測定法	物質循環の測定法に関する研究の最前線		12	森林環境に関する課題: 発表スライド作成	グループワーク		13	森林の多様性	多様性とはなにか、多様性はなぜ重要か	事後レポート	14	森林と林業、環境問題	林業の実際、現在の森林環境問題		15	森林環境に関する課題: 発表	グループワーク	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	森林とは何か	森林の定義、世界の森林、森林の動態	事後レポート																																																																
2	樹木とは何か	樹木の定義																																																																	
3	樹木の実際	樹木の各部位のはたらき																																																																	
4	森林環境に関する課題: 課題の設定	グループワーク																																																																	
5	樹木の物質生産	樹木の生長	事後レポート																																																																
6	光合成と呼吸	光合成と呼吸の化学式																																																																	
7	樹木と水	通水阻害、乾燥																																																																	
8	森林環境に関する課題: 調査	グループワーク																																																																	
9	森林環境とその測定法	樹木の生長と環境の影響	事後レポート																																																																
10	森林の物質循環	炭素、水、窒素の循環																																																																	
11	森林の物質循環の測定法	物質循環の測定法に関する研究の最前線																																																																	
12	森林環境に関する課題: 発表スライド作成	グループワーク																																																																	
13	森林の多様性	多様性とはなにか、多様性はなぜ重要か	事後レポート																																																																
14	森林と林業、環境問題	林業の実際、現在の森林環境問題																																																																	
15	森林環境に関する課題: 発表	グループワーク																																																																	
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	事後レポート4回 (20%)、グループワークによる発表 (40%)、定期試験 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	森林生態系は地球上で最も複雑な生態系だといわれています。また森林を構成する樹木は地球上で最も大きな生物体でもあります。そのような森林について、どのような場所でのどのような機能があるのか、人とどのようなかかわりがあるか、そしてどのような研究がおこなわれているのか、知ってみませんか。																																																																		
担当者の研究室等備考	京都大学																																																																		

科目名	農業気象学	科目名 (英文)	Agricultural Meteorology
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山田 宏之
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF3005a0		

授業概要・目的	さまざまな気象現象の基礎的な特徴と発生原理等について講義を行い、気象と動植物との関わり、農業や人間生活との関わり等について、具体的な事例を示しながら解説する。それにより、大気組成や構造、放射過程・熱輸送過程、高・低気圧や前線とその動き、異常気象の発生原理、大気大循環、地球温暖化を含む気候変化とその影響など、さまざまな時間的・空間的スケールで起きる気象現象や気候システムについて、そのメカニズムを習得し、それらの農業への影響や対策等について現実的に考察することが可能となる学力を身に付ける。
到達目標	大気の中で起きるさまざまな現象を理解しながら大気環境の実態を把握し、大気圏と水圏・地圏・生物圏との相互影響も理解でき、それらが農業生産に及ぼす影響や対処方法を自ら考察できる能力を身に付けることを目標とし、大気組成や構造、放射過程・熱輸送過程、高・低気圧や前線とその動き、異常気象、大気大循環、地球温暖化を含む気候変動とその影響など、さまざまな時間的・空間的スケールで起きる気象現象や気候システムについて、そのメカニズムを習得し、科学的に説明できるようにすること。
授業方法と留意点	毎回、プリントを配布し、それを元に授業を進める。更に、ビジュアル化した映像資料を映写し、理解を深めていく。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球大気の構造と特徴	地球大気の組成や階層構造別 (対流圏、成層圏、中間圏、熱圏) の特性について講義する。	事前に対流圏、成層圏、中間圏、熱圏の言葉の意味と内容を確認すること。事後には、それぞれの圏域の特性を再確認すること。
2	放射収支と熱収支	地球表面や農耕地における太陽光の放射収支、熱収支について講義する。	事前に短波放射、長波放射、日射量、純放射量などの用語について調べておくこと。事後には、地表面熱収支の内訳 (各成分の収支) について確認しておくこと。
3	大気の水平方向の動き	対流圏における気流 (風) の特性について講義する。	事前にコリオリ力 (転向力) について調べておくこと。事後には、地上で生じる風にかかる各種力の内容について確認すること。
4	大気の動きの特徴 (1) : 大気大循環	大気によるエネルギー輸送、海流によるエネルギー輸送、大気大循環の構造と特性について講義する。	事前に地球上の海流の種類と特性について調べておくこと。事後には、大気大循環のメカニズムについて確認すること。
5	大気の動きの特徴 (2) : 低気圧と高気圧	低気圧および高気圧の発生過程と特性について講義する。	事前に温帯低気圧と熱帯低気圧について、一般的な特性を調べておくこと。事後には、日本列島付近での低気圧、高気圧の挙動と季節変化について確認しておくこと。
6	大気の鉛直方向の動き (1) : 温位と乾燥断熱減率	積乱雲の発生過程を追いながら、大気の温位と乾燥断熱減率の特徴等について講義する。	事前に大気の乾燥断熱減率、湿潤断熱減率について調べておくこと。事後には、乾燥断熱減率、湿潤断熱減率を用いて、積乱雲の発達過程を説明できるように確認しておくこと。
7	大気の鉛直方向の動き (2) : 大気の安定度と湿度	大気の湿り具合と雲の発生、雹や雷の発生等について講義する。	事前に相対湿度と絶対湿度の違いについて調べておくこと。事後には、容積絶対湿度のグラフを用いて、結露や雲の成因について十分に説明できるように、内容を確認しておくこと。
8	気候と植物 (1) : 気候区分	ケッペンの気候区分を題材に、気候と植物との関わりについて講義する。	事前にケッペンの気候区分について調べておくこと。事後には、日本の気候区分と植生について確認しておくこと。
9	気候と植物 (2) : 植物分布	地球上の植物分布と気候との関わり、過去の気候変動が現在の植物分布に及ぼす影響などについて講義する。	事前に熱帯、温帯、亜寒帯、寒帯の植物について調べておくこと。事後には、各気象帯の植生の特性について確認すること。
10	気候環境と植物の成育	植物の生育に影響を及ぼす気候因子について講義する。	事前に気温、日射、風が植物生育に与える影響について調べておくこと。事後には、各気象要素が植物生育に与える影響と、その原理について確認すること。
11	気候の栽培への応用	気候を利用した作物栽培、暖地農業と寒冷地農業などの実例を通じて、気候と農業生産の関連性について講義する。	事前に暖地農業と寒冷地農業について調べておくこと。事後には、作物の温度条件への適合性について確認すること。
12	農業気象災害とその防止	農業栽培における風害、凍霜害、冷害等について、その実態と発生原理について講義する。	事前に風害、凍霜害、冷害の意味について調べておくこと。事後には、イネの冷害対策の具体事例について確認すること。
13	施設栽培の気象環境管理	ビニールハウスやガラス温室などの栽培施設内の気象環境の特徴と、その制御技術について講義する。	事前にビニールハウスとガラス温室の一般的な特性について調べておくこと。事後には、素材別の光透過率等について確認すること。
14	都市気象と都市農業	都市気象の特徴、成因、対策等について講義する。また、それが都市農業に与える影響を解説し、実際の都市農業の事例紹介を行う。	事前に都市気象の一般的な特徴について調べておくこと。事後には、都市気象が人間や植物に与える影響について確認すること。
15	健康と気象、まとめ	熱中症や寒冷害など、人間の健康に及ぼす気象の影響について講義し、農作業時の疾病防止策を学ぶ。また、講義全体のまとめを行う。	事前に熱中症の原因と病症について調べておくこと。事後には、体感温度の各種指標について確認すること。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい気候学	仁科淳司	古今書院
	2	作物の生育と環境	西尾道徳、他	農山漁村文化協会
	3			
評価方法 (基準)	授業期間中の3回のレポートを平均することを原則とした100点満点で成績を評価する。			
学生への メッセージ	前半7回目までは天気予報等に用いられる一般的な気象学に関する講義、後半は農業気象学を中心とした応用気象学の講義を行います。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	スマート農業演習	科目名 (英文)	Seminar in Smart Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏・久保 康之
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF3004a0		

授業概要・目的	日本農業における就農人口の減少、高齢化、激しい気象変動と異常気象等、農園芸作物生産を取り巻く環境は厳しさを増している。そんな中、高収量・高品質、安定生産、省力・軽作業化、省エネを実現するためのロボット技術や ICT を活用した新しい農業スタイル「スマート農業」が動き始めている。本演習ではスマート農業について、その理論と実際を学び、日本農業がかかえる課題と「スマート農業」の可能性とその重要性について正しく認識させる。
到達目標	① スマート農業とは何か、説明できる。 ② スマート農業の具体例を列挙し、その内容と特徴を説明できる。 ③ スマート農業についての学びから、その可能性について自分の考えをまとめ、述べることができる。
授業方法と留意点	本学教員による講義及び学外の施設視察と受講、および他大学教員、試験研究機関の研究員をゲストスピーカーとして迎え、講義を進める。講義内容はプリント、資料等で事前配布する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	スマート農業とは	スマート農業と呼ばれている農業技術、施設、システムの概説	事前：次回実習内容の確認
2	植物工場 その1	太陽光利用型植物工場の現状と課題	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
3	植物工場 その2	人工光利用型植物工場の現状と課題	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
4	植物工場視察研修	大阪府立大学植物工場研修 (講義) 植物工場における環境制御技術 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
5	植物工場視察研修	大阪府立大学植物工場研修 (講義) 体内時計制御による生長の最適化 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
6	植物工場視察研修	大阪府立大学植物工場研修 (視察) 植物工場施設の見学	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
7	栽培環境情報の「見える化」	ハウス内気象情報の「見える化」と遠隔操作 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
8	生産技術の「見える化」	篤農家技術の見える化 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
9	ドローンの農業利用	ドローンによる薬剤散布、播種作業 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
10	ロボット技術	無人トラクターと収穫ロボット (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
11	オミクス利用	オミクス情報利用による新世代栽培技術の開発 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
12	次世代型温室視察研修	京都大学農学部附属木津農場視察研修 (講義)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
13	次世代型温室視察研修	京都大学農学部附属木津農場視察研修 (視察)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
14	農業と AI	農業における AI 活用の可能性 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
15	まとめ	スマート農業の可能性	事後：レポートの提出

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート (100%) を総合して評価し、60%以上で合格とする。6回以上欠席したものは受験資格なし。
学生へのメッセージ	本講義は通年の講義です。原則、隔週の土曜日開講としていますが、一部、講義日等に変更が生じる場合があるかもしれませんので、ご承知おきください。その場合はできるだけ早いうちお知らせします。
担当者の研究室等備考	

科目名	グローバル農業演習	科目名 (英文)	Seminar in Global Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏・戴 容秦思
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAF2003a0		

授業概要・目的	私達の食生活は、我が国の食料生産だけでは決して支えられているものではなく、他国における食料生産への依存度は高まる一方である。海外に10日間ほど滞在し、その地域や国の農業についての講義や視察により、茶などの工芸作物を含む様々な農作物、野菜や花などの種々園芸作物が他国で、どのような気象・土壌環境で、どのような栽培技術で生産され消費・利用されているかを、それら地域の歴史的、文化的背景、社会情勢の理解とともに学ぶ。
到達目標	① 世界の農業との比較から日本の農業の特徴を説明できる。 ② 演習に訪れた国・地域の農業成立の歴史的背景、農業技術、現状、課題について説明できる。
授業方法と留意点	当面は、学術交流協定を結んだ中国の雲南農業大学を演習の訪問先とする。訪問時期は春期休暇期間中で、おおよそ10日間の日程で行う。雲南農業大学は雲南省立の大規模大学で、多方面での農業に関する研究実績があり、日本の大学とは長年の交流実績を有しており、受け入れ態勢が整っている。各講義、視察地での解説は、基本、中国語、英語で行われる。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	演習実施時期、実施国、および演習内容 (雲南農業大学における農学関連講義の受講、現地視察および雲南農業大学生徒との交流) の説明	事前：シラバスの理解 事後：レポートの提出
2	雲南農業大学の紹介	雲南農業大学の建学精神、組織、研究内容の紹介と学内施設見学	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
3	雲南省の概説	雲南省の地形、気象、生物 (動植物) についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
4	雲南省の概説	雲南省の歴史と少数民族についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
5	視察	民俗村施設を訪問し、住居、農耕具、食文化、衣類、宗教等に関する展示物 (一部再現物) を見学し、雲南省の少数民族の文化について学ぶ	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
6	中国の畜産業	豚をはじめとする中国の畜産業の現状と特徴についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
7	中国の稲作	中国全土の稲作の栽培技術、栽培品種、稲作文化についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
8	中国の作物栽培	雲南および中国での主要作物の栽培状況と栽培技術についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
9	中国の作物防除	作物、野菜、果樹等の作物栽培における病虫害被害の実態と防除技術についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
10	中国の野菜栽培	多種多様な野菜の類縁関係、品種特性、栽培技術、利用法および消費動向についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
11	雲南省の野菜	雲南省で栽培・消費されている野菜、ないし周辺の少数民族の野菜文化についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
12	雲南省の花弁	常春といわれる雲南省における、花卉植物の多様性、周年栽培、品質、並びに他地域・国外への供給体制についての講義	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
13	雲南省の茶栽培	雲南省の茶栽培、茶生産技術、飲茶文化についての講義と視察 (茶間屋など)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
14	視察	全国から集荷される青果物市場、花卉市場を見学し、流通形態やその規模、取り扱い物の特徴を学ぶ	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
15	総括	演習での学びと体験から、現在の中国の農業実態を理解・整理する。成果報告会を実施する	事後：全実習のレポート提出

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義内容に関するプリントを配布</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	講義内容に関するプリントを配布			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	講義内容に関するプリントを配布																
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する																
2																	
3																	

評価方法 (基準)	事前課題レポート内容 (30%)、事後課題レポート (30%)、現地での演習時の取り組み姿勢・成果報告会での発表内容 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	現地での使用言語は、中国語、英語となっていますが、日本語でも会話は成立しますので安心してください。なお、コロナ禍が収束しない場合には、演習が中止になる場合があります。
担当者の	寺林敏 (農業生産学科 園芸科学研究室)、戴 容秦思 (食農ビジネス学科 食品流通研究室)

研究室等	
備考	

科目名	農学基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar in Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏, 川崎 通夫, 北村 祐人, 佐野 修司, 玉置 雅彦, 藪田 伸, 山川 武夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1002a0		

授業概要・目的	福井県と三重県にある農業体験施設を利用し、2日間で演習を行う。主に、我が国のイネ生産と消費の現状、水田の構造、稲作を成立させる農業技術並びに自然環境要因、水田の多面的価値、稲作文化等について講義する。実習内容として、春期の田植えと秋期の稲刈りを行う。日本の主食であるコメの栽培を学び、イネ栽培を体験することで、水田の構造、日本で水田稲作が成立する要因、稲という植物の生育特性を深く理解し、我が国における今後の稲作の在り方について学ぶことを目的とする。																																																																		
到達目標	① 日本の地形・気象条件と稲作との関係を説明できる。 ② 稲作における種々作業の必要性、意義、効果を理解し、説明できる。 ③ イネという作物の生理・生態的、形態的特性を説明できる。 ④ 農業生産に及ぼす気象、土壌、病害虫、雑草などの環境要因の影響について知り、説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	演習は春（5月の田植え）と秋9月（イネ刈り）の2回行う。それぞれに、事前の講義、現地での講義、実習内容の説明と農作業、周辺地域の農村景観の観察、そして討論会をおこなう。演習の最終回は、まとめとして、2回の演習での体験と学びをもとに、課題「水田の多面的機能と価値について」と自由課題を与え、レポート提出させる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>本演習の内容と目的の説明 田植え演習の諸注意</td> <td>事前：次回実習内容の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>田植えの前に</td> <td>稲作の基本、特に田植えについての理論、技術を学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>田植え</td> <td>訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>田植え</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>田植え</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>田植え後のイネの成長</td> <td>画像、データをもとに、稲の成長、病害虫の発生等の状況について学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ガイダンス</td> <td>訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明（田植えした場所と異なるため）</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>稲刈りの前に</td> <td>稲作の基本、特に稲刈りについての理論と技術を学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>稲刈り</td> <td>訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>稲刈り</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>稲刈り</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>稲刈りを終えて</td> <td>今年収穫されたイネの成長、収量等について総括し、気象条件、病害虫発生等との関連を考察する</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>野菜栽培 -ダイコン-</td> <td>ダイコンの品種、栽培・利用についての学びとダイコン収穫</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>収穫後の米</td> <td>収穫された米の品質について学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>水田土壌の特徴</td> <td>水田土壌の生産性、土壌生成因子、圃場整備</td> <td>レポートの提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 田植え演習の諸注意	事前：次回実習内容の確認	2	田植えの前に	稲作の基本、特に田植えについての理論、技術を学ぶ	レポートの提出	3	田植え	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習	4	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	5	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	6	田植え後のイネの成長	画像、データをもとに、稲の成長、病害虫の発生等の状況について学ぶ	レポートの提出	7	ガイダンス	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明（田植えした場所と異なるため）	事前：講義及び実習内容の予習	8	稲刈りの前に	稲作の基本、特に稲刈りについての理論と技術を学ぶ	レポートの提出	9	稲刈り	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習	10	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	11	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	12	稲刈りを終えて	今年収穫されたイネの成長、収量等について総括し、気象条件、病害虫発生等との関連を考察する	レポートの提出	13	野菜栽培 -ダイコン-	ダイコンの品種、栽培・利用についての学びとダイコン収穫	レポートの提出	14	収穫後の米	収穫された米の品質について学ぶ	レポートの提出	15	水田土壌の特徴	水田土壌の生産性、土壌生成因子、圃場整備	レポートの提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 田植え演習の諸注意	事前：次回実習内容の確認																																																																
2	田植えの前に	稲作の基本、特に田植えについての理論、技術を学ぶ	レポートの提出																																																																
3	田植え	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
4	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
5	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
6	田植え後のイネの成長	画像、データをもとに、稲の成長、病害虫の発生等の状況について学ぶ	レポートの提出																																																																
7	ガイダンス	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明（田植えした場所と異なるため）	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
8	稲刈りの前に	稲作の基本、特に稲刈りについての理論と技術を学ぶ	レポートの提出																																																																
9	稲刈り	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
10	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
11	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
12	稲刈りを終えて	今年収穫されたイネの成長、収量等について総括し、気象条件、病害虫発生等との関連を考察する	レポートの提出																																																																
13	野菜栽培 -ダイコン-	ダイコンの品種、栽培・利用についての学びとダイコン収穫	レポートの提出																																																																
14	収穫後の米	収穫された米の品質について学ぶ	レポートの提出																																																																
15	水田土壌の特徴	水田土壌の生産性、土壌生成因子、圃場整備	レポートの提出																																																																
関連科目	土壌学や植物栄養学の学習につながる内容を含んでいる。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	演習参加とレポート（100%）で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	実習を通して、作物を栽培するための準備、管理方法、収穫がどのように行われているかを体感してください。また、作物栽培の楽しさと大変さを経験してください。コロナ感染状況によっては、現地での実習（田植え、稲刈り）ができなく可能性があります。その場合は Teams での課題提供（課題提出は WebHolder 使用）、本学農場での見学および実習を行う予定です。																																																																		
担当者の研究室等備考	園芸科学研究室（寺林、北村）、作物科学研究室（玉置、川崎）、生産生態基盤学研究室（山川、佐野）、																																																																		

科目名	農学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agriculture
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久保 康之, 石川 幸男, 井上 亮, 奥本 裕, 小野 雅之, 小保方 潤一, 川崎 通夫, 喜多 大三, 北川 太一, 黒川 通典, 田中 樹, 寺林 敏, 吉井 英文, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAF1001a0		

授業概要・目的	自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の衣食住を支えてきた「農学」は、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。「農学」には持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、課題を見出し対応するミッションがある。「農学」は生命を支える食料の科学であり、生命科学とも位置付けられる。さらには、「農学」は生産、加工、流通の6次産業に食栄養を加えた24次産業的視点で捉えることができる。農と食をとりまく環境は大きく変化し、「農学」における食栄養科学・健康科学の重要性も認識されている。本講義はこうした問題意識からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により、受講者が「農学」とは何かを理解するとともに、「農学」のミッションに対応する「使命感」、「農学」的視点をもたらす「俯瞰力」、「実践力」に関心をもち、主体的に課題を意識することができることを目的とする。
到達目標	① 「農学」が関わる領域について、関心をもつことができる。 ② 「農学」が関わる領域の課題を理解し、主体的に捉えることができる。 ③ 「農学」が関わる領域を学び、専門分野で何を学ぶかという動機や問題意識をもつことができる。
授業方法と留意点	15回を担当教員のリレー講義にて行う。各回に課題が出されるので、期限内に提出すること。評価は各回の評価の積算とする。
科目学習の効果 (資格)	摂南大学農学部の学びの基本となり、「農学」の全体像を理解するための基礎となる科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	農学を大学で学ぶとは	「農学」は、自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、私たちは何を学び、何をすべきか、「農学」の世界観を俯瞰し、学修する。(担当: 久保 康之)	事前: シラバスの理解 事後: レポートの提出
2	農学と社会	「農学」は、安全な食料生産と食料の安定供給、自然環境の保全、食を取り巻く多様化・複雑化する社会への対応、新しい作物生産の場とその生産技術の開発など、社会からの求めに応え、解決する使命を担っている。「農学」が社会とのかかわりの中で、いかなる研究が社会に貢献してきたか、と同時に「農学」の発展と可能性について学修する。(担当: 寺林 敏)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
3	農業生産技術の進歩	農業生産技術の進歩は、人口増加、自然環境変動、および、社会変化に伴う農業生産課題を解決していく上で重要な要素である。フィールド栽培、施設園芸、植物工場、および、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したスマート農業などに関する農業生産技術の進展について学修する。(担当: 川崎 通夫)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
4	国際農業と開発援助	世界の農業の多様性を踏まえ、発展途上国における農業開発と、それに対する援助のあり方を学修する。(担当: 田中 樹)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
5	農業とケミカルエコロジー	すべての生物は、同種または他種の他個体と相互作用を及ぼしあいながら生きており、この相互作用の仲役として化学物質が大きな働きをしている。植物-昆虫、昆虫-昆虫間の相互作用における化学物質の働きについて、その害虫管理への応用を含めて概説する。(担当: 石川 幸男)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
6	作物改良のための情報科学	現代の農業は近代育種が改良してきた品種を基盤に成立している。近年のゲノム解読技術と画像解析技術の急速な発展は、育種におけるDNA情報解析と高速フェノタイピングの利用を強く後押ししている。育種の現場で利用が進められているゲノム情報と圃場データ処理を利用する情報科学について概説する。(担当: 奥本 裕)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
7	ゲノムと農学・生命科学	生物の設計図を読みたい、というのは生物学者の長年の夢だったが、ゲノムの解読技術の飛躍的な発展によって、それは現実のものとなりつつある。ゲノム科学の急速な発展が、農学・生命科学や私たちの生活にどのような影響を与えつつあるのかを概説する。(担当: 小保方 潤一)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
8	動物生命科学の新展開	動物を対象とした研究は、農学においては産業動物の生産性向上のため、食品、	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	

			医療においてはヒトの健康維持・増進、疾病予防・治療のために行われる。これらの動物を対象とした研究には遵守すべきルールや法令が存在する。これら動物を対象とした研究に関する現状を学修する。(担当：井上 亮)																	
	9	地球環境と海洋科学	水産業は一次産業の中でも特に天然依存性が高いことから、資源維持のために健全な海洋環境の保全が必須である。最新の増養殖技術の活用も含め、地球環境の保全と海洋科学の進展について学修する。(担当：増田 太郎)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
	10	食品科学と農業	農林漁業者（1次産業）が生産する農水産物の元々持っている価値をさらに高め農林水産業を活性化させるためには、食品加工（2次産業）は必須の技術である。最新の食品加工にかかわる食品科学技術の進展について学修する。(担当：吉井 英文)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
	11	食文化と多様性	日本の食文化は大きな変革期にきており、食生活の大部分を外食産業に依存する家庭が急増している。本来、日本の伝統的食文化である「お茶」の歴史、伝統および特質について学修する。(担当：喜多 大三)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
	12	微生物と食品	東洋、西洋を問わず、食品製造に微生物を利用することは長く行われてきた。農産物の2次加工としての微生物利用について概説する。(担当：和田 大)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
	13	食栄養科学と健康	現代の栄養事情は欠乏と過剰の二極化といわれている。社会の仕組みが複雑になっている今、社会のあらゆる側面を視野に入れながら、人間栄養学の観点から健康問題を考える。(担当：黒川 通典)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
	14	食品産業の役割とこれからの方向	消費者への食料供給において重要な役割を担う食品産業、特に食品流通業を取り上げ、その役割とこれからの展開方向を学修する。(担当：小野 雅之)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
	15	これからの食と農を考える	今日の食と農の状況を踏まえながら、これからの食（消費者、都市）と農（生産者、農山漁村）をつなぐ共生のあり方とその方向を考える。(担当：北川 太一)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>農学概論</td> <td>久保康之 編</td> <td>朝倉書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	農学概論	久保康之 編	朝倉書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	農学概論	久保康之 編	朝倉書店																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦</td> <td>生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著</td> <td>岩波ジュニア新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦	生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著	岩波ジュニア新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦	生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著	岩波ジュニア新書																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	事前課題（30%）、授業中の課題（40%）、事後課題（30%）で評価し、60%以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	1) この授業は「Teams」と「Forms」を使用します。 2) 各回の授業で課題を課します。提出期限は次回の授業日までとします。 (例：4月10日(月)の授業は4月16日(日)午後11時59分までに提出)																			
担当者の 研究室等	植物病理学研究室（久保）、応用昆虫学研究室（石川）、動物機能科学研究室（井上）、植物遺伝育種科学研究室（奥本）、食料・農業市場研究室（小野）、ゲノム生物学研究室（小保方）、作物科学研究室（川崎）、栄養薬理学研究室（喜多）、食農共生研究室（北川）、公衆栄養学研究室（黒川）、環境農学研究室（田中）、園芸科学研究室（寺林）、海洋生物学研究室（豊原）、食品加工学研究室（吉井）、応用微生物学研究室（和田）																			
備考																				

科目名	学校栄養指導論Ⅱ	科目名 (英文)	School Health and Nutrition Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	栄養教諭は、栄養に関する専門性と教職に関する専門性を身につける必要がある。子供の発育や発達、あるいは行動特性や教科等の特性を学びながら、食育の全体計画を作成し、子供の発達段階に応じた系統立った食育の模擬授業を行う。また、学校、家庭、地域と連携し学校給食を生きた教材として活用した食育の推進や、肥満、るい瘦、食物アレルギーといった個別指導の実践につながる取り組みを行い、栄養教諭にとって必要な知識と実践力を修得し、児童生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	①こどもの発達段階が理解でき、発達段階に応じた内容の食育を考えることができる。 ②食に関する指導の全体計画の意義を説明でき、立案の方法がわかる。 ③教科の単元目標に沿った食育指導案を作成し、模擬授業をすることができる。 ④学校、家庭、地域が連携した食育指導を計画することができる。 ⑤学校給食を活用した食育の指導案を作成することができる。 ⑥個別指導の手法に基づいた栄養相談ができる。
授業方法と留意点	①パワーポイント及び配付資料による講義 ②グループワーク ③テーマに沿った指導案の作成と模擬授業を通して意見交換を行い、栄養教諭として行う食に関する指導を具体的に理解し、その技能と方法を学修する。
科目学習の効果 (資格)	栄養教諭1種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 食に関する指導 (指導案)	オリエンテーション。 学習発達理論について知り、小学校中学年における「食べ物の3つの働き」の授業でどう活用していくか考え、グループごとに指導案を作成する。	事前：ピアジェの学習発達理論を読む (プリント) (2時間)。 事後：振り返りシート提出 (2時間)
2	食に関する指導 (模擬授業)	第1回の指導案を基に、グループごとに模擬授業を行う。	事前：指導案・教材を作成する (ワークシート) (3時間)。 事後：ルーブリック提出 (1時間)
3	食行動に関するステージ別指導	食行動に関するステージ別指導理論を知り、この理論に基づく野菜嫌いの子供への給食の時間の指導について考える。	事前：行動科学について調べる (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
4	コミュニケーション技術の コーチング	栄養教諭としてまず、子供とラボールの形成をどう築いていくかをグループで話し合い発表する。	事前：コーチングについて調べる (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
5	食に関する指導の全体計画の 意義	食に関する指導の全体計画の意義について知り、実態に即した食に関する指導の全体計画を作成する。	事前：食に関する指導の全体計画について調べる (テキスト) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
6	学習指導要領について	学習指導要領について知り、そのねらいが「生きる力」であることに気づき、そのねらいに沿った授業とはどのようなものか考える。	事前：学習指導要領総則を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
7	教科の目標に補完しあえる 食育の指導案 (家庭科、技術 家庭科)	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。(家庭科、技術家庭)	事前：家庭科、技術家庭の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
8	教科の目標に補完しあえる 食育の指導案 (保健体育)	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。((保健体育)	事前：保健体育の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
9	教科の目標に補完しあえる 食育の指導案 (道徳)	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。((道徳)	事前：道徳の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
10	食育指導の評価の方法	7回～9回で作成した指導案を基に模擬授業を行い、食に関する指導の効果、児童生徒の理解、定着度を評価する方法を考える。	事前：模擬授業の練習ならびに教材作成をする。(3時間) 事後：ルーブリック提出 (1時間)。
11	給食の時間における食育	給食の時間における食育の特性を理解し、ねらいをもった献立を作成し、指導媒体を活用した給食の時間の指導を行う。	事前：ねらいをもった献立作成と指導媒体の資料収集をする (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
12	総合的な学習の時間における 食育	総合的な学習の時間の目標を知り、食育の単元を構成する。	事前：総合的な学習の時間の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
13	食生活学習教材の活用法	食生活学習教材について知る。 食育と関連を図った学習指導案を作成する。	事前：食生活学習教材を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
14	学校給食の生きた教材の活 用法	地域の食文化や地場産物の活用という視点での家庭や地域との連携の必要性や地域との連携の方法について考える。また、学校給食を生きた教材として活用した給食だよりを考える。	事前：地域の地場産物や郷土料理、食文化について調べる (2時間)。 事後：給食だよりを作成する (2時間)。
15	肥満、るい瘦、食物アレルギー 等の個別指導	個々に応じた指導方法について知り、指導資料を作成し、グループ内でローリン	事前：食品構成の作成法を調べる (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。

			グブレーを行う。	
関連科目	学校栄養指導論 I 栄養教育実習 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食に関する指導の手引き 第二次改	文部科学省	東山書房
	2	四訂栄養教諭論－理論と実際－第2版	金田雅代	建帛社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験 70% 学習内容の理解。 レポート 20% テーマに沿った内容で学修したことを基にまとめられている。 学修態度 10% 主体性、実行力、課題発見力、創造力、発信力、傾聴力、規律性。			
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	学校栄養指導論 I	科目名 (英文)	School Health and Nutrition Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	栄養教諭は、栄養に関する専門性と教職に関する専門性を身につける必要がある。食育基本法や学校給食法を理解しながら、学校における食育推進の在り方や学校給食管理の方法について学修し、栄養教諭の職務内容について考える。また、児童生徒を取り巻く社会環境の変化に伴う食生活の乱れや健康に関して懸念される事項、食料自給率の問題、地産地消の重要性、食文化や郷土料理の継承といった面からも学校給食をどのように生かしていくべきなのかを考える。さらに、児童生徒の食生活に関する実態把握やその指導法など栄養教諭にとって必要な知識と実践力を修得し、児童生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	① 児童生徒の食生活に関する課題等に栄養教諭として対応していこうとする意欲を高める。 ② 学校給食法から学校給食の意義や目的を読み取り説明できる。 ③ 学校給食の実施基準を活用して、個人を対象とした栄養食事管理ができる。 ④ 学校給食衛生管理基準に沿った調理業務の指導ができる。 ⑤ 食をめぐる社会的状況や食文化の継承等を視野に入れた学校給食献立を計画することができる。
授業方法と留意点	①パワーポイントによる講義 ②プリントによる講義 ③グループ討論と発表（ループリック） ④演習
科目学習の効果（資格）	栄養教諭1種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 栄養教諭の職務	オリエンテーション 関連法令から栄養教諭制度について知る。栄養教諭の職務内容について中央教育審議会答申「食に関する指導体制の整備」から読み取る。	事前：食に関する指導体制の整備について熟読する（テキスト）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
2	食育基本法	児童生徒の食生活ならびに栄養に関する課題や社会状況に対応した食に関する指導の必要性、意義について食育基本法から読み解く。	事前：食育基本法を熟読する（テキスト）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
3	第4次食育推進基本計画	食育推進のために栄養教諭は何をすべきか第4次食育推進基本計画から考える。	事前：第4次食育推進基本計画を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：第4次食育推進基本計画についてまとめる（2時間）。
4	学校給食法	学校給食の意義と目的について学校給食法から読み解く。学校給食の基本計画の設定や調理指導、栄養教諭が行う学校給食全般を理解する。	事前：学校給食法を熟読する（テキスト）（2時間）。 事後：学校給食の意義や目的についてまとめる（2時間）。
5	学校給食の栄養管理（学校給食摂取基準の考え方）	学校給食の栄養管理を学校給食摂取基準から考える。	事前：日本人の食事摂取基準2020と学校給食摂取基準2021を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
6	学校給食の栄養管理（個別対応）	クラス全体の食事管理と個別対応の方法ならびに評価について考える。	事前：個別的な相談指導を必要とする児童生徒の対象者について調べる（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
7	学校給食の衛生管理基準：給食施設及び設備の整理	学校給食衛生管理基準について理解し、学校給食調理場の施設設備をレイアウトする。	事前：学校給食衛生管理基準（施設設備について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
8	学校給食の衛生管理基準：調理過程	献立作成、食材の購入、検収、保管についてまとめる。	事前：学校給食衛生管理基準（献立作成、食材購入、検収、保管について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
9	学校給食の衛生管理基準：演習	調理過程、配送についてまとめ、二次汚染防止のための手立てとして作業工程表作業動線図を作成する。	事前：学校給食衛生管理基準（作業工程表と作業動線図の作成について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：作業動線図・作業工程表を作成する（2時間）。
10	学校給食の衛生管理基準：衛生管理体制	検食や保存食、衛生管理体制について学修する。	事前：学校給食衛生管理基準（衛生管理体制について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
11	学校給食の衛生管理基準：ノロウイルス対応	厚生労働省ノロウイルスに関するQ&Aを理解し、ノロウイルス対策として、様々な場合を想定したマニュアルを作成する。	事前：ノロウイルス食中毒について調べる（2時間）。 事後：学校給食衛生管理基準とノロウイルス対策についてまとめる（2時間）。
12	学校給食の現状	学校給食実施状況調査から、児童生徒の実態を把握するための方法をグループで話し合い発表する。	事前：学校給食実施状況調査から課題点をまとめる（テキスト）（2時間）。 事後：児童の食生活に関するアンケート調査を作成する（2時間）。
13	学校給食における食物アレルギー対応	学校給食における食物アレルギー対応指針から、対応のための体制づくりや準備すべき書類、調理現場での指導、クラスでの対応について考える。	事前：アナフィラキシーについて調べる（2時間）。 事後：食物アレルギー対応マニュアルをまとめる（2時間）。
14	食料の供給状況や食文化の継承と学校給食	食料需給表から日本の食品供給状況について検討する。また、食文化の継承や地産地消について考え、学校給食献立の在り方について考える。	事前：最新の食料需給表を考察し、まとめる（プリント）（2時間）。 事後：地域の食文化や特産物、郷土料理を活かした献立を作成する（2時間）。
15	自然災害と学校給食	自然災害に備えた学校給食について考	事前：自然災害と学校給食についてまとめる（2時

			え、栄養教諭の役割について考える。	間)。 事後:栄養教諭として自然災害にどう向き合うかまとめる(2時間)。
関連科目	学校栄養指導論Ⅱ 栄養教育実習Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	四訂栄養教諭論—理論と実際—第2版	金田雅代	建帛社
	2	食に関する指導の手引き—第二次改訂版	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験 70% 学習内容の理解。 レポート 20% テーマに沿った内容で学修したことを基にまとめられている。 学修態度 10% 主体性、実行力、課題発見力、創造力、発信力、傾聴力、規律性。			
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	教職実践演習 (栄養教諭)	科目名 (英文)	Practical Seminar on Teaching (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城 安喜子, 谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本演習は、栄養教諭となるために必要な知識技能を修得したことを確認するものである。よって、昨今の食に関する問題や教育実習でつかんだ児童・生徒の状況を踏まえ、これらの問題を解決するための手立てを、給食の時間や授業、家庭や地域との連携の場合について考えていく。さらに、考えた手立てを学習指導案や給食だよりといった具体的な指導に結び付け、模擬授業や親子料理教室などへ展開していく。児童・生徒が抱える食の課題に対する効果的な指導となるように実践的な手立てを修得し、豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	①今までの学修を振り返り、各自の課題を発見することができる。 ②摂取する食品と健康との関連や毎日の食事と社会とのつながりについて、食育の視点で指導案を作成し模擬授業ができる。 ③児童・生徒が適量を食べようとするための指導ができる。 ④スポーツをする児童・生徒への個別指導の方法を考え、その一環として食品構成表を作成するなど食事提案ができる。 ⑤地場産物を活用した学校給食献立を考えることができ、そのメニューを活用した親子料理教室の企画書を作成することができる。
授業方法と留意点	①パワーポイントや配布資料を用いて授業をすすめる。 ②グループ討議では受身にならず、意欲的に意見交換を行い傾聴力や実行力を高める。 ③教育実習で経験した児童・生徒の状況を整理し、学校教育現場を常に想定しながら演習を行う。
科目学習の効果 (資格)	栄養教諭1種免許状

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育実践演習について	教育実習の振り返りや「教職履修カルテ」と「自己評価シート」に基づいて自分の課題を発見し、課題に取り組む。	予習：今までの教職科目を振り返る (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
2	教職の意義・役割について	「教職入門」「教育原理」「教育心理学」「教育制度」について各自振り返り発表、討議し、教職の意義や教員の役割、教職内容、児童・生徒に対する責任について考えを深め、自分の課題を克服する。	予習：「教職入門」「教育原理」「教育心理学」「教育制度」についてまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。	
3	組織としての栄養教諭について	組織の一員としての自覚、食育のコーディネーターとしての在り方、保護者や地域の方々、児童・生徒との人間関係の構築等で自分の課題を発見し、克服しようとする手立てを考える。	予習：学校組織についてまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。	
4	食に関わる問題について	学校が目指す児童・生徒像に近づけるため食育でどう近づいていくか考え、食育の全体計画を作成する。	予習：児童・生徒の食に関する課題をまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (3時間)。	
5	全体計画の発表	児童・生徒の食に関する問題点、目指す児童・生徒像から食育の全体計画を作成し発表する。	予習：食育の全体計画の修正 (3時間)。 事後：ループリック提出 (1時間)。	
6	摂取する食品と健康の保持増進の関連指導について (指導案と指導資料)	給食では必ず提供される牛乳を飲もうとする意欲を高める指導案作成と指導資料作り、家庭へのおたよりを作成する。	予習：牛乳と健康の保持増進について調べておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。	
7	摂取する食品と健康の保持増進の関連指導について (模擬授業と評価)	健康を考えて牛乳を飲もうとする意欲を高める模擬授業を行い、意見交換や発表の評価を行う。	予習：模擬授業にむけて練習をしておく (2時間)。 事後：ループリック提出 (1時間)。	
8	学校安全で行う食に関する災害安全学習について (単元構成と指導案)	学校での安全教育の位置づけを理解し、災害時の食の問題を考え解決できるような授業の単元構成と指導案を作成する。	予習：過去の災害時の食の問題について調べておく (2時間)。 事後：指導案提出 (3時間)。	
9	学校安全で行う食に関する災害安全学習について (模擬授業と評価)	災害時の食に関する学習の単元構成の発表と模擬授業を行い、発表の評価を行う。	予習：模擬授業にむけて練習をしておく (3時間)。 事後：ループリック提出 (1時間)。	
10	適量を食べようとするための取組み (授業、給食時間の働きかけ)	児童・生徒の肥満や、やせの問題についてグループ討議を行い、児童・生徒が適量を食べようとするためには、どのような手立てが必要か考え、それに基づく学習指導案や給食だよりを作成する。	予習：食品構成をまとめておく (2時間)。 事後：指導案提出 (3時間)。	
11	適量を食べようとするための取組み (模擬授業と評価)	児童・生徒が適量を食べようとする模擬授業を行い、発表の評価を行う。	予習：模擬授業にむけて練習をしておく (2時間)。 事後：ループリック提出 (1時間)。	
12	個別指導 (スポーツをする児童・生徒)	スポーツをする児童・生徒の今日の課題を考え、個々に対応した食品構成を作成し、それを基に指導演習を行う。	予習：スポーツをする児童・生徒の今日の課題について調べておく (2時間)。 事後：ループリック提出 (1時間)。	
13	学校給食管理について (施設見学・調査)	学校給食施設を見学し、衛生管理や調理指導、施設管理、地場産物の活用などについて調査する。	予習：学校給食の給食管理について調べておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。	
14	学校給食管理について (レポート作成)	学校給食における衛生管理や調理指導、施設管理、地場産物の活用などについて調査したことや新たな発見・課題をまとめて発表する。	予習：学校給食の給食管理について課題点をまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。	
15	家庭・地域連携について	児童・生徒の食の問題点を解決するための親子料理教室を企画する。	予習：児童・生徒の食の問題点について調査しておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。	
関連科目	全ての教職課程必修科目、栄養教諭免許状に関わる必修科目			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食に関する指導の手引き 第二次改訂	文部科学省	東山書房
	2	栄養教諭論Ⅱ 実践研究	金田雅代	建帛社
	3	プリント配布		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題提出物 60% 成果発表 30% 学修への取り組み (ルーブリック評価) 10%			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で自らの実習の課題点を見出し、課題解決のための目標を設定し、授業やグループワークを通して克服し、栄養教諭として実践的力を身に付けましょう。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	栄養教育実習 I	科目名 (英文)	Practice in Teaching I (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本実習で行う事前指導は、教育実習を円滑かつ効果的に実施するために、実習校の担当指導教員と連絡、調整する基本的なマナーなどを理解するとともに、栄養教諭として身につけるべき専門知識と技術の統合をはかるものである。教育実習の目的や内容を習熟するとともに、指導案や実習日誌の書き方について学ぶ。また、学校経営、学級経営の原理と方法、児童生徒を理解するための適切な方法、生徒指導や学習指導の原理と方法を具体的に理解し、指導に必要な技能と態度を修得し、栄養教諭として行う食に関する指導の具体的な技能と方法を修得する。さらに、実習終了後の成果発表の方法やまとめ方を学修する。
到達目標	① 教育実習に主体的に取り組むことができる。 ② 実習受け入れ校と打ち合わせをすることができる。 ③ 実習校と打ち合わせた内容で指導案を作成することができ、教育実習に必要な知識と技術を身につける。
授業方法と留意点	①パワーポイントによる講義 ②プリントによる講義 ③食に関する指導の手引きから読み解く ④グループ討議とロールプレイング
科目学習の効果 (資格)	栄養教諭1種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 教育実習の意義と目的	オリエンテーション 教育実習の意義と目的を理解し、教育実習に対する意欲を高める。	事前: 栄養教育実習のびきを熟読する (0.5 時間)。
2	事前挨拶について	マナーを守った電話対応に必要な情報を得る。(ロールプレイング・グループ討議)	事後: ワークシート提出 (0.5 時間)
3	身だしなみについて	礼儀作法、言葉使い、守秘義務、マナーについて学修する。(挨拶、礼状の書き方の演習)	事後: ワークシート提出 (0.5 時間)
4	教育実習における注意点について	教育実習記録の記入方法や欠勤届けについて、事例をもとに学修する。	事前: 栄養教育実習のびきを熟読する (0.5 時間)。
5	学校・学級経営の研究について	学校経営や学級経営がどのように行われているかその方法について考える。	事後: レポート提出 (1 時間)。
6	食に関する指導の研究について	児童生徒の食生活に関する実態把握、教科等の指導、個別指導、連携調整、その他のポイントについてどのように調査・研究したらよいかグループで考え発表する。 (講義、グループ活動)	事前: 配布資料を熟読する (0.5 時間)。 事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
7	学習指導案の立て方	食教育上の課題を発見し、その課題を解決するための指導案を作成する。	事前: プリントの熟読と食に関して懸念される事項や食料自給率の問題を調べる (1 時間)。 事後: 指導案提出 (1 時間)。
8	生徒指導について	生徒指導は子どもの理解から始まることを理解し、その方法をグループで考え発表する。(グループ討議)	事前: 配布資料を熟読する (0.5 時間)。 事後: レポート提出 (1 時間)。
9	栄養食事管理について	栄養食事管理の方法、集団と個別や合理的配慮を要する児童生徒の栄養管理の方法について話し合う。 (グループ討議)	事前: 配布資料を熟読する (1 時間)。 事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
10	給食の時間の指導について (偏食指導)	給食の時間における指導の特質について理解し、偏食等の問題のある子どもへのことばがけについて学修する。 (講義、ロールプレイング)	事前: 食に関して合理的配慮の必要な児童生徒について調べる (1 時間)。 事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
11	給食の時間の指導について (事故防止)	給食の時間中に起きると想定される窒息事故、ノロウイルスに対する処置ができるように学修する。(講義・演習)	事前: ノロウイルスによる二次感染の予防対策について調べる (1 時間)。
12	給食の時間の指導について (給食当番)	給食当番へ、協力の大切さと衛生の観点で指導ができるように学修する。(講義・グループ討議・演習)	事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
13	給食時のクラスの衛生管理について	給食時における衛生上の指導ができるように学修する。 (講義・グループ討議・ロールプレイング)	事前: 給食時のクラスの衛生について調べる (1 時間)。 事後: ルーブリック表を提出 (0.5 時間)。
14	食事のマナーについての指導方法について	給食時の食事のマナーについて指導できるように学修する。 (講義・グループ討議・ロールプレイング)	事前: 食に関する指導の手引 (食事のマナー) を熟読する (0.5 時間)。
15	成果発表会について	実習報告のまとめかたと発表の方法について学修する。 (講義・配布資料)	事後: レポート提出 (1 時間)。

関連科目	学校栄養指導論 I・学校栄養指導論 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食に関する指導の手引き第二次改訂版	文部科学省	東山書房
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	四訂栄養教諭論—理論と実際—	金田雅代	建帛社
	2	配付資料		
	3			
評価方法 (基準)	提出物 70% 学修への取り組み (ルーブリック評価) 30%			
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	教育相談 (カウンセリングの基礎を含む)	科目名 (英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。
 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について、実践的な取り組み方を考える。

到達目標
 教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点
 講義と演習を組み合わせて行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

科目学習の効果 (資格)
 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。
 【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
 各科目に含める必要事項：教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1講、配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、カウンセリングの技法	テキスト第2講・第3講、配付資料を用いた予習・復習
3	グループ発表の準備	グループワーク (アイスブレイク含む)	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第2講、第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)..... 開発的カウンセリング活動	テキスト第2講・第10講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第11講・第12講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応1	“問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と“問題”	青年期の発達 (認知、自己意識、道徳性、仲間関係等)	テキスト第9講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際1	不登校.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習
12	相談援助活動の実際2	いじめ.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第4講、配付資料を用いた予習・復習
13	相談援助活動の実際3	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第5講、配付資料を用いた予習・復習
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第7講、配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携	テキスト第15講、配付資料を用いた予習・復習

関連科目 教職課程の科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかる! 教職エクササイズ3 教育相談	森田健宏・吉田佐治子 (編著)	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループ発表 50%、期末試験 50%

学生へのメッセージ これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考 グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。グループ内ではピア評価を行います。

	<p>事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</p> <p>Teams コード 月曜 2 限：h5qc12z 火曜 2 限：g2v4wfo 木曜 1 限：akuou5b 木曜 4 限：hckt2t2</p> <p>Moodle コース名と登録キー 月曜 2 限：2023 教育相談（月 2）あるいは 23 教育相談（月 2） 2023ECMON2 火曜 2 限：2023 教育相談（火 2）あるいは 23 教育相談</p>
--	---

科目名	道徳教育論	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける「立場」からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳科の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①：カリキュラム・マネジメント、テーマ発問	・カリキュラム・マネジメントに基づく道徳科の授業やテーマ発問を取り入れた道徳科の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳科の授業やテーマ発問を取り入れた道徳科の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②：問題解決的な学習、探究型学習	・問題解決的な学習を取り入れた道徳科の授業や探究型学習を取り入れた道徳科の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳科の授業や探究型学習を取り入れた道徳科の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。

	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前) 模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
	2	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (30%)、作成した道徳科学習指導案 (20%)、学期末試験の結果 (50%) 等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生へのメッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している。学実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別的教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム学校、関係諸機関や家庭、保護者と連携しながら支援体制を構築することの必要性について理解する。 ⑥貧困・LGBTなどの理由により、特別の支援を必要とする子供たちに対する支援方法について理解する。 ⑦ICTの活用により、障害の疑似体験をしたり、支援に役立つ学習アプリを実際に操作したりする。
授業方法と留意点	1 授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICTツールはTeamsを使用する。 2 講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。プリントアウトするなどして各自で管理すること。 3 Teamsで「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。
科目学習の効果 (資格)	教職科目 特別支援教育論は、教員免許 (小学校・中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス	・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・グループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。	・授業計画及び教科書第1章を読み、今後の学習について見通しを持つ (2時間)・グループでの役割に応じて4回目授業での発表準備を進める (2時間)
2	特別支援教育の歴史と現行制度について	・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。	・教科書第2章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて4回目の授業での発表準備を進める (2時間)
3	支援システムの構築と法的整備	・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。	・教科書第3章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・ペアでの役割に応じて4回目の授業での発表の資料をA4一枚程度(両面可)にまとめる。(2時間)
4	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。 ・見え方紹介アプリの活用	・教科書第11章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。(2時間)・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。(2時間)
5	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。	・教科書第10章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて、7回目の授業での発表資料をA4二枚以内(両面可)にまとめる。(2時間)
6	情緒障害・言語障害について	・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。	・教科書第8章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
7	知的障害・発達障害について (1)	・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。	・教科書6・7・9章などを参考に自分の担当部分についてよく伝わるようにまとめておく。担当以外の部分についても教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正しておく。(2時間)
8	知的障害・発達障害について (2)	・資料をもとにグループ発表を行う。代表者にまとめた発表をしてもらい、感想をまとめる。 ・学習支援アプリの操作・体験	・自分の発表部分について、よく伝わるように練習をしておく。教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。(2時間)
9	LGBT等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	・学習困難・ギフテッド・LGBT・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童について学び、学級での支援の方法について理解する。	・教科書第12章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
10	個別の指導計画と個別的教育支援計画	・ICFモデル・特別支援教育への転換について知る。 ・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。	・教科書第5章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
11	通常学級での特別支援教育 (小・中学校)	・授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。	・第2回の授業内容について教科書やノートで復習しておく (2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
12	通常学級での特別支援教育 (高等学校)	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育について理解する。	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育についてネット等で調べる (2時間)・講義を元に学習内容をまとめる (2時間)
13	保護者との連携・専門機関・地域との連携	・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。	・教科書第13章・14章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・教科書と講義を元に学習内容をまとめる (2時間)
14	早期支援と就労支援	・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。	・教科書第15・第16章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内

			・進路支援・就労支援の実際を知り、問題点を明らかにする。	容をまとめる（2時間）																
	15	発達障害等に対する指導技法 まとめ	・特別支援教育学の講義全体を見直し、課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。	・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した内容を教科書やノートで振り返る。（2時間） ・今までの学修をふりかえる（2時間）・当日出題される課題に取り組み、提出する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために</td> <td>柘植雅義他</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>みんなで考える特別支援教育</td> <td>梅永雄二他</td> <td>北樹出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中学校学習指導要領（平成29年告示）総則編</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	みんなで考える特別支援教育	梅永雄二他	北樹出版	2	特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版	3	中学校学習指導要領（平成29年告示）総則編	文部科学省	海文堂出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	みんなで考える特別支援教育	梅永雄二他	北樹出版																	
2	特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版																	
3	中学校学習指導要領（平成29年告示）総則編	文部科学省	海文堂出版																	
評価方法（基準）	授業への参加状況【課題等】（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階松浦研究室																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。

到達目標
①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。
②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。
③今日の特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。
④教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。

授業方法と留意点
・本授業では指定している教科書を購入手、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、内容を理解した上で授業に臨んで下さい(教科書に記載のない事項の場合、別途資料を配付します)。
・授業では、教科書(および配付資料)に記載のない事柄についての追加説明や、記載のある事柄を掘り下げる説明を行います。
・授業後には、教科書に記載している問題を中心に、復習課題を配信します。
・各回授業の初めに、復習課題と前回授業に対する振り返り・質疑応答を行います。
・いずれかの回で、(予告した上で)収録済講義動画を

科目学習の効果(資格)
(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目: 教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題: 配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
2	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題: 配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
3	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題: 配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
4	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	事前課題: 事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
5	社会における教育者の意義①	重要な他者/一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題: 配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
6	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題: 配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
7	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題: 配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
8	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題: 配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
9	日本における教育環境の変遷②	トラッキングやメリトクラシーの問題から、日本におけるキャリア教育について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題: 配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
10	日本における教育環境の変遷③	特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題: 配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。

	11	日本における教育環境の変遷④	今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。																
	12	日本における教育環境の変遷⑤	今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。																
	13	学級経営における多機関連携①	「チーム学校」論の概要について学び、子どもが安全・安心に学ぶことのできる権利を多角的に保障することの意義と方向性、それらが提起されてきた今日の社会背景について学ぶ。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。																
	14	学級経営における多機関連携②	スクールソーシャルワーク実践を軸とする「チーム学校」論の視点から、「登下校の見守り活動」等の具体例を通して、子どもの安全・安心を制度的に保障することの意義やポイントについて学ぶと共に、主体である子ども自身の関わり方について学ぶ。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。																
	15	総括	総括②：本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。																
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現場で使える教育社会学</td> <td>中村高康・松岡亮二</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代教育社会学</td> <td>岩井八郎・近藤博之</td> <td>有斐閣ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかる教育社会学</td> <td>酒井朗・中村高康・多賀太</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>教育の社会学〔新版〕</td> <td>荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗</td> <td>有斐閣</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣ブックス	2	よくわかる教育社会学	酒井朗・中村高康・多賀太	ミネルヴァ書房	3	教育の社会学〔新版〕	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣ブックス																	
2	よくわかる教育社会学	酒井朗・中村高康・多賀太	ミネルヴァ書房																	
3	教育の社会学〔新版〕	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣																	
評価方法（基準）	授業後課題（45%）・期末レポート課題（55%） ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。																			
学生へのメッセージ																				
担当者の研究室等	3号館3階・竹中研究室																			
備考	本授業は総授業時間（30時間）に加えて、各回の事前事後学習（課題・レポートの作成も含めて）に各2時間（全15回×4時間＝60時間）を要する。																			

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないうような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第 6 章を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第 4 章を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第 8 章を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第 9 章を読んでくる。
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第 11 章を読んでくる。
11	教育課程経営	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 15 章を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	テキスト第 10 章を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第 16 章、第 19 章を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 14 章を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第 18 章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。		
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。		
担当者の 研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス 7 号館 3 階		
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。		

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 晃一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すという素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	対面授業で、プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進めます。また時折、レポートを課します。Teamsを通してテキスト・資料の配布や、レポート課題の提示等を行います。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
5	生徒理解の進め方（1）	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
6	生徒理解の進め方（2）	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
7	学級経営の進め方（1）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
8	学級経営の進め方（2）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成29年告示）	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）	文部科学省	
3	生徒指導提要	文部科学省	

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 40%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
----------	---

学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 西村研究室
----------	-------------

備考	<p>必ず自分が履修登録をした曜日時限の Teams コード登録をしてください。自分が履修登録した曜日時限以外の Teams コード登録をしたものは成績評価対象外です（全欠席扱いとし、単位認定しません）。</p> <p>事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。</p>
----	--

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。教師に求められる教育の方法と技術に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけていくことを目指して授業を行う。内容としては、教育の方法と技術に関する歴史の変遷に触れ、現代求められている「主体的・対話的で深い学び」についての理解を深める。この授業を通してそれぞれが理想とする授業像・教師像を持ち、教員採用試験を突破できる基礎力を築く。</p> <p>また、授業形態としては、講義のほかにペア学習・グループに分かれてのアクティブラーニングを取り入れ、教える側にも立ち、学修を進める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育方法の基礎的理論と実践について理解している 2 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 3 授業を行う上での基礎的な技術を身につける。 4 子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。 5 実物投影機やプレゼンテーションソフト等を活用し、模擬授業を行う。
授業方法及び留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業は対面式で行う。ICTツールはTeamsを使用する。 2 講義資料等は「ファイル」により各授業回別のフォルダを作り、そこに掲載する。電子ファイルとして、もしくはプリントアウトして各自で管理すること。 3 Teamsで「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。なお、発表資料は発表の1週間前までに提出すること。
科目学習の効果(資格)	教職科目 教育方法論は、教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について・授業経験の振り返り	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 記憶に残る教師・授業について体験を発表する	教科書序章・第3章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)
2	学習とは何か(学習論)	講義：学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割・アクティブラーニングについて理解する。 個人学習：担当する教育学者を決める(海外1・日本1 計2名)	教科書第5章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(2時間)。	
3	子どもたちは何を学ぶのか(教育目標・内容論)	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容、教材・教具の違いについて理解する。 個人学習：担当する教育学者について教科書の内容他をまとめる	教科書第4章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①)	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開について理解する。 グループ学習：情報交換をする。	教科書第1章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。情報交換の準備を進める。(2時間)	
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②)	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試みについて理解する。 グループ学習：情報交換をする。	教科書第2章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 発表の準備を進める。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
6	学力をどう高めるか(学力論)	・講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高めるについて理解する。	教科書第6章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
7	授業をどうデザインするか(設計・デザイン論)	グループ発表・講義：授業のデザイン、教科書内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援について理解する。 グループ学習：グループに分かれ担当する模擬授業の内容を決める。	教科書第7章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
8	8 教育の道具・素材・環境(教材論)	講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間について理解する。 グループ学習：模擬授業の準備をする	教科書第8章をよく読んでおく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
9	何をどう評価するか(評価論)	グループ発表・講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」について理解する。 グループ学習：模擬授業の準備をする	教科書第9章をよく読んでおく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
10	教科外教育活動を構想する	グループ発表・講義：教科外活動の分野と方法、教科外活動の今日的な課題について理解する。 グループ学習：模擬授業を行う	教科書10章をよく読んで、疑問点をまとめておく(2時間)。教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
11	教育におけるICTの活用について考える	講義：令和の日本型教育、GIGAスクール構想について理解することでICTを活用した学びの意義・実践を知る。 グループ学習：模擬授業を行う	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)。	

	12	インクルーシブな授業をつくる（インクルーシブ教育論）	講義：ICFへの転換と特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮について理解する。 グループ学習：模擬授業を行う	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)																
	13	今求められている学力を育てるために(1)	・なぜフィンランドの教育は世界中から注目されたかを理解する。 ・学習指導と学級経営の関係を理解する。	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)																
	14	今求められている学力を育てるために(2)	PISAの問題を実際に解くことにより、今求められている学力を体験的に知る。	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)																
	15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって	講義：すぐれた教師・理想の教師になるために何をしていけばよいか2つの教師モデル等から理解する。	教科書第11章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理し、最終レポートを作成・提出する。(2時間)																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法 改訂版</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領（平成29年度版）解説 総則編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領（平成29年度版）解説 総則編	文部科学省	東山書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領（平成29年度版）解説 総則編	文部科学省	東山書房																	
2																				
3																				
評価方法(基準)	授業への参加状況【課題等】(40%)、レポート(30%)、最終レポート(30%)により総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の研究室等	7号館3階(松浦研究室)																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義では教育課程 (カリキュラム) とは何かについて考える。教育課程 (カリキュラム) はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。そして、日本における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践の開発を知るとともに、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	(1) 学校教育における教育課程の意義について理解する。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程 (カリキュラム) を計画・編成し、かつ、実践、評価する力が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となる。扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。 事後課題として、コメントカードの提出を毎回求める。各授業のはじめにコメント返し・フィードバックを行う。 現行学習指導要領 (本文・解説) は文部科学省 HP よりダウンロードすること。
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か	オリエンテーション 学校教育のもつ機能について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
2	日本における教育課程の歴史的変遷 (1)	戦前から戦後、経験主義～系統主義：高度経済成長期の教育課程変遷について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
3	日本における教育課程の歴史的変遷 (2)	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
4	教育課程 (カリキュラム) の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素 (内部要因と外部要因) について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
5	教育評価 (1)	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
6	教育評価 (2)	教育課程評価について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
7	「総合的な学習 (探究) の時間」について	導入の背景とそのねらいについて	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
8	新しい教育課程 (1)	「キャリア教育」について事例分析と学生グループによるワーク、および発表を予定	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
9	新しい教育課程 (2)	「アクティブラーニング」について、その意義・目的と実践事例について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
10	新しい教育課程 (3)	「社会に開かれた教育課程」と地域との連携について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
11	教育課程と教育改革 (1)	特色のある学校作り：小中高編 (学生グループによるワーク、および発表を予定)	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
12	教育課程と教育改革 (2)	カリキュラム・マネジメントについて、その意義と目的	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
13	教育課程と教育格差 (1)	学力格差と学力低下問題について (学生グループによるワーク、および発表を予定)	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
14	教育課程と教育格差 (2)	教育格差に抗する学校の取り組みについて (学生グループによるワーク、および発表を予定)	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、および、キー・コンピテンシー (OECD) について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間) 定期試験に向けた準備をする (45時間)

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる点や特徴を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程 (第4版)	田中耕治ほか	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい教育評価入門 (増補版)	西岡加名恵ほか	有斐閣
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 (60%)：教育課程にまつわる基礎的知識の修得、および教育課程計画・編成に関わる歴史・論点・現代的課題に関する理解を問う。
小課題・コメントカード (40%)：毎回の授業後に、授業内容のキーワードについて振り返り、考察する課題を提示する。
評価基準は講義内で提示する。

学生へのメッセージ コメントカード、期末課題等の提出物は期日までに提出すること。

担当者の 7号館3階 鎌田研究室

研究室等	
備考	2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に応じて変更することがある。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布する。 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。</p>
到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。</p> <p>具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキストP.3を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキストP.76～85を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキストP.69～73を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキストP.93～97を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキストP.86～90を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	(事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 4名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	(事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 3名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論： 20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.29～32を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.50～54を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.147～151を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキストP.169～178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	東山書房
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
評価方法 （基準）	<p>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。</p> <p>また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</p>			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習(探求)の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4 総合的な学習(探求)の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。 5 主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習(探求)の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果(資格)	教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
授業計画	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習(探求)の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をする(2時間)。
	2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習する(2時間)。
	3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり ワーク:学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
	4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グループワーク:学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
	5	生徒会活動・児童会活動	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をする(2時間)。
	6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク:学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
	7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。(ABDによる)	教科書第4章第1節を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
	8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。(ABDによる)	教科書第4章第2節を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
	9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景との関係 個別ワーク:戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
	10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク:特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
	11	総合的な学習(探求)の時間の目標・内容・原理	総合的な学習(探求)の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク:総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
	12	総合的な学習(探求)の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 グループワーク:総合的な学習の時間の年間計画作成 1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
	13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び グループワーク:総合的な学習の時間の年間計画作成 2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
	14	総合的な学習(探求)の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 グループワーク:総合的な学習の時間の年間計画について発表	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
	15	補足とまとめ/最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク:総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだといえる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F 松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習

関連科目 教職課程におけるすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 小テスト 30%, 期末試験 70%

学生へのメッセージ これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考	Teams コード 火曜 5 限: zjj0tqu 木曜 1 限: 2ykhkk8 木曜 5 限: 2ykhkk8 金曜 5 限: hiwxh3c Moodle コース名と登録キー 火曜 5 限: 2023 教育心理学 (火 5) あるいは 23 教心 (火 5) 2023EPTUE5 木曜 1 限: 2023 教育心理学 (木 1) あるいは 23 教心 (木 1) 2023EPTU1
----	--

	木曜 5 限：2023 教育心理学（木 5）あるいは 23 教心（木 5） 2023EPHU5 金曜 5 限：2023 教育心理学（金 5） あ
--	---

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価不能 (評定なし) とします。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス7号館3階
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価不能 (評定なし) とします。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス7号館3階
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラをONすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意しておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。
----	---

科目名	専門日本語R	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	発表に適したレジユメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジユメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1</td> <td>他者にわかりやすいレジユメ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 2-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 3-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-1</td> <td>ABDについて</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 4-2</td> <td>本を読み、発表用資料を作成する</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 4-3</td> <td>資料を用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>トピック 5-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>トピック 5-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>トピック 5-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業のふりかえり、今後に向けて</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1	他者にわかりやすいレジユメ		3	トピック 2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	4	トピック 2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	5	トピック 2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	6	トピック 3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	7	トピック 3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック 3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	9	トピック 4-1	ABDについて		10	トピック 4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	トピック 5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	13	トピック 5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	14	トピック 5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック 1	他者にわかりやすいレジユメ																																																															
3	トピック 2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
4	トピック 2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
5	トピック 2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
6	トピック 3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
7	トピック 3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック 3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
9	トピック 4-1	ABDについて																																																															
10	トピック 4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック 4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	トピック 5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
13	トピック 5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
14	トピック 5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて																																																															

関連科目	
------	--

教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	鎌田講師室 (2号館2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1時間。

科目名	日本事情R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画1：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画1：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画1：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
5	映画2：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
6	映画2：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画2：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2 時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
9	映画3：テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
10	映画3：テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画3：テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう! 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本語表現作文R	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語読解R	科目名 (英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ0 : DP8 o		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意しておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。
----	--

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 佳代子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	<p>この授業は大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。特に、「身近な話題についてディスカッションを行い、適切な結論が導けるようになること」を目指します。</p> <p>授業の概要は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生同士のディスカッションを行う。 ・身の回りのテーマを中心に扱う。 <p>主に留学生同士の会話になりますが、教員が適宜フィードバックを行い、他の授業で日本人を相手に日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身近な話題について、根拠を示して説得力のある意見を述べるができる 2. 身近な話題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる 3. 身近な話題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる 4. ディスカッションの方法や姿勢、マナーを身につける 																																																																		
授業方法と留意点	<p>ペアワークなどを通して、受講生が「話す」ことを中心とする。</p> <p>教材はプリントを配布する。</p> <p>教員は適宜フィードバックを行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本</td> <td>授業の進め方、自己紹介</td> <td>自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>意見と根拠を言う</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>質問する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ディスカッション①</td> <td>自分の意見を整理する。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ディスカッション①</td> <td>意見を整理して報告する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ディスカッション①</td> <td>整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ディスカッション①</td> <td>ディスカッションの小テスト</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ディスカッション②</td> <td>テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ディスカッション②</td> <td>意見と根拠に対して質問する/質問に答える</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ディスカッション②</td> <td>意見と根拠に対して反論する/再反論する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ディスカッション②</td> <td>結論を出す。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションにおける役割について学ぶ</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの練習</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの小テスト</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの振り返り</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)	2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。	3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。	4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。	5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。	6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。	7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。	8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。	9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する/質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。	10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する/再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。	11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。	12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。	13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。	14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。	15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)																																																																
2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する/質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する/再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入社 1 年目から差がつくロジカル・シンキング練習帳</td> <td>グロービス</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入社 1 年目から差がつくロジカル・シンキング練習帳	グロービス	東洋経済新報社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入社 1 年目から差がつくロジカル・シンキング練習帳	グロービス	東洋経済新報社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題 30%、授業への取り組み 30%、小テスト (2 回) 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。</p> <p>参考書は、授業で習ったことが分からない時やもっと勉強したいときに読む本です。最初から買う必要はありません。</p>																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	試験はディスカッション形式とし、適宜フィードバックを行なう。授業時間外の相談はメールにて行うが、必要に応じて別途指示する。																																																																		

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	乾 友紀
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	日本での就職活動及びビジネス場面において必要な表現・言葉遣いについて学び、メールやエントリーシート、電話応対、プレゼンテーションなどで求められる日本語力を身につける。外国人が日本で働く上で直面しそうな問題を想定してその対処について考える。
到達目標	就職活動やビジネス場面で必要な日本語表現を使用することができる。 異文化接触場面における課題に対処することができる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料をもとに講義、ディスカッション、ロールプレイ等を行う。
科目学習の効果 (資格)	日本の就職活動及びビジネス日本語・ビジネスマナーについて知識を得ることによって、日本企業で働く上で求められる知識や日本語力を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 授業の説明 日本語のレベルチェック	授業の説明 日本語レベルチェックテストの実施
2	日本の就職活動の流れ 日本の企業文化	日本の就職活動について概観し、企業文化について学ぶ	授業で提示した課題
3	就職活動におけるメールの書き方	就職活動におけるメールの書き方を学ぶ	語彙、表現力の復習 授業で提示した課題
4	エントリーシート (履歴書、自己 PR、志望動機) の書き方	エントリーシートの書き方を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
5	集団面接 (グループディスカッション)	グループディスカッション	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	個人面接における日本語表現	面接での受け答えに使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
8	初対面での日本語表現	自己紹介をする	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
9	電話応対における日本語表現	電話応対に使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
10	アドバイスする / 受ける時の日本語表現	アドバイスをする / 受ける時の日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
11	会議に参加する (報告をする・自分の意見を述べる) 時の日本語表現	会議で使用する日本語を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	依頼をする時の日本語表現	依頼をする時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	許可を求める時の日本語表現	許可を求める時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	発表準備	資料作成	発表資料を作成する
15	発表	授業を通して学んだ知識やスキルについて発表する	今学期に学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (50%)、発表 (20%)、期末レポート (30%) により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2) 受講生数や授業進度、参加学生のニーズによって授業内容を変更することがある。 (3) 授業外の質問等には、メールで対応する。

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRで必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	発表に適したレジユメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジユメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果(資格)	
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	トピック1	他者にわかりやすいレジユメ	
3	トピック2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成
4	トピック2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
5	トピック2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
6	トピック3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成
7	トピック3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
9	トピック4-1	ABDについて	
10	トピック4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	トピック5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成
13	トピック5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
14	トピック5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業において課される課題30%、授業への取り組み30%、発表40%で判断する。
----------	---

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田講師室(2号館2階)
----------	--------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--------------------

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	鎌田講師室 (2号館 2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。			

科目名	日本事情F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴: 内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画1: テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画1: テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画1: テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
5	映画2: テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
6	映画2: テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画2: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2 時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
9	映画3: テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
10	映画3: テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画3: テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう! 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語文法F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法F I、日本語読解F II
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A○, A 科: C○, M 科: B2○, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1○, DP7△, DP8△, D 科: DP1○, S 科: DP1○, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1○, DP8○, W 科: DP1○, DP7○, N 科: DP1○, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△○:DP8○		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通して、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のFBを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レポート・論文の文体で書ける。 読んだ内容を要約できる。 段落分けして書ける。 経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。 授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめ (話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	インターンシップ	科目名(英文)	Internship
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA3441a2		

授業概要・目的	<p>この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることが期待される。前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。</p> <p>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
到達目標	<p>就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。</p> <p>インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。</p> <p>インターンシップ先の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。</p> <p>講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。</p>
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義(演習を含む)であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果(資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	<ul style="list-style-type: none"> 授業オリエンテーション 学生と社会人の違いを理解する インターンシップの目的を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: インターンシップとは何かについて考えること(0.5時間) 事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間)
2	企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> 組織の形態を知る ビジネスへの理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(0.5時間) 事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間)
3	実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> 産業の分類を知る 業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 興味のある会社や自治体などの組織について調べること(0.5時間) 事後学修: インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(0.5時間)
4	効果的なプレゼンテーションとは	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なプレゼンテーションについて考えること(0.5時間) 事後学修: 配付された資料を見直し講義を振り返ること(0.5時間)
5	課題のプレゼンテーション①	<ul style="list-style-type: none"> 第4回目の課題をプレゼンテーションする 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) 事後学修: プレゼンテーションのポイントをまとめる(0.5時間)
6	社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての心構えを知る 身だしなみ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: マナーがなぜ大切なのかを考えること(0.5時間) 事後学修: 配付されたテキストを精読すること(0.5時間)
7	社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> 文書でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間) 事後学修: 授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること(0.5時間)
8	社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> 口頭でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間) 事後学修: マナーの大切さを再度考えること(0.5時間)
9	履歴書を記入する	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ用の履歴書を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 履歴書を書く準備をしておくこと(0.5時間) 事後学修: 講義を振り返り、履歴書を下書きすること(0.5時間)
10	グループワーク①	<ul style="list-style-type: none"> 掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グループ内の自分の役割を考えること(0.5時間) 事後学修: グループで課題に取り組むこと(0.5時間)
11	グループワーク②	<ul style="list-style-type: none"> 掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グループでプレゼンテーションを行う準備をすること(0.5時間) 事後学修: 自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5時間)
12	事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> 事前訪問のマナーと準備について 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること(0.5時間) 事後学修: 訪問時のマナーについておさらいをすること(0.5時間)
13	課題のプレゼンテーション②	<ul style="list-style-type: none"> インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) 事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
14	課題のプレゼンテーション③	<ul style="list-style-type: none"> インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーシ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間)

			ョン	・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
15	振り返りとまとめ		・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップIで学んだことをまとめること(0.5時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)
16	直前学修① 6月17日(土)		・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ※スーツ着用のこと	・事前学修：社会人を意識したスーツを着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(0.5時間)
17	直前学修② 6月17日(土)		・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学修：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
18	インターンシップ実習		・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
19	インターンシップ実習		・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
20	インターンシップ実習		・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
21	インターンシップ実習		・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
22	インターンシップ実習		・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
23	インターンシップ実習		・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
24	体験報告書の作成		・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書チェックと指導 ・(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修：直前学修②の通りに報告書を作成し、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(0.5時間)
25	事後学修① 9月16日(土)		・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修：個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
26	事後学修② 9月16日(土)		・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修：個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
27	事後学修③ 9月30日(土)		・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
28	事後学修④ 9月30日(土)		・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
29	事後学修⑤ 10月7日(土)		・インターンシップ全体を振り返る(実習記録簿の提出)	・事前学修：実習記録簿を見直してこること(0.5時間)
30	事後学修⑥ 10月7日(土)		・インターンシップ全体を振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返り、今後のキャリア形成にどのように活かしたいのかについて考えること(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 平常点30%、提出物・プレゼンテーション等50%、企業からの評価表20%の合計点で評価する

学生へのメッセージ インターンシップの流れは以下のとおりである。
※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)

	インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある COVID-19の影響により先方都合で実習が中止になることもある
担当者の 研究室等	水野講師室（7号館3階）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 ※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。

科目名	栄養教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice in Teaching II (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本実習は小学校・中学校の役割や組織について知り、栄養教諭としての職務を理解し、その使命感や責任感を養うことを目的とする。また、児童・生徒への理解や関係づくりや指導に関する実践力を養う。大学で学んだ理論と教育現場での実践とを結び付けてリフレクションし、栄養教諭を目指す自己の課題を見極め、さらに向上を目指して知識と技能の修得に努める。教育実習終了後には、実習の反省・問題点の整理を行い、報告会を実施することにより、今後の課題を確認し、教育実習の体験を生かし、児童・生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。																		
到達目標	① 学校運営や学級経営、指導方法について知り、栄養教諭としての係わり方について考えることができる。 ② 担任や栄養教諭の指導方法を意欲的につかもうとする。 ③ 児童・生徒と係わりながら関係を築き、指導力を養おうとする。 ④ 給食の時間に給食を教材に指導することができる。 ⑤ 研究授業をとおして、児童・生徒の食に対する関心を高めることができる。 ⑥ 教育実習を反省し、成果と課題をまとめ発表ができる。																		
授業方法と留意点	[実習場所] 枚方市内の小学校 [実習方法] 1. 栄養教育習校の管理職による講義 2. 栄養教育習校の学級担任による講義 3. 栄養教育習校の栄養教諭による講義 4. 指導案作成と学級担任、学年主任、教務主任からの指導 5. 給食の時間の参観																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 事前指導 ・オリエンテーション ・事前打ち合わせ ・指導案作成 2. 実習内容 ・学校運営について学ぶ ・学級運営と児童生徒の指導について学ぶ ・生徒指導 ・学級活動参観 ・学校行事参観 ・実習校における食の全体計画と年間計画を学ぶ ・実習校における家庭・地域との連携について学ぶ ・栄養食事管理について学ぶ ・給食の時間の指導 ・給食当番の指導 ・給食の時間中の事故防止 ・給食の時間における衛生管理 ・研究授業の実施 ・食育指導案の作成 ・授業研究における授業と反省 3. 事後指導 ・報告会																		
関連科目	学校栄養指導論Ⅰ 学校栄養指導論Ⅱ 栄養教育実習Ⅰ 教職実践演習 全ての教職課程必修科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食に関する指導の手引き 第二次改訂版</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食に関する指導の手引き 第二次改訂版	文部科学省	東山書房	2	別途、指示する			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	食に関する指導の手引き 第二次改訂版	文部科学省	東山書房																
2	別途、指示する																		
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 ・受け入れ校 50% ・実習ノート 40% ・学修への取り組み(ルーブリック評価) 10%																		
学生へのメッセージ	教育実習での体験を大学で学んだ理論と結び付け、栄養教諭として必要な知識と技能を修得するとともに、新たな発見や課題点に気づき栄養教諭としての実践力を高めましょう。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879(直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp																		
備考	事前・事後総学習時間は15時間程度である。																		

科目名	給食運営実習 (校外)	科目名 (英文)	Field Practice in Food Service(Off-Campus)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF3064a0		

授業概要・目的	<p>[概要]</p> <p>特定給食施設における栄養士・管理栄養士の役割や業務を理解するために、病院、学校、給食センター、介護福祉施設、事業所等で給食業務を体験し、施設の特性や喫食者に応じた給食の提供方法を修得することを目的とする。具体的には、喫食者の状況に応じた食事の計画や調理を含めた給食サービス提供を実際に体験し学ぶことにより、各施設における栄養士・管理栄養士としての業務について必要な知識、技能・能力を修得し、実践力を高めることをめざす。また、事前学習で計画した自らの課題に沿った実習を行い、実践力を高め、自発的に取り組む能力を修得する。</p> <p>管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目</p> <p>[実習目的]</p> <p>特定給食施設における給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的とする。</p>																
到達目標	<p>① 特定給食施設における栄養士の役割を理解する。</p> <p>② 特定給食施設における栄養士業務全般について、必要な知識、技能・能力を身につける。</p> <p>③ 特定給食施設における喫食者の特徴を理解でき、自らの課題に自発的に取り組むことができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>[実習内容]</p> <p>特定給食施設における食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得する。</p> <p>1-1. 給食運営について理解する</p> <p>1-2. 献立作成について</p> <p>1-3. 給食費について</p> <p>1-4. 材料発注について</p> <p>1-5. 検収について</p> <p>1-6. 食数管理について</p> <p>2-1. 調理作業について</p> <p>2-2. 配膳・提供方法について</p> <p>[実習場所]</p> <p>大阪府内の事業所、福祉施設、その他。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習方法]</p> <p>2年次後期授業終了後、原則2～3月に特定給食施設(学校・病院・福祉施設・事業所等)において、1週間(45時間)の給食運営実習を行う。</p> <p>① 実習の目的・目標・学ぶ姿勢について指導を受ける。</p> <p>② 実習施設ごとに事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせを行う。</p> <p>③ 実習施設ごとにオリエンテーション(実習計画・実習施設概要・留意事項等)を受ける。</p> <p>④ 実習施設についての理解(組織・運営)を深める。</p> <p>⑤ 食材料管理の把握・考察を行う。</p> <p>⑥ 作業管理・業務分担の把握・考察を行う。</p> <p>⑦ 安全・衛生管理の把握・考察を行う。</p> <p>⑧ 給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶ。</p> <p>⑨ 施設毎の実習報告を行う。</p> <p>[実習計画]</p> <p>第1週</p> <p>月曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)オリエンテーション(施設の概要と特徴説明等)(学習内容・午後)オリエンテーション(栄養部門業務の概要、栄養部門給食運営の概要説明等)</p> <p>火曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)給食業務・帳票の解説・閲覧、衛生管理の在り方(学習内容・午後)学生各自のテーマ別情報収集(1)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>水曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)検収作業、調理業務の実務(学習内容・午後)喫食者訪問、学生各自のテーマ別情報収集(2)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>木曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)盛付・配膳業務の実務(学習内容・午後)喫食者訪問(アンケート調査)学生各自のテーマ別情報収集(3)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>金曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)アンケート調査結果の意見交換、コンピュータ管理の実務経験(学習内容・午後)学生各自のテーマ別結果まとめ、テーマ:給食業務についての調査項目、実習成果報告会・反省会</p>																
関連科目	「給食経営管理論I」「給食経営管理論II」「給食経営管理実習」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨地実習・校外実習ハンドブック</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾 正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉、田中俊治、赤尾 正	みらい	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉、田中俊治、赤尾 正	みらい														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>給食経営管理実習 ワークブック(第3版)</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>カラーグラフ食品成分表</td> <td></td> <td>実務出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい	2	カラーグラフ食品成分表		実務出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい														
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版														
3																	
評価方法(基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、実習記録)、課題・レポートおよび実習施設の指導担当者の評価を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ	給食業務に必要な対応能力や他職種連携能力が実際の現場を通して身に付く。																
担当者の研究室等備考	農学部 8号館 2F 教員室 223																

科目名	給食運営実習 (校外)	科目名 (英文)	Field Practice in Food Service(Off-Campus)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAF3064a0		

授業概要・目的	<p>[概要]</p> <p>特定給食施設における栄養士・管理栄養士の役割や業務を理解するために、病院、学校、給食センター、介護福祉施設、事業所等で給食業務を体験し、施設の特性や喫食者に応じた給食の提供方法を修得することを目的とする。具体的には、喫食者の状況に応じた食事の計画や調理を含めた給食サービス提供を実際に体験し学ぶことにより、各施設における栄養士・管理栄養士としての業務について必要な知識、技能・能力を修得し、実践力を高めることをめざす。また、事前学習で計画した自らの課題に沿った実習を行い、実践力を高め、自発的に取り組む能力を修得する。</p> <p>管理栄養士国家試験受験資格、栄養士の資格取得に係る科目</p> <p>[実習目的]</p> <p>特定給食施設における給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的とする。</p>																
到達目標	<p>① 特定給食施設における栄養士の役割を理解する。</p> <p>② 特定給食施設における栄養士業務全般について、必要な知識、技能・能力を身につける。</p> <p>③ 特定給食施設における喫食者の特徴を理解でき、自らの課題に自発的に取り組むことができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>[実習内容]</p> <p>特定給食施設における食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得する。</p> <p>1-1. 給食運営について理解する</p> <p>1-2. 献立作成について</p> <p>1-3. 給食費について</p> <p>1-4. 材料発注について</p> <p>1-5. 検収について</p> <p>1-6. 食数管理について</p> <p>2-1. 調理作業について</p> <p>2-2. 配膳・提供方法について</p> <p>[実習場所]</p> <p>大阪府内の事業所、福祉施設、その他。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習方法]</p> <p>2年次後期授業終了後、原則2～3月に特定給食施設(学校・病院・福祉施設・事業所等)において、1週間(45時間)の給食運営実習を行う。</p> <p>① 実習の目的・目標・学ぶ姿勢について指導を受ける。</p> <p>② 実習施設ごとに事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせを行う。</p> <p>③ 実習施設ごとにオリエンテーション(実習計画・実習施設概要・留意事項等)を受ける。</p> <p>④ 実習施設についての理解(組織・運営)を深める。</p> <p>⑤ 食材料管理の把握・考察を行う。</p> <p>⑥ 作業管理・業務分担の把握・考察を行う。</p> <p>⑦ 安全・衛生管理の把握・考察を行う。</p> <p>⑧ 給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶ。</p> <p>⑨ 施設毎の実習報告を行う。</p> <p>[実習計画]</p> <p>第1週</p> <p>月曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)オリエンテーション(施設の概要と特徴説明等)(学習内容・午後)オリエンテーション(栄養部門業務の概要、栄養部門給食運営の概要説明等)</p> <p>火曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)給食業務・帳票の解説・閲覧、衛生管理の在り方(学習内容・午後)学生各自のテーマ別情報収集(1)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>水曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)検収作業、調理業務の実務(学習内容・午後)喫食者訪問、学生各自のテーマ別情報収集(2)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>木曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)盛付・配膳業務の実務(学習内容・午後)喫食者訪問(アンケート調査)学生各自のテーマ別情報収集(3)</p> <p>テーマ:給食業務についての調査項目</p> <p>金曜日(実習施設)各給食施設(学習内容・午前)アンケート調査結果の意見交換、コンピュータ管理の実務経験(学習内容・午後)学生各自のテーマ別結果まとめ、テーマ:給食業務についての調査項目、実習成果報告会・反省会</p>																
関連科目	「給食経営管理論I」「給食経営管理論II」「給食経営管理実習」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨地実習・校外実習ハンドブック</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾 正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉、田中俊治、赤尾 正	みらい	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉、田中俊治、赤尾 正	みらい														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>給食経営管理実習 ワークブック(第3版)</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>カラーグラフ食品成分表</td> <td></td> <td>実務出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい	2	カラーグラフ食品成分表		実務出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	給食経営管理実習 ワークブック(第3版)	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい														
2	カラーグラフ食品成分表		実務出版														
3																	
評価方法(基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、実習記録)、課題・レポートおよび実習施設の指導担当者の評価を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ	給食業務に必要な対応能力や他職種連携能力が実際の現場を通して身に付く。																
担当者の研究室等備考	農学部 8号館 2F 教員室 223																

科目名	臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	科目名（英文）	Field Practice I (Food Service Business Management)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3065a0		

授業概要・目的	給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養うために、マーケティングの原理や応用について理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を習得する。また、職場内全般のコミュニケーション力・企画提案力について理解する。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種給食施設に応じた栄養面のマネジメントが出来る。 ・各種給食施設に応じた衛生面及び安全面のマネジメントが出来る。 ・各種給食施設に応じた経済面のマネジメントが出来る。 																
授業方法と留意点	給食経営管理のマネジメントを行う管理栄養士の業務を観察・体験し、単に給食の提供を行っているだけではなく、経営資源（人・物・金・情報等）を活用しながら、栄養管理の有効性と経営管理の効率性を両立させるために、さまざまな業務を総合的に組合せながら、試行錯誤や創意工夫を繰り返す中で、コミュニケーション力・企画提案力を身につけ、リーダーシップを発揮していることに気づくことが大切である。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習方法]</p> <p>3年次の8～9月に1週間（45時間）の給食施設（学校・病院・福祉施設・事業所等）実習を行う。</p> <p>①実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ（実習）</p> <p>②実習施設ごとの実習計画による実習（実習）</p> <p>③実習施設についての理解（組織・運営）（実習）</p> <p>④食材料管理の把握・考察（実習）</p> <p>⑤作業管理・業務分担の把握・考察（実習）</p> <p>⑥安全・衛生管理の把握・考察（実習）</p> <p>⑦給食に関するマネジメント全般についての理解（実習）</p> <p>⑧給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶなど、実習施設について事前に十分な下調べ（施設概要等）を行うこと。（実習）</p> <p>⑨実習成果に関する報告書及び発表（グループ及び発表）</p> <p>[実習内容]</p> <p>① 医療関連施設における栄養部門業務全般について、基本的な理解を深め、部門業務がどのような連携で運営されているかを学ぶ。（給食管理・栄養指導・臨床栄養管理、組織管理）</p> <p>② 給食経営管理の知識や技術が、給食の現場においてどのように生かされているかを学習する。（マーケティング、経営管理）</p> <p>③ 個人の栄養アセスメントに基づいた、栄養管理を実施するにあたり、給食業務がどのような工夫や技術が活用されているかを学習する。（マーケティング、選択オーダー、業務分析等）</p> <p>④ 医療関連施設では、食数管理が複雑であるので、どのような体制やシステムで運営されているかを学習する。（食数管理、食事オーダー管理）</p> <p>⑤ 医療関連施設や介護施設では食種が多く、個別に複雑な食事内容が要求される。給食運営のシステムとして、このようなニーズにどのように対処しているかを学習する。（基本姿勢、業務体制・他部門との連絡調整）</p> <p>⑥ 適時・適量配膳においてどのような機器や備品が用いられて作業が行われているかを学習する。（作業管理、温度管理、施設・設備管理）</p> <p>⑦ 栄養指導や栄養管理業務を含め、栄養部門の業務が安定して遂行されるためには、どのような工夫や合理化が行われてきたかを学ぶ。（組織・労務管理等）</p> <p>⑧ 衛生管理について、院内感染の予防、食中毒の予防等の観点から学習する。（衛生管理、危機管理、HACCP 等）</p> <p>⑨ 嗜好調査や喫食量の調査等を実施し、実習施設における栄養・食事の課題等を検討する。</p>																
関連科目	「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理論Ⅱ」「給食経営管理実習」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨地実習・校外実習ハンドブック</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>給食経営管理実習 ワークブック（第3版）</td> <td>藤原政嘉、田中俊治、赤尾正</td> <td>みらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「栄養管理と生命科学シリーズ」給食経営と管理の科学</td> <td>井川聡子、松月弘恵</td> <td>理工図書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	給食経営管理実習 ワークブック（第3版）	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい	2	「栄養管理と生命科学シリーズ」給食経営と管理の科学	井川聡子、松月弘恵	理工図書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	給食経営管理実習 ワークブック（第3版）	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正	みらい														
2	「栄養管理と生命科学シリーズ」給食経営と管理の科学	井川聡子、松月弘恵	理工図書														
3																	
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、実習記録）、課題・レポート及び実習施設の指導担当者の評価を総合して評価する。評価割合は、実習内容 70%、レポート 30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	科目名（英文）	Field Practice II（Public Health Nutrition）
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー（DP）	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OAF3066a0		

授業概要・目的	地域の健康・栄養改善を実践的、総合的に把握するとともに、保健所、保健センターの役割を理解し、PDCAサイクルを基本とした管理栄養士の業務内容を体験学習することにより、栄養行政における管理栄養士の役割や専門性、多職種連携のあり方等について学ぶことを目的とする。また、公衆栄養マネジメントの実践により、地域住民への栄養指導、地域の関係組織・団体などの育成や支援のプロセスについて系統的に学び、これまでに得た専門的知識と実践的に得た技術の統合により、管理栄養士として必要なマネジメント能力を修得するとともに、公衆栄養という実践科学への理解を深める。保健所、保健センター等実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的とする。																
到達目標	① 保健所、市町村保健センターの役割・業務の概要と両者の関係を説明できる。 ② 地域住民の健康、福祉等に関する管理栄養士の業務内容とその主な役割を説明できる。 ③ 地域住民を対象とした健康教育である「健康・栄養教室」等の企画、広報、実施、評価（判定）、フィードバック等の一連のプロセスを説明できる。 ④ 地域の関係機関の育成・支援のプロセスを説明できる。																
授業方法と留意点	保健所・保健センターにて当該施設の管理栄養士を指導者とした臨地実習を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>「実習内容」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の目的・意義を理解する。 2. 保健所、保健センターの役割を理解する。 3. 各自の実習の目標を設定する。 4. 実習スケジュールを理解する。 5. 保健所、保健センターの業務の概要を理解する。 6. 管理栄養士業務に接することにより栄養部門業務の全体像を把握する。 7. 職種間連携を体験する。 8. 住民への栄養関連サービスを体験する。 9. 実践体験から地域社会の栄養問題を考える。 10. 実践体験から住民参加の重要性に気づく。 11. 実践体験から公衆栄養マネジメントの重要性に気づく。 12. 栄養行政における問題点や課題への取り組み方を学ぶ。 13. 実習内容を整理し、レポートにまとめる。 <p>「実習方法・事前事後学習課題」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として1グループ8～10人編成（実習時に4～5人の班割編成）とし、各班にリーダーを1名設定する。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等を理解する。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. あらかじめ担当教員と大阪府や各保健所、保健センターが十分協議し、作成された臨地実習計画書を理解する。 5. 実習に先立って臨地実習計画書で提示された課題に取り組む。 6. 実習は、臨地実習計画書に基づいて積極的に取り組む。 7. 実習記録は、実習期間中毎日記録し、臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 8. 実習最終日に課題の報告を行い、臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 9. 各自の実習における学びを振り返り、班員と検討し、レポートを作成する。 																
関連科目	公衆栄養学Ⅰ・公衆栄養学Ⅱ・公衆栄養学実習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公衆栄養学実習 学外編</td> <td>矢澤彩香・多門隆子</td> <td>南山堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公衆栄養学実習 学外編	矢澤彩香・多門隆子	南山堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	公衆栄養学実習 学外編	矢澤彩香・多門隆子	南山堂														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、実習記録）、課題・レポートおよび実習施設の指導担当者の評価を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、課題・レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	科目名（英文）	Field Practice III（Clinical Nutrition）
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	百木 和、畦西 克己
ディプロマポリシー（DP）	DP2○、DP3○、DP4○、DP5○、DP6○、DP7○、DP8○		
科目ナンバリング	OAF4067a0		

授業概要・目的	<p>[概要] 医療現場において、患者への栄養ケアプロセスのあり方を修得することを主な目的とする。医師、管理栄養士等の指導を受けながら、患者への栄養アセスメントに基づき、学生自らが栄養ケア計画を実際に立案、実施し、評価を行う。講義・実習で学んだ知識をより深く、実践的に理解する。指導者から講義・説明を受けるのみではなく、事前または実習中に課された課題に対して、取り組むことによって、自主的に学習し、行動する姿勢を培う。また、実習の報告会を実施し、より多くの施設における様々な実践、応用例について理解する。</p> <p>[目的]講義・実習で修得した様々な知識や技術を用いて、医療機関における管理栄養士業務を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学び、修得する。特に、栄養管理や栄養指導の実際、栄養ケアプロセスの流れ、チーム医療・職種間の連携を経験する。</p>																		
到達目標	<p>① 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理および栄養評価に基づく栄養ケア計画の立案・実施・評価の一連の流れを体験し、理解できる。 ② 食事オーダーから献立・調理に反映させ、患者のQOLに貢献できる。 ③ 患者や医療スタッフとの関わりから管理栄養士の役割を理解し、実践できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>[実習方法] 3年次後期授業終了後、原則2～3月に病院・医療センター等において、2週間（90時間）の実習を行う。 1-1 医療における管理栄養士の業務内容を理解する。 1-2 食事管理、栄養教育、栄養ケアプロセスなどの栄養管理システムの実際を理解する。 1-3 栄養教育やチーム医療の実際を見学し、理解する。 2-1 対象患者に対し、栄養アセスメントを行い、栄養管理計画書および栄養管理経過表の作成を行う。 2-2 実際の患者データを基に、栄養指導媒体を作成し、模擬指導を行う。 2-3 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。 2-4 傷病者の病態に応じた栄養教育について理解できる。 2-5 カルテ内容および診療録を理解し、栄養管理や栄養教育の実践に結び付けることができる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容] 1-1 医療における管理栄養士の業務内容を理解する。 1-2 食事管理、栄養教育、栄養ケアプロセスなどの栄養管理システムの実際を理解する。 1-3 栄養教育やチーム医療の実際を見学し、理解する。 2-1 対象患者に対し、栄養アセスメントを行い、栄養管理計画書および栄養管理経過表の作成を行う。 2-2 実際の患者データを基に、栄養指導媒体を作成し、模擬指導を行う。 2-3 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。 2-4 傷病者の病態に応じた栄養教育について理解できる。 2-5 カルテ内容および診療録を理解し、栄養管理や栄養教育の実践に結び付けることができる。</p> <p>第1週 オリエンテーション、施設概要や業務内容説明 栄養管理プロセスの理解、個別・集団栄養指導見学 給食業務の実際、患者情報収集・アセスメントの実施 カンファレンス・症例検討等への参加</p> <p>第2週 対象患者の栄養評価、栄養管理計画書の作成、ベッドサイド訪問 カンファレンス・症例検討等への参加 模擬栄養指導、指導記録の作成 実習報告会、反省会</p>																		
関連科目	管理栄養士国家試験対応科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、実習記録）、課題・レポート、および実習施設の指導担当者の評価結果を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																		
学生へのメッセージ	これまでに学んできた知識を用いて実践する力が求められます。体調管理を万全にして臨んでください。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 8号館 219 研究室（百木）、220 研究室（畦西）																		
備考	関西医科大学付属病院、市立ひらかた病院ほか約30施設で実施する																		

科目名	臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	科目名（英文）	Field Practice III（Clinical Nutrition）
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	百木 和、畦西 克己
ディプロマポリシー（DP）	DP2○、DP3○、DP4○、DP5○、DP6○、DP7○、DP8○		
科目ナンバリング	OAF4067a0		

授業概要・目的	<p>[概要] 医療現場において、患者への栄養ケアプロセスのあり方を修得することを主な目的とする。医師、管理栄養士等の指導を受けながら、患者への栄養アセスメントに基づき、学生自らが栄養ケア計画を実際に立案、実施し、評価を行う。講義・実習で学んだ知識をより深く、実践的に理解する。指導者から講義・説明を受けるのみではなく、事前または実習中に課された課題に対して、取り組むことによって、自主的に学習し、行動する姿勢を培う。また、実習の報告会を実施し、より多くの施設における様々な実践、応用例について理解する。</p> <p>[目的]講義・実習で修得した様々な知識や技術を用いて、医療機関における管理栄養士業務を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学び、修得する。特に、栄養管理や栄養指導の実際、栄養ケアプロセスの流れ、チーム医療・職種間の連携を経験する。</p>																		
到達目標	<p>① 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理および栄養評価に基づく栄養ケア計画の立案・実施・評価の一連の流れを体験し、理解できる。 ② 食事オーダーから献立・調理に反映させ、患者のQOLに貢献できる。 ③ 患者や医療スタッフとの関わりから管理栄養士の役割を理解し、実践できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>[実習方法] 3年次後期授業終了後、原則2～3月に病院・医療センター等において、2週間（90時間）の実習を行う。 1-1 医療における管理栄養士の業務内容を理解する。 1-2 食事管理、栄養教育、栄養ケアプロセスなどの栄養管理システムの実際を理解する。 1-3 栄養教育やチーム医療の実際を見学し、理解する。 2-1 対象患者に対し、栄養アセスメントを行い、栄養管理計画書および栄養管理経過表の作成を行う。 2-2 実際の患者データを基に、栄養指導媒体を作成し、模擬指導を行う。 2-3 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。 2-4 傷病者の病態に応じた栄養教育について理解できる。 2-5 カルテ内容および診療録を理解し、栄養管理や栄養教育の実践に結び付けることができる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容] 1-1 医療における管理栄養士の業務内容を理解する。 1-2 食事管理、栄養教育、栄養ケアプロセスなどの栄養管理システムの実際を理解する。 1-3 栄養教育やチーム医療の実際を見学し、理解する。 2-1 対象患者に対し、栄養アセスメントを行い、栄養管理計画書および栄養管理経過表の作成を行う。 2-2 実際の患者データを基に、栄養指導媒体を作成し、模擬指導を行う。 2-3 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。 2-4 傷病者の病態に応じた栄養教育について理解できる。 2-5 カルテ内容および診療録を理解し、栄養管理や栄養教育の実践に結び付けることができる。</p> <p>第1週 オリエンテーション、施設概要や業務内容説明 栄養管理プロセスの理解、個別・集団栄養指導見学 給食業務の実際、患者情報収集・アセスメントの実施 カンファレンス・症例検討等への参加</p> <p>第2週 対象患者の栄養評価、栄養管理計画書の作成、ベッドサイド訪問 カンファレンス・症例検討等への参加 模擬栄養指導、指導記録の作成 実習報告会、反省会</p>																		
関連科目	管理栄養士国家試験対応科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、実習記録）、課題・レポート、および実習施設の指導担当者の評価結果を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																		
学生へのメッセージ	これまでに学んできた知識を用いて実践する力が求められます。体調管理を万全にして臨んでください。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 8号館 219 研究室（百木）、220 研究室（畦西）																		
備考	関西医科大学付属病院、市立ひらかた病院ほか約30施設で実施する																		

科目名	臨床実習Ⅳ（臨床栄養学）	科目名（英文）	Field Practice IV (Clinical Nutrition)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	百木 和、畦西 克己
ディプロマポリシー（DP）	DP2○、DP3○、DP4○、DP5○、DP6○、DP7○、DP8○		
科目ナンバリング	OAF4068a0		

授業概要・目的	<p>医療現場において、患者への栄養ケアプロセスのあり方を修得し、自身で実践することを主な目的とする。医師、管理栄養士等の指導を受けながら、患者への栄養アセスメントに基づき、学生自らが栄養ケア計画を実際に立案、実施し、患者とのコミュニケーションをとりながら効果の評価を行う。講義・実習で学んだ知識をより深く、実践的に理解する。医療現場の指導者から講義・説明を受けるとともに、事前または実習中に課された課題に取り組むことによって、自主的に学習し、行動する姿勢を培う。また、実習の報告会を実施し、より多くの施設における様々な実践、応用例について理解する。</p> <p>講義・実習で修得した様々な知識や技術を用いて、医療機関における管理栄養士業務を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学び、対象患者に対し実践する。特に、栄養管理や栄養指導の実際、栄養ケアプロセスの流れ、チーム医療・職種間の連携を経験する。</p>																
到達目標	<p>① 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。</p> <p>② 栄養評価に基づく栄養ケア計画の立案・実施・評価の一連の流れを体験し、理解できる。</p> <p>③ 食事オーダーから献立・調理に反映させ、患者のQOLに貢献できる。</p> <p>④ 患者や医療スタッフとの関わりから管理栄養士の役割を理解し、実践できる。</p>																
授業方法と留意点	<p>3年後期授業終了後、原則2～3月に病院・医療センター等において、3週間（135時間）の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループ2～4人で実施し、随時、臨床実習担当教員の指導を受ける。 2 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4 実習にあたり、実習先施設においてオリエンテーションを受け、施設の特徴、管理栄養士の役割を理解する。 5 実習中は、対象患者とコミュニケーションを取り、対象者に適した栄養管理の過程を段階的に実施する。 6 実習記録を毎日記録し、1日の振り返りと翌日の計画について指導者からの助言・指導を受ける。 7 実習終了後、各自の実習における学びを振り返り、レポート作成、報告会に向けて準備を行う。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>[実習内容]</p> <p>1-1 医療における管理栄養士の業務内容を理解する。</p> <p>1-2 食事管理、栄養教育、栄養ケアプロセスなどの栄養管理システムの実際を理解する。</p> <p>1-3 栄養教育やチーム医療の実際を見学し、理解する。</p> <p>2-1 対象患者に対し、栄養アセスメントを行い、栄養管理計画書および栄養管理経過表の作成、実践を行う。</p> <p>2-2 実際の患者データを基に、栄養指導媒体を作成し、模擬指導を行う。</p> <p>2-3 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。</p> <p>2-4 傷病者の病態に応じた栄養教育について理解できる。</p> <p>2-5 カルテ内容および診療録を理解し、栄養管理や栄養教育の実践に結び付けることができる。</p> <p>1 週目 オリエンテーション、施設の概要や業務内容の説明 栄養管理プロセスの理解、個別・集団栄養指導見学 給食業務の実際 対象患者の情報収集、アセスメント カンファレンス、症例検討等への参加</p> <p>2 週目 対象患者のアセスメント、ベッドサイド訪問、栄養管理計画書作成 個別・集団栄養指導見学 カンファレンス、症例検討等への参加</p> <p>3 週目 対象患者のアセスメント、ベッドサイド訪問、栄養管理計画書作成、対象患者の栄養管理報告 給食業務の実際 カンファレンス、症例検討等への参加 模擬栄養指導、指導記録作成 実習報告会、反省会</p>																
関連科目	管理栄養士国家試験対応科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、実習記録）、課題・レポート、および実習施設の指導担当者の評価結果を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ	これまでに学んできた知識を用いて実践する力が求められます。体調管理を万全にして臨んでください。																
担当者の研究室等	枚方キャンパス8号館219研究室（百木）、220研究室（畦西）																
備考	枚方公済病院、大阪労災病院ほか4施設で実施する。																

科目名	臨床実習Ⅳ（臨床栄養学）	科目名（英文）	Field Practice IV (Clinical Nutrition)
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	百木 和、畦西 克己
ディプロマポリシー（DP）	DP2○、DP3○、DP4○、DP5○、DP6○、DP7○、DP8○		
科目ナンバリング	OAF4068a0		

授業概要・目的	<p>医療現場において、患者への栄養ケアプロセスのあり方を修得し、自身で実践することを主な目的とする。医師、管理栄養士等の指導を受けながら、患者への栄養アセスメントに基づき、学生自らが栄養ケア計画を実際に立案、実施し、患者とのコミュニケーションをとりながら効果の評価を行う。講義・実習で学んだ知識をより深く、実践的に理解する。医療現場の指導者から講義・説明を受けるとともに、事前または実習中に課された課題に取り組むことによって、自主的に学習し、行動する姿勢を培う。また、実習の報告会を実施し、より多くの施設における様々な実践、応用例について理解する。</p> <p>講義・実習で修得した様々な知識や技術を用いて、医療機関における管理栄養士業務を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学び、対象患者に対し実践する。特に、栄養管理や栄養指導の実際、栄養ケアプロセスの流れ、チーム医療・職種間の連携を経験する。</p>																
到達目標	<p>① 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。</p> <p>② 栄養評価に基づく栄養ケア計画の立案・実施・評価の一連の流れを体験し、理解できる。</p> <p>③ 食事オーダーから献立・調理に反映させ、患者のQOLに貢献できる。</p> <p>④ 患者や医療スタッフとの関わりから管理栄養士の役割を理解し、実践できる。</p>																
授業方法と留意点	<p>3年後期授業終了後、原則2～3月に病院・医療センター等において、3週間（135時間）の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループ2～4人で実施し、随時、臨床実習担当教員の指導を受ける。 2 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4 実習にあたり、実習先施設においてオリエンテーションを受け、施設の特徴、管理栄養士の役割を理解する。 5 実習中は、対象患者とコミュニケーションを取り、対象者に適した栄養管理の過程を段階的に実施する。 6 実習記録を毎日記録し、1日の振り返りと翌日の計画について指導者からの助言・指導を受ける。 7 実習終了後、各自の実習における学びを振り返り、レポート作成、報告会に向けて準備を行う。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>[実習内容]</p> <p>1-1 医療における管理栄養士の業務内容を理解する。</p> <p>1-2 食事管理、栄養教育、栄養ケアプロセスなどの栄養管理システムの実際を理解する。</p> <p>1-3 栄養教育やチーム医療の実際を見学し、理解する。</p> <p>2-1 対象患者に対し、栄養アセスメントを行い、栄養管理計画書および栄養管理経過表の作成、実践を行う。</p> <p>2-2 実際の患者データを基に、栄養指導媒体を作成し、模擬指導を行う。</p> <p>2-3 傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を理解し、その方法を実践できる。</p> <p>2-4 傷病者の病態に応じた栄養教育について理解できる。</p> <p>2-5 カルテ内容および診療録を理解し、栄養管理や栄養教育の実践に結び付けることができる。</p> <p>1 週目 オリエンテーション、施設の概要や業務内容の説明 栄養管理プロセスの理解、個別・集団栄養指導見学 給食業務の実際 対象患者の情報収集、アセスメント カンファレンス、症例検討等への参加</p> <p>2 週目 対象患者のアセスメント、ベッドサイド訪問、栄養管理計画書作成 個別・集団栄養指導見学 カンファレンス、症例検討等への参加</p> <p>3 週目 対象患者のアセスメント、ベッドサイド訪問、栄養管理計画書作成、対象患者の栄養管理報告 給食業務の実際 カンファレンス、症例検討等への参加 模擬栄養指導、指導記録作成 実習報告会、反省会</p>																
関連科目	管理栄養士国家試験対応科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、実習記録）、課題・レポート、および実習施設の指導担当者の評価結果を総合して評価する。評価割合は、実習内容70%、レポート30%を原則とし、60%以上で合格とする。																
学生へのメッセージ	これまでに学んできた知識を用いて実践する力が求められます。体調管理を万全にして臨んでください。																
担当者の研究室等	枚方キャンパス8号館219研究室（百木）、220研究室（畦西）																
備考	枚方公済病院、大阪労災病院ほか4施設で実施する。																

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合(%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 真美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		
備考																			

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合(%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合(%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>			
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>			
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	各指導教員が指定するテキスト		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する。		
	2			
	3			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。			
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)			

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉井 英文
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸本 良美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平原 嘉親
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合 (%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		

科目名	食品栄養学研究	科目名(英文)	Research of Food and Nutrition
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	百木 和
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF3088a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、卒業研究に先立って各研究室での基礎的な研究活動を通して、自らが主体的に能力、適性、志望に応じた進路を選択できるようになることを目的とする。「食品栄養学研究」は、大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を円滑に行うために、これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力を基本に、各分野の研究の遂行に必要な情報の収集方法を修得するとともに、問題発見力および解決力を身につける。</p>																		
到達目標	<p>① 生物反応や物質変動など客観的に捉える観察力を身につけ、論理的に思考できる。 ② 研究に必要な法規範と倫理について説明できる。 ③ 研究課題の達成のために解決すべき問題点を抽出後、研究計画を立案し、それに沿った実験を実施できる。 ④ 研究プロセスを記録し、結果を考察した後、研究成果についてプレゼンテーション及び適切な質疑応答ができる。 ⑤ 研究成果を報告書文等としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 授業方法は、開講期を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 指導教員による提案された学習課題を、配属希望した研究室で取り組む。 ③ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ④ 動物等を研究対象にする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 指導教員によるオリエンテーション</p> <p>卒業研究に先立って各研究室で、研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2) 学習課題及び研究活動</p> <p>指導教員から提案された学習課題を配属された研究室で取り組み、研究プロセスを記録し結果を考察する。</p> <p>研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3) 発表および報告書の作成</p> <p>研究成果をプレゼンテーション及び適切な質疑応答をおこない、研究成果を報告書等としてまとめる。</p> <p>報告書等を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言及び質問等を参考し、報告書の内容を再考した後に、推敲する。</p> <p>各授業の実施回数については、担当教員の指示にしたがう。</p>																		
関連科目	食品栄養学科専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。</p> <p>評価方法 割合(%)</p> <p>評価基準：</p> <p>①積極的参加及び研究に対する貢献度： 40%</p> <p>研究準備、研究への取組および学習態度(ルーブリック評価)、研究倫理など</p> <p>②報告発表会及び報告書の内容： 60%</p> <p>報告書の発表会及び質疑応答後での内容、報告書作成状況、提出された報告書の内容について、指導教員が総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	本科目を履修した学生の皆さんは、所属する研究室の担当教員からの指示にしたがってください。本授業では補講を実施する可能性があります。その場合は、各担当教員から連絡します。																		
担当者の研究室等備考	小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	安藤 真美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小川 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	黒川 通典
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樽井 雅彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	吉井 英文
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエントーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	畦西 克己
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸本 良美
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平原 嘉親
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	百木 和
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○		
科目ナンバリング	OAF4089a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共同研究などを通して多様な人々と協働する力を養う。</p>																		
到達目標	<p>① 卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ② 研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに実験計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③ 研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法及び留意点	<p>① 授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ② 1研究課題について、1人から複数名で行う場合がある。 ③ 卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ④ 人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。 ⑤ 動物等を研究対象とする場合は、必ず実験動物委員会に申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 オリエンテーション 研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。</p> <p>2 研究方法、結果および考察 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片づけ)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、結果に応じて、追加実験を検討する。 研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。</p> <p>3 卒業論文 卒業論文発表会および質疑応答後、論文作成し、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各指導教員が指定するテキスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各指導教員が指定するテキスト			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各指導教員が指定するテキスト																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>積極的参加および研究に対する貢献度(40%) 卒業論文発表会および卒業論文(60%)</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	<p>小川俊夫(222)、坂根貞樹(224)、藤林真美(323)、水間智哉(321)、吉井英文(322)、平原嘉親(320)、安藤真美(319)、山田徳広(325)、岸本良美(324)、喜多大三(225)、百木和(219)、畦西克己(220)、黒川通典(221)、樽井雅彦(223)</p>																		

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	農学部	学科	食品栄養学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2413c2		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 																
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会~事前授業~現地派遣~事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4月中旬 (9月下旬~10月上旬) ・事前授業10回：6月中下旬~7月下旬 (11月~2月) ・現地派遣：2週間程度 8月中旬~9月上旬 (2月中下旬~3月下旬) ・事後授業5回(成果報告会含む)：9月~10月中旬 (3月~4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)																
学生への	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実																

メッセージ	習で二度行きましょう。
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館1階グローバル教育センターまで
備考	